

# 2011年度 人間環境学部 講義概要 (シラバス)



# 科目一覧

【発行日：2021/6/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

政策【C2001】地球環境論 [名執 芳博] 後期授業	1
政策【C2100】都市デザイン論 [田中 大助] 前期授業	1
【C2111】研究会(通年) [向井 常雄] 年間授業	2
政策【C2112】CSR 論 I [長谷川 直哉] 前期授業	3
政策【C2113】CSR 論 II [長谷川 直哉] 後期授業	4
基幹【C2114】現代企業論 [長谷川 直哉] 前期授業	4
政策【C2115】EMS 論 [長谷川 直哉] 後期授業	5
フレッシュマン【C2116】基礎演習 [長谷川 直哉] 後期授業	5
【C2117】研究会(通年) [長谷川 直哉] 年間授業	6
【C2118】研究会(通年) [長谷川 直哉] 年間授業	6
スキルアップ【C2120】ネットワークとマルチメディア [小林 信彦] 前期授業	7
基幹【C2122】ミクロ経済学 I [林 直嗣] 前期授業	7
【C2123】研究会(通年) [田中 勉] 年間授業	8
【C2125】研究会(通年) [堀内 行蔵] 年間授業	9
【C2126】研究会(通年) [岡本 義行] 年間授業	10
スキルアップ【C2140】情報処理基礎 [小林 信彦] 前期授業	11
基幹【C2141】簿記入門 I・II [井出 健二郎]	12
【C2142】研究会(通年) [堀内 行蔵] 年間授業	13
スキルアップ【C2145】情報処理基礎 [小林 信彦] 後期授業	14
基幹【C2160】民法 I [花立 文子] 前期授業	14
スキルアップ【C2161】情報処理基礎 [本郷 茂] 前期授業	15
【C2162】研究会(通年) [田中 勉] 年間授業	16
【C2164】研究会(通年) [川端 直志] 年間授業	17
【C2165】人間環境特論(天然資源の科学) [藤倉 良] 前期授業	18
基幹【C2170】異文化の交流 [永井 匠] 前期授業	18
基幹【C2171】民法 I [花立 文子] 前期授業	19
政策【C2172】自然環境政策論 [秀田 智彦] 前期授業	20
スキルアップ【C2173】情報処理基礎 [本郷 茂] 前期授業	21
【C2175】研究会(通年) [田中 勉] 年間授業	22
基幹【C2190】NPO・ボランティア論 [川崎 あや] 後期授業	23
政策【C2191】環境教育論 [太田 絵里] 後期授業	23
【C2192】研究会(通年) [田中 勉] 年間授業	24
基幹【C2200】行政学 [廣瀬 克哉] 前期集中	25
基幹【C2201】マクロ経済学 I [田中 茉莉子] 前期授業	26
基幹【C2210】地球科学史 I [谷本 勉] 前期授業	27
【C2212】研究会(通年) [石神 隆] 年間授業	27
基幹【C2220】国際法 I [岡松 暁子] 前期授業	28
【C2221】研究会(通年) [長峰 登記夫] 年間授業	29
基幹【C2222】地球科学史 I [谷本 勉] 前期授業	30
政策【C2240】国際経済協力論 I [武貞 稔彦] 前期授業	30
基幹【C2243】市民社会と政治 [谷本 有美子] 前期授業	31
【C2244】研究会(通年) [岡松 暁子] 年間授業	32
【C2245】研究会(通年) [根崎 光男] 年間授業	32
【C2246】研究会(通年) [渡邊 誠] 年間授業	33
【C2247】研究会(通年) [永野 秀雄] 年間授業	34
【C2248】研究会(通年) [北川 徹哉] 年間授業	35
【C2261】研究会(通年) [山本 長一] 年間授業	36
【C2262】研究会(通年) [吉村 宏和] 年間授業	37
基幹【C2270】国際法 I [土屋 志穂] 前期授業	38
政策【C2272】環境社会論 I [西城戸 誠] 前期授業	39
基幹【C2273】統計概論 [渡邊 誠] 前期授業	40
【C2274】研究会(通年) [永野 秀雄] 年間授業	41
【C2275】研究会(通年) [長峰 登記夫] 年間授業	42

【C2276】研究会(通年) [根崎 光男] 年間授業	43
基幹【C2277】エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉] 前期授業	44
スキルアップ【C2278】統計概論(スキルアップ) [渡邊 誠] 前期授業	44
【C2290】研究会(通年) [岡松 暁子] 年間授業	45
【C2291】研究会(通年) [西城戸 誠] 年間授業	46
【C2292】研究会(通年) [渡邊 誠] 年間授業	47
政策【C2293】地域福祉論 [宮脇 文恵] 前期授業	48
フレッシュマン【C2300】人間環境学入門 [岡松 暁子、梶 裕史、田中 勉] 前期授業	49
基幹【C2310】グローバルコミュニケーション [ESTHER STOCKWELL] 前期授業	49
基幹【C2340】環境健康論Ⅰ [朝比奈 茂] 前期授業	50
スキルアップ【C2361】英語Ⅲ(スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 前期授業	51
スキルアップ【C2362】英語Ⅲ(4群必修) [磯部 芳恵] 前期授業	52
スキルアップ【C2363】英語Ⅲ(4群選択) [磯部 芳恵] 前期授業	52
政策【C2364】環境表象論 [梶 裕史] 前期授業	53
政策【C2365】労働環境法 [沼田 雅之] 前期授業	54
基幹【C2366】国際政治学 [鈴木 佑司] 年間授業	55
基幹【C2370】自然環境論Ⅳ [黒田 大三郎] 前期授業	56
基幹【C2371】ミクロ経済学Ⅰ [金城 盛彦] 前期授業	57
【C2372】研究会(通年) [梶 裕史] 年間授業	58
政策【C2376】国際経済協力論Ⅰ [武貞 稔彦] 前期授業	59
フレッシュマン【C2377】人間環境学入門 [岡松 暁子、梶 裕史、田中 勉] 前期授業	60
【C2389】研究会(通年) [北川 徹哉] 年間授業	60
【C2391】研究会(通年) [井上 奉生] 年間授業	61
政策【C2410】衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 前期授業	62
基幹【C2420】自然環境論Ⅰ [井上 奉生] 前期授業	62
政策【C2421】環境人類学Ⅰ [安田 章人] 前期授業	63
スキルアップ【C2422】英語Ⅰ(スキルアップ科目) [平野井 ちえ子] 前期授業	64
スキルアップ【C2423】英語Ⅰ(4群必修) [平野井 ちえ子] 前期授業	65
スキルアップ【C2424】英語Ⅰ(4群選択) [平野井 ちえ子] 前期授業	66
【C2425】研究会(通年) [後藤 彌彦] 年間授業	67
【C2427】研究会(通年) [宮川 路子] 年間授業	67
【C2428】研究会(通年) [ESTHER STOCKWELL] 年間授業	68
【C2429】研究会(通年) [西城戸 誠] 年間授業	69
政策【C2440】地方自治論Ⅰ [小島 聡] 前期授業	70
政策【C2441】環境法Ⅲ [後藤 彌彦] 前期授業	71
スキルアップ【C2442】英語Ⅰ(スキルアップ科目) [平野井 ちえ子] 前期授業	72
スキルアップ【C2443】英語Ⅰ(4群必修) [平野井 ちえ子] 前期授業	73
スキルアップ【C2444】英語Ⅰ(4群選択) [平野井 ちえ子] 前期授業	74
【C2445】研究会(通年) [井上 奉生] 年間授業	75
【C2447】研究会(通年) [呉 念聖] 年間授業	75
【C2448】研究会(通年) [宮川 路子] 年間授業	76
政策【C2460】地域形成論 [石神 隆] 前期授業	77
基幹【C2461】比較演劇論 [平野井 ちえ子] 後期授業	78
【C2462】研究会(通年) [ESTHER STOCKWELL] 年間授業	79
【C2463】研究会(通年) [藤倉 良] 年間授業	80
政策【C2464】地方自治論Ⅱ [小島 聡] 後期授業	81
政策【C2465】地方自治論Ⅱ [小島 聡] 後期授業	82
基幹【C2470】自然環境論Ⅰ [井上 奉生] 前期授業	83
政策【C2471】地方自治論Ⅰ [小島 聡] 前期授業	83
政策【C2472】環境法Ⅲ [後藤 彌彦] 前期授業	84
政策【C2474】衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 前期授業	85
政策【C2476】リサイクル論 [鏑木 儀郎] 前期授業	85
基幹【C2477】生命の現在と倫理 [鶴岡 健] 前期授業	86
政策【C2490】地域形成論 [石神 隆] 前期授業	87
基幹【C2500】現代社会論Ⅰ [藤本 隆史] 前期授業	88
基幹【C2501】現代社会論Ⅰ [田中 勉] 前期授業	88
基幹【C2502】現代社会論Ⅱ [田中 勉] 後期授業	89

政策【C2510】労働環境論Ⅰ [長峰 登記夫] 前期授業	90
【C2511】スポーツビジネス論Ⅰ [千田 利史] 前期授業	91
【C2512】研究会(通年) [安田 章人] 年間授業	92
フレッシュマン【C2521】環境科学入門 [渡邊 誠、朝比奈 茂、井上 奉生、北川 徹哉、谷本 勉、藤倉 良、宮川 路子] 前期授業	92
【C2522】研究会(通年) [小島 聡] 年間授業	93
【C2523】研究会(通年) [吉田 秀美] 年間授業	94
【C2524】研究会(通年) [鶴田 佳史] 年間授業	95
政策【C2540】環境法Ⅰ [後藤 彌彦] 前期授業	96
政策【C2541】日本環境史論Ⅰ [根崎 光男] 前期授業	97
基幹【C2542】環境モデル論Ⅰ [渡邊 誠] 前期授業	97
基幹【C2543】自然環境論Ⅱ [井上 奉生] 前期授業	98
【C2544】研究会(通年) [梶 裕史] 年間授業	99
【C2545】研究会(通年) [國則 守生] 年間授業	100
政策【C2560】環境経営実践論Ⅰ [向井 常雄] 前期授業	100
【C2562】人間環境特論(気流と社会環境Ⅰ) [北川 徹哉] 前期授業	101
政策【C2570】環境法Ⅰ [後藤 彌彦] 前期授業	102
政策【C2571】労働環境論Ⅰ [長峰 登記夫] 前期授業	103
政策【C2572】日本環境史論Ⅰ [根崎 光男] 前期授業	104
政策【C2574】公害防止管理論Ⅰ [大岡 健三] 前期授業	104
基幹【C2575】自然環境論Ⅱ [井上 奉生] 前期授業	105
政策【C2576】環境表象論 [梶 裕史] 前期授業	105
フレッシュマン【C2577】環境科学入門 [渡邊 誠、朝比奈 茂、井上 奉生、北川 徹哉、谷本 勉、藤倉 良、宮川 路子] 前期授業	106
【C2578】研究会(通年) [小島 聡] 年間授業	107
【C2579】研究会(通年) [関口 和男] 年間授業	108
政策【C2600】環境科学Ⅰ [藤倉 良] 前期授業	109
スキルアップ【C2602】英語Ⅰ(スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	109
スキルアップ【C2603】英語Ⅰ(4群必修) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	110
スキルアップ【C2604】英語Ⅰ(4群選択) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	110
スキルアップ【C2605】中国語Ⅰ(スキルアップ科目) [劉 渴水] 前期授業	111
スキルアップ【C2606】中国語Ⅰ(4群必修) [劉 渴水] 前期授業	111
スキルアップ【C2607】中国語Ⅰ(4群選択) [劉 渴水] 前期授業	112
政策【C2610】環境経営論Ⅰ [堀内 行蔵] 前期授業	112
基幹【C2612】テキストと人間像 [山本 長一] 前期授業	113
スキルアップ【C2613】英語Ⅲ(スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	113
スキルアップ【C2614】英語Ⅲ(4群必修) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	114
スキルアップ【C2615】英語Ⅲ(4群選択) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	114
スキルアップ【C2616】中国語Ⅲ(スキルアップ科目) [劉 渴水] 前期授業	115
スキルアップ【C2617】中国語Ⅲ(4群必修) [劉 渴水] 前期授業	115
スキルアップ【C2618】中国語Ⅲ(4群選択) [劉 渴水] 前期授業	116
政策【C2620】人間環境セミナーⅠ [永野 秀雄、石神 隆、小島 聡、田中 勉、長峰 登記夫、西城戸 誠] 前期授業	116
スキルアップ【C2621】情報処理基礎 [小林 信彦] 前期授業	117
【C2640】仏教思想 [関口 和男] 前期授業	117
【C2701】フィールドスタディ [朝比奈 茂、安藤 俊次、石神 隆、井上 奉生、國則 守生、小島 聡、武貞 稔彦、長峰 登記夫、田中 勉、辻 英史、西城戸 誠、長谷川 直哉、藤倉 良、渡邊 誠、吉田 秀美] 後期集中	118
【C2703】インターンシップ [田中 勉、宮川 路子] 前期授業	119
基幹【C2800】国際法Ⅰ(教職) [岡松 暁子] 前期授業	119
基幹【C2801】国際法Ⅰ(教職) [土屋 志穂] 前期授業	120
スキルアップ【C3120】ネットワークとマルチメディア [小林 信彦] 後期授業	120
基幹【C3122】ミクロ経済学Ⅱ [林 直嗣] 後期授業	121
フレッシュマン【C3139】基礎演習 [小島 聡] 後期授業	122
スキルアップ【C3140】情報処理基礎 [小林 信彦] 後期授業	122
政策【C3141】国際環境法Ⅰ [岡松 暁子] 後期授業	123
フレッシュマン【C3142】基礎演習 [藤倉 良] 後期授業	123
政策【C3143】地域コモンズ論 [齋藤 暖生] 前期授業	124
基幹【C3160】民事法Ⅱ [花立 文子] 後期授業	125

スキルアップ【C3161】情報処理基礎〔本郷 茂〕後期授業	126
フレッシュマン【C3163】基礎演習〔堀内 行蔵〕後期授業	127
フレッシュマン【C3164】基礎演習〔梶 裕史〕後期授業	127
基幹【C3170】比較社会史〔永井 匠〕後期授業	128
基幹【C3171】民法法Ⅱ〔花立 文子〕後期授業	129
スキルアップ【C3173】情報処理基礎〔本郷 茂〕後期授業	130
政策【C3174】国際環境法Ⅰ〔岡松 暁子〕後期授業	131
政策【C3180】グローバルコミュニティ〔小松 光一〕前期授業	131
政策【C3190】NGO活動論〔中村 玲子〕後期授業	132
基幹【C3201】マクロ経済学Ⅱ〔田中 茉莉子〕後期授業	132
基幹【C3210】地球科学史Ⅱ〔谷本 勉〕後期授業	133
フレッシュマン【C3212】基礎演習〔岡松 暁子〕後期授業	133
基幹【C3220】国際法Ⅱ〔岡松 暁子〕後期授業	134
基幹【C3222】地球科学史Ⅱ〔谷本 勉〕後期授業	134
フレッシュマン【C3225】基礎演習〔根崎 光男〕後期授業	135
政策【C3240】国際経済協力論Ⅱ〔武貞 稔彦〕後期授業	135
基幹【C3244】日本美術の系譜〔豊田 和平〕後期授業	136
政策【C3261】地域経済論〔石神 隆〕後期授業	137
基幹【C3270】国際法Ⅱ〔土屋 志穂〕後期授業	138
政策【C3272】環境社会論Ⅱ〔西城戸 誠〕後期授業	138
基幹【C3273】環境モデル論Ⅰ〔渡邊 誠〕後期授業	139
基幹【C3275】社会統計論〔藤本 隆史〕後期授業	140
基幹【C3277】エネルギー論Ⅱ〔北川 徹哉〕後期授業	141
スキルアップ【C3278】社会統計論(スキルアップ)〔藤本 隆史〕後期授業	141
政策【C3280】地域協力・統合〔大中 一彌〕後期授業	142
政策【C3290】地域経済論〔石神 隆〕後期授業	143
基幹【C3300】公共経済学〔小田 圭一郎〕後期授業	144
フレッシュマン【C3310】基礎演習〔ESTHER STOCKWELL〕後期授業	144
フレッシュマン【C3313】基礎演習〔田中 勉〕後期授業	145
フレッシュマン【C3314】基礎演習〔西城戸 誠〕後期授業	145
基幹【C3340】環境健康論Ⅱ〔朝比奈 茂〕後期授業	146
基幹【C3341】西欧近代批判の思想〔越部 良一〕後期授業	147
政策【C3360】環境調査論〔金城 盛彦〕	147
スキルアップ【C3361】英語Ⅳ(スキルアップ科目)〔磯部 芳恵〕後期授業	148
スキルアップ【C3362】英語Ⅳ(4群必修)〔磯部 芳恵〕後期授業	149
スキルアップ【C3363】英語Ⅳ(4群選択)〔磯部 芳恵〕後期授業	149
【C3364】研究会〔越部 良一〕後期授業	150
基幹【C3370】自然環境論Ⅴ〔宇野 真介〕後期授業	150
基幹【C3371】ミクロ経済学Ⅱ〔金城 盛彦〕後期授業	151
基幹【C3372】市民社会と政治〔谷本 有美子〕後期授業	151
フレッシュマン【C3375】基礎演習〔井上 奉生〕後期授業	152
政策【C3376】国際経済協力論Ⅱ〔武貞 稔彦〕後期授業	152
政策【C3390】環境科学Ⅱ〔藤倉 良〕後期授業	153
【C3391】人間環境特論(農と食から考える現代日本社会)〔船戸 修一〕後期授業	154
政策【C3410】衛生・公衆衛生学Ⅱ〔宮川 路子〕後期授業	155
【C3413】福祉工学(国際遠隔講座)〔小林 尚登〕	155
基幹【C3420】自然環境論Ⅲ〔井上 奉生〕後期授業	156
政策【C3421】環境人類学Ⅱ〔目黒 紀夫〕後期授業	157
政策【C3441】国際環境法Ⅱ〔後藤 彌彦〕後期授業	158
スキルアップ【C3442】英語Ⅱ(スキルアップ科目)〔磯部 芳恵〕後期授業	158
スキルアップ【C3443】英語Ⅱ(4群必修)〔磯部 芳恵〕後期授業	159
スキルアップ【C3444】英語Ⅱ(4群選択)〔磯部 芳恵〕後期授業	160
【C3445】研究会〔平野井 ちえ子〕後期授業	161
基幹【C3446】生命の現在と倫理〔鶴岡 健〕後期授業	162
【C3447】研究会〔長峰 登記夫〕後期授業	163
【C3448】研究会〔長峰 登記夫〕前期授業	164
政策【C3460】都市環境論〔石神 隆〕後期授業	164

【C3461】研究会(通年) [平野井 ちえ子] 年間授業	165
【C3462】研究会(通年) [藤倉 良、宮川 路子] 年間授業	166
基幹 【C3470】自然環境論Ⅲ [井上 奉生] 後期授業	167
政策 【C3472】国際環境法Ⅱ [後藤 彌彦] 後期授業	167
政策 【C3474】衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 後期授業	168
政策 【C3490】都市環境論 [石神 隆] 後期授業	168
基幹 【C3500】現代社会論Ⅱ [藤本 隆史] 後期授業	169
政策 【C3510】労働環境論Ⅱ [長峰 登記夫] 後期授業	169
【C3511】スポーツビジネス論Ⅱ [千田 利史] 後期授業	170
政策 【C3512】社会開発論 [吉田 秀美] 後期授業	171
政策 【C3530】開発教育 [福田 紀子] 前期授業	171
基幹 【C3540】行政法の基礎 [後藤 彌彦] 後期授業	172
政策 【C3541】日本環境史論Ⅱ [根崎 光男] 後期授業	173
基幹 【C3542】統計概論 [渡邊 誠] 後期授業	173
フレッシュマン 【C3544】基礎演習 [北川 徹哉] 後期授業	174
スキルアップ 【C3545】統計概論(スキルアップ) [渡邊 誠] 後期授業	175
政策 【C3560】環境経営実践論Ⅱ [向井 常雄] 後期授業	176
【C3562】人間環境特論(気流と社会環境Ⅱ) [北川 徹哉] 後期授業	177
基幹 【C3570】行政法の基礎 [後藤 彌彦] 後期授業	177
政策 【C3571】労働環境論Ⅱ [長峰 登記夫] 後期授業	178
政策 【C3572】日本環境史論Ⅱ [根崎 光男] 後期授業	179
政策 【C3574】公害防止管理論Ⅱ [大野 香代] 後期授業	179
フレッシュマン 【C3591】基礎演習 [後藤 彌彦] 後期授業	180
政策 【C3600】環境科学Ⅱ [藤倉 良] 後期授業	181
スキルアップ 【C3602】英語Ⅱ(スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	181
スキルアップ 【C3603】英語Ⅱ(4群必修) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	182
スキルアップ 【C3604】英語Ⅱ(4群選択) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	182
スキルアップ 【C3605】中国語Ⅱ(スキルアップ科目) [劉 渴水] 後期授業	183
スキルアップ 【C3606】中国語Ⅱ(4群必修) [劉 渴水] 後期授業	183
スキルアップ 【C3607】中国語Ⅱ(4群選択) [劉 渴水] 後期授業	184
政策 【C3610】環境経営論Ⅱ [堀内 行蔵] 後期授業	184
フレッシュマン 【C3612】基礎演習 [山本 長一] 後期授業	185
スキルアップ 【C3613】英語Ⅳ(スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	186
スキルアップ 【C3614】英語Ⅳ(4群必修) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	186
スキルアップ 【C3615】英語Ⅳ(4群選択) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	187
スキルアップ 【C3616】中国語Ⅳ(スキルアップ科目) [劉 渴水] 後期授業	187
スキルアップ 【C3617】中国語Ⅳ(4群必修) [劉 渴水] 後期授業	188
スキルアップ 【C3618】中国語Ⅳ(4群選択) [劉 渴水] 後期授業	188
政策 【C3620】人間環境セミナーⅡ [後藤 彌彦、岡松 暁子、武貞 稔彦、辻 英史、藤倉 良] 後期授業	189
【C3640】環境哲学基礎論 [関口 和男] 後期授業	189
【C3701】研究会修了論文 [石神 隆] 後期授業	190
【C3702】研究会修了論文 [井上 奉生] 後期授業	191
【C3703】研究会修了論文 [岡松 暁子] 後期授業	191
【C3704】研究会修了論文 [梶 裕史] 後期授業	192
【C3705】研究会修了論文 [國則 守生] 後期授業	192
【C3706】研究会修了論文 [國則 守生] 後期授業	193
【C3707】研究会修了論文 [小島 聡] 後期授業	193
【C3708】研究会修了論文 [小島 聡] 後期授業	194
【C3709】研究会修了論文 [北川 徹哉] 後期授業	194
【C3710】研究会修了論文 [田中 勉] 後期授業	195
【C3711】研究会修了論文 [永野 秀雄] 後期授業	195
【C3712】研究会修了論文 [永野 秀雄] 後期授業	196
【C3713】研究会修了論文 [西城戸 誠] 後期授業	196
【C3714】研究会修了論文 [西城戸 誠] 後期授業	197
【C3715】研究会修了論文 [根崎 光男] 後期授業	197
【C3716】研究会修了論文 [藤倉 良] 後期授業	198
【C3717】研究会修了論文 [堀内 行蔵] 後期授業	198

【C3718】	研究会修了論文 [堀内 行蔵] 後期授業	199
【C3719】	研究会修了論文 [辻 英史] 後期授業	199
【C3720】	研究会修了論文 [宮川 路子] 後期授業	200
【C3721】	研究会修了論文 [宮川 路子] 後期授業	200
【C3722】	研究会修了論文 [安田 章人] 後期授業	201
【C3723】	研究会修了論文 [吉田 秀美] 後期授業	201
【C3724】	研究会修了論文 [渡邊 誠] 後期授業	202
【C3726】	研究会修了論文 [武貞 稔彦] 後期授業	202
【C3727】	研究会修了論文 [朝比奈 茂] 後期授業	203
【C3728】	研究会修了論文 [長谷川 直哉] 後期授業	203
【C3730】	研究会修了論文 [梶 裕史] 後期授業	204
【C3731】	研究会修了論文 [吉村 宏和] 後期授業	204
【C3732】	研究会修了論文 [藤倉 良、宮川 路子]	205
【C3740】	インターンシップ [田中 勉、宮川 路子] 後期授業	205
基幹【C3801】	国際法Ⅱ (教職) [土屋 志穂] 後期授業	206
基幹【C3802】	国際法Ⅱ (教職) [岡松 暁子] 後期授業	207
フレッシュマン【C3898】	基礎演習 [谷本 勉] 後期授業	207
【C3899】	研究会 [谷本 勉] 前期授業	208
政策【C3901】	環境経営論Ⅰ [鶴田 佳史] 前期授業	208
政策【C3902】	環境経営論Ⅱ [鶴田 佳史] 後期授業	209
政策【C3904】	環境経済論Ⅰ [國則 守生] 前期授業	209
政策【C3905】	環境経済論Ⅱ [國則 守生] 後期授業	210
政策【C3906】	環境経済論Ⅱ [國則 守生] 後期授業	211
政策【C3907】	環境経済論Ⅰ [國則 守生] 前期授業	212
政策【C3908】	環境法Ⅱ [永野 秀雄] 後期授業	213
政策【C3909】	環境法Ⅱ [永野 秀雄] 後期授業	214
【C3910】	研究会 [安藤 俊次] 後期授業	215
【C3911】	研究会 [安藤 俊次] 後期授業	216
【C3914】	研究会 [渡邊 誠] 前期授業	216
【C3915】	研究会 (通年) [國則 守生] 年間授業	217
【C3916】	研究会 (通年) [武貞 稔彦] 年間授業	217
【C3917】	研究会 (通年) [朝比奈 茂] 年間授業	218
【C3918】	研究会 (通年) [吉田 秀美] 年間授業	219
【C3919】	研究会 (通年) [辻 英史] 年間授業	220
政策【C3920】	国際環境政策 [國則 守生] 後期授業	221
基幹【C3921】	古典芸能の現在 [安藤 俊次] 前期授業	222
基幹【C3922】	古典芸能の現在 [安藤 俊次] 前期授業	222
政策【C3923】	製造物責任法 [永野 秀雄] 前期授業	223
政策【C3924】	製造物責任法 [永野 秀雄] 前期授業	224
政策【C3925】	途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 前期授業	225
政策【C3926】	途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 前期授業	226
【C3928】	人間環境特論 (商社活動とCSR) [小林 一夫] 前期授業	227
【C3929】	人間環境特論 (ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ) [辻 英史] 前期授業	228
【C3930】	人間環境特論 (ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ) [辻 英史] 後期授業	228
【C3931】	人間環境特論 (環境と地域の持続性を考える) [西城戸 誠] 後期授業	229
【C3932】	人間環境特論 (ファシリテーションの基礎) [三田地 真実] 後期授業	230
基幹【C3935】	フィールド調査論 [黒田 暁] 後期授業	231
基幹【C3936】	フィールド調査論 [田中 勉] 後期授業	232
フレッシュマン【C3937】	基礎演習 [永野 秀雄] 後期授業	233
フレッシュマン【C3938】	基礎演習 [國則 守生] 後期授業	234
フレッシュマン【C3939】	基礎演習 [安藤 俊次] 後期授業	234
フレッシュマン【C3941】	基礎演習 [武貞 稔彦] 後期授業	235
フレッシュマン【C3944】	基礎演習 [宮川 路子] 後期授業	235
フレッシュマン【C3945】	基礎演習 [石神 隆] 後期授業	236
フレッシュマン【C3947】	基礎演習 [辻 英史] 後期授業	236
フレッシュマン【C3948】	基礎演習 [渡邊 誠] 後期授業	237
基幹【C3950】	フィールド調査論 [西城戸 誠] 前期授業	237

政策【C3952】 途上国経済論Ⅱ [藤井 洋次] 後期授業.....	238
基幹【C3953】 フィールド調査論 [田中 勉] 前期授業.....	239
フレッシュマン【C3960】 基礎演習 [平野井 ちえ子] 後期授業.....	240





## 地球環境論

### 名執 芳博

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

公害問題と地球環境問題の違い、人間の活動と地球環境問題の経緯、具体的な地球環境問題とその対策、様々な地球環境問題の関連性を学ぶことにより、地球の環境と持続可能な未来について考える力を付けることを目指します。

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

ここ四半世紀で認識されてきた地球環境問題と人間の活動との関係、地球温暖化、生物多様性などの現状と相互の関連、個々の地球環境問題に対処するため、また持続可能な未来に向けて世界の国々はどう対応しようとしているかについて、主にパワーポイントを使って授業を進めます。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論	地球は持続可能か、地球環境問題の議論の経緯
第2回	公害問題と地球環境問題	公害問題と地球環境問題の違い
第3回	世界とつながる日本	野生生物の移動、食料、資源等海外に依存する日本
第4回	オゾン層保護と越境大気汚染	オゾン層保護条約と酸性雨モニタリングネットワーク
第5回	熱帯林の破壊と砂漠化	熱帯林保護への対応と砂漠化防止条約
第6回	希少な野生生物の保護	ワシントン条約を中心とした対応
第7回	湿地とサンゴ礁の保全	ラムサール条約と国際サンゴ礁イニシアティブ
第8回	生物多様性の現状	ミレニアム生態系評価、サブグローバル評価、地球規模生物多様性評価
第9回	生物多様性の保全	生物多様性条約、第10回締約国会議
第10回	地球温暖化の経緯と現状	IPCC報告書
第11回	地球温暖化への対応	気候変動枠組条約と京都議定書
第12回	生物多様性と地球温暖化	地球温暖化の生物多様性への影響、生物多様性の温暖化緩和への貢献
第13回	持続可能な未来に向けて(1)	SATOYAMAイニシアティブ
第14回	持続可能な未来に向けて(2)	持続可能な開発のための教育
第15回	定期試験	定期試験により授業の理解を確認する

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業外で行うべき準備学習等学習活動が必要な場合は、授業の中で指示する。

#### 【テキスト】

講義の際、プリントを配布する。

#### 【参考書】

参考書について、必要があれば、講義の中で適宜紹介する。

#### 【成績評価基準】

期末試験で評価する。講義への2/3以上の出席が前提であり、それ以下の出席での単位取得は困難である。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【学生が準備すべき機器他】

PPTを使用する予定である。

## 都市デザイン論

### 田中 大助

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

都市を形成する建築物の最小単位は住宅である。その住宅の設計を授業のテーマに都市環境や住環境の要素を理解し、都市デザインに対する主観をひとりひとりに自覚してもらうことを目標とする。自分の考える住宅がイメージできて表現できるようになることを授業の到達目標とする。

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

講義を中心に行うが、講義を元に学生がテーマを決めて作品（住宅の設計）を残すものである。講義中の課題と最後の作品は文字のみによる表現でなく、図版・絵・グラフなど視覚言語を多用する表現が要求されるため、プレゼンテーション能力も養われる。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：都市デザインと建築デザイン	都市を構成する建築・土木建造物の紹介と、授業で行う住宅の位置づけを行う
第2回	「棲む」と「住む」の違い	生息する(菓)ことと生活する(家)ことの違いを説明し、人間社会にのみ存在する住宅文化について認識する
第3回	住宅設計における建築家(アーキテクト)と建築技師の違い	建築家と建築技師の違いについて説明し、建築家の役割の中で人文系の内容の多いことを理解してもらう
第4回	建築と空間・動線	住宅の中の人間の行動パターンとその行動に伴う必要最小空間を理解する
第5回	住空間の単位空間(1)(玄関)	第1回目の課題を出題する 玄関の日本の住宅文化に果たす役割を理解してもらう
第6回	住空間の単位空間(2)(居間・食堂・寝室・書斎・子供部屋)	第2回目の課題を出題する 居間などの日常生活空間について説明する
第7回	住空間の単位空間(3)(台所・風呂・便所・階段)	台所など水場について説明する
第8回	住環境の物理要素(熱・光・水・風)	第3回目の課題を出題する 住宅の外部環境の要素が建物や生活とどのように関わっているのか説明する
第9回	住空間の構成要素(基礎・床・壁・屋根など)	住宅を形作る要素と外部環境・内部環境との関係を説明する
第10回	ユニバーサルデザインについて	第4回目の課題を出題する これからの社会でユニバーサルデザインの必要性などについて説明する
第11回	住宅事例の紹介(1)	第5回目の課題を出題する プロの建築家による実際に建てられた住宅の紹介
第12回	住宅事例の紹介(2)	前年までの学生の作品を紹介する
第13回	課題質疑応答	各人の決めた課題テーマに対する取組み方の指導をオープンで行う
第14回	作品提出	作品の発表と講評を学生全員で行う
第15回	総括	習得事項の整理および確認

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テーマが住宅の設計なので普段の日常生活を観察するだけで、授業の内容が十分に復習できるし、授業終了後も人間の日常生活を観察する癖をつけることによって、それぞれの人々に最適な生活空間はどんなものであるか考えるようになることを希望する。

#### 【テキスト】

講義時に資料を配布する。

#### 【参考書】

「建築設計基礎編－建築デザインの製図法から簡単な設計まで－」「建築設計応用編－独立住居から集合住宅まで－」武者英二ほか著 彰国社

#### 【成績評価基準】

授業中の課題と最後に提出する住宅設計による総合評価。出席点・ペーパーテストなどはない。出席して講義を聴かないと課題に取り組みないので、課題と作品によって全て判断できる。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

課題の量は多く、課外でかなりの時間を必要とするので、かなり大変であるがやる気があれば充実した授業になる。

研究会 (通年)

向井 常雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

環境を学ぶ自然科学系・文系学生にとって実社会に出てから必要な環境科学・技術の基礎と実践を習得する。

CSR の視点から企業活動と地球環境・地域環境との係わりを考えることをテーマとする。

【授業の到達目標】

【

【授業の概要と方法】

21 世紀は環境の世紀であり、国際競争社会の中で企業がサバイバル競争に勝ち、サステナブル経営を永続させるためには、環境配慮経営を継続改善的に推進していく必要がある。

人間環境学部生が実社会に出てから常に一歩リードして活躍するために必要となる環境経営の基礎論と実践論を学び、実践上で重要な環境科学・技術の基礎を実践的に習得する。

机上研究調査並びにディスカッション及び企業環境施設の見学等を通じて、サステナブル環境経営に不可欠な「考える力」及び「創造力」を体験的に習得する。

環境科学・技術の必要基礎知識としては、環境経営を補完する環境関連用語(化学用語を含む)、地域環境問題・地球環境問題に係る原因対策及び防止技術・予防技術の基本、環境関連法規等々

【

【

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境関連用語	環境科学技術に係る常識的実用語の解説
第 2 回	地域環境問題を科学技術的視点から考える 1	地域環境問題の原因と現状、将来を考える
第 3 回	地域環境問題を科学技術的視点から考える 2	同上
第 4 回	上記課題に係る演習	上記課題に係る演習
第 5 回	上記課題に係る演習	同上
第 6 回	上記演習成果に係る発表とディスカッション	上記演習成果に係る発表とディスカッション
第 7 回	地球環境問題を科学技術的視点から考える	地球環境問題の原因と現状、将来を考える
第 8 回	上記課題に係る演習	上記課題に係る演習
第 9 回	上記課題に係る演習	同上
第 10 回	上記演習成果に係る発表とディスカッション	上記演習成果に係る発表とディスカッション
第 11 回	地域環境問題・地球環境問題への企業の対応	地域環境問題・地球環境問題へ対して企業は経営上どのような対応をしているのかを認識する
第 12 回	上記課題に係る演習	上記課題に係る演習
第 13 回	上記課題に係る演習	同上
第 14 回	上記演習成果に係る発表とディスカッション	上記演習成果に係る発表とディスカッション
第 15 回	企業訪問研究 (地域環境問題・地球環境問題)	企業訪問し、前記学習の実践的研究を行う。
第 16 回	典型 7 公害の防止・予防技術	典型 7 公害に係る現状と対策技術に係る基礎的実用対策を学習する。
第 17 回	廃棄物の防止・予防技術	廃棄物に係る現状と対策技術に係る基礎的実用対策を学習する。
第 18 回	有害物質汚染の防止・予防技術	有害物質汚染現状と対策技術に係る基礎的実用対策を学習する。
第 19 回	企業の環境負荷対策を調査研究	企業の環境汚染負荷対策を調査研究のための基本的学習
第 20 回	上記課題に係る演習	上記課題に係る演習
第 21 回	上記課題に係る演習	同上
第 22 回	上記演習成果に係る発表とディスカッション	上記演習成果に係る発表とディスカッション
第 23 回	企業の環境負荷対策の実態を企業訪問調査	企業の環境汚染負荷対策の実態を企業訪問調査
第 24 回	環境汚染防止プロセスと環境側面・課題	環境汚染防止プロセスと環境側面・課題を考える学習を実施。
第 25 回	上記課題に係る演習	上記課題に係る演習
第 26 回	上記課題に係る演習	同上
第 27 回	上記演習成果に係る発表とディスカッション	上記演習成果に係る発表とディスカッション

第 28 回	環境関連法規制に係る調査研究	環境関連法規制に係る実態調査研究
第 29 回	上記課題に係る演習	上記課題に係る演習
第 30 回	上記演習成果に係る発表とディスカッション	上記演習成果に係る発表とディスカッション

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・毎週決められた範囲の Web 検索・文献購読を行う。
- ・小論文作成のために、Gr で調査・研究を行う

#### 【テキスト】

- ・原則として、メンバーの事前準備資料がテキストの役割をする  
が、適時に講義用のテキストを配布する。

#### 【参考書】

- ・2～3 回目に理解度を考慮して参考書を推奨する。

#### 【成績評価基準】

- ・事前準備及び発表・ディスカッション内容で評価

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【学生が準備すべき機器他】

- ・PC、PPT-projector

## CSR 論 I

### 長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) や Business Ethics (経営倫理) に関する基本的理論と世界的な潮流を理解し、サステイナブル (持続可能な) 社会において求められる企業の役割と企業に所属する個人の職業倫理のあり方について理解を深めることめざします。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や CSR および個人の職業倫理について検討していきます。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、企業と社会の問題領域	講義の進め方および講義の全体像について
第 2 回	企業の基本機能と役割	株式会社の発展プロセスと機能について
第 3 回	近代産業の勃興と CSR ①	見えざる手と道徳哲学 - A. スミス
第 4 回	近代産業の勃興と CSR ②	功利主義思想 - J. ベンサム, J. ミル
第 5 回	資本主義における倫理と CSR	資本主義の精神と倫理 - M. ウェーバー
第 6 回	市場の失敗と CSR	市場と企業と法の経済学 - R. コース
第 7 回	CSR は不要か	経済的自由主義 - M. フリードマン
第 8 回	近代日本における CSR	勤勉革命と職業倫理 (江戸末期～戦前期)
第 9 回	高度経済成長期の CSR	公害問題と CSR 論の展開 (戦後期)
第 10 回	成熟化社会の到来と CSR	問い直される CSR の意味 (1980 年代以降)
第 11 回	企業統治と CSR ①	企業の所有・支配構造の変化と CSR
第 12 回	企業統治と CSR ②	アメリカ・イギリスの企業観と CSR
第 13 回	企業統治と CSR ③	日本の企業観と CSR
第 14 回	グローバル化時代の CSR	経済のグローバル化・サステイナビリティ化と CSR
第 15 回	試験	授業の理解を確認する。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

関心のある企業が発行する CSR 報告書を読み、企業がどのような CSR 活動を行っているのか調べて下さい。

#### 【テキスト】

特定の本をテキストとして使用しません。  
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

#### 【参考書】

谷本寛治『新装版 企業社会のリコンストラクション』千倉書房、2002 年  
R.L. ハイムブローナー (松原隆一郎ほか訳)『入門経済思想史』筑波書房、2001 年  
武田晴人『日本人の経済観念』岩波書店、1999 年  
佐和隆光『成熟化社会の経済倫理』岩波書店、1993 年

#### 【成績評価基準】

中間レポート： 50 % (出題範囲第 1～7 回)

期末試験： 50 % (出題範囲第 8～14 回)

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の理解を論理的に展開しているか等を評価します。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

## CSR 論Ⅱ

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

CSR 論Ⅰで学んだことを踏まえ、現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。CSR に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからにはかなりません。企業と社会の間に存在する様々な矛盾を解消するための仕組みとしての CSR について理解を深めることをめざします。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

サステイナブルという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、様々な社会的課題の解決を目指すソーシャルビジネス（社会的企業）の活動も注目されています。本講義では、CSR に関する理論やケースを取り上げ、企業経営における CSR の意義とサステイナブル社会で求められる企業の姿を検討します。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、CSR の基本概念	講義の進め方および講義の全体像について
第2回	CSR の生成と展開①	欧州・アメリカにおける CSR の歴史的経緯
第3回	CSR の生成と展開②	日本における CSR の歴史的経緯
第4回	CSR の理論的統合	企業倫理学と社会的責任論の相関
第5回	CSR の制度化と社会的支援	CSR に関する法制度や規格の現状
第6回	CSR の関心領域	環境、人権、雇用、生物多様性、地域社会など
第7回	CSR と経営①	マネジメントシステムと CSR
第8回	CSR と経営②	企業理念のリコンストラクションと CSR 教育
第9回	CSR と経営③	ステークホルダー・マネジメント
第10回	CSR と経営④	CSR コミュニケーション
第11回	企業価値と CSR ①	CSR 金融の理念と手法
第12回	企業価値と CSR ②	社会的責任投資 (SRI) と市場のサステイナブル化
第13回	企業価値と CSR ③	非財務的要素の評価と企業価値の創造
第14回	CSR とソーシャルビジネス	企業とソーシャルビジネスの協働
第15回	試験	授業の理解を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

国内では 1,000 社程度の企業が CSR 報告書を発行しています。本講義で習得した知識を活かして、CSR 報告書を読み解いてみましょう。

## 【テキスト】

特定の本をテキストとして使用しません。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

## 【参考書】

D. ボーゲル（小松由紀子ほか訳）『企業の社会的責任 (CSR) の徹底研究』一灯舎、2007 年  
 谷本寛治『CSR 企業と社会を考える』NTT 出版、2006 年  
 谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年  
 高巖・日経 CSR プロジェクト『CSR 企業価値をどう高めるか』日本経済新聞社、2004 年

## 【成績評価基準】

中間レポート： 50 %（出題範囲第 1～7 回）  
 期末試験： 50 %（出題範囲第 8～14 回）  
 講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の理解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

## 現代企業論

長谷川 直哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

経済社会システムにおける企業活動の意義・役割を理解することは経営学の基本です。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（ナレッジマネジメント、コーポレートガバナンス、環境・CSR 経営等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、社会における企業の機能と役割	講義の進め方および講義の全体像について
第2回	企業とは何か	株式会社の誕生と歴史的発展
第3回	企業と経済社会	企業社会の発展と企業家の役割
第4回	企業システム①	製品・サービスの提供
第5回	企業システム②	株式会社の仕組みと課題
第6回	企業システム③	大企業の機能と専門経営者
第7回	企業システム④	企業の大規模化と組織の変革
第8回	企業システム⑤	経営管理の理念と機能
第9回	企業システム⑥	日本の経営の構造
第10回	企業システム⑦	IT と企業競争力
第11回	企業システム⑧	技術革新と企業間競争
第12回	企業と社会①	企業経営とステークホルダー
第13回	企業と社会②	企業経営と地球環境問題
第14回	企業と社会③	サステイナブル社会における企業の役割とは
第15回	試験	授業の理解を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。

## 【テキスト】

特定の本をテキストとして使用しません。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

## 【参考書】

井原久光『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで第3版』ミネルヴァ書房、2008 年  
 柴田和史『ビジュアル株式会社の基本（第3版）』日本経済新聞社、2006 年  
 武藤泰明『ビジュアル経営の基本』日本経済新聞社、2002 年  
 下川浩一『日本の企業発展史』講談社、1990 年

## 【成績評価基準】

中間レポート： 50 %（出題範囲第 1～7 回）  
 期末試験： 50 %（出題範囲第 8～14 回）  
 講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

## EMS 論

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

低炭素社会の構築に向けて、世界的に新たな環境規制や環境政策の導入が進んでおり、企業活動にも重大な影響が生じています。本講義では、企業や社会を取り巻く環境問題の性質と影響を認識するとともに、その対応手法としての環境マネジメントシステム（EMS：Environmental Management System）の意義と機能について理解を深めることめざします。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

20 世紀型産業文明のキーワードは成長でしたが、21 世紀型ポスト産業文明のキーワードは持続可能な成長（sustainable development）といわれています。本講義では様々な環境問題とその対応策を取り上げ、環境と調和した循環型経済システムへのパラダイム転換のあり方を社会科学的なアプローチから検討していきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、循環型社会とは	講義の進め方および講義の全体像について
第 2 回	気候変動政策①	地球環境問題に関する主要論点
第 3 回	気候変動政策②	環境政策の国際的合意形成の動向
第 4 回	気候変動政策③	代替エネルギー、CO2 排出量取引、環境税
第 5 回	環境経営①	ISO14001 の概要－EMS の基本概念
第 6 回	環境経営②	ISO14001 の概要－認証審査と取得事例
第 7 回	環境経営③	ライフサイクルアセスメントと環境配慮型製品開発
第 8 回	環境経営④	環境マーケティング
第 9 回	環境経営⑤	環境イノベーションと競争戦略
第 10 回	環境経営⑥	環境コミュニケーション
第 11 回	環境会計①	環境経営の進展と環境会計の機能
第 12 回	環境会計②	環境報告会計（外部環境会計）
第 13 回	環境会計③	環境管理会計（内部環境会計）
第 14 回	環境金融	プロジェクトファイナンス、環境融資、保険、SRI
第 15 回	試験	授業の理解を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞等で報道される環境問題のトピックを継続的にウォッチして、企業を中心とする経済システムと環境問題との関係性について理解を深めてください。

## 【テキスト】

特定の本をテキストとして使用しません。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

## 【参考書】

河野正男・八木裕之・千葉貴律『生態会計への招待』森山書店、2010 年  
鈴木幸毅・所伸之編著『環境経営学の扉』文眞堂、2008 年  
諸富徹・鮎川ゆりか『脱炭素社会と排出量取引』日本評論社、2007 年  
堀内行蔵・向井常雄『実践環境経営論』東洋経済新報社、2006 年  
藤井良広『金融で解く地球環境』岩波書店、2005 年

## 【成績評価基準】

中間レポート： 50 %（出題範囲第 1～7 回）

期末試験： 50 %（出題範囲第 8～14 回）

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 基礎演習

長谷川 直哉

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2 年次からの勉強に備えて、学部の 4 コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する 20 名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

## 【授業計画】

後期 回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第 2 回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第 3 回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第 4 回	レポート・論文・発表の心得（2）	第 1 回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第 5 回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第 6 回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により 1 班 2～4 人程度の班に分類。
第 7 回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第 8 回	グループ発表・討論 1	1 回 2 班。1 班の発表 10 分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第 9 回	グループ発表・討論 2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第 10 回	グループ発表・討論 3	同上
第 11 回	グループ発表・討論 4	同上
第 12 回	グループ発表・討論 5	同上
第 13 回	グループ発表・討論 6	同上
第 14 回	小フィールドスタディ（街歩き）	90 分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第 15 回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

## 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

## 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

5～6 月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

**研究会 (通年)**

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

この研究会では、CSR（企業の社会的責任）に関する基本理論の理解を深め、企業評価のあり方と CSR の関係について検討していきます。CSR の関心領域は、地域的な課題からグローバルな課題まで非常に幅広いものがあります。地球温暖化問題や後を絶たない企業不祥事などの影響から、社会が企業に求める役割も大きく変化しようとしています。CSR に関する諸問題の本質と背景を理解することを通じて、サステナブル社会が求める企業像を検討していきます。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

前期は CSR 報告書の輪読と討議を中心に研究会を進め、わが国企業の CSR 活動の実態と課題を業種別に整理します。最終的には、CSR の活動内容を体系化し、CSR 活動を評価するフレームワークのあり方を議論していきます。後期は、環境金融の視点から社会的責任投資 (SRI) ファンドを取り上げます。わが国で運用されている SRI ファンドの企業評価スキームにおいて、CSR がどのように評価されているのか検討していきます。各回とも担当者はレジュメを作成し発表を行い、それに基づいて討議を行います。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表担当の決定等
第 2 回	講義	CSR 報告書の読み解き方
第 3 回	討議①	CSR 報告書の輪読
第 4 回	討議②	CSR 報告書の輪読
第 5 回	討議③	CSR 報告書の輪読
第 6 回	討議④	CSR 報告書の輪読
第 7 回	講義・意見交換①	企業 CSR 担当者による講義・意見交換
第 8 回	討議⑤	CSR 報告書の輪読
第 9 回	討議⑥	CSR 報告書の輪読
第 10 回	討議⑦	CSR 報告書の輪読
第 11 回	討議⑧	CSR 報告書の輪読
第 12 回	講義・意見交換②	企業 CSR 担当者による講義・意見交換
第 13 回	検討①	CSR 評価スキームの検討
第 14 回	検討②	CSR 評価スキームの検討
第 15 回	検討③	CSR 評価スキームの検討
第 16 回	報告ガイダンス	発表担当の決定等
第 17 回	講義	社会的責任投資 SRI とは
第 18 回	討議①	SRI ファンドの報告
第 19 回	討議②	SRI ファンドの報告
第 20 回	討議③	SRI ファンドの報告
第 21 回	討議④	SRI ファンドの報告
第 22 回	講義・意見交換①	運用担当者による講義・意見交換
第 23 回	討議⑤	SRI ファンドの報告
第 24 回	討議⑥	SRI ファンドの報告
第 25 回	討議⑦	SRI ファンドの報告
第 26 回	討議⑧	SRI ファンドの報告
第 27 回	講義・意見交換②	運用担当者による講義・意見交換
第 28 回	討議	CSR と企業価値の検討
第 29 回	討議	CSR と企業価値の検討
第 30 回	討議	CSR と企業価値の検討

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

必要に応じてフィールド調査を行います。フィールド調査は、研究会の時間外（夏季休暇を含む）に実施することが多くなります。

**【テキスト】**

随時、指示します。

**【参考書】**

随時、指示します。

**【成績評価基準】**

平常点（研究会への参加態度・貢献度）、報告内容、プレゼンテーション等を総合的に評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****研究会 (通年)**

長谷川 直哉

配当年次／単位：3～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

この研究会では、CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サステナブル社会における企業と社会の関係を学びます。CSR や Business Ethics を理解するために、経営学、経済学、法学、社会学など社会科学に関する幅広い文献を購読し基本理論を学びます。最終的には、CSR 経営、環境経営、環境金融、環境会計、環境政策等の分野で実証的アプローチによる研究を行い、研究会修了論文を作成します。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

前期は、CSR および Business Ethics に関する文献を輪読し議論を行います。参加者は、文献購読とゼミでの議論を踏まえて、各自の研究テーマおよび研究計画を作成し発表・討議します。後期は、研究テーマによるグループ編成を行い、各グループ別に実証的アプローチ（企業訪問などを中心としたフィールド調査）による研究を行い、その成果を報告書にまとめ発表・討議します。ゼミでは、プレゼンテーション能力やディベート能力を養うための訓練を行います。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表担当の決定等
第 2 回	文献購読・討議①	CSR 基本文献
第 3 回	文献購読・討議②	CSR 基本文献
第 4 回	文献購読・討議③	CSR 基本文献
第 5 回	文献購読・討議④	CSR 基本文献
第 6 回	文献購読・討議⑤	CSR 基本文献
第 7 回	文献購読・討議⑥	CSR 基本文献
第 8 回	講義・意見交換	企業 CSR 担当者による講義・意見交換
第 9 回	事例研究・討議①	CSR 報告書の分析
第 10 回	事例研究・討議②	CSR 報告書の分析
第 11 回	事例研究・討議③	CSR 報告書の分析
第 12 回	討議	研究計画の発表
第 13 回	討議	研究計画の発表
第 14 回	討議	研究計画の発表
第 15 回	決定	研究テーマ・調査グループの決定
第 16 回	報告	研究グループによる活動（計画）報告
第 17 回	文献購読①	ロジカル・シンキング
第 18 回	文献購読②	CSR に関する学術論文
第 19 回	文献購読③	CSR に関する学術論文
第 20 回	文献購読④	CSR に関する学術論文
第 21 回	講義・意見交換	企業 CSR 担当者による講義・意見交換
第 22 回	中間報告	研究グループによる中間報告
第 23 回	中間報告	研究グループによる中間報告
第 24 回	討議	中間報告に関する討議
第 25 回	討議	中間報告に関する討議
第 26 回	討議	文献購読
第 27 回	討議	文献購読
第 28 回	討議	研究会修了論文発表
第 29 回	討議	研究会修了論文発表
第 30 回	討議	研究会修了論文発表

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

フィールド調査は、研究会の時間外（夏季休暇を含む）に実施することが多くなります。

**【テキスト】**

随時、指示します。

**【参考書】**

随時、指示します。

**【成績評価基準】**

平常点（研究会への参加態度・貢献度）卒業論文、プレゼンテーション等を総合的に評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

## ネットワークとマルチメディア

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

インターネットとマルチメディアの基礎について演習を行う。

### 【授業の到達目標】

【

### 【授業の概要と方法】

ネットワークの基礎と xhtml/css を用いた情報の発信、基礎的な画像処理、情報倫理と情報セキュリティについて演習を行う。

授業は情報教室で行い、各自がコンピュータの操作を行う実習形式である。情報処理基礎の応用編に相当するため、基本的なコンピュータ操作スキルと知識があることを前提に講義を進める。

【

【

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容の確認／スキルの確認／情報系の資格について／コンピュータの基礎知識
第 2 回	ネットワーク入門	インターネットでできること／コンピュータネットワークの基礎
第 3 回	ネットワーク入門	コンピュータネットワークの基礎
第 4 回	ネットワーク入門	情報セキュリティと情報倫理
第 5 回	画像処理入門	様々なマルチメディアコンテンツのフォーマット
第 6 回	画像処理入門	基本的なペイント系の画像処理
第 7 回	画像処理入門	基本的なペイント系の画像処理
第 8 回	web による情報発信	www の歴史と様々な形態の情報発信 xhtml 入門 (1)
第 9 回	web による情報発信	xhtml 入門 (2)
第 10 回	web による情報発信	css 入門 (1)
第 11 回	web による情報発信	css 入門 (2)
第 12 回	web による情報発信	css 入門 (3)
第 13 回	web による情報発信	課題作成
第 14 回	web による情報発信	課題作成
第 15 回	総括	習得事項の整理および確認

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義内容の復習と実習内容の繰り返し演習を行い、確実に身につけること。

### 【テキスト】

講義時に指示する。

### 【参考書】

講義の進行にあわせ随時紹介する。

### 【成績評価基準】

出席状況と課題提出状況・内容によって評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

基本的なコンピュータ操作スキルと知識があることを前提に講義を進める。初回講義時に実習室のコンピュータにログインし、作業できる状態になっていること。

## ミクロ経済学 I

林 直嗣

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

各個人の身の回りから日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの各主体の視点から理解する力をつけることを目標とする。この講座をとることにより、経済学の素養を体系的に身につけることができる。単に理論を勉強するだけでなくとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行うことは、実社会に出て役に立つ分析力を養うトレーニングであり、各種資格試験や就職試験のための実践力を涵養する。

### 【授業の到達目標】

【

### 【授業の概要と方法】

消費者の需要行動、企業の生産活動、市場価格の決まり方、独占価格の問題点、貸金や利潤などの分配、投資と資本蓄積、市場機構の限界と政府の役割、民主的意思決定機構、不確実性と経済活動、など私たちの身の回りの経済問題についてやさしく、しかも体系的に講義する。

授業の方法は講義を主体とする。インターネットによる先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を視聴して e ラーニングを行い、予習や復習に役立てることができる。また章ごとに問題演習を行い、レポート提出や小テストを行うこともある。ミクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。

【

【

### 【授業計画】

前期	回	テーマ	内容
第 1 回	1-1	経済とミクロ経済学	ミクロ経済学の基礎的な考え方を易しく解説する。
第 2 回	1-2	経済とミクロ経済学	ミクロ経済学の基礎的概念を説明する。
第 3 回	2-1	市場経済と貨幣	市場経済と貨幣について基礎的概念を解説する。
第 4 回	2-2	市場経済と貨幣	市場経済と貨幣について進んだ考え方を説明する。
第 5 回	3-1	消費者の行動	消費者行動の基礎概念を説明する。
第 6 回	3-2	消費者の行動	消費者行動の基礎理論を説明する。
第 7 回	3-3	消費者の行動	消費者理論の核心を解説する。
第 8 回	3-4	消費者の行動	消費者理論の進んだ考え方を説明する。
第 9 回	4-1	企業の行動	企業理論の基礎を説明する。
第 10 回	4-2	企業の行動	企業理論の核心を解説する。
第 11 回	4-3	企業の行動	企業理論の進んだ考え方を説明する。
第 12 回	5-1	市場均衡	市場均衡論のエッセンスを解説する。
第 13 回	5-2	市場均衡	一般均衡論の核心を解説する。
第 14 回	5-3	市場均衡	一般均衡論の進んだ問題を解説する。
第 15 回		前期のまとめ	前期のまとめをする。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、Web 授業を聴講し、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

### 【テキスト】

林 直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（入門的教科書）

林 直嗣著『問題演習 ミクロ経済学 再訂版』（スタディーガイドと問題集）

### 【参考書】

石井・西條・塩澤著『入門・ミクロ経済学』有斐閣（初級の教科書）

### 【成績評価基準】

定期試験を行う。レポート提出ないし小テストをさらに加えることもある。出席を取る時もある。それらの総合点を出して、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員得点分布を算出し、その得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【学生が準備すべき機器他】

先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を作成し、本学サイトから聴講できるようにしてあるので、学内の PC 端末から、あるいは学外からは VPN 接続をした PC 端末から、予習をすると効果的である。病気などで欠席した場合には、それを聴講して代用できる。

教室では、板書を利用するとともに、プレゼンテーション用教材（Power Point による教材）をスクリーンに投影する。



【その他】

公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているため、理論だけでなく問題演習もする必要がある人には、この講義をとることを特に勧める。

研究会 (通年)

田中 勉

配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

「ローカルな環境問題の社会学」をテーマに、参加者それぞれが個別の課題を設定し研究を行う。地域社会の研究手法および環境問題への社会学的アプローチの仕方を学び、それを具体的な事例に適用して考察することを目的とする。文献購読、資料収集、レポート作成、研究発表の順序で段階を追って各自の関心に基づき一年を通じて着実に前進できるようにする。2・3年生は課題を明確にして年度研究論文の作成をめざす。4年生は研究会終了論文の作成が最終目的となる。レポート執筆、個人研究報告などのしかたについてもきちんと身につけることもめざす。

【授業の到達目標】

【

【授業の概要と方法】

はじめに文献を読み、社会学的な思考法、分析のための概念枠組み、基礎概念などについて学ぶ。次いで各自の研究構想を報告し、参考文献・資料の検索と課題文献を決め、夏期レポートの作成をおこなう。レポートに基づき報告、コメント・質疑などをふまえて年度論文を作成する。前期終了時に個別面談を行い、課題文献の選定をおこなう。課題によっては現地調査に関する指導を行う。

【

【

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	参加者確定、ガイダンス、文献配布	参加メンバーの確認。ゼミの進め方、ゼミルールの説明。文献を配布し、発表分担を決める。レジュメ作成に関する指示をする。
第 2 回	文献発表①	担当者による文献発表と討論を行う。
第 3 回	文献発表②	担当者による文献発表と討論を行う。
第 4 回	文献発表③	担当者による文献発表と討論を行う。
第 5 回	文献発表④	担当者による文献発表と討論を行う。
第 6 回	文献発表⑤	担当者による文献発表と討論を行う。
第 7 回	文献発表⑥	担当者による文献発表と討論を行う。個人テーマ記入用紙配布。
第 8 回	文献発表⑦	担当者による文献発表と討論を行う。
第 9 回	文献発表⑧	担当者による文献発表と討論を行う。
第 10 回	文献発表⑨	担当者による文献発表と討論を行う。個人テーマ記入用紙の提出締め切り。
第 11 回	個人研究構想発表①	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第 12 回	個人研究構想発表②	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第 13 回	個人研究構想発表③	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第 14 回	個人研究構想発表④	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第 15 回	個人研究構想発表⑤	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。前期試験期間中に個別に休暇中の課題文献を指示する。
第 16 回	個人研究・文献発表①	個人別の課題文献の発表と討論。
第 17 回	個人研究・文献発表②	個人別の課題文献の発表と討論。
第 18 回	個人研究・文献発表③	個人別の課題文献の発表と討論。
第 19 回	個人研究・文献発表④	個人別の課題文献の発表と討論。
第 20 回	個人研究・文献発表⑤	個人別の課題文献の発表と討論。
第 21 回	個人研究・テーマ発表①	個人別の研究テーマに関する発表。
第 22 回	個人研究・テーマ発表②	個人別の研究テーマに関する発表。
第 23 回	個人研究・テーマ発表③	個人別の研究テーマに関する発表。
第 24 回	個人研究・テーマ発表④	個人別の研究テーマに関する発表。
第 25 回	個人研究・テーマ発表⑤	個人別の研究テーマに関する発表。
第 26 回	個人研究・テーマ発表⑥	個人別の研究テーマに関する発表。
第 27 回	個人研究・テーマ発表⑦	個人別の研究テーマに関する発表。
第 28 回	個人研究・テーマ発表⑧	個人別の研究テーマに関する発表。
第 29 回	研究会終了論文発表①	4 年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。
第 30 回	研究会終了論文発表②	4 年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。

【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

個人研究のテーマ選定、文献・資料検索を行う。  
社会調査 (インタビュー・調査票調査) を行う場合は個別に指導する。

## 【テキスト】

嘉田由紀子「環境社会学」岩波書店  
日本環境社会学会「環境社会学研究」新曜社

## 【参考書】

町村ほか「地域社会学の視座と方法」東信堂  
宮内泰介「自分で調べる技術」岩波書店  
関・中澤ほか「環境の社会学」有斐閣

## 【成績評価基準】

出席をもっとも重視する。  
発表、ディスカッションへの参加度、  
レポートはもちろん評価対象である。  
総合評価で行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

参加者数によって各回の時間配分は変更されることがあります。

## 研究会 (通年)

## 堀内 行蔵

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

2 年生からのゼミの成果をもとにし、学生の自主的な学習を通じ議論を深める。前期では、最近の環境経営をめぐる課題をとりあげ議論する。また、前期では卒業論文のトピックスを選定し、論文完成のための準備的議論を行う。後期では卒業論文を完成させる

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

前期では、地球環境問題が今後どのような影響を与えるかを取り上げ、生物多様性や地球温暖化などと企業経営との関連について、さまざまな角度から検討する。毎回数人の発表者の決め、自由で活発な議論を通じゼミでの研究成果の集大成を図る。また、前期では、各自が卒業論文のテーマを発表し議論を開始する。後期では、各自が卒業論文を発表し、全員で議論する。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スケジュールの決定	各自、テーマを発表する。
第 2 回	課題発表 (1)	毎回、2～3 名が、テーマについてレジメを作成し発表する。全員で討議し、理解を深め、コミュニケーション力を養う。
第 3 回	同上 (2)	同上
第 4 回	同上 (3)	同上
第 5 回	同上 (4)	同上
第 6 回	同上 (5)	同上
第 7 回	同上 (6)	同上
第 8 回	同上 (7)	同上
第 9 回	卒論のテーマ発表 (1)	毎回、2～3 名が、参考文献や章立てを含め、卒論のテーマについて、レジメを作成し発表する。卒論の目的と内容について、概説が説明できるようにする。
第 10 回	同上 (2)	同上
第 11 回	同上 (3)	同上
第 12 回	同上 (4)	同上
第 13 回	同上 (5)	同上
第 14 回	同上 (6)	同上
第 15 回	同上 (7)	同上
第 16 回	スケジュールの決定	各自、卒論の進捗状況を発表する。
第 17 回	卒論の概要発表 (1)	毎回、2～3 名が、研究成果を踏まえ、卒論の概要を発表する。集めたデータや論旨の展開を議論する。
第 18 回	同上 (2)	同上
第 19 回	同上 (3)	同上
第 20 回	同上 (4)	同上
第 21 回	同上 (5)	同上
第 22 回	卒論の詳細発表 (1)	毎回、1～2 名が、レポート形式の資料を作成し、詳細説明を行い、要旨を発表する。
第 23 回	同上 (2)	同上
第 24 回	同上 (3)	同上
第 25 回	同上 (4)	同上
第 26 回	同上 (5)	同上
第 27 回	同上 (6)	同上
第 28 回	同上 (7)	同上
第 29 回	同上 (8)	同上
第 30 回	同上 (9)	同上

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

テーマに合った書籍や論文を集め、読みこなすこと。  
関連する新聞、雑誌、TV、インターネットに注意を払うこと。  
企業のHPを見ること。

## 【テキスト】

なし

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【成績評価基準】

出席点と平常点 (発言、レジメ・レポート) で評価する。

無断欠席は厳禁である。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

岡本 義行

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火1・2 (2限連続)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本授業は、学生が中小企業等のコンサルティング（問題解決）を実際に体験することで、社会で必要とされる、課題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを修得することを目的としています。具体的には、上野、浅草といった東京都台東区内の中小企業、商店街、組合、NPOなどの経営問題を解決しながら、下記のスキルや手法を身につけます。本授業に参加した学生が身につけるべき能力は、以下の5点です。

1. 課題を発見・分析できる力 <気づき、考える>
2. 実践可能な提案ができる力 <創り、伝える>
3. 解決策を実践できる力 <一緒にやってみる>
4. コミュニケーションの能力 <社会人や仲間と話し合う>
5. プレゼンテーションの能力 <見せる>

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

毎年、中小企業と浅草などの商店街からコンサルティングの依頼があり、6学部に渡る約50名の学生がチームに分かれて、経営課題の「発見 → 分析 → 提案 → 実践 → 発見・・・」というコンサルティングプロセスを体験します。その成果として、学生が提案したアイデアを商品化して売り出した企業もありますし、学生の提案により店舗を移転し内装をまったく変え、訪問客を増やした企業もあります。あるチームは、企業の企画会議に定期的に参加し、社員とともに広告戦略の重要媒体であるチラシのデザインを一新しました。商店街のプロモーションビデオを作成し関係者から絶賛されたチーム、産直市の企画運営に尽力し商店街の方々に表彰されたチームもあります。ネット販売の仕組みを提案して採用されたチームもあります。中には乞われて就職した学生もいます。授業の最終回には、経営者全員や関係者を多数集めて、正式な提案・展示を行う報告会を実施します。この報告会は、司会進行も含め学生自身が企画運営しますが、社長や経営陣、および地域の各セクターの方々に対するプレゼンテーションと位置づけています。また、千代田区内のNPOの相談にもなったこともあります。昨年度は夏休みに能登半島の七尾市でインターンシップ、秋田県仙北市で地域活性化のための調査と提案を行い、多くの履修生が参加し、年度末には現地で報告会を実施しました。本授業は全学的な取組みとなっており、学部や学年を越えて様々な学生が参加しています。既習者の多くから「異なる分野を専門としている他学部生との交流から得られるものも大きく、何より楽しい」という声が聞かれました。前期は“発見と分析”に、後期は“提案と実践”に重点を置き、授業を進めていきます。そして、一年間を通じて地域の企業（商店を含む）やNPO、まちづくり組織などの各セクターとコラボレーションを実施することにより、社会貢献、地域貢献および、課題解決のための実践的能力が身につく授業内容となっています。

具体的には、プロのコンサルタント、経営者によるレクチャー、Eラーニング教材による学習、学生によるワークショップ、グループディスカッション、プレゼンテーション、現場でのフィールドワーク等から構成されています。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「説明と質問」
第2回	レクチャー アイスブレイク	「コンサルティングの進め方」 「グループ編成・紹介」 「全員と話す」
第3回	フィールドワーク	「浅草を歩く」
第4回	ワークショップ	「第3回の課題発見シートを使って・・・」
第5回	レクチャー	「コンサルティングの実際（その理論と実践）」 ゲスト講師
第6回	レクチャー	「プロジェクトを進める上で気をつけること（発見・分析・実践）」
第7回	グループワーク	「クライアントとの初顔合わせ&台東サテライトオフィス訪問」
第8回	プレゼンテーション	「クライアントの紹介と今後の方針（仮ゴール設定）」
第9回	レクチャー	「コンサルタントになるためのスキル」 ゲスト講師
第10回	グループワーク	各チーム個別相談&グループワーク（クライアント訪問も可）
第11回	プレゼンテーション	「クライアントの課題を報告する（発見の報告）」

第 12 回	チーム個別相談&グループワーク 打ち合わせ	(クライアント訪問も可) 「前期成果報告会の役割分担と運営」
第 13 回	チーム個別相談&グループワーク	(クライアント訪問も可)
第 14 回	プレゼンテーション	「前期成果報告会 直前練習」 担当：学生各グループ
第 15 回	プレゼンテーション	「前期成果報告会」 場所：市ヶ谷キャンパス ポアソナードタワー 26 階 「スカイホール」
第 16 回	ガイダンス	「前期の復習と後期の説明」 グループ間ディスカッション「前期活動を振り返って&事中評価」
第 17 回	プレゼンテーション	「夏休みの活動報告と後期の活動予定(解決策の見通し)」
第 18 回	レクチャー	「パワーポイントの効果的な活用方法」 ゲスト講師
第 19 回	チーム個別相談&グループワーク	グループワークとディスカッション
第 20 回	レクチャー	レクチャー「戦略立案演習『ビジネス戦略と SWOT 分析』①」 ゲスト講師
第 21 回	ワークショップ	ワークショップ「戦略立案演習『ビジネス戦略と SWOT 分析』②」 ゲスト講師
第 22 回	グループワーク&ディスカッション	チーム個別相談、グループワーク、グループ間ディスカッション
第 23 回	プレゼンテーション	「中間成果報告」
第 24 回	チーム中間診断	チーム個別面談&グループワーク
第 25 回	グループワーク&ディスカッション	チーム個別相談、グループワーク、グループ間ディスカッション
第 26 回	プレゼンテーション	「教室における最終成果報告」
第 27 回	個別相談&グループワーク	チーム個別相談&グループワーク (クライアント訪問も可)
第 28 回	個別相談&グループワーク	チーム個別相談&グループワーク (クライアント訪問も可)
第 29 回	プレゼンテーション 打ち合わせ	「最終成果報告会 事前練習」(スカイホール) 「最終成果報告会の役割分担と運営」
第 30 回	プレゼンテーション	「最終成果報告会」&事後評価 (スカイホール)

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業内で指示。

#### 【テキスト】

とくにありません。

#### 【参考書】

履修者は、法政大学地域研究センターが提供している E ラーニング教材（課題発見・解決教育、クリティカルシンキング、マーケティング、コンサルティング手法等）を利用できます。授業と並行して、これらのコンテンツを自習することにより、予備知識の無い学生でも基礎的な知識、スキルを身につけることができます。

#### 【成績評価基準】

詳細は、開講時に説明しますが、出席 50%、フィールドワーク 25%、プレゼンテーション 25% とし、総合的に評価します。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

予備知識は特に必要ありませんが、熱心に取り組む意欲のある（=多くの時間を割く覚悟のある）学生の受講を希望します。とりわけフィールドワークに対する積極的参加が不可欠です。

昨年度の受講生の言葉やこれまでの実績など、詳細は、以下のホームページを参照してください。

<http://www.hosei-hurin.net/tri/kadai/index.html>

定員は 50 名程度。初回の授業には必ず出席してください。事前にガイダンスを行うこともあります。定員を超えた場合には、選抜することもあります。※この科目は「社会貢献・課題解決教育」という名称の学部横断科目で、様々な学部の学生が受講します。人間環境学部生は、「研究会 B」として登録することができます。2 時限連続の通年科目ですが、修得できる単位数は 4 単位です。

## 情報処理基礎

### 小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

この授業は、パソコンを利用し、使いこなしていくために必要なスキルの取得を目標とする。初心者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

基本操作の他、インターネットの活用、文書作成、表計算、統計データの活用、プレゼンテーション資料作成といったレポート作成に必要な技術について演習を行う。なお、授業は電算室を使用する。

2~3 回の講義と演習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習環境の解説/スキルの確認/情報系の資格について/コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第 2 回	ネットワークの活用	学内のネットワーク・インターネットの活用/電子メールの活用
第 3 回	情報検索と活用 1	インターネットを利用した情報の検索と活用
第 4 回	情報検索と活用 2	インターネットを利用した情報の検索と活用
第 5 回	ワードプロセッサによる文書作成 (1)	word を利用した文書作成の基礎
第 6 回	ワードプロセッサによる文書作成 (2)	word を利用した文書作成の基礎
第 7 回	ワードプロセッサによる文書作成 (3)	word を利用した文書作成の応用
第 8 回	ワードプロセッサによる文書作成 (4)	word を利用した文書作成の応用
第 9 回	表計算ソフトによる表作成 (1)	excel を利用した表計算処理の基礎
第 10 回	表計算ソフトによる表作成 (2)	excel を利用した表計算処理の基礎
第 11 回	表計算ソフトによる表作成 (3)	excel を利用した表計算処理の基礎
第 12 回	表計算ソフトによる表作成 (4)	excel を利用した表計算処理の応用
第 13 回	表計算ソフトによる表作成 (5)	excel を利用した表計算処理の応用
第 14 回	プレゼンテーションソフトによる資料作成 (1)	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎
第 15 回	プレゼンテーションソフトによる資料作成 (2)	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

実習の内容が確実に身につくように必要に応じて復習・練習を繰り返すこと。

#### 【テキスト】

資料プリントを配布。

#### 【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

#### 【成績評価基準】

出席の状況と授業内で作成する 3~4 つのレポートにより成績評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上に行う。データを持ち替えり、自宅で作業を行いたい場合には USB メモリ等を用意するとよいだろう (任意)。初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと (1 年生はガイダンス時に配布されたプリント、2 年生以上は不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと)。

## 簿記入門Ⅰ・Ⅱ

井出 健二郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

入門Ⅰ

初めて「簿記」を勉強する方に受講してもらいたいと思っています。いずれにせよ、簿記のボの字も知らない方が対象です。

(もちろん、再履修の方も歓迎です……)

講義の目的

①簿記とは、こういうものか、とわかってもらうこと。

②簿記のやり方をマスターしてもらうこと。

③簿記の検定試験、受けてみようかなあ、と思うくらいに、皆さんを後押しすること

入門Ⅱ

入門Ⅰの講義をすでに習得された方を対象に講義を進めていきます。

講義の目的

入門Ⅱを受講終了後、日本商工会議所簿記検定3級にチャレンジできるレベルのチカラをつけてもらえることを目的としていきます。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

入門Ⅰ

簿記は、決算書の作り方です。ただ、皆さんの将来にも関係しています。簿記に関する資格は日本商工会議所の主催する検定試験が定評あります。さらに、公認会計士や税理士など独立開業して活躍できるものもあれば、国税専門官など公務員として、あるいは米国会計士として海外で活躍することもできることとなります。簿記が何かを知り、みなさんを喚起できればと思っています。

入門Ⅱ

可能な限り平易な解説に努めながら、日本商工会議所簿記検定3級試験をクリアできるような内容まで取り扱っていきたくと思っています。

ということは、計画にあるような講義をすると同時に、問題等をできる限りといっていくということになります。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義にあたってのイントロダクション	講義の進め方等について説明します。
第2回	簿記とは何ですか	簿記とはなにかについて説明します。
第3回	簿記の手続 仕訳	簿記の第一段階仕訳を学習します。
第4回	簿記の手続 仕訳	簿記の第一段階仕訳を学習します。
第5回	簿記の手続 転記	仕訳の次の段階、転記について学習します。
第6回	簿記の手続 試算表	これまでやってきたことが正しいかどうかの試算表を学習しましょう。
第7回	簿記の手続 精算表	精算表について学習します。
第8回	簿記の手続 損益計算書・損益計算書	貸借対照表・損益計算書について学習します。
第9回	小テスト	これまでの学習について小テストを実施します。
第10回	簿記の手続 精算表	さらに、精算表について学習します。
第11回	個別の取引 現金	仕訳に立ち戻り、現金というテーマ別に学習します。
第12回	個別の取引 当座預金	当座預金というテーマについて学習します。
第13回	個別の取引 商品売買	商品売買について学習します。
第14回	個別の取引 掛取引	掛取引について学習します。
第15回	まとめ	これまでの講義のまとめをしましょう。
第16回	講義にあたってのガイダンス	入門Ⅰに関しての復習をしましょう。
第17回	個別の取引 商品売買	商品売買について学習します。
第18回	個別の取引 有価証券	有価証券にかかわるテーマについて学習します。
第19回	個別の取引 固定資産	固定資産に関する取引を学習します。
第20回	個別の取引 手形	手形にかかわる取引を学習します。

第21回	個別の取引 債権・債務の取引	これまでに学習していない資産・負債にかかわるテーマを学習します。
第22回	小テスト	これまでの個別の取引について小テストを実施します。
第23回	検定試験3級対策 決算整理事項	検定試験の第5問精算表について学習します。
第24回	検定試験対策 決算整理事項	決算整理事項について学習します。
第25回	検定試験対策 精算表の解き方	精算表の解き方について学習します。
第26回	検定試験対策 精算表の解き方	精算表の解き方について学習します。
第27回	小テスト	精算表について自らで解けるかどうか小テストします。
第28回	伝票について	検定試験でも出題される伝票について学習します。
第29回	検定試験対策 試算表について	検定試験でも出題される試算表の問題について、その解き方を学習します。
第30回	まとめ	これまでの講義のまとめをします。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前の学習は特にありません。

ただし、検定試験を受ける方については過去問題や講義以外でのトレーニングをお願いします。

## 【テキスト】

開講時に指示します

## 【参考書】

開講時・適宜指示します

## 【成績評価基準】

出席して聞いてほしいので、出席50%、試験40%(小テストを含む)、その他10%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

**研究会 (通年)**

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

**堀内 行蔵**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

2 年生での学習をさらに深め、持続可能な社会の実現のための企業経営について理解を深める。前期では、テキストを読み、環境経営についてじっくりと本格的に議論し学習する。後期では、これまで学習したサステナビリティの概念や環境経営の知識をもとに、グループごとにテーマを選定し調査研究を行う。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

前期は、テキストを使い、時間をかけて輪読する。毎回、全員がレジメを提出する。後期は、各グループが環境経営に関するテーマを設定し、調査研究を発表し、全員で議論する。後期末に、その成果をレポートにまとめ提出する。グループディスカッションを行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	スケジュールの決定	テキストの紹介と進め方を検討する。
第 2 回	テキスト輪読 (1)	テキスト (A) : 2 名が要約をレジメにして説明し、討論する。
第 3 回	同上 (2)	同上
第 4 回	同上 (3)	同上
第 5 回	同上 (4)	同上
第 6 回	同上 (5)	同上
第 7 回	同上 (6)	同上
第 8 回	同上 (7)	同上
第 9 回	同上 (8)	テキスト (B) : 2 名が要約をレジメにして説明し、討論する。
第 10 回	同上 (9)	同上
第 11 回	同上 (10)	同上
第 12 回	同上 (11)	同上
第 13 回	同上 (12)	同上
第 14 回	同上 (13)	同上
第 15 回	まとめ	前期の発表を踏まえ、フリー・ディスカッションを行い、理解を深める。
第 16 回	スケジュールの決定	5～6 グループに分かれ、調査研究を行う。各グループはテーマの打ち合わせを行い、進め方を検討する。
第 17 回	調査研究のテーマ発表 (1)	2～3 名が 1 グループになり、レジメを作成し、概要を発表する。2 グループが発表する。
第 18 回	同上 (2)	同上
第 19 回	同上 (3)	同上
第 20 回	同上 (4)	同上
第 21 回	同上 (5)	同上
第 22 回	調査研究の詳細発表 (1)	レポートを作成し、発表する。発表は 1 グループとする。
第 23 回	同上 (2)	同上
第 24 回	同上 (3)	同上
第 25 回	同上 (4)	同上
第 26 回	同上 (5)	同上
第 27 回	同上 (6)	同上
第 28 回	同上 (7)	同上
第 29 回	調査研究のまとめの討論 (1)	2～3 グループが最終レポートを提出し、議論する。
第 30 回	同上 (2)	同上

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

企業の HP を見て、環境対策を理解しておくこと。

生物多様性を学習すること。

**【テキスト】**

(A) 足立直樹『生物多様性経営』(日本経済新聞出版社)

(B) 堀内行蔵・向井常雄『実践環境経営論』(東洋経済新報社)

**【参考書】**

枝廣淳子・小田理一郎『企業のためのやさしくわかる生物多様性』(技術評論社)

**【成績評価基準】**

出席点と平常点 (発言、レジメ・レポート) で評価。

無断欠席は厳禁。

## 情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業は、パソコンを利用し、使いこなしていくために必要なスキルの取得を目標とする。初心者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

基本操作の他、インターネットの活用、文書作成、表計算、統計データの活用、プレゼンテーション資料作成といったレポート作成に必要な技術について演習を行う。なお、授業は電算室を使用する。2～3回の講義と演習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説／スキルの確認／情報系の資格について／コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第2回	ネットワークの活用	学内のネットワーク・インターネットの活用／電子メールの活用
第3回	情報検索と活用 1	インターネットを利用した情報の検索と活用
第4回	情報検索と活用 2	インターネットを利用した情報の検索と活用
第5回	ワードプロセッサによる文書作成 (1)	word を利用した文書作成の基礎
第6回	ワードプロセッサによる文書作成 (2)	word を利用した文書作成の基礎
第7回	ワードプロセッサによる文書作成 (3)	word を利用した文書作成の応用
第8回	ワードプロセッサによる文書作成 (4)	word を利用した文書作成の応用
第9回	表計算ソフトによる表作成 (1)	excel を利用した表計算処理の基礎
第10回	表計算ソフトによる表作成 (2)	excel を利用した表計算処理の基礎
第11回	表計算ソフトによる表作成 (3)	excel を利用した表計算処理の基礎
第12回	表計算ソフトによる表作成 (4)	excel を利用した表計算処理の応用
第13回	表計算ソフトによる表作成 (5)	excel を利用した表計算処理の応用
第14回	プレゼンテーションソフトによる資料作成 (1)	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎
第15回	プレゼンテーションソフトによる資料作成 (2)	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

実習の内容が確実に身につくように必要に応じて復習・練習を繰り返すこと。

### 【テキスト】

資料プリントを配布。

### 【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

### 【成績評価基準】

出席の状況と授業内で作成する3～4つのレポートにより成績評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上で行う。データを持ち替える、自宅で作業を行いたい場合にはUSBメモリ等を用意するとよいだろう（任意）。初回講義時にユーザID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1年生はガイダンス時に配布されたプリント、2年生以上は不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。

## 民法法 I

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

テーマ:市民間の法律問題

到達目標:市民間の取り引きやトラブル等を解決するための法制度の理解

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。たとえば、お金を貸した返って来ない、貸した本を返してもらえない、買った物に傷があった、アルバイト代の遅配、等のトラブルがある。これは、普段なにげなく行っている取引から生じる問題である。また、自転車で人にぶつかって怪我をさせてしまった、ということもあろう。これは取引ではなく、市民間で生じたトラブルである。

このように、トラブルには様々なものがあり、法律問題となることも多い。このような法律問題をどのように解決されることになるのか、民法や民法関連法を用いて検討し、それを通じて法律的な考え方、法律の構造・全体を理解したい。

適宜、話題となっていることもテーマとして取り上げる。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考えていく。また、授業の終わりに、法律問題をどう考えたか、また質問を書いていただき、次回に応えることで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたい。

(2) 授業では、六法を用いる。六法の見方、調べ方、条文の探し方や読み方等も勉強する。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、関心の強いテーマを掘り下げたり、進捗をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

はじめに市民間のトラブルの例をあげ、それを通じて講義全体を示す。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	民法法上の問題と司法制度	民法法とは何か、一般的な法律上のトラブルにどのような法律がかかわってくるのか等を見る。
第2回	トラブルの解決基準となる法の体系	解決に向けて手続がどのようにとられるのか、裁判制度(民事)の全体像をみる。
第3回	裁判制度(刑事)	民事上の裁判制度をより理解するために、刑事法上の裁判制度を比較し概観し、裁判員制度も概観する。
第4回	人が民法上権利主体となる時期	民法上権利義務の主体となるのはいつか、人と法人および、出生問題をみる。
第5回	人の権利義務消滅時期	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる(死亡・認定死亡)
第6回	人の死亡と法律効果	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる(死亡・認定死亡)
第7回	人が行方不明の場合について	人が行方不明になったときの財産はどうなるか、不在者の財産管理等についてみる。
第8回	取引における条件と取引期間について	取引において生じる権利義務と時間との関係はどうなっているかをみる(条件・期間・時効)
第9回	取引の対象について	取引の対象は、物権と債権であり、各々の違い、物とは何か、物権・債権の種類を整理する。
第10回	取引上の権利の確保方法①	権利を確保するための方法として、物の価値を利用する場合がある。その内容がどのようなものかを扱う。
第11回	取引上の権利の確保方法②	権利を確保するための方法として、保証、相殺、債権譲渡等がある。それらの方法を概観する。
第12回	法律上の家族	法律上、家族とはどのように考えられているか、家族の成立、範囲等をみる(親子)

第 13 回	夫婦の問題	法律上、夫婦とはどのようにして成立するのか、各々どのような義務を負うのか等、夫婦に関する問題をみる。
第 14 回	死亡の際の 家族の財産の 行方	死亡した場合に、その財産がどのようなになるのか、相続問題を考える
第 15 回	まとめ	ここでは、全体のまとめをみる。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

#### 【テキスト】

レジュメを配布する。  
コンパクト六法

#### 【参考書】

開講時説明する。

#### 【成績評価基準】

ミニテスト、法律問題について書いていただいたことと（平常点 30 点）、最後に行なわれる試験（70 点）で、総合評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 情報処理基礎

### 本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第 1 に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第 2 に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第 3 に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の 3 点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows 環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第 2 回	第 1 回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第 3 回	第 1 回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第 4 回	基本的なコンピュータ操作（1）	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第 5 回	第 4 回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第 6 回	第 4 回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第 7 回	基本的なコンピュータ操作（2）	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第 8 回	第 7 回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第 9 回	第 7 回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第 10 回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第 11 回	第 10 回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第 12 回	第 10 回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第 13 回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第 14 回	第 13 回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第 15 回	第 13 回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学習しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

#### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

#### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

#### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】



## 研究会 (通年)

## 田中 勉

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）研究」  
このゼミは 2006 年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。  
千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、実践することを目的としています。  
これまで5年間の研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。平行して、「個人の環境配慮行動」に関わる要因について文献を読み、理解を深める。  
このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などをおして「CES・千代田エコシステム」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。なお、このゼミの運営はゼミ生の計画に基づきゼミ生自身がおこなうのが特徴である。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	メンバー確認、CESについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。
第 2 回	ゼミの経過（報告書）講義	環境マネジメントシステムとは何か、CESの特色について、説明と質疑。
第 3 回	千代田区の特性①	2010 年度活動報告書について前年度メンバーから説明。
第 4 回	千代田区の特性②	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第 5 回	区役所担当者による講義	全集の説明を受けて、質疑応答を行う。区の環境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第 6 回	CES推進協議会事務局への聞き取り	CES推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第 7 回	プログラムミーティング①	2011 年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第 8 回	プログラムミーティング②	2011 年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第 9 回	プログラムミーティング③	プログラムを決定。
第 10 回	プログラムミーティング④	実施グループメンバーへの割り振り。各プログラムグループごとの討議。
第 11 回	プログラムミーティング⑤	各プログラムグループごとの討議。
第 12 回	文献発表①	個人の環境配慮行動に関する文献の配布と分担。
第 13 回	文献発表②	グループ別の文献に関する討議。
第 14 回	文献発表③	グループ討議の結果報告。
第 15 回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および9月以降のスケジュールについて確認。
第 16 回	夏期休暇中活動の報告、後期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第 17 回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第 18 回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第 19 回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第 20 回	プログラムミーティング⑧	各プログラムグループごとの討議。
第 21 回	プログラムミーティング⑨	各プログラムグループごとの討議。

第 22 回	プログラムミーティング⑩	各プログラムグループごとの討議。
第 23 回	年度活動報告書作成会議①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第 24 回	プログラムミーティング⑪	各プログラムグループごとの討議。
第 25 回	プログラムミーティング⑫	各プログラムグループごとの討議。
第 26 回	プログラムミーティング⑬	各プログラムグループごとの討議。
第 27 回	プログラムミーティング⑭	各プログラムグループごとの討議。
第 28 回	年度活動報告書作成作業①	報告書原稿の進捗報告。
第 29 回	年度活動報告書作成作業②	編集作業。
第 30 回	活動のふり返りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学やまちあるきなどを実施する。  
ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

## 【テキスト】

千代田区統計・千代田区の歴史  
広瀬幸雄編「環境行動の社会心理学」北大路書房

## 【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版  
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣

## 【成績評価基準】

出席および活動参加、役割関与など総合的に評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

このゼミは5・6限目の2時限連続で行います。

## 研究会 (通年)

## 川端 直志

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「持続可能なまちづくり」、中でも「都市の余剰価値論」（都市の個性や市民のライフスタイルが都市の活力の源泉となり、それを活かしたまちづくり戦略論）を主要なテーマとします。授業のテーマは共同研究（全体、グループ（共同）研究、講義の3者です。2010 年度共同研究（全体）は「東京都心の銭湯研究」でした。グループ研究は「環境共生住宅」「商店街とまちづくり」「自転車を活かしたまちづくり」「住民自主的活動とまちづくり」「観光とまちづくり」「地域の個性」「都市ブランド戦略」など（2006 年度～2010 年度）があります。本ゼミの特徴は現場主義（個人としての感性をまちづくりや企業経営の現場に学び磨くこと）とグループでプロジェクトを仕上げる共同研究です。知識を詰め込むことではなく「現場に出て体験する中から問題意識を明らかにする」「自分の頭で考える力を養う」ことに重点を置きます。都市や地域の重層的な認識と実践的な手法を研究することを重視します。まちづくりや都市・地域政策の考え方と都市・地域開発の実践についての基礎的な考え方を理解し、プランナーやリサーチャーになるための素養を高めることを目標とします。そのため講義もまちづくりの現場を訪れたり、プロジェクトを担当している企業や行政の方々に大学に来ていただき生の話を聞くミニ・フィールド・スタディを多く取り入れます。まちづくりは偉大な雑学です。マチが大好きな人、人間に興味のある人、文化や活動を通じてまちづくりを追求したい人、企業の中で研究開発のプランナーになりたい人を対象とします。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

共同研究については、2010 年度のテーマは開講時に参加者一人一人の希望を基に4～5 テーマを決め、グループに分かれ、年間を通して共同で研究を行います。授業は「都市の余剰価値論」の講義とそれに関わるミニフィールドスタディ、ワークショップ、企業や市役所等の現場訪問、ワークショップ、討議を組み合わせて実施します。また英文原書購読のサブゼミを実施します（希望者のみ。今年は「米国の都市縮減のまちづくり」について実施）。また夏期にはゼミ合宿を行います（2010 年度は奄美大島合宿）

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、自己紹介	年間スケジュールの説明等オリエンテーション
第 2 回	昨年度の研究成果	昨年度グループ共同研究、全体研究の成果発表及び質疑応答
第 3 回	共同研究準備	ゼミ全体でテーマを定めて実施する共同研究（今年は「都市の中での社寺空間の現代的意義」の概要説明と討議
第 4 回	共同研究準備	現地踏査準備。資料分析ワークショップ
第 5 回	共同研究実施 1	現地踏査・ヒアリング（数人のグループ毎に分かれて調査実施）
第 6 回	共同研究実施 2	第 5 回に同じ
第 7 回	共同研究実施 3	収集資料のまとめと分析
第 8 回	ミニフィールドスタディ 1	現地調査（都市景観）
第 9 回	ミニフィールドスタディ 1	資料まとめと分析ワークショップ
第 10 回	共同研究実施 4	共同研究のまとめにむけての討議
第 11 回	「都市の余剰価値」WS 1	ミニフィールドスタディ 1 を踏まえた講義と討議
第 12 回	「都市の余剰価値」WS 2	第 11 回に同じ
第 13 回	共同研究報告	共同研究結果の発表（各自発表 10 分、質疑 5 分）
第 14 回	共同研究報告	第 13 回に同じ
第 15 回	グループ共同研究中間報告	グループ共同研究の中間報告と討議（各グループ発表 15 分、質疑 10 分）
第 16 回	ゼミ合宿研究ワーク ショップ	ゼミ合宿調査まとめ（ゼミ合宿調査の資料整理と分析）
第 17 回	ゼミ合宿研究ワーク ショップ	ゼミ合宿調査まとめ（第 16 回に同じ）
第 18 回	ミニフィールドスタディ 2	現地調査（都市公園）
第 19 回	ミニフィールドスタディ 2	資料まとめと分析

第 20 回	「都市の余剰価値」WS 3	ミニフィールドスタディ 2 を踏まえた講義と討議
第 21 回	「都市の余剰価値」WS 4	第 20 回に同じ
第 22 回	ミニフィールドスタディ 3	現地調査（ウォーターフロント）
第 23 回	ミニフィールドスタディ 3	資料まとめと分析
第 24 回	「都市の余剰価値」WS 5	ミニフィールドスタディ 3 を踏まえた講義と討議
第 25 回	「都市の余剰価値」WS 6	第 24 回に同じ
第 26 回	ミニフィールドスタディ 4	現地調査（都市交通）
第 27 回	ミニフィールドスタディ 4	資料まとめと分析
第 28 回	「都市の余剰価値」WS 7	ミニフィールドスタディ 4 を踏まえた講義と討議
第 29 回	「都市の余剰価値」WS 8	第 28 回に同じ
第 30 回	グループ共同研究最終発表	各グループごとの発表及び質疑応答。講評。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

グループ共同研究に関する討論や調査作業は研究グループごとに行う。共同研究（全体）調査、レポート作成。フィールドスタディの取りまとめ、など。

## 【テキスト】

授業の中で適宜、プリントして配布します。

## 【参考書】

参考となる文献を適宜紹介します。

## 【成績評価基準】

ゼミ参加への積極性・主体性（幹事役、MFS での積極的な質問や意見表明など）、日常的な研究成果（レポート）、共同研究成果（共同論文）の 3 点による評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 人間環境特論（天然資源の科学）

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

水資源や、地下資源、遺伝資源など、さまざまな資源の性質や利用、リサイクル技術などについて学習します。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	資源の意味、枯渇性資源と再生可能資源
第 2 回	水（1）	水の循環、淡水資源
第 3 回	水（2）	ダム開発、国際河川
第 4 回	エネルギー（1）	さまざまなエネルギー、エネルギー保存則、エネルギー密度、化石燃料
第 5 回	エネルギー（2）	原子力エネルギー、核分裂と核融合
第 6 回	エネルギー（3）	新エネルギー
第 7 回	土壌	土壌の性質と役割
第 8 回	リンと窒素	リンと窒素の性質と役割、循環
第 9 回	森林と海洋	森林資源、水産資源
第 10 回	遺伝資源	種の多様性、遺伝子の多様性
第 11 回	金属	鉄、銅、アルミニウム、亜鉛などの性質と利用
第 12 回	半導体	ケイ素、ヒ素、ガリウムの性質と利用
第 13 回	希少元素	レアアース、レアメタルの性質と利用
第 14 回	世界の資源消費	人口増加、経済発展と資源消費
第 15 回	まとめ	今後の資源利用のあり方

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。

## 【テキスト】

特にありません。

## 【参考書】

講義中に指定します。

## 【成績評価基準】

期末試験のみで評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

2011年度からの新規開講科目です。

## 異文化の交流

永井 匠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

現在では世界的に大きなインパクトを与える存在であるとは言い難い遊牧民族であるが、中央ユーラシアに興亡した遊牧民族はかつては中国や西アジア、また東ヨーロッパに進出して国を建てたり、文化の交流にも顕著な役割を果たすなど、世界史を動かす原動力の一つであった。この授業ではそうした遊牧民族の代表ともいえるモンゴル民族の歴史、およびモンゴル民族と周辺諸民族との文化交流について講義する。受講生の皆さんにはこの講義を通して、遊牧民族が周辺諸民族との交流を通して世界史に果たした役割を理解してもらいたい。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

まずはモンゴル民族の伝統的な生業形態である遊牧について講義する。遊牧についての基礎的な知識がないと、モンゴル民族の歴史についての正しい把握が困難となるからである。続いてモンゴル民族の歴史をたどりながら、その周辺の諸民族、具体的にはシベリアの狩猟民族、中央アジア・西アジアのオアシスの民、中国、チベット等との交流の諸相について講義する。配布したプリント等を参考にしながら、講義形式で授業を進め、話したことの要点は板書する。殆どの受講生にとってはなじみの薄い分野についての講義と思われるので、できるだけ分かり易く丁寧な授業を心がけたいと考えている。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	モンゴル民族の分布およびモンゴル高原とその周辺	現在のモンゴル民族の分布、モンゴル高原の地理、周辺地域との地理的關係などについて概説する。
第 2 回	モンゴル高原における遊牧について（1）	モンゴル高原で行われている遊牧に関する事例のうち、特に遊牧する土地の特徴について学ぶ。
第 3 回	モンゴル高原における遊牧について（2）	モンゴル高原の遊牧民が飼育している家畜、及び去勢という技術とその意義について学ぶ。
第 4 回	モンゴル高原における遊牧について（3）	モンゴル高原の遊牧民の移動の特徴、食生活、遊牧における狩猟の意義などについて学ぶ。
第 5 回	モンゴル民族の起源および遊牧民と狩猟民との関係	史上にモンゴル民族が現れてからチンギス・カンによるモンゴル高原統一までのモンゴルの歴史と、モンゴル高原の遊牧民とシベリアの森林の狩猟民との関係について学ぶ。
第 6 回	モンゴル帝国の成立および遊牧民とオアシスの民との関係（1）	チンギス・カンがモンゴル高原を統一する過程と統一後に行った政策について学ぶ。
第 7 回	モンゴル帝国の成立および遊牧民とオアシスの民との関係（2）	チンギス・カンによる対外遠征、特に西アジア方面への遠征とチンギス・カン並びにその後継者の時代のモンゴルとオアシスの商業民との関係について学ぶ。
第 8 回	モンゴル帝国の成立および遊牧民とオアシスの民との関係（3）	中央ユーラシアの遊牧民とオアシスの商業民との関係をモンゴル帝国時代から歴史を遡って概観する。
第 9 回	元朝統治下でのモンゴルと中国の交流（1）	モンゴル帝国の拡大・発展とそれの中の元朝の成立過程について概観する。
第 10 回	元朝統治下でのモンゴルと中国の交流（2）	モンゴル高原と中国を一つの政權のもとに統一した元朝の統治システムに見られるモンゴルの要素と中国的要素について学ぶ。
第 11 回	元朝統治下でのモンゴルと中国の交流（3）	元朝統治下におけるモンゴルと中国あるいは他の地域をも含んだ文化交流について概観する。
第 12 回	元朝の中国支配放棄以降のモンゴルの歴史およびモンゴルと中国・チベットとの交流（1）	元朝が中国支配を放棄してモンゴル高原に撤退してから 15 世紀末までのモンゴルの歴史について特に中国との関係を中心に講義する。
第 13 回	元朝の中国支配放棄以降のモンゴルの歴史およびモンゴルと中国・チベットとの交流（2）	ダヤン・ハーンの東モンゴル統一（16 世紀初）とアルタン・ハーンの事績、特にそのチベット仏教のモンゴル導入（16 世紀後半）について述べる。

- 第 14 回 元朝の中国支配放棄以降のモンゴルの歴史およびモンゴルと中国・チベットとの交流 (3) アルタン・ハーンとチベット仏教との関係を中心に、歴史を遡ってモンゴルとチベットの関係について考える。
- 第 15 回 試験 授業で述べた内容に関する問題を出し、記述式で回答してもらう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特にないが、受講生にはなじみの薄い分野についての講義であると思うので、しっかり出席して欲しい。

## 【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

授業の中で紹介する。

## 【成績評価基準】

出席状況と試験の成績によって評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 民法法 I

## 花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4 年 / 2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ:市民間の法律問題

到達目標:市民間の取り引きやトラブル等を解決するための法制度の理解

## 【授業の到達目標】

【

## 【授業の概要と方法】

## 授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。たとえば、お金を貸した返って来ない、貸した本を返してもらえない、買った物に傷があった、アルバイト代の遅配、等のトラブルがある。これは、普段なにげなく行っている取引から生じる問題である。また、自転車で人にぶつかって怪我をさせてしまった、ということもあろう。これは取引ではなく、市民間で生じたトラブルである。

このように、トラブルには様々なものがあり、法律問題となることも多い。このような法律問題をどのように解決されることになるのか、民法や民法関連法を用いて検討し、それを通じて法律的な考え方、法律の構造・全体を理解したい。

適宜、話題となっていることもテーマとして取り上げる。

## 授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考えていく。また、授業の終わりに、法律問題をどう考えたか、また質問を書きいただき、次回に応えることで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたい。

(2) 授業では、六法を用いる。六法の見方、調べ方、条文の探し方や読み方等も勉強する。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、関心の強いテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

はじめに市民間のトラブルの例をあげ、それを通じて講義全体を示す。

【

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	民事法上の問題と司法制度	民事法とは何か、一般的な法律上のトラブルにどのような法律がかかわってくるのか等を見る。
第 2 回	トラブルの解決基準となる法の体系	解決に向けて手続がどのようにとられるのか、裁判制度(民事)の全体像をみる。
第 3 回	裁判制度(刑事)	民事上の裁判制度をより理解するために、刑事法上の裁判制度を比較し概観し、裁判員制度も概観する。
第 4 回	人が民法上権利主体となる時期	民法上権利義務の主体となるのはいつか、人と法人および、出生問題をみる
第 5 回	人の権利義務消滅時期	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる(死亡・認定死亡)
第 6 回	人の死亡と法律効果	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる(死亡・認定死亡)
第 7 回	人が行方不明の場合について	人が行方不明になったときの財産はどうなるか、不在者の財産管理等についてみる。
第 8 回	取引における条件と取引期間について	取引において生じる権利義務と時間との関係はどうなっているかをみる(条件・期間・時効)
第 9 回	取引の対象について	取引の対象は、物権と債権であり、各々の違い、物とは何か、物権・債権の種類を整理する。
第 10 回	取引上の権利の確保方法①	権利を確保するための方法として、物の価値を利用する場合がある。その内容がどのようなものかを扱う。
第 11 回	取引上の権利の確保方法②	権利を確保するための方法として、保証、相殺、債権譲渡等がある。それらの方法を概観する。
第 12 回	法律上の家族	法律上、家族とはどのように考えられているか、家族の成立、範囲等をみる(親子)

- 第 13 回 夫婦の問題 法律上、夫婦とはどのようにして成立するの、各々どのような義務を負うのか等、夫婦に関する問題をみる。
- 第 14 回 死亡の際の家族の財産の行方 死亡した場合に、その財産がどのようなのか、相続問題を考える
- 第 15 回 まとめ ここでは、全体のまとめをみる。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

**【テキスト】**

レジュメを配布する。  
コンパクト六法

**【参考書】**

開講時説明する。

**【成績評価基準】**

ミニテスト、法律問題について書いていただいたことと（平常点 30 点）、授業の最後に行なわれる試験（70 点）で、総合評価する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

## 自然環境政策論

秀田 智彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

人間の生存基盤である自然環境に対し、その構成要素の一つでもある自分自身は、人間社会の一員としてどう向き合っていくべきか、その基本的な考え方を身に付ける。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

環境省の行政官として長年に渡り日本全国の自然環境行政の現場に携わってきた講師が紹介する体験事例等を題材に、自然やそれを取り巻く社会に対してどう向き合っていけばよいのか共に考えていく。また、テーマに沿った自然環境や法制度等に関する解説を併せて行う。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体構成と進め方。最近の動向等。
第 2 回	自然環境政策概論	自然環境関連法制度体系等
第 3 回	自然公園政策①	自然公園の意義と制度
第 4 回	自然公園政策②	生態系の保全と公園の利用（湿原植生）
第 5 回	自然公園政策③	生態系の保全と公園の利用（高山植生）
第 6 回	自然公園政策④	二次的自然環境の保全と地域
第 7 回	自然公園政策⑤	風景の保護と利用
第 8 回	自然公園政策⑥	自然公園と地域振興
第 9 回	野生生物政策①	野生生物保護管理の意義と制度
第 10 回	野生生物政策②	生物多様性保全
第 11 回	野生生物政策③	絶滅危惧種の保護管理と地域
第 12 回	野生生物政策④	野生生物と人間の軋轢
第 13 回	自然環境保全分野の国際協力	インドネシアにおける生物多様性保全分野の協力
第 14 回	生物多様性保全政策	生物多様性を巡る最近の動向
第 15 回	自然保護の仕事	自然保護の仕事とは何か？

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

授業の中で必要に応じて紹介する。

**【テキスト】**

特に使用する予定はない。

**【参考書】**

授業の中で必要に応じて紹介する。

**【成績評価基準】**

授業中に随時作成・提出を求める小レポートの内容：100%自らの考えを、どの程度授業内容を踏まえて記しているか、で評価。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

## 情報処理基礎

本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第1に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第2に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第3に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の3点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第2回	第1回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第3回	第1回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第4回	基本的なコンピュータ操作（1）	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第5回	第4回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第6回	第4回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第7回	基本的なコンピュータ操作（2）	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第8回	第7回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第9回	第7回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第10回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第11回	第10回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第12回	第10回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第13回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第14回	第13回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第15回	第13回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学習しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

### 田中 勉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

「千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）研究」  
このゼミは 2006 年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。  
千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、実践することを目的としています。  
これまで5年間の研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。平行して、「個人の環境配慮行動」に関わる要因について文献を読み、理解を深める。  
このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などとおして「CES・千代田エコシステム」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。なお、このゼミの運営はゼミ生の計画に基づきゼミ生自身がおこなうのが特徴である。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メンバー確認、CESについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。
第2回	ゼミの経過（報告書）講義	環境マネジメントシステムとは何か、CESの特色について、説明と質疑。
第3回	千代田区の特性①	2010年度活動報告書について前年度メンバーから説明。
第4回	千代田区の特性②	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第5回	区役所担当者による講義	全集の説明を受けて、質疑応答を行う。区の環境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第6回	CES推進協議会事務局への聞き取り	CES推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第7回	プログラムミーティング①	2011年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第8回	プログラムミーティング②	2011年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第9回	プログラムミーティング③	プログラムを決定。
第10回	プログラムミーティング④	実施グループメンバーへの割り振り。各プログラムグループごとの討議。
第11回	プログラムミーティング⑤	各プログラムグループごとの討議。
第12回	文献発表①	個人の環境配慮行動に関する文献の配布と分担。
第13回	文献発表②	グループ別の文献に関する討議。
第14回	文献発表③	グループ討議の結果報告。
第15回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および9月以降のスケジュールについて確認。
第16回	夏期休暇中活動の報告、後期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第17回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第18回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第19回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第20回	プログラムミーティング⑧	各プログラムグループごとの討議。
第21回	プログラムミーティング⑨	各プログラムグループごとの討議。

第22回	プログラムミーティング⑩	各プログラムグループごとの討議。
第23回	年度活動報告書作成会議①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第24回	プログラムミーティング⑪	各プログラムグループごとの討議。
第25回	プログラムミーティング⑫	各プログラムグループごとの討議。
第26回	プログラムミーティング⑬	各プログラムグループごとの討議。
第27回	プログラムミーティング⑭	各プログラムグループごとの討議。
第28回	年度活動報告書作成作業①	報告書原稿の進捗報告。
第29回	年度活動報告書作成作業②	編集作業。
第30回	活動のふり返りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学やまちあるきなどを実施する。  
ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

#### 【テキスト】

千代田区統計・千代田区の歴史  
広瀬幸雄編「環境行動の社会心理学」北大路書房

#### 【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版  
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣  
篠木幹子「環境問題へのアプローチ」多賀出版

#### 【成績評価基準】

出席および活動参加、役割関与など総合的に評価。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

このゼミは5・6限目の2時限連続で行います。

## NPO・ボランティア論

川崎 あや

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

NPO（民間非営利組織）によって、これまで主に政府が担うものだと考えられていた「公益」や「公共」を、市民の自発的な組織が担うようになりつつあります。市民は、ボランティアなどを通してNPOに参加することで、公共創出の担い手となります。この授業では、NPOの実態や課題を理解し、市民と社会の関わりや、NPOを通じた市民の自治を考えます。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

各回ごとに、テーマにそった講義を行います。NPOの事例紹介では、映像で各分野のNPOの活動を紹介します。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、進め方、受講者の関心調査
第2回	NPOとは何か	「NPO」の意味と意義、ボランティア・市民活動との関係、NPOとNGO
第3回	市民社会とNPO	日本における市民社会の歴史、NPO・市民活動の変遷
第4回	NPOの事例紹介（3）	福祉や子育て分野のNPOの活動を、DVDやホームページで紹介。
第5回	NPOの事例紹介（2）	環境や国際協力分野のNPOの活動を、DVDやホームページで紹介。
第6回	NPOの事例紹介（3）	困難を抱える人々に対するNPOの支援活動を紹介します。
第7回	NPO法人制度	NPO法の制定過程、他の法人制度との比較、NPO法人の要件と設立手順
第8回	NPOの組織運営	NPOの組織特性、組織の構成要素、企業等との違い
第9回	NPOの財政	NPOの財政規模、財源の多様性と特性
第10回	NPOとボランティア	NPOにおけるボランティアの役割、ボランティアとして参加することの意義
第11回	働く場としてのNPO	雇用・就労の場としての可能性と課題、NPOの職域、NPOで働くことの意義と課題
第12回	社会変革の担い手としてのNPO	ニーズの社会化とNPOの役割、実践型政策提案と運動型政策提案
第13回	NPOと自治体	自治体のNPO支援施策、行政とNPOの協働
第14回	補足とまとめ	授業の振り返りや補足
第15回	定期試験	論述を中心とした試験を実施。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に、テキストの関連する部分を読んでおくこと。  
授業後は、授業で説明したNPOの事例や法制度について、各自調べるなど補足学習を行うことが望ましい。

### 【テキスト】

知っておきたいNPOのこと（増補版） 日本NPOセンター発行 500円

### 【参考書】

特に指定しない

### 【成績評価基準】

論述中心の定期試験を実施。論述では、①授業内容を的確に理解しているか、②自分自身の意見や問題意識が述べられているか、③考えを整理してわかりやすく論じられているか、を重視して評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオ、PCプロジェクター（パワーポイント、インターネット接続）

## 環境教育論

太田 絵里

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

環境問題の解決には、環境教育が欠かせない。本講義では、持続可能な社会構築のための環境教育の役割について、環境教育の歴史、目的、政策としての位置づけ、事例を日本、海外のケースを用い理解する。環境教育に関するさまざまな視点を学ぶことで、持続可能な社会構築に向けた、今後の環境教育のあり方を考える。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標およびテーマ」に記載

[]

[]

### 【授業計画】

後期 回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：持続可能な社会のための環境教育とは	「環境教育」から受ける印象を共有すると共に、環境教育の概念の紹介する。
第2回	環境教育の分類	環境教育の源流、公害教育、自然教育等、環境教育の分類を紹介する。
第3回	環境教育の歴史と発展	日本国内の環境教育の発展を国際的な環境教育の潮流と共に学ぶ
第4回	環境教育の目的と意義	国際的に認知されている環境教育の目的と意義を紹介し、持続可能な社会を構築するための環境教育の役割を考える。
第5回	政策としての環境教育	環境基本法の中での環境教育の扱われ方、環境政策の手法の中での環境教育の位置付け等、環境政策としての環境教育を学ぶ。
第6回	環境教育政策の事例	環境教育が環境政策の中で効果的に位置づけられ、持続可能な社会システムを実現した事例を紹介する。
第7回	環境意識と環境配慮行動	個人の意識が行動に移る過程を環境配慮行動から学び、環境教育の役割と限界を理解する。
第8回	環境教育と市民参加	持続可能な社会システムを実現するための市民社会の役割を、市民の社会参加の方法から学び、高い環境意識が政策に反映される方法を理解する。
第9回	環境教育の事例（学校教育）	学校教育の中での環境教育の事例を学習指導要領等を用いて紹介する。
第10回	環境教育の事例（学校外教育）	学校外教育としての環境教育の事例を紹介する。
第11回	海外の環境教育の事例（途上国）	途上国の環境教育の事例から、生活と密接に関わる教育の役割を理解する。
第12回	海外の環境教育の事例（先進国）	先進国の環境教育の事例から、行動変容を可能とする条件等を学ぶ。
第13回	国内の環境教育の事例	国内の環境教育の事例を学ぶ。
第14回	世界の環境教育法	アメリカ、ブラジル、韓国、日本の環境教育法の内容を比較し、環境教育の推進に必要な要素を理解する。
第15回	まとめ：持続可能な社会のための環境教育に向けて	持続可能な社会を構築するための環境教育の役割を考える。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

なるべく自主的に環境教育の活動に参加するなど、環境教育を体験してみて下さい。

### 【テキスト】

講義ごとに配布する。

### 【参考書】

講義ごとに紹介する。

### 【成績評価基準】

出席状況・態度 20%、講義ノート 20%、課題レポート 30%、テスト 30%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】



## 【その他】

環境教育は、非常に広義な概念で、その捉え方は人により様々ですが、持続可能な社会を構築する上では、不可欠なプロセスです。学んだことを自分のものにするために、講義の参加だけでなく、積極的に考え、調べ、自分の意見を持つよう心掛けましょう。

## 研究会 (通年)

田中 勉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「現代社会の諸問題への社会学的アプローチ」

環境問題に限定しないさまざまな今日の社会の諸課題について「社会学的に考えるにはどうするか」を学びます。参加者各自に関心のあるテーマを挙げてもらい、その問題を考えるための枠組みを社会学および社会心理学の分野における研究から学びます。参加者個人が自分のテーマについてのレポートを作成し、ゼミ発表を行うことを目的とします。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

はじめに文献を読み、社会学的な思考法、分析のための概念枠組み、基礎概念などについて学ぶ。次いで各自の研究構想を報告し、参考文献・資料の検索と課題文献を決め、夏期レポートの作成をおこなう。レポートに基づき報告、コメント・質疑などをふまえて最終レポートを作成する。

(以下の計画は、参加人数によって変更することがあります)

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	参加者確定、ガイダンス、文献配布	参加メンバーの確認。ゼミの進め方、ゼミルールの説明。文献を配布し、発表分担を決める。レジュメ作成に関する指示をする。
第 2 回	文献発表①	担当者による文献発表と討論を行う
第 3 回	文献発表②	担当者による文献発表と討論を行う
第 4 回	文献発表③	担当者による文献発表と討論を行う
第 5 回	文献発表④	担当者による文献発表と討論を行う
第 6 回	文献発表⑤	担当者による文献発表と討論を行う
第 7 回	文献発表⑥	担当者による文献発表と討論を行う
第 8 回	文献発表⑦	担当者による文献発表と討論を行う。個人研究テーマ記入用紙を配布する。
第 9 回	文献発表⑧	担当者による文献発表と討論を行う
第 10 回	文献発表⑨	担当者による文献発表と討論を行う。個人研究テーマ記入用紙の提出締め切り。
第 11 回	個人研究構想発表①	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第 12 回	個人研究構想発表②	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第 13 回	個人研究構想発表③	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第 14 回	個人研究構想発表④	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。夏期レポート作成要領の配布と説明。
第 15 回	個人研究構想発表⑤	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。前期試験期間中に個別に休暇中の課題文献を指示する。
第 16 回	個人研究・文献発表①	個人別の課題文献の発表と討論。
第 17 回	個人研究・文献発表②	個人別の課題文献の発表と討論。
第 18 回	個人研究・文献発表③	個人別の課題文献の発表と討論。夏期レポート返却。
第 19 回	個人研究・文献発表④	個人別の課題文献の発表と討論。夏期レポート返却。
第 20 回	個人研究・文献発表⑤	個人別の課題文献の発表と討論。夏期レポート返却。
第 21 回	個人研究・テーマ発表①	個人別の研究テーマに関する発表。
第 22 回	個人研究・テーマ発表②	個人別の研究テーマに関する発表と討論。
第 23 回	個人研究・テーマ発表③	個人別の研究テーマに関する発表と討論。
第 24 回	個人研究・テーマ発表④	個人別の研究テーマに関する発表と討論。
第 25 回	個人研究・テーマ発表⑤	個人別の研究テーマに関する発表と討論。
第 26 回	個人研究・テーマ発表⑥	個人別の研究テーマに関する発表と討論。
第 27 回	個人研究・テーマ発表⑦	個人別の研究テーマに関する発表と討論。年度レポート作成要領を配布し説明する。

- 第 28 回 個人研究・テーマ発表⑧ 個人別の研究テーマに関する発表と討論。  
 第 29 回 個人研究・テーマ発表⑨ 個人別の研究テーマに関する発表と討論。  
 第 30 回 まとめ 年度レポート提出締め切り。次年度履修予定者への指示を行う。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

個人研究のテーマ選定、文献・資料検索を行う。  
 社会調査（インタビュー・調査票調査）を行う場合は個別に指導する。

#### 【テキスト】

亀田・村田「複雑さに挑む社会心理学」有斐閣  
 鳥越皓之編「コモンズの社会学」新曜社

#### 【参考書】

大野 晃「山・川・海の環境社会学」文理閣  
 奥井智之「社会学」東京大学出版社  
 三俣・森元・室田編「コモンズ研究のフロンティア」東大出版会

#### 【成績評価基準】

出席をもっとも重視する。  
 発表、ディスカッションへの参加度、など総合評価で行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 行政学

廣瀬 克哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位  
 開講セメスター：前期集中 | 曜日・時限：火・1, 金・3  
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

現代社会における民主主義の原理にもとづく政治と、機能的な合理主義のための行政との関係について、政治学的に考察できる視座を身につけること。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

行政学は、19 世紀末のアメリカにおいて、現代政府の行政体制を整えるという課題に対応して誕生した学問である。その内容は、統治の制度、行政組織、行政の活動の三つの分野にまたがり、行政法学や経営組織論、政治過程論などの隣接領域の研究成果を取り入れながら展開されてきた。本講義では、上の3つの領域の全体にまたがって行政学の基礎的な内容をバランスよく紹介していきたい。それとともに、行政改革の必要が強調され、新しい行政管理手法の導入が広がっている 1980 年代以降の行政の動向をどうとらえるかについて、とくに現代日本の行政を念頭におきながら、随時考察を加えていきたい。また、2009 年の民主党政権成立以降の政治と行政（国会議員と官僚）の関係の変化についても行政学の観点から考察する。

行政学は政治学を学ぶ際の基礎的な科目であるため、1～2 年生が積極的に受講することが望ましい。とくに地方自治や公共政策関係に学習の軸を置きたい場合や、国際政治学関係についても政策的な関心を中心に学習したい場合には、低学年での受講を勧める。

授業で使うプレゼンテーション・スライドや配付資料などについては、授業支援システムでの配布を行う。授業に関する諸連絡とレポートの提出も授業支援システムを活用する。

【】

【】

#### 【授業計画】

##### 前期集中

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業のねらいと構成、授業の進め方などについて説明する。
第 2 回	行政学の誕生	ウッドロー・ウィルソンの記念碑的論文「行政の研究」を通して行政学の誕生を検討する。
第 3 回	現代国家の機能拡大	「小さな政府」の時代から、どのように政府の機能は拡大してきたのか。
第 4 回	行政国家	「大きな政府」をどうとらえるか。ドワイト・ワルドーの古典「行政国家」を検討する。
第 5 回	政治と行政の概念	初期行政学の政治行政分離論と戦後行政学の政治行政融合論を比較検証する。
第 6 回	政府体系と行政	権力分立制と議院内閣制のもとで、政治行政関係はどのように異なるのか。
第 7 回	行政と執政	行政府全体の活動としての行政と、政権中枢の活動としての執政の概念を検討する。
第 8 回	中央地方関係と行政	国の政府と地方政府の関係について、国際比較をまじえ、分権改革のもつ意義について考える。
第 9 回	近代公務員制度	かつての宮廷官僚制が、近代公務員制に転換してきた過程を通して、現代の公務員について考える。
第 10 回	管理学としての行政学	大規模組織の合理的な管理運営手法の追求として展開した 20 世紀前半の行政学の成果を検討する。
第 11 回	官僚制論の系譜	官僚制ということばはどのように誕生し、何を現してきたのか。初期の官僚制論からマックスウェーバーの立論までを紹介する。
第 12 回	官僚制論の二面性	現代社会における大規模組織の合理的な運営のための必然的な現象としての官僚制化を考える。
第 13 回	組織論としての官僚制論	現代の大規模組織のミクロな分析を通して展開されてきた、実証的な官僚制研究の成果を検討する。
第 14 回	第一線職員論	「路上の官僚」研究が示した、単独で対象者に接する行政職員の行動様式と管理上の課題を検討する。

発行日：2021/6/1

第 15 回	組織内不服従と合理的選択論	本来合理的に目的達成できるように構成されている組織が、なぜ機能しないことがあるのか
第 16 回	合理的選択論の功罪	近年の政治学の重要な方法論となっている合理的選択論の功罪を、政治行政関係と、官僚制の逆機能の文脈の下で検討する。
第 17 回	日本の官僚制 1	日本の官僚制の特徴を歴史的な文脈の下で検討する。
第 18 回	日本の官僚制 2	日本官僚制のボトムアップとセクショナリズム
第 19 回	予算と財政 1	予算決算のシステム全体をどうとらえるべきか。
第 20 回	予算と財政 2	現代日本の政策形成と予算編成について
第 21 回	予算と財政 3	特別会計と財政投融资
第 22 回	日本の財政状況	現代日本の財政状況の問題を考える
第 23 回	行政改革の論点	1980 年代以降広がった新しい公共管理について考える
第 24 回	日本の行政改革	政官関係の改革と新しい公共管理が並行する構図を検討する
第 25 回	民営化・法人化と政府の役割	経営の自由と事後評価をセットにする行政改革手法は何を生み出したのか
第 26 回	認証制度による組織統制	ISO などによる認証評価による組織統制の意義と限界について考える
第 27 回	行政責任	行政の裁量と行政の責任について考える
第 28 回	合理性と民主制	行政に期待される政策の合理性の達成と、民主的な統制との両立をどのように実現できるかを考える。
第 29 回	現代日本政治の課題としての政官関係	現代日本が必要とする政官関係のあるべき姿を考える
第 30 回	予備日	予備日

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回テーマについてのテキスト、参考書等での予習と、現実政治における政治と行政の関係に関する事象を、講義で取りあげた観点から検討すること。学期中に出席するレポートは、そのような時事的なテーマから出題する。

#### 【テキスト】

西尾勝『行政学』（有斐閣）

#### 【参考書】

新藤宗幸『講義 現代日本の行政』（東京大学出版会）

#### 【成績評価基準】

主として期末試験の成績によって判定するが、レポートの内容を 3 割程度、授業時に配布するコメントカードでのフィードバックによる授業への貢献を 1 割程度加味する。現代民主主義国家における政治と行政の関係についてのさまざまな論点を把握し、その問題の基本構造を整理して論じることができているかどうかに着目し、その達成度に応じて判定する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターを使用する。

## マクロ経済学 I

田中 茉莉子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

インフレ・デフレ・GDP 等、経済関連記事に登場するマクロ経済学のキーワードを理解し、マクロ経済分析の背景にある理論的枠組みのエッセンスを修得すること。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

経済学を初めて学習する人を対象に、図解を用いた下記テキストに沿って、マクロ経済学の基礎的な概念を解説します。マクロ経済学 I では、財政政策の諸問題に関しても説明します。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済学とは何だろうか（1）	分析対象、2つの考え方、家計・企業・政府の役割
第 2 回	マクロ経済学とは何だろうか（2）	GDP、三面等価、名目と実質
第 3 回	マクロ経済学とは何だろうか（3）	物価指数、インフレとデフレ、景気循環と経済成長
第 4 回	マクロ経済活動の主役は誰か（1）	家計の消費行動
第 5 回	マクロ経済活動の主役は誰か（2）	家計の労働供給、企業の投資行動
第 6 回	マクロ経済活動の主役は誰か（3）	政府の経済活動
第 7 回	マクロ経済活動の主役は誰か（4）	貨幣と金融、中央銀行、内需と外需
第 8 回	GDP の決定メカニズム（1）	4 5 度線分析（1）
第 9 回	GDP の決定メカニズム（2）	4 5 度線分析（2）
第 10 回	GDP の決定メカニズム（3）	IS-LM 分析（1）
第 11 回	GDP の決定メカニズム（4）	IS-LM 分析（2）
第 12 回	財政政策（1）	財政政策の役割、乗数効果
第 13 回	財政政策（2）	財政赤字
第 14 回	財政政策（3）	公共投資と経済成長
第 15 回	期末テスト	期末テストにより授業の理解を確認する。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業内容に関連した練習問題を紹介するので、復習の際に活用してください。

#### 【テキスト】

『図解雑学マクロ経済学』井堀利宏著、ナツメ社、2002 年

#### 【参考書】

必要に応じて講義中に指示します。

#### 【成績評価基準】

最終回に期末テストを実施します。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 地球科学史 I

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を、非科学的として否定的に取り扱うのではなく、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとしてとらえる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を詳述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観(1)	ミレトス学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観(2)	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観(1)	デカルトの『哲学原理』(1644)の地球論
第8回	科学革命期の地球観(2)	ステノの『プロドロムス』(1669)の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観(3)	ライプニッツの『プロトガイア』(1691)啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観(1)	ビュフォン：デカルトの地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観(2)	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の水成説
第12回	18世紀の地球観(3)	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球観の歴史

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の中で随時指示する

## 【テキスト】

使用しない

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する

## 【成績評価基準】

学期末の試験を主に、レポートと出席を加味して、総合的に評価する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会(通年)

石神 隆

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

「サステイナブルなまちづくり」を基本テーマとした、都市環境および地域形成に関する事例研究型のゼミナール。定めた個別テーマについて探求することにより、現実社会を深く理解、研究のおもしろさを体得し、また、様々な企画能力をも涵養する。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

都市環境および地域形成について、歴史、環境、生活、経済などの視点から、国内・海外の都市や地域を対象に、事例研究を行う。

ゼミ全体の基本的な年間テーマは、年度始めにいくつか提案し、皆で議論して決める。そのテーマのうち、グループあるいは個人のテーマおよび対象地域を個別に設定し、自主的に研究を進めていく。

ゼミでは、①基本文献の輪読と議論、②共通フィールドスタディ、③グループ研究、④個人研究を進める。グループ研究はサブゼミとして自主的に進め、中間成果を逐次、本ゼミで発表・議論し、最終的には印刷物として完成させる。4年生は卒業論文(別途単位)、2・3年生は、タムペーパーを作成し、年度末に発表し提出する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	各自の活動紹介ほか
第2回	全体のテーマ設定	基本方向設定のための議論
第3回	同上	テーマ別グループ分け
第4回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学ほか
第5回	文献購読と議論	主にグループごとの議論
第6回	同上	同上
第7回	同上	同上
第8回	構想発表会	各グループの研究構想発表
第9回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学ほか
第10回	文献購読と議論	主にグループごとの研究
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	第1回中間発表会	各グループの発表・討論
第15回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学ほか
第16回	研究作業と議論	主にグループごとの研究
第17回	同上、中間レポート作成	主にグループごとの研究
第18回	同上	同上
第19回	同上	同上
第20回	第2回中間発表会	各グループの発表・討論
第21回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学ほか
第22回	研究レポート作成	主にグループごとの研究
第23回	同上	同上
第24回	同上	同上
第25回	第3回中間発表会	各グループの発表・討論
第26回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学ほか
第27回	研究レポート作成	主にグループごとの研究
第28回	同上	同上
第29回	最終発表会	各グループの成果発表・討論
第30回	総括的ディスカッション	年間の研究会活動の振り返り

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各グループ毎に、自主的にサブゼミおよびテーマ研究の現地調査を実施する。また、文献や資料の購読・研究は、個人・グループベースで常時行っていく。なお、全体として、逐次、討論会、ミニフィールドスタディを実施する。また、休暇を利用して、合宿討論を兼ねた研究旅行(3～4日のフィールドスタディ)を実施する。

## 【テキスト】

年度テーマの設定によって、共通テキストを設定する。このほか、逐次、輪読のための共通資料を用意する。

## 【参考書】

個別の内容により、必要に応じて逐次紹介する。

## 【成績評価基準】

平常点(出席および準備、議論への参加状況)50%、成果物(グループ研究および個人研究)評価50%。

## 国際法 I

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法概念、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的关系、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第 15 回	期末試験	筆記試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

### 【テキスト】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

### 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

### 【成績評価基準】

期末試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

## 長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「職業生活をとらして労働環境を考える」をテーマに、目標を以下のように定めます。上記のテーマに沿った学習をとらして、情報収集の方法や勉強の仕方、成果の発表の仕方等を学びます。また、それらに伴うレジメの作成や最終的なレポート作成等一連の作業をとらして、私たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について問い直すこと、職場組織のあり方について学び、さらに物事を論理的に考え、推し進められるようになることを目標にします。そこに至る一里塚として、授業内における研究成果の発表と最終レポートの作成があります。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

私たちは、20 歳前後から 60 歳前後までの人生において、総時間のほぼ 3 分の 1 以上を仕事やそれに関連したことに費やします。その意味で、私たちの人生は労働環境によって大きく左右されることになります。この研究会では大学を卒業して就職し、定年に至るまでの職業生活上の一連の過程について社会的な視点から学習します。そのなかで就職や昇進、賃金、労働時間、労働組合、女性雇用、非正規雇用、成果主義等のトピックに焦点を当て、仕事とプライベートな生活との関係を見ながら、労働環境はどうあるべきかを考えていきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか等について学習する。
第 2 回	レジメ、レポートの書き方 1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第 3 回	レジメ、レポートの書き方 2	レジメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第 4 回	日本の雇用システム 1(終身雇用)	日本の雇用システムの 3 大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第 5 回	日本の雇用システム 2 (年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第 6 回	日本の雇用システム 3 (企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといわれてよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国のそれとのちがいをみていく。
第 7 回	日本の雇用システム 4 (成果主義的雇用管理)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。成果主義的な賃金や昇進について考える。
第 8 回	日本の雇用システム 5 (雇用とジェンダー)	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負っている。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第 9 回	日本の雇用システム 6 (非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型的な姿として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第 10 回	仕事と労働時間 1 (労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。
第 11 回	仕事と労働時間 2 (長時間労働とメンタル)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間が関係あるのか、あるとすればいかに関係しているのかについて考える。

第 12 回	大学生の就職 1 (日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 13 回	大学生の就職 2 (大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等をとらして確認する。
第 14 回	大学生の就職 3 (就職と学歴)	大学生の就職において学歴や学校歴が重要だとされている。それは本当なのか、そうだとすると、どのような意味においてそうなのかについて考える。
第 15 回	レポート提出とコメント	最初の注意事項にしたがってレポートが構成されているか、簡単にコメントをする。
第 16 回	前期学習の復習 1 (日本の雇用とは)	前期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第 17 回	前期学習の復習 2 (日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第 18 回	学生による研究発表 1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 19 回	学生による研究発表 2	上記に同じ
第 20 回	学生による研究発表 3	上記に同じ
第 21 回	学生による研究発表 4	上記に同じ
第 22 回	学生による研究発表 5	上記に同じ
第 23 回	学生による研究発表 6	上記に同じ
第 24 回	学生による研究発表 7	上記に同じ
第 25 回	学生による研究発表 8	上記に同じ
第 26 回	学生による研究発表 9	上記に同じ
第 27 回	学生による研究発表 10	上記に同じ
第 28 回	レポートの提出前チェックと指導	提出前にレポートの基本的な形式ができてきているか、作成途中のレポートをチェックする。
第 29 回	学生による研究発表 12	第 18 回に同じ
第 30 回	学生による研究発表 13	上記に同じ

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

前期は、毎回指定された文献資料を事前に読んでおくこと、後期は、発表予定者が事前に指示した資料を読んで、議論に参加できるよう準備しておくこと。

## 【テキスト】

前期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいきます。具体的には、随時授業で指示します。後期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とします。ただし、後期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

## 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会。

## 【成績評価基準】

成績評価は、1. 出席、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行います。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 地球科学史 I

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を、非科学的として否定的に取り扱うのではなく、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとしてとらえる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を詳述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観(1)	ミレトス学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観(2)	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観(1)	デカルトの『哲学原理』(1644)の地球論
第8回	科学革命期の地球観(2)	ステノの『プロドロマス』(1669)の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観(3)	ライプニッツの『プロトガイア』(1691)啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観(1)	ビュフォン：デカルトの地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観(2)	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の水成説
第12回	18世紀の地球観(3)	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球観の歴史

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の中で随時指示する

## 【テキスト】

使用しない

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する

## 【成績評価基準】

学期末の試験を主に、レポートと出席を加味して、総合的に評価する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 国際経済協力論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。この講義では、国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取組みを中心に、経済協力の歴史や仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力とは。	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第2回	国際社会と経済協力の歴史(1) (1945年～1960年代)：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第3回	国際社会と経済協力の歴史(2) (1970年～1980年代)：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第4回	国際社会と経済協力の歴史(3) (1990年代～現在)：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化における経済協力の位置づけを概観する。
第5回	日本の経済協力の歩み(1)：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第6回	日本の経済協力の歩み(2)：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950年代～1970年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第7回	日本の経済協力の歩み(3)：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて1980年代～2000年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第8回	経済協力の仕組みと方法(1)：無償資金協力と技術協力を中心に	日本の経済協力の仕組みと現状(特徴)につき、統計資料などをもとに理解する。特に無償資金協力と技術協力の概略と特徴を知る。
第9回	経済協力の仕組みと方法(2)：円借款(有償資金協力)を中心に	日本の経済協力の仕組みと現状(特徴)につき、統計資料などをもとに理解する。特に日本の経済協力の特色である、円借款(有償資金協力)の概略と特徴を知る。
第10回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府(「官」)ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第11回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ(1)：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様子を、具体的な戦略(アプローチ)の変遷を通じて理解する。
第12回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ(2)：持続可能な開発と環境	環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。

第 13 回	経済協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第 14 回	日本が経済協力を行う理由	日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。
第 15 回	まとめ	講義全般の復習を通じて、国際社会や日本の経済社会状況の変化と経済協力の関係をあらためて確認する。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

#### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

#### 【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）  
下村恭民他（2009 年）『国際協力（新版）』（有斐閣）  
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

#### 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 市民社会と政治

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、本講座では 1990 年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に扱います。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及び NPO・NGO（市民セクター）と政府セクターとの協働ないし緊張関係に焦点を当てながら、日本の伝統的な統治の姿を具体的に理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策過程への市民セクターの関与のあり方について、多面的な統治（ガバナンス）という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義で扱う言葉を概説
第 2 回	市民セクターの活動と政府 (1)	1990 年代後半からの動向
第 3 回	市民セクターの活動と政府 (2)	国内の動向
第 4 回	市民セクターの活動と政府 (3)	国際的な動向
第 5 回	戦後日本の市民セクターと政治 (1)	「運動」の変遷
第 6 回	戦後日本の市民セクターと政治 (2)	「市民参加」の系譜
第 7 回	市民セクターと自治体の意思決定 (1)	住民投票の動き
第 8 回	市民セクターと自治体の意思決定 (2)	地域における意思決定の課題
第 9 回	市民セクターと自治体の意思決定 (3)	国政との関係を考える
第 10 回	市民セクターの合意形成	市民参加の新たな取り組み
第 11 回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の試み
第 12 回	市民社会のガバナンスを考える (1)	事例検討
第 13 回	市民社会のガバナンスを考える (2)	事例検討
第 14 回	市民社会のガバナンスを考える (3)	事例検討
第 15 回	まとめ	全体の振り返り

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

#### 【テキスト】

特定の教科書は特に使用しません。授業内にレジュメと資料を配付します。

#### 【参考書】

授業内で必要に応じ、参考文献等を紹介いたします。

#### 【成績評価基準】

期末の論述試験と出席状況を勘案し、総合的に評価します。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

地方自治論 I、NPO・ボランティア論及び NGO 活動論を履修済か、同時期に履修することで、本講義の理解をより深めます。



## 研究会 (通年)

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

◎国際法・国際環境法の研究を通して、国際平和について考える  
・ゼミ生間の縦・横の連携を強化し、お互いに啓発し合い、学生生活において、これだけは一生懸命にやったと自信を持って言える活動をする

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

1. 国際法および国際環境法に関する文献講読、判例研究

2. 個人の研究報告

3. その他(時事問題に関する討論、ディベート等)

\*受講者の関心に応じ、下記の計画通りに進行しないこともある。

\*校外授業及び合宿を行う(場所、内容等は受講者の希望を考慮して決める)。

\*サブゼミで、読書会、映画鑑賞会、講演会等を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	年間計画
第 2 回	報告および討論 (1)	グループ報告と討論
第 3 回	報告および討論 (2)	グループ報告と討論
第 4 回	報告および討論 (3)	グループ報告と討論
第 5 回	報告および討論 (4)	グループ報告と討論
第 6 回	報告および討論 (5)	グループ報告と討論
第 7 回	報告および討論 (6)	グループ報告と討論
第 8 回	報告および討論 (7)	グループ報告と討論
第 9 回	報告および討論 (8)	グループ報告と討論
第 10 回	報告および討論 (9)	グループ報告と討論
第 11 回	報告および討論 (10)	グループ報告と討論
第 12 回	報告および討論 (11)	グループ報告と討論
第 13 回	報告および討論 (12)	グループ報告と討論
第 14 回	報告および討論 (13)	グループ報告と討論
第 15 回	ゼミ合宿	研究会修了論文中間報告、ディベート、ディスカッション
第 16 回	打ち合わせ	後期の研究計画
第 17 回	研究報告 (1)	個別報告と討論
第 18 回	研究報告 (2)	個別報告と討論
第 19 回	研究報告 (3)	個別報告と討論
第 20 回	研究報告 (4)	個別報告と討論
第 21 回	研究報告 (5)	個別報告と討論
第 22 回	研究報告 (6)	個別報告と討論
第 23 回	研究報告 (7)	個別報告と討論
第 24 回	研究報告 (8)	個別報告と討論
第 25 回	研究報告 (9)	個別報告と討論
第 26 回	研究報告 (10)	個別報告と討論
第 27 回	研究報告 (11)	個別報告と討論
第 28 回	研究報告 (12)	個別報告と討論
第 29 回	校外授業	個別報告と討論
第 30 回	研究会修了論文発表会	研究会修了論文発表会

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

・毎回の予習

・読書

## 【テキスト】

開講時に指示

## 【参考書】

適宜指示

## 【成績評価基準】

平常点、レポート

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

根崎 光男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ「環境問題への歴史学的アプローチ」

文献や史料の読解を通じて研究テーマを見つけ、そのための調査・研究方法を学び、情報収集能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力、質疑・応答能力を養うことを目標とします。歴史研究には、歴史資料の読解・研究・分析といった基礎的な学習が欠かせません。それらを通じて、歴史の論理的思考を学び、現代の環境問題解決に資する応用力を養います。この科目は、情報の収集・価値判断・伝達の知識・技術を修得することにより、情報収集・分析・発信力に関する就業力を育成します。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

前期・後期の前半は、文献の調査方法の学習や環境資料の読解・分析などを通じて、人と環境とのかかわりの歴史を学びます。

前期の後半は、ゼミ生各自の問題意識を通じて研究テーマを見つけて中間発表を行い、これを通じてゼミ生相互に研究を深め合うようにします。後期の後半にはテーマの内容を深めて研究発表を行い、レポート(4年次は研究会修了論文)を提出します。研究の進捗状況については、教員とゼミ生が折にふれて確認し合うようにします。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミへの取り組み姿勢と年間目標を共有する
第 2 回	環境史研究の調査・方法 (1)	環境史研究の調査・方法、そして文献探索について学習する
第 3 回	環境史研究の調査・方法 (2)	環境史研究の文献検索を実際に体験学習する
第 4 回	文献・史料講読 (1)	文献講読、歴史史料の読解・現代語訳を通じて、研究に活用できるように学習する
第 5 回	文献・史料講読 (2)	同上
第 6 回	文献・史料講読 (3)	同上
第 7 回	文献・史料講読 (4)	同上
第 8 回	特定テーマ中間発表 (1)	受講者各自が研究テーマを設定して発表し、質疑応答を行って内容を深める
第 9 回	特定テーマ中間発表 (2)	同上
第 10 回	特定テーマ中間発表 (3)	同上
第 11 回	特定テーマ中間発表 (4)	同上
第 12 回	特定テーマ中間発表 (5)	同上
第 13 回	特定テーマ中間発表 (6)	同上
第 14 回	特定テーマ中間発表 (7)	同上
第 15 回	特定テーマ中間発表 (8)	同上

## 後期

回	テーマ	内容
第 16 回	史料読解 (1)	歴史史料の読解・現代語訳を通じて、研究に活用できるように論理化の学習をする
第 17 回	史料読解 (2)	同上
第 18 回	史料読解 (3)	同上
第 19 回	史料読解 (4)	同上
第 20 回	史料読解 (5)	同上
第 21 回	史料読解 (6)	同上
第 22 回	史料読解 (7)	同上
第 23 回	特定テーマ研究発表 (1)	受講者各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行って内容を充実させる
第 24 回	特定テーマ研究発表 (2)	同上
第 25 回	特定テーマ研究発表 (3)	同上
第 26 回	特定テーマ研究発表 (4)	同上
第 27 回	特定テーマ研究発表 (5)	同上
第 28 回	特定テーマ研究発表 (6)	同上
第 29 回	特定テーマ研究発表 (7)	同上
第 30 回	特定テーマ研究発表 (8)	同上

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

①決められた範囲の文献講読を行ってこること。

②環境史料の読解・現代語訳を行ってこること。

③論文執筆のために、各自で調査・研究を行うこと。

**【テキスト】**

必要に応じてプリントを配付します。

**【参考書】**

参考文献は随時紹介します。

**【成績評価基準】**

出席状況、授業時の積極的姿勢、発表、レポートを総合的に評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

## 研究会 (通年)

### 渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

テーマは「科学技術と環境」である。地球環境とその諸問題を研究するには、科学技術の歴史や役割を考え、その将来像について考察することが重要である。本研究会では、現在の科学技術がどのように、どこまで進歩してきているのか？ などについて具体的な例をもとに検討し、その諸問題や将来性を考察する。同時に、幅広い観点から科学技術の役割とその功罪についても考えていく。具体的なテーマは授業時に受講者と相談しながら選定する予定である。環境問題に関連する科学技術の具体的事例を選び、その長所・短所、環境貢献度、経済性などについて検証し、それを通して科学技術の在り方を考える。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

受講者が主体的に調査・研究を進め、その結果を報告（発表）する。それをもとに参加者全員で質疑応答ならびに総合討論を行う。それにより、各々のテーマ内容についてお互いの問題意識やそれに関わる知識が共有化できるなど、科学技術についての考察を深め合う契機とすることができる。前期は、数名ずつに班分けし、グループ研究を行うことを中心とする予定である。後期は、おもに各自のテーマについて調査・検討し報告する。4年生は研究会修了論文（卒論）の中間発表と最終発表もこの中に含める。

【】

【】

**【授業計画】**

**通年**

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容、授業予定などの説明を行う。またグループ研究のチーム分けを行う。
第 2 回	導入ディスカッション	グループ研究へ向けての準備、ならびにテーマ検討と研究を行う。
第 3 回	グループ研究	各グループごとに検討を進める。
第 4 回	グループ研究の報告（その 1）	グループ研究の報告と討論を行う。
第 5 回	グループ研究の報告（その 2）	グループ研究の報告と討論を行う。
第 6 回	環境事例研究（その 1）	環境展などに参加して、具体的調査活動を行う。
第 7 回	環境事例研究（その 2）	グループごとに調査結果の報告と討論を行う。
第 8 回	環境事例研究（その 3）	グループごとに調査結果の報告と討論を行う。
第 9 回	環境事例研究（その 4）	個人ごとに調査結果の報告と討論を行う。
第 10 回	環境事例研究（その 5）	個人ごとに調査結果の報告と討論を行う。
第 11 回	環境事例研究（その 6）	個人ごとに調査結果の報告と討論を行う。
第 12 回	個人研究（その 1）	個人研究のテーマと内容について報告し討論を行う。
第 13 回	個人研究（その 2）	個人研究のテーマと内容について報告し討論を行う。
第 14 階	個人研究（その 3）	個人研究のテーマと内容について報告し討論を行う。
第 15 回	個人研究（その 4）	個人研究のテーマと内容について報告し討論を行う。
第 16 回	研究報告（その 1）	2,3 年生の研究報告と討論を行う。
第 17 回	研究報告（その 2）	2,3 年生の研究報告と討論を行う。
第 18 回	研究報告（その 3）	2,3 年生の研究報告と討論を行う。
第 19 回	研究報告（その 4）	2,3 年生の研究報告と討論を行う。
第 20 回	卒論中間報告（その 1）	4 年生卒論の中間報告と討論を行う。
第 21 回	卒論中間報告（その 2）	4 年生卒論の中間報告と討論を行う。
第 22 回	卒論中間報告（その 3）	4 年生卒論の中間報告と討論を行う。
第 23 回	卒論中間報告（その 4）	4 年生卒論の中間報告と討論を行う。
第 24 回	研究報告（その 5）	2,3 年生の研究報告と討論を行う。
第 25 回	研究報告（その 6）	2,3 年生の研究報告と討論を行う。
第 26 回	研究報告（その 7）	2,3 年生の研究報告と討論を行う。
第 27 回	研究報告（その 8）	2,3 年生の研究報告と討論を行う。
第 28 回	卒論最終報告（その 1）	4 年生卒論の報告を行う。
第 29 回	卒論最終報告（その 2）	4 年生卒論の報告を行う。
第 30 回	卒論最終報告（その 3）	4 年生卒論の報告を行う。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

グループテーマ、あるいは個別テーマを研究するための調査・検討、ならびに資料作成を行う。

**【テキスト】**

特に使用しない。

**【参考書】**

開講時に紹介する。

**【成績評価基準】**

出席状況、報告内容、レポート提出状況、討論参加の積極性などをもとに評価する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

**研究会（通年）**

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2011 年度は、環境関連の英文契約を学びます。具体的には、①4 年生で研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③環境法の基本を学ぶことを目標としています。また、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の取得を目標としています。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練（日本語・英語）、および、3・4 年生による研究論文等の発表が行われます。また、3 年生に対しては、4 年生および OBOG による就職指導を行っています。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	研究会、サブゼミ等のオリエンテーション	この研究会の内容を説明し、研究会とサブゼミの実施方法について説明します。
第 2 回	サブゼミ課題の練習、日本語文献班発表	2 年生向けにサブゼミ課題の練習を行うとともに、日本語文献の第 1 回発表を行います。
第 3 回	サブゼミ課題の練習、英語文献班発表	2 年生向けにサブゼミ課題の練習を行うとともに、英語語文献の第 1 回発表を行います。
第 4 回	春季ゼミ合宿（2泊3日）	サブゼミ課題をどのようにこなすかについて、教員・上級生が指導します。
第 5 回	日本語文献班、英語文献班発表	日本語文献、英語文献につき、担当班が発表します。
第 6 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 7 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 8 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 9 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 10 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 11 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 12 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 13 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 14 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 15 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 16 回	夏季ゼミ合宿（3泊4日）	研究会修了論文テーマ・構成の発表、日本語と英語によるスピーチとディベート、サブゼミ課題等を行います。
第 17 回	法律文献班発表、英語契約班発表	法律文献、英語文献につき、担当班が発表します。
第 18 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。
第 19 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。
第 20 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。
第 21 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。
第 22 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。
第 23 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。

- 第 24 回 法律文献班発表、英語契 同上。  
約班発表
- 第 25 回 法律文献班発表、英語契 同上。  
約班発表
- 第 26 回 法律文献班発表、英語契 同上。  
約班発表
- 第 27 回 法律文献班発表、英語契 同上。  
約班発表
- 第 28 回 法律文献班発表、英語契 同上。  
約班発表
- 第 29 回 4 年修了論文発表会（1） 教員からチェックを受けて了承された  
4 年生が研究会修了論文の発表を行います。
- 第 30 回 4 年修了論文発表会（2） 同上。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各発表班で、発表レジュメの準備をしてください。サブゼミで、①ビジネス英会話の暗誦、② Japan Times 1 面の訳、③「きょうのことは」の記憶、④ 米国 PBS 放送のシャドウイングをこなしてください。

#### 【テキスト】

鈴木敏央『新・よくわかる ISO 環境法【改訂第 5 版】』（ダイヤモンド社）、宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』（ジャパンタイムズ）等。

#### 【参考書】

特にありません。

#### 【成績評価基準】

ゼミ、合宿での発表と、サブゼミでの課題達成により評価します。3 回以上の欠席又は課題未達成の場合は、D 評価となります。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

新 2 年生（現 1 年生）を募集します。新 3 年生、新 4 年生は、現在のゼミ生だけが応募可能です。2 限と 4 限の研究会の内容は同じですので、いずれかを希望して下さい。

## 研究会（通年）

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本研究会のテーマは「社会環境とエネルギー」であり、到達目標は以下の 3 点とする。

1. 我が国におけるエネルギー政策の重要性を説明できる。
2. エネルギーと環境負荷軽減、人の暮らしとの関係を説明できる。
3. 交通・運輸、居住空間などにおけるエネルギーの現状と課題について説明できる。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

社会とエネルギーとのかかわりは、ほぼ永遠に考え続けなければならない重要な課題である。本研究会においては、国内外のエネルギー政策や技術の過去・現在、エネルギーと人間とのかかわり、エネルギーの未来像について勉強してゆく。前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、前期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して調査を行う。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会とエネルギーについて	輪講するテキスト・資料の内容と社会・エネルギーとの関連性、輪講担当部分の取り決め
第 2 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 3 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 4 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 5 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 6 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 7 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 8 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 9 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 10 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 11 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 12 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 13 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 14 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 15 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 16 回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪講をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第 17 回	調査テーマの構想発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第 1 回）
第 18 回	調査テーマの構想発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第 2 回）
第 19 回	調査と分析	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 20 回	調査と分析	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 21 回	調査と分析	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備

第 22 回	中間発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第 1 回）
第 23 回	中間発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第 2 回）
第 24 回	調査と分析	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 25 回	調査と分析	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 26 回	調査概要書の作成について	調査概要書のフォーマットと注意事項の説明
第 27 回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆
第 28 回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆、最終発表の準備
第 29 回	最終発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる最終発表と討論（第 1 回）、調査概要書の提出
第 30 回	最終発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる最終発表と討論（第 2 回）、調査概要書の提出

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

- 第 1～15 回：輪読箇所・精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習
- 第 16 回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出
- 第 17～18、22～23 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習
- 第 19～21、24～26 回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析
- 第 27～28 回：調査概要書の執筆・データ整理
- 第 29～30 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、調査概要書のリバイス

**【テキスト】**

授業時に指定する。

**【参考書】**

適宜、紹介する。

**【成績評価基準】**

レポート（調査概要書）（40％：論述の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）、発表（40％：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）、議論（20％：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）により評価する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

**【その他】**

楽しく、じっくりと勉強しましょう。

**研究会（通年）**

山本 長一

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

現代英国小説 *Never Let Me Go*（『私を離さないで』）を読むことによって英国の現代の若者の理想、希望、友情、倫理、運命、苦悩、性の問題を探る。現代的なテーマ「遺伝子工学」によるクローン人間の若者たちの物語はこれまで多くの若い読者に感動を与えてきた。この長編小説を精読し、論じ合うことで、難解な英国小説読解の習熟を目指す。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

このテキストをひたすら読みこなしていく作業を中心に、受講生が毎回テキストの一部を翻訳・要約し、レジュメを作り、発表し、質問に答える。司会者が研究会の進行をしていく。それぞれ期末にはレポートを課す。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の進め方、テキスト、参考文献の指示、テキストに関する論文の配付など。
第 2 回	小説講読 (1)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 3 回	小説講読 (2)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 4 回	小説講読 (3)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 5 回	小説講読 (4)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 6 回	小説講読 (5)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 7 回	小説講読 (6)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 8 回	小説講読 (7)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 9 回	小説講読 (8)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 10 回	小説講読 (9)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 11 回	小説講読 (10)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 12 回	小説講読 (11)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 13 回	小説講読 (12)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	小説講読 (13)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 15 回	屋外での学習	展覧会、映画鑑賞等
第 16 回	小説講読 (14)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 17 回	小説講読 (15)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 18 回	小説講読 (16)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 19 回	小説講読 (17)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 20 回	小説講読 (18)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 21 回	小説講読 (19)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 22 回	小説講読 (20)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 23 回	小説講読 (21)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 24 回	小説講読 (22)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 25 回	小説講読 (23)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答
第 26 回	小説講読 (24)、プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと質疑応答

第 27 回	小説講読 (25)、 プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと 質疑応答
第 28 回	小説講読 (26)、 プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと 質疑応答
第 29 回	小説講読 (27)、 プレゼンテーション	テキスト購読・プレゼンテーションと 質疑応答
第 30 回	レポート作成ガイダンス	期末のレポート課題についてのガイ ダンス。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回の発表者以外の受講生は指定されたページを予習しておくこと。この活動がないと研究会は成立しない。

## 【テキスト】

Kazuo Ishiguro : *Never Let Me Go*, Faber and Faber, 2005 (0-571-22414-8)

## 【参考書】

Brian W. Shaffer : *Understanding Kazuo Ishiguro*,  
南カリフォルニア大学出版局、1998 年

## 【成績評価基準】

小説講読のレジュメ (50%)、プレゼンテーション (20%)、レポート (30%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

全ページにわたり予習してこないと英語長文の読解力が身に付かないので、毎回の予習が欠かせない。

## 【その他】

受講生の数が例年になく多いので、自分のプレゼンテーション力が試される。

## 研究会 (通年)

吉村 宏和

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：「地球温暖化とその周辺」  
地球温暖化とその周辺の問題に対する知見を深めることを最大の目標とする。

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

- ・環境速報：日々の環境に関するニュースを発表し、全員で議論する。
- ・輪講：地球温暖化に関する文献「歴史を変えた気候大変動」：ブライアン・フェイガン著、東郷えりか、桃井緑美子 訳」を全員で輪講し内容を検証する。
- ・年度末報告書：年度末に各自の研究課題の進捗状況を報告する。研究会修了論文へとつなげる。
- ・研究会修了論文：4 年次に研究会修了論文を執筆する。
- ・書評を執筆し、書評のピアレビューを行う。
- ・その他、課外活動、夏合宿なども予定している。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ参加メンバーのこれまでの研究を紹介する。
第 2 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「はじめに」
第 3 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「1 章」
第 4 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「2 章」
第 5 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「3 章」
第 6 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「4 章」
第 7 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「5 章」
第 8 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「6 章」
第 9 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「7 章」
第 10 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「8 章」
第 11 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「9 章」
第 12 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「10 章」
第 13 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「11 章」
第 14 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「12 章」
第 15 回	環境速報、輪講	環境速報、輪講テキスト「あとがき」 まとめ
第 16 回	環境速報、テーマ構想	年度末報告書、研究会修了論文のテーマ構想
第 17 回	環境速報、テーマ構想	年度末報告書、研究会修了論文のテーマ構想
第 18 回	環境速報、テーマ構想	年度末報告書、研究会修了論文のテーマ構想
第 19 回	環境速報、テーマ構想	年度末報告書、研究会修了論文のテーマ構想
第 20 回	環境速報、書評ピアレビュー	環境に関する文献を書評しその書評を互いに検証
第 21 回	環境速報、書評ピアレビュー	環境に関する文献を書評しその書評を互いに検証
第 22 回	環境速報、書評ピアレビュー	環境に関する文献を書評しその書評を互いに検証
第 23 回	環境速報、書評ピアレビュー	環境に関する文献を書評しその書評を互いに検証
第 24 回	環境速報、研究進捗発表	年度末報告書、研究会修了論文の進捗発表
第 25 回	環境速報、研究進捗発表	年度末報告書、研究会修了論文の進捗発表
第 26 回	環境速報、研究進捗発表	年度末報告書、研究会修了論文の進捗発表
第 27 回	環境速報、研究進捗発表	年度末報告書、研究会修了論文の進捗発表
第 28 回	環境速報、研究進捗発表	年度末報告書、研究会修了論文の進捗発表
第 29 回	研究会修了論文発表会	年度末報告書、研究会修了論文の発表会
第 30 回	研究会修了論文発表会	年度末報告書、研究会修了論文の発表会

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

輪講の予習を行う。参考書を読む。  
環境速報のプレゼンテーションの準備を行う。

論文（4年次）と年度末報告書（2・3年次）の執筆。

【テキスト】

歴史を変えた気候大変動：ブライアン フェイガン 著，東郷 えりか 訳，桃井 緑美子 訳

【参考書】

古代文明と気候大変動 人類の運命を変えた二万年史：ブライアン・フェイガン 著 東郷 えりか 訳

千年前の人類を襲った大温暖化：ブライアン・フェイガン 著，東郷 えりか 訳

【成績評価基準】

出席・平常点・提出物を総合的に判断する。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 国際法 I

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。個人の社会的・経済的活動がグローバル化している今日の国際社会では国際法の規律が国際社会に限定されることなく、国内法にも及んでいる。本講義では、国際法の基礎理論（総論）部分を扱い、国際法の基本的枠組および概念を理解することを目標とする。

【授業の到達目標】

[]

【授業の概要と方法】

国際法の総論部分についての講義を行う。

[]

[]

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	ガイダンス
第2回	国際法の基本原理	現代国際法の特徴、基本原則
第3回	法源（1）	国際慣習法、条約法
第4回	法源（2）	条約法、その他の法源
第5回	国際法と国内法の関係	国際法と国内法
第6回	国家・国家機関（1）	国家
第7回	国家・国家機関（2）	外交関係・領事関係
第8回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の競合と調整
第9回	国際組織法（1）	国際組織の概念、分類
第10回	国際組織法（2）	国際組織の法主体性
第11回	国家責任法（1）	国家責任の概念
第12回	国家責任法（2）	国家責任の追及
第13回	国家領域（1）	領域主権
第14回	国家領域（2）	領域紛争の解決
第15回	期末試験	授業の理解を確認する。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

【テキスト】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 第2版』有斐閣、2010年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価基準】

期末試験による。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境社会論 I

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【成績評価基準】

論述式の試験（70%：持ち込み可）＋出席点、講義中に行うコメントペーパーなど（30%）

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【授業のテーマ】

本講義では、社会的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチを習得することを目的とする。環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別されるが、両者を概観しながら、環境/環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、「理論」と「実証」の往復という環境社会学の基本的なスタイルを学ぶ。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

社会的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害-被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水とのかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会学/環境社会学とは何か？(1)	社会的なアプローチの概要について講義する。
第2回	社会学/環境社会学とは何か？(2)	環境社会学の2つのアプローチに関する概要を講義する。
第3回	日本の環境問題の歴史とその構造(1)	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第4回	日本の環境問題の歴史とその構造(2)	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概観する。
第5回	日本の環境問題の歴史とその構造(3)	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害-被害論と、被害構造論について講義する。
第6回	受益圏と受苦圏(1)：概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第7回	受益圏と受苦圏(2)：事例研究	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第8回	環境破壊と社会的ジレンマ(1)～社会的ジレンマ論	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第9回	環境破壊と社会的ジレンマ(2)～事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第10回	環境破壊と社会的ジレンマ(3)～社会的ジレンマの類型化と解決策の条件	社会的ジレンマの解決策について、事例を通じて考える。
第11回	「水」と生活文化(1)～生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第12回	「水」と生活文化(2)～「遠い水」「近い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第13回	「水」と生活文化(3)～河川管理の変遷	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第14回	「水」と生活文化(4)～技術と災害、災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。
第15回	環境社会学の方法論	理論と実証の往復という作業と、実践の志向性を持つ環境社会学の方法論を整理する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。

### 【テキスト】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房  
その他、適宜、指示をする。

### 【参考書】

同上。



## 統計概論

### 渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

統計学は、環境問題はもちろんのこと、様々な社会的現象を定量的に分析し論理的に最適な判断を下したりするために必要な基礎知識である。本科目では、コンピュータ（EXCEL）を利用したデータ処理法を体験しながら、統計学の基礎を学習する。具体的な問題、実例などを提示しながら分かりやすく解説していく。受講者の数学的予備知識はあまり想定していない。本科目では、EXCEL についての基礎的利用法と統計処理への応用技法を修得することも目標としている。そのため実際の授業では、情報処理教室を利用して実習形式で進めていく。EXCEL についてあまり経験がない方であっても受講可能である。

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

この授業においては毎回情報処理教室を利用して、EXCEL による計算法、各種統計関数などの利用法、グラフ機能利用法などを実習する。統計学の入門的内容について、EXCEL による処理を通して理解していく。計算過程とその結果の表示法について、具体例を提示しながら進めていく。

[]

[]

#### 【授業計画】

##### 前期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス（受講者の決定について）	授業内容、授業予定などの説明と受講者の決定を行う
第 2 回	EXCEL の利用法（その 1）	表計算の方法、データ表示の方法などについて理解する。特にセルの相対参照、絶対参照、複合参照などについて学習する。
第 3 回	EXCEL の利用法（その 2）	統計関数、ならびにその他の関数の利用法について理解する。
第 4 回	代表値について	簡単な例題をもとに、母集団と標本、平均値、モード、メディアンなどの統計的諸量について理解する。
第 5 回	散布度について	偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数などの意味を理解する。
第 6 回	データ位置について	分布の概念と基準値、偏差値などのデータ位置に関する量を理解する。
第 7 回	演習	第 6 回までに学習した内容について、具体的なテーマをもとに演習する。
第 8 回	相関分析と回帰分析について	相関係数、回帰直線を求めそれらの応用法を考える。また、最小乗法（残差と残差平方和、関数当てはめなど）の概念を理解する。
第 9 回	統計的推定（その 1）	区間推定と信頼区間について理解し、さらに様々な分布（正規分布、t 分布など）について学習する。
第 10 回	統計的推定（その 2）	さまざまな統計的推定の問題について演習する。
第 11 回	統計的検定（その 1）	危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択などについて学習する。
第 12 回	統計的検定（その 2）	平均値の差の検定、カイ二乗検定、サンプルサイズの評価などについて理解する。
第 13 回	演習（その 1）	具体的な問題について演習を行う。
第 14 回	演習（その 2）	具体的な問題について演習を行う。
第 15 回	まとめ	これまでの復習とレポート問題の説明を行う。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の後に復習をすること。授業で使用した EXCEL ファイルを保存し整理しておくこと。

#### 【テキスト】

特にテキストは使用しない。毎回プリントを配布する予定である。

#### 【参考書】

開講時に紹介する。

#### 【成績評価基準】

提出されたレポートの内容と授業への出席状況を勘案して決定する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

パソコンを利用する授業なので、受講者の状況を見ながらゆっくと分かりやすく進めていく予定です。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室に設置されているパソコンを使用する。とくに EXCEL を中心に利用する。

#### 【その他】

情報処理教室を利用しますので受講者数に制限を設けます。受講を希望する方は、必ず第 1 回の授業に出席してください。受講希望者が多数の場合、その授業に出席した方の中から選抜し受講を認めることとします。

## 研究会 (通年)

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2011 年度は、環境関連の英文契約を学びます。具体的には、①4 年生で研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③環境法の基本を学ぶことを目標としています。また、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の取得を目標としています。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練 (日本語・英語)、および、3・4 年生による研究論文等の発表が行われます。また、3 年生に対しては、4 年生および OBOG による就職指導を行っています。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究会、サブゼミ等のオリエンテーション	この研究会の内容を説明し、研究会とサブゼミの実施方法について説明します。
第 2 回	サブゼミ課題の練習、日本語文献班発表	2 年生向けにサブゼミ課題の練習を行うとともに、日本語文献の第 1 回発表を行います。
第 3 回	サブゼミ課題の練習、英語文献班発表	2 年生向けにサブゼミ課題の練習を行うとともに、英語語文文献の第 1 回発表を行います。
第 4 回	春季ゼミ合宿 (2泊3日)	サブゼミ課題をどのようにこなすかについて、教員・上級生が指導します。
第 5 回	日本語文献班、英語文献班発表	日本語文献、英語文献につき、担当班が発表します。
第 6 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 7 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 8 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 9 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 10 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 11 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 12 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 13 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 14 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 15 回	日本語文献班、英語文献班発表	同上。
第 16 回	夏季ゼミ合宿 (3泊4日)	研究会修了論文テーマ・構成の発表、日本語と英語によるスピーチとディベート、サブゼミ課題等を行います。
第 17 回	法律文献班発表、英語契約班発表	法律文献、英語文献につき、担当班が発表します。
第 18 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。
第 19 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。
第 20 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。
第 21 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。
第 22 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。
第 23 回	法律文献班発表、英語契約班発表	同上。

第 24 回 法律文献班発表、英語契約班発表 同上。

第 25 回 法律文献班発表、英語契約班発表 同上。

第 26 回 法律文献班発表、英語契約班発表 同上。

第 27 回 法律文献班発表、英語契約班発表 同上。

第 28 回 法律文献班発表、英語契約班発表 同上。

第 29 回 4 年修了論文発表会 (1) 教員からチェックを受けて了承された 4 年生が研究会修了論文の発表を行います。

第 30 回 4 年修了論文発表会 (2) 同上。

【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

各発表班で、発表レジュメの準備をしてください。サブゼミで、①ビジネス英会話の暗誦、② Japan Times 1 面の訳、③「きょうのことは」の記憶、④米国 PBS 放送のシャドウイングをこなしてください。

【テキスト】

鈴木敏央『新・よくわかる ISO 環境法【改訂第 5 版】』(ダイヤモンド社)、宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』(ジャパントイムズ)等。

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価基準】

ゼミ、合宿での発表と、サブゼミでの課題達成により評価します。3 回以上の欠席又は課題未達成の場合は、D 評価となります。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

新 2 年生 (現 1 年生) を募集します。新 3 年生、新 4 年生は、現在のゼミ生だけが応募可能です。2 限と 4 限の研究会の内容は同じですので、いずれかを希望して下さい。

## 研究会 (通年)

## 長峰 登記夫

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「職業生活をとおして労働環境を考える」をテーマに、目標を以下のように定めます。上記のテーマに沿った学習をとおして、情報収集の方法や勉強の仕方、成果の発表の仕方等を学びます。また、それらに伴うレジメの作成や最終的なレポート作成等一連の作業をとおして、私たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について問い直すこと、職場組織のあり方について学び、さらに物事を論理的に考え、推し進められるようになることを目標にします。そこに至る一里塚として、授業内における研究成果の発表と最終レポートの作成があります。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

私たちは、20歳前後から60歳前後までの人生において、総時間のほぼ3分の1以上を仕事やそれに関連したことに費やします。その意味で、私たちの人生は労働環境によって大きく左右されることとなります。この研究会では大学を卒業して就職し、定年に至るまでの職業生活上の一連の過程について社会科学的な視点から学習します。そのなかで就職や昇進、賃金、労働時間、労働組合、女性雇用、非正規雇用、成果主義等のトピックに焦点を当て、仕事とプライベートな生活との関係のみるなかで、労働環境はどうあるべきかを考えていきます。

[]

[]

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか等について学習する。
第2回	レジメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジメ、レポートの書き方2	レジメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといってよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国のそれとのちがいをみていく。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負っている。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型的な姿として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。
第11回	大学生の就職1(学校から職業へ)	大学生の就職は歴史的にどう変化してきたのか、現在それはどういう状況にあるのかについてみていく。

第12回	大学生の就職2(大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等をとおして確認し、その後の学習の出発点とする。
第13回	大学生の就職3(就職と学歴)	大学生の就職において学歴や学校歴が重要だとされている。それは本当なのか、そうだとすると、どういう意味においてそうなのかについて考える。
第14回	大学生の就職4(就職とジェンダー)	雇用において女性がハンディを負っていると同様に、就職の場面においても女性は多かれ少なかれハンディを負っている。その問題性についてみていく。
第15回	レポート提出とコメント	最初の注意事項にしたがってレポートが構成されているか、簡単にコメントをする。

## 通年

回数	テーマ	内容
第16回	前期学習の復習1(日本の雇用とは)	前期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第17回	前期学習の復習2(日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第18回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第19回	学生による研究発表2	上記と同じ
第20回	学生による研究発表3	上記と同じ
第21回	学生による研究発表4	上記と同じ
第22回	学生による研究発表5	上記と同じ
第23回	学生による研究発表6	上記と同じ
第24回	学生による研究発表7	上記と同じ
第25回	学生による研究発表8	上記と同じ
第26回	学生による研究発表9	上記と同じ
第27回	学生による研究発表10	上記と同じ
第28回	レポートの提出前チェックと指導	提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第29回	学生による研究発表11	第18回と同じ
第30回	学生による研究発表12	上記と同じ

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

前期は、毎回指定された文献資料を事前に読んでおくこと。後期は、発表予定者が事前に指示した資料を読んで、議論に参加できるよう準備しておくこと。

## 【テキスト】

前期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいきます。具体的には、随時授業で指示します。後期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とします。ただし、後期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

## 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会。

## 【成績評価基準】

成績評価は、1. 出席、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的にを行います。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

**研究会 (通年)**

根崎 光男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

テーマ「人と環境との関係をめぐる歴史学的アプローチ」

文献や史料の読解を通じて研究課題を見つけ、そのための調査・研究方法を学び、情報収集能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力、質疑・応答能力を養うことを目標とします。歴史研究には、歴史資料の読解・研究・分析といった基礎的な学習が欠かせません。それらを通じて、歴史の論理的思考を学び、現代の環境問題解決に資する応用力を養います。この科目は、情報の収集・価値判断・伝達の知識・技術を修得することにより、情報収集・分析・発信力に関する就業力を育成します。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

前期・後期の前半は、文献調査方法の学習や環境資料の読解・分析などを通じて、人と環境とのかかわりの歴史を学びます。

前期の後半は、ゼミ生各自の問題意識を通じて研究テーマを見つけて中間発表を行い、これを通じてゼミ生相互に研究を深め合うようにします。後期の後半にはテーマの内容を深めて研究発表を行い、レポートを提出します。研究の進捗状況については、教員とゼミ生が折にふれて確認し合うようにします。

[]

[]

**【授業計画】****前期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミへの取り組み姿勢と年間目標を共有する
第 2 回	環境史研究の調査・方法	環境史研究の調査・方法、そして文献探索について学習する
第 3 回	環境史研究の調査・方法 (1)	環境史研究の文献検索を実際に体験学習する
第 4 回	文献・史料講読 (1)	文献講読、歴史史料の読解・現代語訳を通じて、研究に活用できるように学習する
第 5 回	文献・史料講読 (2)	同上
第 6 回	文献・史料講読 (3)	同上
第 7 回	文献・史料講読 (4)	同上
第 8 回	特定テーマ中間発表 (1)	受講者各自が研究テーマを設定して発表し、質疑応答を行って内容を深める
第 9 回	特定テーマ中間発表 (2)	同上
第 10 回	特定テーマ中間発表 (3)	同上
第 11 回	特定テーマ中間発表 (4)	同上
第 12 回	特定テーマ中間発表 (5)	同上
第 13 回	特定テーマ中間発表 (6)	同上
第 14 回	特定テーマ中間発表 (7)	同上
第 15 回	特定テーマ中間発表 (8)	同上

**後期**

回	テーマ	内容
第 16 回	史料読解 (1)	歴史史料の読解・現代語訳を通じて、研究に活用できるように論理化的学習をする
第 17 回	史料読解 (2)	同上
第 18 回	史料読解 (3)	同上
第 19 回	史料読解 (4)	同上
第 20 回	史料読解 (5)	同上
第 21 回	史料読解 (6)	同上
第 22 回	史料読解 (7)	同上
第 23 回	特定テーマ研究発表 (1)	受講者各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行って内容を充実させる
第 24 回	特定テーマ研究発表 (2)	同上
第 25 回	特定テーマ研究発表 (3)	同上
第 26 回	特定テーマ研究発表 (4)	同上
第 27 回	特定テーマ研究発表 (5)	同上
第 28 回	特定テーマ研究発表 (6)	同上
第 29 回	特定テーマ研究発表 (7)	同上
第 30 回	特定テーマ研究発表 (8)	同上

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

- ①決められた範囲の文献講読を行ってこること。
- ②環境史料の読解・現代語訳を行ってこること。
- ③レポート提出のために、各自で調査・研究を行うこと。

**【テキスト】**

必要に応じてプリントを配付します。

**【参考書】**

参考文献は随時紹介します。

**【成績評価基準】**

出席状況、授業時の積極的姿勢、発表、レポートを総合的に評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

## エネルギー論 I

北川 徹哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

エネルギーの基礎と社会との関係がテーマであり、到達目標は以下の通りである。

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、ならびに現在主流となっている発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第2回	エネルギーの資源、流通、消費	1次エネルギーと2次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第3回	エネルギーに関連する量、単位	熱量、仕事・パワー・電力量などの意味と表現
第4回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第5回	熱力学の法則	サイクルとは何か、熱力学第1・第2・第3法則
第6回	カルノーサイクルと熱効率	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第7回	エントロピー	エントロピーとは何か
第8回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第9回	熱から電力への変換	水の性質、発電のためのサイクル
第10回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分
第15回	原子力発電の安全性と国際組織	多重防護、スクラム、原子力安全委員会、国際原子力機関

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておくことと良い。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実績、第5～8回：前回の講義内容の見直し。第9回：水の性質、第10～13回：我が国の電力会社と発電所、第14回：原子力の時事問題、第15回：我が国の地震

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート（50％）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。試験（50％）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。物理・数学的な内容もありますが、焦点を絞って取り上げますので心配しないでください。

## 統計概論（スキルアップ）

渡邊 誠

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

統計学は、環境問題はもちろんのこと、様々な社会的現象を定量的に分析し論理的に最適な判断を下したりするために必要な基礎知識である。本科目では、コンピュータ（EXCEL）を利用したデータ処理法を体験しながら、統計学の基礎を学習する。具体的な問題、実例などを提示しながら分かりやすく解説していく。受講者の数学的予備知識はあまり想定していない。本科目では、EXCELについての基礎的利用法と統計処理への応用技法を修得することも目標としている。そのため実際の授業では、情報処理教室を利用して実習形式で進めていく。EXCELについてあまり経験がない方であっても受講可能である。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

この授業においては毎回情報処理教室を利用して、EXCELによる計算法、各種統計関数などの利用法、グラフ機能利用法などを実習する。統計学の入門的内容について、EXCELによる処理を通して理解していく。計算過程とその結果の表示法について、具体例を提示しながら進めていく。

[]

[]

## 【授業計画】

前期	回	テーマ	内容
第1回	1	講義ガイダンス（受講者の決定について）	授業内容、授業予定などの説明と受講者の決定を行う
第2回	2	EXCELの利用法（その1）	表計算の方法、データ表示の方法などについて理解する。特にセルの相対参照、絶対参照、複合参照などについて学習する。
第3回	3	EXCELの利用法（その2）	統計関数、ならびにその他の関数の利用法について理解する。
第4回	4	代表値について	簡単な例題をもとに、母集団と標本、平均値、モード、メディアンなどの統計的諸量について理解する。
第5回	5	散布度について	偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数などの意味を理解する。
第6回	6	データ位置について	分布の概念と基準値、偏差値などのデータ位置に関する量を理解する。
第7回	7	演習	第6回までに学習した内容について、具体的なテーマをもとに演習する。
第8回	8	相関分析と回帰分析について	相関係数、回帰直線を求めそれらの応用法を考える。また、最小自乗法（残差と残差平方和、関数当てはめなど）の概念を理解する。
第9回	9	統計的推定（その1）	区間推定と信頼区間について理解し、さらに様々な分布（正規分布、t分布など）について学習する。
第10回	10	統計的推定（その2）	さまざまな統計的推定の問題について演習する。
第11回	11	統計的検定（その1）	危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択などについて学習する。
第12回	12	統計的検定（その2）	平均値の差の検定、カイ二乗検定、サンプルサイズの評価などについて理解する。
第13回	13	演習（その1）	具体的な問題について演習を行う。
第14回	14	演習（その2）	具体的な問題について演習を行う。
第15回	15	まとめ	これまでの復習とレポート問題の説明を行う。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の後に復習をすること。授業で使用した EXCEL ファイルを保存し整理しておくこと。

## 【テキスト】

特にテキストは使用しない。毎回プリントを配布する予定である。

## 【参考書】

開講時に紹介する。

## 【成績評価基準】

提出されたレポートの内容と授業への出席状況を勘案して決定する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

パソコンを利用する授業なので、受講者の状況を見ながらゆっくと分かりやすく進めていく予定です。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報処理教室に設置されているパソコンを使用する。とくに EXCEL を中心に利用する。

**【その他】**

情報処理教室を利用しますので受講者数に制限を設けます。受講を希望する方は、必ず第 1 回の授業に出席してください。受講希望者が多数の場合、その授業に出席した方の中から選抜し受講を認めることとします。

**研究会 (通年)**

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

◎国際法・国際環境法に関する英語の文献や裁判の判決を講読し、関連する問題についての討論を行う。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

・参加者の関心のあるテーマについて、英語の文献を全員で講読する。  
\*受講者の人数や関心により、必ずしも計画通りに進行しないことがある。  
\*サブゼミにて、講演会を行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第 2 回	文献講読 (1)	文献講読と討論
第 3 回	文献講読 (2)	文献講読と討論
第 4 回	文献講読 (3)	文献講読と討論
第 5 回	文献講読 (4)	文献講読と討論
第 6 回	文献講読 (5)	文献講読と討論
第 7 回	文献講読 (6)	文献講読と討論
第 8 回	映画鑑賞会 (1)	映画鑑賞と討論
第 9 回	判例研究 (1)	判例講読と討論
第 10 回	判例研究 (2)	判例講読と討論
第 11 回	判例研究 (3)	判例講読と討論
第 12 回	判例研究 (4)	判例講読と討論
第 13 回	判例研究 (5)	判例講読と討論
第 14 回	映画鑑賞会 (2)	映画鑑賞と討論
第 15 回	まとめ	まとめ
第 16 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第 17 回	文献講読 (7)	文献講読と討論
第 18 回	文献講読 (8)	文献講読と討論
第 19 回	文献講読 (9)	文献講読と討論
第 20 回	文献講読 (10)	文献講読と討論
第 21 回	文献講読 (11)	文献講読と討論
第 22 回	文献講読 (12)	文献講読と討論
第 23 回	映画鑑賞会 (3)	映画鑑賞と討論
第 24 回	判例研究 (6)	判例講読と討論
第 25 回	判例研究 (7)	判例講読と討論
第 26 回	判例研究 (8)	判例講読と討論
第 27 回	判例研究 (9)	判例講読と討論
第 28 回	判例研究 (10)	判例講読と討論
第 29 回	映画鑑賞会 (4)	映画鑑賞と討論
第 30 回	まとめ	まとめ

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

毎回の予習

**【テキスト】**

受講者と相談の上、その都度指示する

**【参考書】**

受講者と相談の上、その都度指示する

**【成績評価基準】**

平常点

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

## 研究会 (通年)

## 西城戸 誠

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会的なまなざし、アプローチの特徴を学ぶ。そして、社会調査の基本的な方法論と実践を踏まえた上で、研究会参加者自らの関心から「自分で調べ」、最終的に研究会修了論文を執筆することを目的とする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究（国内外）を決定し、全員で講読する。また、自分でテーマを設定し、研究会修了論文を執筆する。なお、研究会修了論文のテーマは、必ずしも環境や環境問題に特化しなくてもかまわない。研究会参加者の問題関心を重要視する。本やインターネットを「カットアンドペースト」してまとめたといった類の「レポート」ではなく、あくまでも「自分で調べる」という営みによって生み出された「論文」を目指す。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第2回	文献購読 (1)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第3回	文献購読 (2)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第4回	文献購読 (3)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第5回	文献購読 (4)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第6回	文献購読 (5)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第7回	文献購読 (6)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第8回	研究会修了論文中間報告 (1)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第9回	文献購読 (7)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第10回	文献購読 (8)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第11回	文献購読 (9)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第12回	文献購読 (10)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第13回	文献購読 (11)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第14回	文献購読 (12)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第15回	研究会修了論文中間報告 (2)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第16回	文献購読 (13)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第17回	文献購読 (14)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。

第18回	文献購読 (15)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第19回	文献購読 (16)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第20回	研究会修了論文中間報告 (3)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第21回	研究会修了論文中間報告 (4)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第22回	文献購読 (17)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第23回	文献購読 (18)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第24回	文献購読 (19)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第25回	文献購読 (20)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第26回	研究会修了論文中間報告 (5)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第27回	研究会修了論文中間報告 (6)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第28回	研究会修了論文中間報告 (7)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第29回	研究会修了論文中間報告 (8)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第30回	研究会修了論文中間報告 (9)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業（文献購読、調査、論文執筆等）

## 【テキスト】

田中重好, 2010, 『地域から生まれる公共性』ミネルヴァ書房  
鳥越皓之 (編), 2010, 『霞ヶ浦の環境と水辺の暮らし』早稲田大学出版部  
足立重和, 2010, 『郡上八幡 伝統を生きる』新曜社

## 【参考書】

随時、指定する

## 【成績評価基準】

平常点。ただし、社会人学生で 2011 年度から研究会に参加する者は前期、後期にレポートの提出を求める。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

## 渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本研究会では、情報とその処理についての理論と応用法を学習し、ユーザとしての立場から IT 技術を応用して業務改善を図るための能力を養うことを目標とする。情報処理技術者に関する国家試験「IT パスポート試験」を受験することも念頭においている。また「基本情報技術者試験」を目指す場合の基礎にもなる。コンピュータの仕組みやソフトウェア、業務組織の機能・運用方法など広範囲の内容に触れる。前期では基礎的事項を幅広く学習し、後期には応用的（実務的）内容を中心に学習する。それにより得られた知識を今後の研究や諸活動などに生かしていく方法を模索することは重要であり、検討のテーマとなる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

共通のテキストを使用して内容を理解していくことが中心となる。このため講義形式の授業となることが多い。また、各人が持っている疑問点、意見などを出し合い相互検討する。それにより授業内容をより深く理解することができ、応用へ向けての更なる発展につながっていく。

[]

[]

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容、授業予定などの説明を行う。
第 2 回	ストラテジ系の検討 (その 1)	テキストを利用しての演習を行う。
第 3 回	ストラテジ系の検討 (その 2)	テキストを利用しての演習を行う。
第 4 回	ストラテジ系の検討 (その 3)	テキストを利用しての演習を行う。
第 5 回	ストラテジ系の検討 (その 4)	テキストを利用しての演習を行う。
第 6 回	マネジメント系の検討 (その 1)	テキストを利用しての演習を行う。
第 7 回	マネジメント系の検討 (その 2)	テキストを利用しての演習を行う。
第 8 回	マネジメント系の検討 (その 3)	テキストを利用しての演習を行う。
第 9 回	テクノロジー系の検討 (その 1)	テキストを利用しての演習を行う。
第 10 回	テクノロジー系の検討 (その 2)	テキストを利用しての演習を行う。
第 11 回	テクノロジー系の検討 (その 3)	テキストを利用しての演習を行う。
第 12 回	テクノロジー系の検討 (その 4)	テキストを利用しての演習を行う。
第 13 回	テクノロジー系の検討 (その 5)	テキストを利用しての演習を行う。
第 14 回	総合討論	基礎事項の確認と検討を行う。
第 15 回	前期のまとめ (到達度確認のための試験)	前期授業の復習と試験を行う。
第 16 回	事例問題による検討 (その 1)	具体的な事例 (応用) 問題を用いて検討を行う。
第 17 回	事例問題による検討 (その 2)	具体的な事例 (応用) 問題を用いて検討を行う。
第 18 回	事例問題による検討 (その 3)	具体的な事例 (応用) 問題を用いて検討を行う。
第 19 回	事例問題による検討 (その 4)	具体的な事例 (応用) 問題を用いて検討を行う。
第 20 回	事例問題による検討 (その 5)	具体的な事例 (応用) 問題を用いて検討を行う。
第 21 回	事例問題による検討 (その 6)	具体的な事例 (応用) 問題を用いて検討を行う。
第 22 回	応用法研究 (その 1)	習得した知識の活用方法、応用方法などについて検討する。
第 23 回	応用法研究 (その 2)	習得した知識の活用方法、応用方法などについて検討する。
第 24 回	応用法研究 (その 3)	習得した知識の活用方法、応用方法などについて検討する。

第 25 回	応用法研究 (その 4)	習得した知識の活用方法、応用方法などについて検討する。
第 26 回	応用法研究 (その 5)	習得した知識の活用方法、応用方法などについて検討する。
第 27 回	応用法研究 (その 6)	習得した知識の活用方法、応用方法などについて検討する。
第 28 回	総合討論 (その 1)	さまざまな事例問題の検討を行う。
第 29 回	総合討論 (その 2)	さまざまな事例問題の検討を行う。
第 30 回	後期のまとめ (到達度確認のための試験)	後期授業の復習と試験を行う。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

テキストの予習と復習を毎回行うこと。また、関連する問題を授業前に解いておくこと。

## 【テキスト】

使用する。(IT パスポート試験関連のテキストを予定している。) 具体的には開講時に紹介する。

## 【参考書】

開講時に紹介する。

## 【成績評価基準】

出席状況、授業への参加状況、前期・後期において行う試験の結果などを総合的に勘案し評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】



## 地域福祉論

宮脇 文恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

1. 地域福祉の歴史を学び、理念とその展開について修得する。
2. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための、コミュニティソーシャルワークとソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

これまで日本の福祉施策は、課題を抱えた人を福祉施設に入居させてきたが、今後は、専門的なサービスを利用しつつ、地域において、家族や地域住民に支えられながら暮らしていくことの実現が目指されている。本講義では、そのために、地域福祉とは何か、地域の様々な社会資源の活用とその開発について理解し、地域においてお互いを支え合っていくための方法を学び、自らも社会資源として地域福祉に参画していく基盤を身につける。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第2回	地域福祉とは何か	地域福祉に関する論を解説し、現代社会における地域福祉の理念を学ぶ
第3回	地域福祉の歴史(1)	欧米における地域福祉の源流と、戦後復興期までの歴史をとりあげる
第4回	地域福祉の歴史(2)	高度経済成長期～超少子高齢時代の到来までの歴史をとりあげる
第5回	地域福祉の主体形成と福祉教育(1)～地域福祉の推進と福祉教育～	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成
第6回	地域福祉の主体形成と福祉教育(2)～福祉教育の内容～	福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点
第7回	地域福祉の推進主体(1)～社会福祉協議会、社会福祉法人～	地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ
第8回	地域福祉の推進主体(2)～NPO、民生委員・児童委員、保護司～	地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ
第9回	地域福祉計画	地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ
第10回	コミュニティソーシャルワーク(1)～考え方、展開とシステム～	個人を大切にすることを出発点に、地域において援助するあり方を学ぶ
第11回	コミュニティソーシャルワーク(2)～方法、チームアプローチ～	コミュニティソーシャルワークの実践事例についてとりあげる
第12回	地域福祉推進における住民参画(1)～意義と目的～	地域はそこに住む住民自らがつくるもので、その参画の方法、留意点を学ぶ
第13回	地域福祉推進における住民参画(2)	地域福祉における住民参画の事例を取り上げる
第14回	ソーシャルサポートネットワーク	地域に暮らす個人を支え合う社会資源のつながりについて学ぶ
第15回	まとめ	総括、テスト

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人など、社会の中で居づらさを感じる人たちがいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。

### 【テキスト】

新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法』(中央法規)

### 【参考書】

授業内で指示する

### 【成績評価基準】

出席率 30%、テスト 30%、課題提出 20%、授業態度 20%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオなど

### 【その他】

皆さんが学習主体です。今後、どう暮らしたいか、どんな地域社会にしたいか、ということと共に考え、より良い方法を模索していければと思います。出席は授業開始 20 分まで、途中退室は出席取り消し、内職(携帯電話利用を含む)は見つけ次第欠席扱いとしますので、ご了承下さい。

## 人間環境学入門

岡松 暁子、梶 裕史、田中 勉

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、垣根を越えた領域融合の発想と協働の必要性を理解するとともに、多様なアプローチの中でどんな分野を特に学びたいか、何が自分に適性があるか、自分の学びの軸を考えるための新鮮な啓発の機会とする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（1回毎に担当者が異なる）により、学部の4つのコース（環境経営・地域環境・国際環境・環境教養）に従って、環境問題へのアプローチの例題を設定して講義する。なお事情により、【授業計画】各回の内容は変更になることがある。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（人間環境学とは何か）	環境問題の「学際性」と、それに対応した学部カリキュラム、「コース制」の説明等。
第2回	大学における学びの作法（1）	薬物防止レクチャー、学生生活全般等
第3回	大学における学びの作法（2）	授業の聴き方 ノートの取り方 等
第4回	環境経営コースから考える環境問題（1）	導入、啓発に好適な1回完結の例題を選んで講義する。
第5回	環境経営コースから考える環境問題（2）	同上
第6回	地域環境コースから考える環境問題（1）	同上
第7回	地域環境コースから考える環境問題（2）	同上
第8回	地域環境コースから考える環境問題（3）	同上
第9回	国際環境コースから考える環境問題（1）	同上
第10回	国際環境コースから考える環境問題（2）	同上
第11回	国際環境コースから考える環境問題（3）	同上
第12回	環境教養コースから考える環境問題（1）	同上
第13回	環境教養コースから考える環境問題（2）	同上
第14回	環境教養コースから考える環境問題（3）	同上
第15回	人間環境学入門から実践へ	全体の総括。後期へのつなぎの意識付け

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回、前回の講義との「つながり」を考え、「学際性」の意味を具体的に実感することに努めること。

## 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

## 【参考書】

各回の講義において、関連する基礎文献を紹介する。

## 【成績評価基準】

各コース単位の試験問題の評価の総合点。出席点も加味する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

本科目は、一年次の必修科目である。A～Dクラスは1時限目に、E～Hクラスは6時限目に登録・履修すること。なお再履修する方は自分のクラスの時に登録・履修すること。

## グローバルコミュニケーション

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning. The aims of the course are:

- ・ to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- ・ to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- ・ to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- ・ to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- ・ to develop the process of cultural adaptation.
- ・ to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing including research techniques and oral presentation skills.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第2回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第3回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第4回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第5回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第6回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture

第 7 回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第 8 回	Academic Writing Activity	Planning & writing academic papers
第 9 回	Presentation Activity	Planning & preparing oral presentations / Presentation techniques
第 10 回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第 11 回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第 12 回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management
第 13 回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming interculturally competent / The future of intercultural communication
第 14 回	Class Presentations	Students give presentations on their selected topics
第 15 回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

【テキスト】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

Griffin, E. (2006). *A First Look at Communication Theory*. Boston: McGraw Hill.

Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2006). *Human Communication (2nd Edition)*. Boston: McGraw Hill.

Samovar, L. A., & Porter, R. (2004). *Communication Between Cultures*. Wadsworth: Thomson.

【成績評価基準】

Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a written assignment, and a take-home exam.

\* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

環境健康論 I

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。一方で細かい部分（臓器、細胞、遺伝子レベル）に視点が行きすぎた結果、からだ全体を統一的な視点で観ることが失われていることも否めない。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個別性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。エコロジー意識をもった市民が増えている今日において、将来環境リーダーとして幅広い視点から環境と健康問題に取り組む諸君にとって補完代替医療分野について学ぶことは、必ず将来の糧となると考える。本講義の到達目標は、「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解すること、また本来からだに備わった働きの一つである治癒力に目を向け、その本質にせまり、治癒力を妨げるもの、治癒を促進する食品、こころが治癒に果たす役割などについて理解すること。最終的には、自ら積極的に健康感を述べ、選択できるようになることである。

【授業の到達目標】

【】

【授業の概要と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVD を用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス:講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	環境と健康：自然が与える生命力、森林と自然治癒力	環境の問題についての意識を高めるために誰もが入りやすい題材として森林と自然治癒力の関係を取りあげる。
第 3 回	エコロジカルな健康観：地球の健康なくして、人間の健康はない	環境に優しい医学として、世界各地で発展してきた伝統医学を取りあげ、その特徴、健康観について説明する。
第 4 回	治療 (cure, treatment) と治癒 (healing) : ホメオパシーの思考、基本概念	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーを例に挙げ、本来からだに備わっている自然治癒力について説明する。
第 5 回	治癒の本質：治癒の 3 局面 (反応・再生・適応)	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治す能力 (自然治癒力) について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第 6 回	創傷の治癒：線維の増殖、瘢痕の成熟、組織修復による合併症	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを説明する。
第 7 回	病気になる人、ならない人：人はどうして病気になるのだろうか？	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを関連する DVD を視聴しながら解説する。
第 8 回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるのだろうか？	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について説明する。
第 9 回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性を説明する。
第 10 回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	人の生活は日々摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気との関連性を解説する。
第 11 回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。

第 12 回	有害物質から身を守る	水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさげ上手に生活をおくる方法を検討する。
第 13 回	ところが治癒に果たす役割：治癒とこころの相関関係	精神的および感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、ところが治癒系に与える影響について解説する。
第 14 回	成熟した患者になるために：治癒は外から、治癒は内から	治療 (cure, treatment) と治癒 (healing) の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。
第 15 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて適宜配布する

## 【参考書】

健康・体力づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店  
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社  
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫  
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書  
ホメオパシー医学への招待 松本文二著 フレグランスジャーナル社  
東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版社

## 【成績評価基準】

提出物（20％）と期末試験（80％）により評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクターなど

## 英語Ⅲ（スキルアップ科目）

## 磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of three pages from Obama Speeches and give a presentation based on their essay at the end of the course.

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a listening test.
第 2 回	Chapter 1 Artists	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第 3 回	Chapter 1 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第 4 回	Chapter 1 Writing	Organizing: The Essay
第 5 回	Chapter 2 Language Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第 6 回	Chapter 2 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第 7 回	Chapter 2 Writing	Organizing: The Process Essay
第 8 回	Chapter 3 Hygiene	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第 9 回	Chapter 3 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第 10 回	Chapter 3 Writing	Literal and Extended Definitions
第 11 回	Chapter 4 Groups, Organizations, and Societies	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第 12 回	Chapter 4 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第 13 回	Chapter 4 Writing	Description
第 14 回	Chapter 4 Writing	Writing practice
第 15 回	Presentation	Students give a presentation based on their essay.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. They will submit it every week.

## 【テキスト】

Weaving It Together 4(Cengage Learning)2,730 円

『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000 円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance and participation 40%, Assignments and Presentation 60%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

## 英語Ⅲ（4群必修）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of three pages from Obama Speeches and give a presentation based on their essay at the end of the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a listening test.
第2回	Chapter 1 Artists Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第3回	Chapter 1 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第4回	Chapter 1 Writing	Organizing: The Essay
第5回	Chapter 2 Language Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第6回	Chapter 2 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第7回	Chapter 2 Writing	Organizing: The Process Essay
第8回	Chapter 3 Hygiene	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第9回	Chapter 3 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第10回	Chapter 3 Writing	Literal and Extended Definitions
第11回	Chapter 4 Groups, Organizations, and Societies	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第12回	Chapter 4 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第13回	Chapter 4 Writing	Description
第14回	Chapter 4 Writing	Writing practice
第15回	Presentation	Students give a presentation based on their essay.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. They will submit it every week.

## 【テキスト】

Weaving It Together 4(Cengage Learning)2,730円  
 『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance and participation 40%, Assignments and Presentation 60%

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

## 英語Ⅲ（4群選択）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of three pages from Obama Speeches and give a presentation based on their essay at the end of the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a listening test.
第2回	Chapter 1 Artists Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第3回	Chapter 1 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第4回	Chapter 1 Writing	Organizing: The Essay
第5回	Chapter 2 Language Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第6回	Chapter 2 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第7回	Chapter 2 Writing	Organizing: The Process Essay
第8回	Chapter 3 Hygiene	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第9回	Chapter 3 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第10回	Chapter 3 Writing	Literal and Extended Definitions
第11回	Chapter 4 Groups, Organizations, and Societies	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第12回	Chapter 4 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第13回	Chapter 4 Writing	Description
第14回	Chapter 4 Writing	Writing practice
第15回	Presentation	Students give a presentation based on their essay.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. They will submit it every week.

## 【テキスト】

Weaving It Together 4(Cengage Learning)2,730円  
 『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance and participation 40%, Assignments and Presentation 60%

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

## 環境表象論

## 梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

この講義は、「文化」という視点からの環境問題へのとりくみの一例を紹介するものである。科目名称の「表象」とは、心の中に現れる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心はどう捉えるか、ということであると思うとよい。この講義では、その好例といえるテーマとして、「文化的景観」という考え方をとりあげる（→次項「概要」参照）。

国内を中心とした具体的な事例の紹介と考察を通じて、わが国の各地域の伝統文化・民俗資産を活かすことが、環境共生型の地域形成や人間形成にきわめて有益であることを理解し、「環境」という語の指す内容、範囲が世間一般のイメージよりずっと広く、柔軟に考えるべきものであることを知る機会とする。

## 【授業の到達目標】

①

## 【授業の概要と方法】

<概要>

「文化（的）景観」は、もともとは手付かずの「自然景観」に対して、人間の暮らしが創った地表のすがたを指す地理学用語である。農林水産業の土地利用のすがたや都市景観、それに人間の手が加えられた自然（二次的自然）のすがたも含まれるが、1990年代、ユネスコがこれを世界遺産の登録基準として採用して以来、環境共生型の地域形成に資する概念として注目が高まってきている。

典型的には「自然と人間の共同作品」といえるような、良好な共生関係を表す農村の景観などを思い浮かべるとよいが、手付かずの自然＝「原生自然」であっても、古来、宗教上の聖地として自然が守られてきた場所、古典文芸の「名所」として大事にされてきた場所などは、人間が意志的に守ってきた景観ということで、「文化的景観」とみなす。また、都市や鉱工業・交通に関する景観も「文化的景観」であり、範囲は幅広い。そして「景観」の構成要素は可視の有形物に限定されない。「無形」の文化や「五感」で感受される要素も含まれ、このような「目に見えない部分」が価値の本質となる場合が多い。見た目だけではなく、それを支えている人間の暮らしぶりを、心で感受するものだという考え方である。

<授業の形式>

ふつうの講義形式。テーマの性格上、OHC（書画カメラ）を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなるが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることがメインではないと思って頂きたい。

②

③

## 【授業計画】

前期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「景観」について、導入的説明。
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	世界遺産のなかで「文化的景観」導入の経緯	「自然遺産」「文化遺産」のはざま
第4回	ユネスコによる「文化的景観」の定義・内容	「環境」、持続可能性重視の新視点
第5回	日本の対応	「文化財保護法」の新文化財として導入の経緯
第6回	「文化的景観」保全の多面的効用	文化庁種別Ⅰ類（農林漁業の持続可能性豊かな土地利用の景観）を例として
第7回	「景観」・「風景」・「原風景」	「センス・オブ・プレイス」も併せて
第8回	近江八幡から学ぶべきこと	国内の新文化財「重要文化的景観」第1号
第9回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義（1）	宗教・信仰の聖地として守られてきた場所
第10回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義（2）	古典文芸の「名所」として守られてきた場
第11回	Ⅱ類の拡大解釈—その場にはないもの、見えないものが作り出す魅力	文学作品、映画、アニメが創る作品舞台の魅力／「ことば」が景観を創／心の中のイメージの重要性 など
第12回	生きて変化する文化財として（1）	「五感」で体感される周期変化
第13回	生きて変化する文化財として（2）	「伝統」の非固定性／「有機的に進化する」景観
第14回	「伝統」継承のための階層的発想	観光文化、エコツーリズムの可能性

第15回 無形文化尊重の潮流／概 視覚のみから「五感」へ／鉱工業や都市の産業・生活に関わる景観

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励する。

## 【テキスト】

特に指定しない。授業のなかで随時配布するプリントをもって代える。

## 【参考書】

『日本の文化的景観』（文化庁監修、同成社 2005）ほか、授業のなかで紹介する。

## 【成績評価基準】

期末試験。他に、授業マナーも影響する場合あり（私語・メール等発覚した場合は単位取得不可です）。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業が中断して（当然ながら）雰囲気が悪くなることもあり、そのことへの批判的意見もあります。それはもっともですが、大教室で常時静粛な授業環境を確保する効果があるため、方針は変えません。関連して・・・「雑談」「余談」のくだけた話のときは別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、（その話題に関連して適度に隣の友人と話したり）笑ったりして楽しんでください。要は、真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感覚で聴いてもらおうのがベストと思います。

また、OHC（書画カメラ）で写真等をたくさんお見せするのですが、専用の時間を設けるといふかたちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態で見ため、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

## 【その他】

日本の伝統文化を広義の環境政策の視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

## 労働環境法

沼田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

2008年のリーマンショックを契機に、雇用問題についての関心が高まっています。その際によくいわれるのは、「人らしい扱いを。」というものです。このことをILOでは、「ディーセントワーク」といい、その確立を大きな課題としています。労働の現場では、人とモノが有機的に結合して何かを生み出すわけですが、だからといって人は「モノ」ではありません。現代の就労モデルを念頭におく限り、一日のうちの多くの時間が労働に割かれます。であれば、労働の環境そのものも、「人らしい扱い」をうけるに相応しいものでなければなりません。

この講義では、労働するうえで、「人らしい扱い」をうけるために必要な法規制や裁判例の動向について取り扱います。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

この講義では、講義形式を基本とします。  
講義では、パワーポイントを利用します。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、法学の基礎知識。	講義の進め方や評価方法の説明。簡単な法学全体の話し。
第2回	労働法の全体像と基本原則	「労働環境法」をとりまく講義上の概念である「労働法」の簡単な全体像の説明と基本原則を学習する。
第3回	労働環境と労働基準法上の規制(1)	労働基準法上の規制を守らせるための実効性確保手段を説明する。
第4回	労働環境と労働基準法上の規制(2)	労働時間規制を中心とした問題を扱う。
第5回	職場の人間関係をめぐる問題(1) -セクシュアル・ハラスメント-	セクシュアル・ハラスメントの問題を扱う。
第6回	職場の人間関係をめぐる問題(2) -いじめ-	職場のいじめやパワーハラスメントの問題を扱う。
第7回	安全配慮義務(1)	職場環境の保持にとって、雇用者である使用者の安全に対する配慮は重要な要素となるので、その問題を説明する。
第8回	安全配慮義務(2)	職場環境の保持にとって、雇用者である使用者の安全に対する配慮は重要な要素となるので、その問題を説明する。
第9回	労働安全衛生法(1) 安全衛生管理体制ほか	労働者の安全や衛生を確保するため、法律によって細かく規制がなされているので、その点を説明する。
第10回	労働安全衛生法(2) 健康の維持・増進の措置、快適な職場環境の形成のための措置ほか	労働者の安全や衛生を確保するため、法律によって細かく規制がなされているので、その点を説明する。
第11回	労働者災害補償保険法(1) 保険関係ほか	実際に労働者が業務上げをしたり、病気にかかった場合の補償について説明する。
第12回	労働者災害補償保険法(2) 業務上認定	実際に労働者が業務上げをしたり、病気にかかった場合の補償について説明する。
第13回	過重労働、特別な疾病	いわゆる過労死の問題を扱う。
第14回	まとめ	講義のまとめをします。
第15回	授業内試験	授業内試験を実施します。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

配付するプリントを事前に見ておいてください。

### 【テキスト】

プリント教材を配布します。

プリント教材は、事前にホームページからダウンロードして、各自で準備をしてもらいます。ご協力をお願いします。

### 【参考書】

参考書が必要な場合は、講義中に適宜指示いたします。

### 【成績評価基準】

試験と平常点で評価します。

試験と平常点の割合は、9：1です。

試験は期末試験のみ実施します。

平常点は出席で評価します。講義開始後10～15分後に出席調査票を配布しますので、それ以降の遅刻は正当な理由がない限り、欠席扱いします。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 国際政治学

鈴木 佑司

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講義の目的は、国際政治とは何かについて各自が自分なりの確固たる三方、考え方を身に着けることにある。ミクロなスケールの日常的な生活の中でも作動している国際政治の動きを正確に観察し、それを分析し、それへの最も有効な対抗の仕方を構想する力を要請することを期待している。外交、それはこうした個人々の状況対応能力を基礎とした営為であると言い換えられる。こうした能力の形成には、最低限度の予備知識を学ぶ、かつ現実に関与した、あるいは起こりつつある事実を深く理解する方法を身に着けることが欠かせない。それがこの講義の目的である。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

上記の目的と必要性に応えるために、本講義を以下の3つの主要部分に分けて詳しく議論を展開したい。導入とむすびを加えて、ほぼ以下のような5つの部分に分けて議論を展開することとする。2、3、4については、それぞれ記したテーマについて1、2回、場合によっては3回ほど集中して詳しく議論を展開したい。

1. イントロダクション - 国際政治とは何か、何故学ぶのか、どう学ぶのか
2. 国際政治の対象 - 戦争と平和、南北問題、相互依存とグローバル化、持続可能な開発、人間の開発、国家安全保障と人間の安全保障、環境、人権
3. 国際政治の方法 - 権力政治、勢力均衡、覇権秩序、地域主義と地域統合、機能統合、政府機能の三層化
4. 国際政治の主体 - 主権国家、超国家組織、非国家組織、営利組織、公益組織
5. むすび - 日本、アジア、世界

本講義の目的のひとつは、「日本的常識は世界的非常識」といわれるように、日本の議論の限界を認識し、国際政治の一般的な見方・考え方をしっかりと身につけてもらうことが目的である。そのためには、受動的な講義への参加であるにとどまらず、自ら問題を設定して、自ら調べて、そして自らその答えを出す努力を一年間心がけてほしい。そのために、授業ではできるだけ自分で追加的に学習できるように詳しいレジュメを毎回配布し、加えて関係資料と参考文献を配布することとしたい。なお、年間計画として、1と2を前期、3、4、5を後期に扱う。

[]

[]

## 【授業計画】

## 春期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	年間授業の概要
第2回	国際政治学のアジェンダ	課題群の解説と第一のテーマの説明
第3回	1 戦争と平和 - 導入	国際政治の由来の説mネイ
第4回	アジェンダ2-1 近代国家と国家間政治	最初にして最大の課題、戦争について
第5回	アジェンダ2-2 安全保障のジレンマ	絵の検討
第6回	アジェンダ2-3 善保障政策-現実主義	リアリズム
第7回	アジェンダ2-4 善保障政策-自由主義	リベラリズム
第8回	アジェンダ3-1 南北問題とは	南北問題の概説
第9回	アジェンダ3-2 差を生み出す仕組み	南北問題の理論
第10回	アジェンダ3-3 差とどう向き合うか	対応その1
第11回	アジェンダ3-4 相互依存とその衝撃	対応その2
第12回	アジェンダ4 環境問題と持続可能な発展	環境 対応その3
第13回	アジェンダ5 人の国際化	人権 人権と国際政治
第14回	アジェンダ6 人の安全保障	人間 なぜ非伝統的安全保障論か
第15回	前半のまとめ	総括
第16回	質疑応答	前半の総括
第17回	国際政治の方法1	導入 方法論の1
第18回	方法2-1	権 力の政治 その2

第18回	方法2-2	勢	その3
第19回	方法2-3	覇	その4
第20回	方法2-4	地	その5
第21回	方法2-5	機	その6
第22回	方法2-6	政	その7
第23回	国際政治の主体1	導入	主体
第24回	主体2-1	国	その1
第25回	主体2-2	国	その2
第26回	主体2-3	超	その3
第27回	主体2-4	超	その4
第28回	主体2-5	地	その5
第29回	主体2-6	非	その6
第30回	むすび-日本、アジア、そして世界	全体	のまとめ

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

世界での出来事を「他人事」としないで、自分にどうかかわりを持つかを常に考える癖をつけてもらいたい。そのうえで、仮に自分が当該出来事の当事者で得れば、どのように考え、どのように行動するかをシミュレーションする場にしてほしい。

## 【テキスト】

テキストは特に指定しないが、講義の進行に即して参考文献を提示する。なお、差し当たり以下のものを参照されたい。

1. カント、宇都宮芳明訳『永遠平和のために』岩波文庫
2. ジュール・ヴェルヌ、波多野完治訳『十五少年漂流記』新潮社
3. ジョセフ・ナイ・ジュニア、田中・村田訳『国際紛争』有斐閣、2002年
4. 鈴木佑司・後藤一美編著『グローバリゼーションとグローバルガバナンス』法政大学出版社、2009年
5. John Baylis and Steve Smith ed., The Globalization of World Politics, 4th edition, Oxford University Press, 2008

## 【参考書】

授業の進行に合わせて提示する。

## 【成績評価基準】

前期末に課題を示してレポートを提出する。年度末に期末試験を行い、両方で採点する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

資料に頼りすぎないこと。また、疑問点は必ずその場、その場で解決するようにすること。

## 【学生が準備すべき機器他】

時々パワーポイントを使用するが、基本的にはレジュメと資料のハンドアウトの配布とする。

## 【その他】

授業を一つのきっかけとして、関心あるテーマや人物について、やや突っ込んだ検討をするようにしてほしい。



## 自然環境論Ⅳ

黒田 大三郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

生物多様性は、人間の存続基盤として有用かつ不可欠であり、その保全と持続可能な利用の実現は重要な社会的課題となっていますが、一方で人間活動の影響を受け、その損失が急激に進行しています。

本講義では、自然環境について概説するとともに、生物多様性条約、ラムサール条約・世界遺産条約などの条約や関連国内制度、内外の対応事例、国際的潮流等を解説し、これらを通じて生物多様性に関して個人・企業・行政・社会がどのように行動すべきかを整理して考える方法を身につけることができます。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

自然環境の現状及び生物多様性に関する潮流、課題等について授業計画に従って講義します。適宜、スクリーンに講義の要点、参考図表、動植物の写真等を示して解説します。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義の進め方。生物進化の過程	地球の歴史と生物の進化の過程を概観する。
第2回	日本の自然環境	地球と日本の自然環境の現状・特徴を分析する。
第3回	日本の植生	自然植生や日本の代表的森林帯の分布と森林構造を学ぶ。
第4回	日本の動物Ⅰ	日本に生息する哺乳類の生息状況を知り、対応策を考える。
第5回	日本の動物Ⅱ	日本に生息する鳥類の生息状況を知り、対応策を考える。
第6回	海域の自然環境	日本の周囲の海洋と海洋性生物について学ぶ。
第7回	絶滅危惧種・外来種対策	種の保存法、ワシントン条約、外来種、外来生物法を学ぶ。
第8回	生態系の保全	生態系概念、食物連鎖、生態系の基本構造を考える。
第9回	保護地域制度	国立・国定公園、鳥獣保護区等日本の保護地域制度を学ぶ。
第10回	保護地域条約	ラムサール条約、世界遺産条約について学ぶ。
第11回	生物多様性条約	生物多様性概念と生物多様性条約について考える。
第12回	生物多様性国家戦略	生物多様性国家戦略、生物多様性基本法を学ぶ。
第13回	生物多様性の持続可能な利用	自然資源の持続的管理、SATOYAMAイニシアティブについて考える。
第14回	遺生物多様性の持続可能な利用	地方自治体、ビジネス界における生物多様性の取組を学ぶ。
第15回	カルタヘナ議定書・ABS議定書	遺伝子組換え生物の規制及び遺伝資源利用の利益配分を学ぶ。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

「生物多様性国家戦略2010」の通読を勧めます。

博物館、動物園、水族館、植物園などを見学し、生物に対する体系的理解を深めてください。

日常生活において身近な動植物や自然に関心を持ち、あるいは公園、里山、山岳や海辺などに出かけて自然を観察・体感してください。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考書】

生物多様性国家戦略2010(環境省編：ビオシティ刊)

環境白書(平成21年度版)(環境省編：日経印刷刊)

生物多様性100問(福岡伸一監修・盛山正仁著 木楽舎刊)

その他講義時に紹介します。

### 【成績評価基準】

1) レポート、出席状況、小テストによる総合評価です。

2) 小テストは、各回講義内容の習得度を確認する簡易なテストです。(不定期実施)

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター及びスクリーン(パワーポイントを使用)

### 【その他】

1) 所定の出席カードを提出してもらいます。

2) 講義中は、静謐(せいひつ)の保持を求めます。

3) レポートは、自分自身の考えを簡潔明瞭に表現してください。

## ミクロ経済学 I

金城 盛彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

完全競争市場下の「財の価格や取引量」の決定メカニズムの学習を通じ、家計や企業等、個別経済主体の合理的選択行動を理解します。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

配布資料や板書、講義中の質疑応答で授業を進める。環境経済学のテーマも織り交ぜる。中学レベルの数学（「線形関数・グラフ」等）を用いる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ①	講義のガイダンスと、ミクロ経済学とは何かを中心に講じる。
第 2 回	プロローグ②	前回に続き、ミクロ経済学とは何かを中心に講じる。
第 3 回	家計の消費行動①	家計（消費者）の「効用最大化原理」について（家計の予算制約、効用と無差別曲線）を中心に講じる。
第 4 回	家計の消費行動②	前回に続き（最適消費の決定、所得と消費（「正常財」と「下級財」は除く））を中心に講じる。
第 5 回	家計の消費行動③	前回に続き（価格と消費（「ギッフェン財」、「交差効果」は除く））を中心に講じる。
第 6 回	環境経済学への応用①-1	「公共財の市場最適供給（制御）」を中心に講じる。
第 7 回	環境経済学への応用①-2	前回に続き「公共財の市場最適供給（制御）」を中心に講じる。
第 8 回	企業の供給行動①	生産者の「利潤最大化原理」について（インプットとアウトプット、生産要素の最適投入）を中心に講じる。
第 9 回	企業の供給行動②	前回に続き（短期・長期費用、利潤最大化と最適生産）を中心に講じる。
第 10 回	企業の供給行動③	前回に続き（短期供給曲線と長期供給曲線）を中心に講じる。
第 11 回	環境経済学への応用②	「共有地の悲劇」を中心に講じる。
第 12 回	完全競争市場の効率性①	完全競争市場の効率性について（完全競争市場の均衡、経済余剰と市場の効率性、合理的な経済人）を中心に講じる。
第 13 回	完全競争市場と効率性②	前回に続き（市場と需要・供給、市場の均衡、簡単な応用例）を中心に講じる。
第 14 回	完全競争市場と効率性③	前回に続き（効率性の基準：パレド最適、パレド最適な資源配分の条件（市場均衡の安定性）に関する説明は除く）を中心に講じる。
第 15 回	エピローグ	総括と「ミクロ経済学Ⅱ」等、発展学習について紹介。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

自作資料の多くは【参考書】①を基に作成され、事前にアップ・ロードされるので、予習し疑問点を予め明確にし講義に臨むとよい。

### 【テキスト】

自作資料（入手方法は後述）

### 【参考書】

①嶋村紘輝・佐々木宏夫編『入門ミクロ経済学』中央経済社（※参考文献は必ずしも必要ではない）。

### 【成績評価基準】

期末に定期試験を行う。レポートの可能性もある。問題の難易等を踏まえ、総合的に成績をつける。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

経済系以外学生には難しいかもしれない。履修登録の前に授業に参加し、自身で履修の判断をして欲しい。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜、プロジェクターなどを用いる。

### 【その他】

資料は <http://cid-e70210fa5b9d2b44.skydrive.live.com/home.aspx> にアップ・ロードする。プリント・アウトの上で出席すること。閲覧 Password は、開講時に告知する。

## 研究会 (通年)

## 梶 裕史

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

【テーマ】「文化的景観」とエコツーリズム：「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、広義のエコツーリズムや「観光文化」、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、個別の現地訪問を通じて事例研究をおこなう。

【到達目標】「五感尊重の環境教育やまちづくり」「無形の（目に見えない）宝物」などのキーワードを意識しながら、「よい（美しい）景観」とは何か、エコツーリズムとは何か、といったことについて、世間一般の表面的なイメージを越えて、旅の実地調査を通じて考察し、どんな地域でも潜在的に可能性をもつことを実感的につかむ。また、一見「環境」というテーマと関係が薄そうな事柄も、大いにエコにかかわるという柔軟な視野を養う。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

一年の流れは授業計画参照。現地訪問（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する。グループ研究も可）は、都会も含めて身近な地域を選んでも構わないし、特定の地域に限定されないテーマ（例えば、日本人とある動物との関わり など）も想定可。訪問期は、夏休み他、通年設定可能。教室では、各自の調査についての発表・披露が中心になるが、「五感」「無形のもの」「目に見えないもの」など、重要なキーワードをめぐって、随時グループワークも行う。例年夏に、親睦をはかるゼミ合宿が企画されている。なお金曜5限Aゼミとは、卒業時に修了論文を書く資格の有無以外は、レベル・内容に差はない。

[]

[]

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	昨年度の研究成果発表 ①、意見交換	研究発表は1人10～15分程度、1回につき1～2名。
第3回	①に関連するグループワーク（GW）	前回発表の中でのポイントに沿ったテーマ設定。
第4回	昨年度の研究成果発表 ②、意見交換	第2回に同じ。
第5回	②に関連するGW、現地訪問の個別構想情報交換（1）	第3回に同じ。
第6回	昨年度の研究成果発表 ③、意見交換	第2回に同じ。
第7回	③に関連するGW	第3回に同じ。
第8回	昨年度の研究成果発表 ④、意見交換	第2回に同じ。
第9回	④に関連するGW、現地訪問の個別構想情報交換（2）	第3回に同じ。
第10回	昨年度の研究成果発表 ⑤、意見交換	第2回に同じ。
第11回	⑤に関連するGW	第3回に同じ。
第12回	昨年度の研究成果発表 ⑥、意見交換	第2回に同じ。
第13回	現地訪問の個別構想情報交換（3）	テーマやフィールドの性格に共通性がある学生同士は互いに協力することを考える。
第14回	小フィールドスタディ（神楽坂等の夏の祭り）	90分以内で学べるフィールドを選ぶ。
第15回	ゼミ合宿	個別の現地訪問計画書提出
通年	テーマ	内容
第16回	現地訪問成果の中間報告 ①、意見交換	研究発表は1人10～15分程度、1回につき1～2名。
第17回	①に関連するGW	第3回に同じ
第18回	現地訪問成果の中間報告 ②、意見交換	第16回に同じ
第19回	②に関連するGW	第3回に同じ
第20回	現地訪問成果の中間報告 ③、意見交換	第16回に同じ
第21回	③に関連するGW	第3回に同じ

第22回	現地訪問成果の中間報告 ④、意見交換	第16回に同じ
第23回	④に関連するGW	第3回に同じ
第24回	現地訪問成果の中間報告 ⑤、意見交換	第16回に同じ
第25回	⑤に関連するGW	第3回に同じ
第26回	現地訪問成果の中間報告 ⑥、意見交換	第16回に同じ
第27回	⑥に関連するGW、4年生による自主就活セミナー	第3回に同じ
第28回	学年末論文の構想発表 (タイトル・要旨・仮目次等)	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第29回	小フィールドスタディ (年末の街のイベント)	第14回に同じ。
第30回	一年の総括と年始街歩き	論文作成の最終アドバイス

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各自、現地訪問の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に前期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

## 【テキスト】

特に指定なし。

## 【参考書】

授業のなかで紹介します。

## 【成績評価基準】

出席、発表内容、学年末論文、ゼミという組織の中での協調性・貢献度、等々の総合評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 国際経済協力論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。この講義では、国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取組みを中心に、経済協力の歴史や仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力とは。	国際経済協力とはどのような取組みか、またなぜそのような取組みが必要とされているのかについて理解する。
第 2 回	国際社会と経済協力の歴史 (1) (1945 年～1960 年代)：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取組みについて概観する。
第 3 回	国際社会と経済協力の歴史 (2) (1970 年～1980 年代)：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第 4 回	国際社会と経済協力の歴史 (3) (1990 年代～現在)：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化における経済協力の位置づけを概観する。
第 5 回	日本の経済協力の歩み (1)：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第 6 回	日本の経済協力の歩み (2)：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取組みについて、1950 年代～1970 年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第 7 回	日本の経済協力の歩み (3)：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取組みについて 1980 年代～2000 年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第 8 回	経済協力の仕組みと方法 (1)：無償資金協力和技術協力を中心に	日本の経済協力の仕組みと現状 (特徴) につき、統計資料などをもとに理解する。特に無償資金協力和技術協力の概略と特徴を知る。
第 9 回	経済協力の仕組みと方法 (2)：円借款 (有償資金協力を) を中心に	日本の経済協力の仕組みと現状 (特徴) につき、統計資料などをもとに理解する。特に日本の経済協力の特色である、円借款 (有償資金協力的) の概略と特徴を知る。
第 10 回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府 (「官」) ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第 11 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ (1)：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略 (アプローチ) の変遷を通じて理解する。
第 12 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ (2)：持続可能な開発と環境	環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。

第 13 回	経済協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第 14 回	日本が経済協力を行う理由	日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。
第 15 回	まとめ	講義全般の復習を通じて、国際社会や日本の経済社会状況の変化と経済協力の関係をあらためて確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

## 【参考書】

斎藤文彦 (2005 年) 『国際開発論』 (日本評論社)  
下村恭民他 (2009 年) 『国際協力 (新版)』 (有斐閣)  
外務省 (毎年発行) 『日本の国際協力』 (ODA 白書)

## 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 人間環境学入門

岡松 暁子、梶 裕史、田中 勉

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、垣根を越えた領域融合の発想と協働の必要性を理解するとともに、多様なアプローチの中でどんな分野を特に学びたいか、何が自分に適性があるか、自分の学びの軸を考えるための新鮮な啓発の機会とする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（1回毎に担当者が異なる）により、学部の4つのコース（環境経営・地域環境・国際環境・環境教養）に従って、環境問題へのアプローチの例題を設定して講義する。なお事情により、【授業計画】各回の内容は変更になることがある。

[]

[]

## 【授業計画】

前期	テーマ	内容
第1回	ガイダンス(人間環境学とは何か)	環境問題の「学際性」と、それに対応した学部カリキュラム、「コース制」の説明等。
第2回	大学における学びの作法(1)	薬物防止レクチャー、学生生活全般等
第3回	大学における学びの作法(2)	授業の聴き方 ノートの取り方 等
第4回	環境経営コースから考える環境問題(1)	導入、啓発に好適な1回完結の例題を選んで講義する。
第5回	環境経営コースから考える環境問題(2)	同上
第6回	地域環境コースから考える環境問題(1)	同上
第7回	地域環境コースから考える環境問題(2)	同上
第8回	地域環境コースから考える環境問題(3)	同上
第9回	国際環境コースから考える環境問題(1)	同上
第10回	国際環境コースから考える環境問題(2)	同上
第11回	国際環境コースから考える環境問題(3)	同上
第12回	環境教養コースから考える環境問題(1)	同上
第13回	環境教養コースから考える環境問題(2)	同上
第14回	環境教養コースから考える環境問題(3)	同上
第15回	人間環境学 入門から実践へ	全体の総括。後期へのつなぎの意識付け

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回、前回の講義との「つながり」を考え、「学際性」の意味を具体的に実感することに努めること。

## 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

## 【参考書】

各回の講義において、関連する基礎文献を紹介する。

## 【成績評価基準】

各コース単位の試験問題の評価の総合点。出席点も加味する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

本科目は、一年次の必修科目である。A～Dクラスは1時限目に、E～Hクラスは6時限目に登録・履修すること。なお再履修する方は自分のクラスの時に登録・履修すること。

## 研究会(通年)

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本研究会のテーマは「人間生活圏の気象」であり、到達目標は以下の3点とする。

1. 人の生活と気象とのかかわりを説明できる。
2. 様々な気象の特徴やしくみについて説明できる。
3. 気象に表れる環境問題について説明できる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

気象は私たちにとって身近なものであり、私たちが地表で生活し、社会的・経済的活動を展開している限りは必然的に付き合っゆく存在である。その一方で、通常は人間が触ることがない極限環境での気象もある。本研究会では、主として、前者の人間生活圏である地表付近で起こる気象について、基礎からゆっくりと勉強する。テキストを2冊ほど選び、各自の担当部分を決めて前期は1冊目を、後期は2冊目を輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テキスト(1)の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第16回	テキスト(2)の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第17回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第18回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第19回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第20回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第21回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第22回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第23回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第24回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第 25 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 26 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	10 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 27 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	11 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 28 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	12 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 29 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	13 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 30 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	14 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

第 1～30 回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

**【テキスト】**

授業時に指定する。

**【参考書】**

適宜、紹介する。

**【成績評価基準】**

発表（40％：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への達成度）、議論（60％：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への達成度）により評価する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

皆で議論をしながら、一緒に勉強してゆきましょう。

**研究会（通年）****井上 奉生**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

この研究会では、我々を取り巻いている大なり小なりの環境問題をテーマとする。

最終的には研究会論文作成まで実施する。

**【授業の到達目標】**

【

**【授業の概要と方法】**

受講決定次第（5月初め）までに各自でテーマを設定する。（3・4年生でテーマが決まっている場合はこの限りではない）。その場合、目的、方法等を受講者全員で論文作成まで進行可能か否かを徹底討議する。現地調査や文献資料収集は夏季休暇中に集中して実施し、論文作成完了は 12 月を目処とする。なお、各回の発表者は各自それぞれ当日の発表分についてレジュメを作成し一週間前までに全員に配布のこと。

【

【

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会活動概要の説明
第 2 回	討議（1）	テーマ設定の討議
第 3 回	討議（2）	テーマ設定の討議
第 4 回	発表（1）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 5 回	発表（2）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 6 回	発表（3）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 7 回	発表（4）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 8 回	発表（5）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 9 回	発表（6）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 10 回	発表（7）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 11 回	発表（8）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 12 回	発表（9）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 13 回	発表（10）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 14 回	発表（11）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 15 回	前期の総括	前期のまとめ・合宿のテーマ等
第 16 回	発表（12）	各自の夏季休暇中の達成度発表
第 17 回	発表（13）	各自の夏季休暇中の達成度発表
第 18 回	発表（14）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 19 回	発表（15）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 20 回	発表（16）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 21 回	発表（17）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 22 回	発表（18）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 23 回	発表（19）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 24 回	発表（20）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 25 回	発表（21）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 26 回	発表（22）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 27 回	発表（23）	各自のテーマ発表・質疑応答
第 28 回	論文発表（1）	研究会論文発表
第 29 回	論文発表（2）	研究会論文発表
第 30 回	総括	一年間のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

夏季休暇中に実施する合宿（グループ毎の共通テーマ）。

**【テキスト】**

特に無し

**【参考書】**

各自で学会誌等を検索し参考にする。

教員が指示する場合もある。

**【成績評価基準】**

研究会という性格上、出席（8割以上）、レジュメの質、討論、会の運営に対する貢献等は単位取得の重要なポイントとなる。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

**衛生・公衆衛生学 I**

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

衛生公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学と技術である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

授業の到達目標およびテーマ、に記載

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え
第 2 回	予防医学の基本的概念	予防医学の基礎について
第 3 回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第 4 回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患 生活習慣病の予防について ビデオ鑑賞
第 5 回	喫煙の健康影響	タバコの害、法的規制、社会の取り組み、禁煙について
第 6 回	アルコールの健康影響	アルコールの健康被害について ビデオ鑑賞
第 7 回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会 健康問題
第 8 回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題について
第 9 回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第 10 回	生命倫理①	安楽死、尊厳死
第 11 回	生命倫理②	臓器移植
第 12 回	職場におけるヘルスケア	過重労働と過労死
第 13 回	職場におけるメンタルヘルスケア	過労自殺
第 14 回	感染症	性感染症・食中毒
第 15 回	授業内試験	試験実施

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

講義後に復習をする。

**【テキスト】**

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

**【参考書】**

開講時に指定する

**【成績評価基準】**

期末試験を最終講義日に授業内で行う。持ち込みは不可。原則として出席はとらないが、感想文などを求めることがある。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****自然環境論 I**

井上 奉生

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

本講義は人類の生活舞台である地球の自然環境を構成する要素のうち、以下の授業計画に示す各項目について、その形成過程、地域の特徴等を平易に解説する。また、これらの諸要素は個々バラバラにあるのではなく、相互に密接な有機的関連をもちながら地球上に様々な自然環境地域をつくり出していることと、災害等、人間の生活に密接な諸関係項目についても言及する

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

「授業の到達目標及びテーマ」に記載

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	地球について	地球に関する諸元、地球観の変遷
第 2 回	大気について（1）	大気の組成、大気の鉛直分布、気圧、気団、前線 等
第 3 回	大気について（2）	大気の大循環、様々な風、日本および世界の気候、温暖化の影響
第 4 回	地形をつくる作用（1）	内的営力（地殻変動）等
第 5 回	地形をつくる作用（2）	外的営力（河川、湖沼、地下水、氷河、風）等
第 6 回	火山	地球上の分布、噴出物、形態 等
第 7 回	地震	P 波、S 波、マグニチュード、震度、活断層 等
第 8 回	地質・岩石	日本の地質、堆積岩、火成岩、深成岩、石英の含有量による分類 等
第 9 回	土壌	世界および日本の土壌、土壌の生成過程、生成因子 等
第 10 回	植生	世界および日本の植生分布、自然植生、代償植生、植生遷移 等
第 11 回	動物	地理的分布、日本の外来種、絶滅種 等
第 12 回	自然と生活（1）	開発と自然環境の変貌
第 13 回	自然と生活（2）	災害と防災
第 14 回	総括（1）	第 1 回～第 7 回までの総括
第 15 回	総括（2）	第 8 回～第 13 回までの総括

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

適宜、授業において指示する。

**【テキスト】**

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

**【参考書】**

適宜、参考書は紹介する。

**【成績評価基準】**

期末試験

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

各項目に関係するトピックのニュースがあった場合には内容を変更することもある。

地図帳を持参すること。

配布したプリントはファイルして忘れず必ず持参すること。

## 環境人類学Ⅰ

安田 章人

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

当講義の最終的な目的は、今日の喫緊の課題である地球環境問題を人類学的に理解するための視座を身につけることにある。それは、第一に、人間社会と生態環境との関係史を理解するためのマクロな視座、第二に、地域生態系との具体的な関係のなかで営まれている人々の「日常的な生活実践」に注目したミクロな視座である。当講義では、マクロな視座とミクロな視座の両方に必要となる、人類学および環境学の基礎的な概念と知識を身につけることが到達目標となる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

<一>われわれ人類の生物的側面・進化的特徴に焦点をあてるとともに、生態系・生物多様性のしくみを説明し、生態系におけるヒトとその他の生物との関係を解説する。<二>狩猟採集、農耕、牧畜、漁労といった生業活動を基盤としている社会とその文化をとりあげ、人間社会の多様性について解説する。<三>物質文明や技術の発展、食料生産などについてとりあげ、人類と（野生）生物の関係の歴史および今日的課題を解説する。  
講義は、基本的にプレゼンテーション形式でおこない、適宜、映像資料などを用いておこなう。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	当講義の日程および事務的連絡をおこなう。
第2回	序論－環境学と人類学－	当講義の出発点として、環境学および人類学の研究史についての説明をおこなう。
第3回	生態系と生物多様性	生態系および生物多様性について説明し、生態系の中にヒトを位置づける基礎的情報を解説する
第4回	生態系のなかのヒト	生態系におけるヒトの位置づけを、現代社会の問題と絡めて解説する
第5回	生物多様性保全	今日的な問題である生物多様性保全を取り上げ、その内実と人間社会との関係について解説する
第6回	狩猟採集社会の生活と環境	アフリカなどに生活する狩猟採集民の生活と彼らを取り巻く環境について解説する
第7回	農耕社会の生活と環境	世界各地に分布する農耕民の生活と彼らを取り巻く環境について解説する
第8回	牧畜社会の生活と環境	アフリカを中心とした牧畜民社会の生活と彼らを取り巻く環境について解説する
第9回	漁労社会の生活と環境	海洋および河川環境で漁労を生計の基盤としている人々の生活と環境について解説する
第10回	都市生活とグローバリゼーション	現代の我々の多くが生活している都市における生活と、特に食料のグローバリゼーションについて解説する
第11回	農耕化・栽培化	我々人類はいかにして野生植物を栽培化し、農耕を発展させてきたのか、その人類史を解説する
第12回	家畜化	食料生産において、農耕化と並んで重要な事項である家畜化の歴史について解説する
第13回	狩猟と肉食	多様な動機からおこなわれる狩猟および、我々が普段口にしている食肉について、現代社会の問題と絡めて解説する
第14回	結論	上記の講義内容を通して、ヒトと生態系、人類と地球環境の関係を人類学および環境学的視座から総括する。
第15回	試験	これまでの講義内容をもとにした論述試験をおこなう

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

自然科学、社会科学を問わず、地球環境問題に関する文献を渉猟すること。また、普段から新聞などに目を通し、メディアで取り上げられる地球環境問題に関する話題に精通しておくこと。広義に人と自然、人と野生生物の問題に関する研究集会に参加し、知見を広めること。

## 【テキスト】

特定の教科書はなし。参考文献は多数あるため、講義中に適宜提示する。

## 【参考書】

特定の教科書はなし。参考文献は多数あるため、講義中に適宜提示する。

## 【成績評価基準】

期末試験（70点）

出席および授業後に提出するコメントカード（30点）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

履修対象は2～4年とするが、3年次以降での履修を推奨する。ひきつづき環境人類学Ⅱを履修することを想定している。高校の地理・世界史・生物の知識をもち、さらに市ヶ谷基礎科目のうち本講義の内容と関連のあるもの（文化人類学、地理学、社会学、西洋史など）を履修しておくか、並行して履修することが望ましい。



## 英語 I（スキルアップ科目）

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたリスニングやロールプレイなどのアクティビティを行なう。木曜 3 限・4 限は同一内容。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレーティングに関する表現を学ぶ。レーティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Opening a Bank Account	ビジネスマンが銀行口座を開設する際の表現を学ぶ。
第 8 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 9 回	「海外赴任編」 Asking the Neighbor about Grocery Stores	隣人に近隣の食料品店について尋ねる際の表現を学ぶ。
第 10 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 11 回	応用アクティビティ 1	10 回までに学習した内容からグループ別に課題を設定し、英語でチャットを行なう。
第 12 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。次週アフレコの課題説明。
第 13 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコシミュレーション。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。応用アクティビティのチャットとアフレコには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

## URL

<http://www.mpaa.org/>

<http://www.ox.ac.uk/gazette/>

<http://www.sainsburys.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をとっても重視する。）

参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（4群必修）

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたリスニングやロールプレイなどのアクティビティを行なう。木曜3限・4限は同一内容。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第1回目の授業には必ず出席すること。第1回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜。
第2回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第3回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第4回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第5回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレイティングに関する表現を学ぶ。レイティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第6回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第7回	「海外赴任編」 Opening a Bank Account	ビジネスマンが銀行口座を開設する際の表現を学ぶ。
第8回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第9回	「海外赴任編」 Asking the Neighbor about Grocery Stores	隣人に近隣の食料品店について尋ねる際の表現を学ぶ。
第10回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第11回	応用アクティビティ 1	10回までに学習した内容からグループ別に課題を設定し、英語でチャットを行なう。
第12回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。次週アフレコの課題説明。
第13回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコシミュレーション。
第14回	期末試験	13回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第15回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。応用アクティビティのチャットとアフレコには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

## URL

<http://www.mpaa.org/>

<http://www.ox.ac.uk/gazette/>

<http://www.sainsburys.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をとっても重視する。）

参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（4 群選択）

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたリスニングやロールプレイなどのアクティビティを行なう。木曜 3 限・4 限は同一内容。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレーティングに関する表現を学ぶ。レーティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Opening a Bank Account	ビジネスマンが銀行口座を開設する際の表現を学ぶ。
第 8 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 9 回	「海外赴任編」 Asking the Neighbor about Grocery Stores	隣人に近隣の食料品店について尋ねる際の表現を学ぶ。
第 10 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 11 回	応用アクティビティ 1	10 回までに学習した内容からグループ別に課題を設定し、英語でチャットを行なう。
第 12 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。次週アフレコの課題説明。
第 13 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコシミュレーション。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスをを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。応用アクティビティのチャットとアフレコには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

## URL

<http://www.mpaa.org/>

<http://www.ox.ac.uk/gazette/>

<http://www.sainsburys.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をとっても重視する。）

参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 研究会 (通年)

後藤 彌彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ 行政、国会の仕組み

行政法を違う角度から学び、その補完を行うことにより、行政法の克服へ資する。行政に関わることの多い現代社会に生きるための基本的な知識が修得できる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

行政府（内閣等）と立法府（国会）の仕組みを概観することにより、法律がどのように作られ、どのように執行されるかを学び、「行政法の基礎」とは違った角度からその補完を行う。

したがって、行政法を学びたい者が対象となるが、「行政法の基礎」を受講した者でさらに行政法を学びたい者を優先する。公務員志望者の参加を歓迎する。授業は教材（テキスト、プリント）による講義と参加者の発表により進める。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	オリエンテーション
第 2 回	教材による講義	行政①内閣
第 3 回	教材による講義	行政②内閣総理大臣
第 4 回	教材による講義	行政③議院内閣制
第 5 回	教材による講義	行政④行政組織
第 6 回	教材による講義	行政⑤地方公共団体
第 7 回	事例発表	学生による発表と討論
第 8 回	事例発表	学生による発表と討論
第 9 回	事例発表	学生による発表と討論
第 10 回	事例発表	学生による発表と討論
第 11 回	事例発表	学生による発表と討論
第 12 回	事例発表	学生による発表と討論
第 13 回	事例発表	学生による発表と討論
第 14 回	まとめ	授業の総括
第 15 回	まとめ	授業の総括
第 16 回	教材による講義	国会①選挙
第 17 回	教材による講義	国会②任務
第 18 回	教材による講義	国会③政策立案
第 19 回	教材による講義	国会④サポーター
第 20 回	教材による講義	国会⑤政党
第 21 回	教材による講義	国会⑥法律の成立
第 22 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 23 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 24 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 25 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 26 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 27 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 28 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 29 回	まとめ	授業の総括
第 30 回	まとめ	授業の総括

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教材を予習する

事例、レポート発表のために、準備する

## 【テキスト】

まず、法学ナビゲーション（有斐閣アルマ）を用いる

## 【参考書】

その都度 紹介する

## 【成績評価基準】

出席、発表、討議の状況により評価する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 12 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、プレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが求められている。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（10）	同上（10）
第 13 回	同上（11）	同上（11）
第 14 回	同上（12）	同上（12）
第 15 回	前期のまとめ	前期のまとめ
第 16 回	ガイダンス	後期の発表日程及びテーマの決定
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1、3）	研究発表とディスカッション
第 18 回	同上（14）	同上（14）
第 19 回	同上（15）	同上（15）
第 20 回	同上（16）	同上（16）
第 21 回	同上（17）	同上（17）
第 22 回	同上（18）	同上（18）
第 23 回	同上（19）	同上（19）
第 24 回	同上（20）	同上（20）
第 25 回	同上（21）	同上（21）
第 26 回	同上（22）	同上（22）
第 27 回	同上（23）	同上（23）
第 28 回	同上（24）	同上（24）
第 29 回	同上（25）	同上（25）
第 30 回	1 年のまとめ	1 年のまとめ

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

## 【テキスト】

開講時に指定します

**【参考書】**

特になし

**【成績評価基準】**

前期、後期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

**研究会 (通年)**

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

\* Mass Media Research \*

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and mass communication models. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. That is, little of what people know about the world and events in it comes from their direct observation and personal experience – much more comes from what people are told or shown by other people, and by the mass media. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of Mass Media Research
第 2 回	Mass Media & Society	Mass communication vs. mass media / Mass media industries
第 3 回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第 4 回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theory / Development of mass media effects theories
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes
第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively
第 14 回	Class Presentations and Feedback I	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

第 15 回	Class Presentations and Feedback II	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 16 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 17 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 19 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 22 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data
第 25 回	Method	Data Collection / Entry data
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 27 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 28 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data
第 29 回	Class Presentations and Feedback I	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic.
第 30 回	Class Presentations and Feedback II	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic.

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress.

#### 【テキスト】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

#### 【参考書】

Shirley, Biagi (2009). *Media/Impact: An Introduction to Mass Media* Wadsworth: Thomson.

#### 【成績評価基準】

1st semester: Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a take-home exam and a written assignment.

2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals, a summary of literatures, a group presentation and a group research paper.

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会（通年）

### 西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本研究会では、〈人〉と〈環境〉との関わり方を見つめ直し、その関係性の再構築を目指すためのさまざまな実践に着目した調査研究を実施する。フィールドは、首都圏近郊の都市農業および多摩川流域の市民活動を対象とする。この調査研究により、実証的な研究の手法を学びながら、地域社会における〈人〉と〈環境〉のかかわり、その再編の可能性といった実践的な課題解決を探る。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

本授業は 3 つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と閉講しながら、都市農業、河川流域の市民活動の現地視察等を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションの実施。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第 2 回	文献購読 (1)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 3 回	文献購読 (2)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 4 回	文献購読 (3)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 5 回	文献購読 (4)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 6 回	文献購読 (5)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 7 回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第 8 回	調査グループの設定、テーマの選定 (1)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 9 回	調査グループの設定、テーマの選定 (2)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 10 回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第 11 回	調査準備・予備調査 (1)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 12 回	調査準備・予備調査 (2)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 13 回	調査準備・予備調査 (3)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 14 回	調査準備・予備調査 (4)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 15 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第 16 回	各グループにおける調査 (1)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 17 回	各グループにおける調査 (2)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 18 回	各グループにおける調査 (3)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 19 回	各グループにおける調査 (4)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。

第 20 回	各グループにおける調査 (5)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 21 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第 22 回	各グループにおける調査 (6)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 23 回	各グループにおける調査 (7)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 24 回	各グループにおける調査 (8)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 25 回	各グループにおける調査 (9)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 26 回	各グループにおける調査 (10)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 27 回	グループの発表・報告書作成 (1)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 28 回	グループの発表・報告書作成 (2)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 29 回	グループの発表・報告書作成 (3)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 30 回	グループの発表・報告書作成 (4)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

関連文献の講読、フィールドワーク

**【テキスト】**

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書

**【参考書】**

随時、指定する

**【成績評価基準】**

出席、参加姿勢（平常点）を重視するが、プレゼンテーション、論文による総合評価を行う。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

## 地方自治論 I

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

この講義では、地方自治の基本的考え方とともに、地方自治の制度、現代の地方自治の動向について検討を進めていく。地域レベルの環境政策を理解し、実際に政策を構想するためには、地方自治の知識は不可欠である。したがって、この講義の到達目標は、自治体環境政策の前提となる地方自治の基礎を習得し、また、報道や社会生活などを通して日常的に接する現代の地域社会に関する幅広い事象を読み取る力を身につけることである。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

この講義では、まず地方自治の考え方について、基礎概念や歴史・理論を通して検討する。さらに主として自治体の環境政策との関連性に留意しながら、地方自治の基本制度とその動向について検討する。次に国と地方の政府関係の構造について、中央集権と地方分権を取り上げ、改革の推移をみていく。その際、地方財政についても言及する。最後に、市民に対して責任を負い、地域社会において総合的かつ自主的にまちづくりを担う「市民の政府」としての自治体の今後のあり方について、最新の動向とともに検討する。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	「地方自治」とは何か	「地方自治」の概念について検討する。
第 2 回	地方自治の歴史	地方自治の歴史的について地域環境の視点も交えて検討する。
第 3 回	地方自治の理論的根拠	地方自治の正当性について理論的根拠を検討する。
第 4 回	二層制と市町村合併	日本の地方自治の基本構造である二層制を説明した上で、市町村合併による自治体数の減少などについて検討する。
第 5 回	地域間格差と小規模自治体	「平成の大合併」とともに浮上した地域間格差と小規模自治体の現状と課題について、地域環境への影響とともに検討する。
第 6 回	道州制と連邦制	都道府県の再編構想である道州制について、連邦制と対比しながら検討する。
第 7 回	都市特例制度	規模と能力に基づく都市特例制度について、指定都市を中心として検討する。
第 8 回	広域行政の制度	複数の自治体にまたがる広域行政の重要性と制度について、主に環境政策を手がかりとして検討する。
第 9 回	二元代表制	首長と地方議会の関係性について、権力分立と機関対立主義の考え方からみた現状と課題を検討する。
第 10 回	直接民主主義の制度と市民参加	法律に基づく直接請求権と自治体の市民参加システムについて検討する。
第 11 回	政府間関係のモデル	政府間関係と呼ばれる国と自治体の関係に関する理論モデルについて検討する。
第 12 回	中央集権型の政府間関係システム	明治の近代化以来形成されてきた中央集権型の政府間関係システムについて検討する。
第 13 回	地方分権改革	中央集権型の政府間関係システムを転換する地方分権改革の構図と動向について検討する。
第 14 回	自治体の自己改革	「国から地方へ」という地方分権改革に対して、自治体が自ら進めるべき改革について検討する。
第 15 回	分権型社会に向けて	「分権型社会」における地域の総合的な政策主体であり、「市民の政府」としての自治体のあり方について検討する。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

- ・講義内容をより深く理解するため配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・講義で言及した地方自治、現代の地域社会に関する新聞報道などの情報収集に努めること。

**【テキスト】**

特定のテキストは使用しない。

**【参考書】**

開講時および授業中に適宜紹介する。

**【成績評価基準】**

成績は、論述試験（100％）で評価する。そのため、学生には、講義に常時出席し、配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成することを期待する。このことにより、事実関係や学術用語の理解とともに地方自治に関する理論的な思考方法を習得すれば、試験において、一定水準以上の論述は十分可能である。また参考文献等による自己学習で講義を補完すれば、さらに質の高い論述が可能であろう。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

地方自治論Ⅰの関連科目として、市ヶ谷基礎科目の「政治学Ⅰ・Ⅱ」、専門科目の「市民社会と政治」、「行政法の基礎」、「行政学」、さらに、その他の地域環境コースの関連科目（人間環境学部のガイドブックに掲載）などをあわせて履修することが望ましい。

**環境法Ⅲ**

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

個別の公害法、廃棄物法などの国内環境法の内容を学び、環境汚染を防止するための仕組みや政策を把握する。環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識が修得できる。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

公害、廃棄物、リサイクルに関連する主要な法律に関連して、これに対する法の仕組み（規制対象、規制基準、規制を遵守させる仕組み）などの概要を把握するとともに、大気汚染等の状況や廃棄物リサイクルの状況を学び、現行政策の内容と問題点を考える。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	紛争処理と法	豊島の事例と公害紛争処理法
第2回	被害救済と法	公害被害救済法から公害健康被害補償法への発展
第3回	費用負担と法	補償法の費用負担 公害防止事業者負担法の費用負担
第4回	大気汚染防止法Ⅰ	固定発生源の規制
第5回	大気汚染防止法Ⅱ	移動発生源の規制
第6回	その他大気汚染諸法	自動車NOxPM法など
第7回	水質汚濁防止法Ⅰ	工場事業場規制
第8回	水質汚濁防止法Ⅱ	生活排水対策
第9回	その他水質汚濁諸法	瀬戸内法、湖沼法、下水道法など
第10回	地盤沈下、土壌汚染と法	地盤沈下二法 土壌汚染二法
第11回	感覚公害と法	騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法
第12回	廃棄物処理法Ⅰ	一般廃棄物
第13回	廃棄物処理法Ⅱ	産業廃棄物
第14回	リサイクルと法	容器包装リサイクル法など
第15回	まとめ	授業の総括

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

テキスト、プリントを学習する。興味をもった制度を掘り下げて調べてみる。

**【テキスト】**

開講時に指定するテキストとプリントによる。

**【参考書】**

授業内で紹介。

**【成績評価基準】**

定期試験による。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

この講義は、環境法Ⅰの各論にあたる。



## 英語 I (スキルアップ科目)

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4 年 / 1 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたリスニングやロールプレイなどのアクティビティを行なう。木曜 3 限・4 限は同一内容。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレイティングに関する表現を学ぶ。レイティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Opening a Bank Account	ビジネスマンが銀行口座を開設する際の表現を学ぶ。
第 8 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 9 回	「海外赴任編」 Asking the Neighbor about Grocery Stores	隣人に近隣の食料品店について尋ねる際の表現を学ぶ。
第 10 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 11 回	応用アクティビティ 1	10 回までに学習した内容からグループ別に課題を設定し、英語でチャットを行なう。
第 12 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。次週アフレコの課題説明。
第 13 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコシミュレーション。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスをを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。応用アクティビティのチャットとアフレコには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

## URL

<http://www.mpaa.org/>

<http://www.ox.ac.uk/gazette/>

<http://www.sainsburys.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

出席状況 (遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をとっても重視する。)

参加内容 (初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。)

期末試験 (リスニングを含む筆記試験)

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I (4群必修)

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4年 / 1単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたリスニングやロールプレイなどのアクティビティを行なう。木曜 3 限・4 限は同一内容。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレーティングに関する表現を学ぶ。レーティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Opening a Bank Account	ビジネスマンが銀行口座を開設する際の表現を学ぶ。
第 8 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 9 回	「海外赴任編」 Asking the Neighbor about Grocery Stores	隣人に近隣の食料品店について尋ねる際の表現を学ぶ。
第 10 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 11 回	応用アクティビティ 1	10 回までに学習した内容からグループ別に課題を設定し、英語でチャットを行なう。
第 12 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。次週アフレコの課題説明。
第 13 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコシミュレーション。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。応用アクティビティのチャットとアフレコには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

## URL

<http://www.mpaa.org/>  
<http://www.ox.ac.uk/gazette/>  
<http://www.sainsburys.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をとっても重視する。）

参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（4 群選択）

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたリスニングやロールプレイなどのアクティビティを行なう。木曜 3 限・4 限は同一内容。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレーティングに関する表現を学ぶ。レーティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Opening a Bank Account	ビジネスマンが銀行口座を開設する際の表現を学ぶ。
第 8 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 9 回	「海外赴任編」 Asking the Neighbor about Grocery Stores	隣人に近隣の食料品店について尋ねる際の表現を学ぶ。
第 10 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 11 回	応用アクティビティ 1	10 回までに学習した内容からグループ別に課題を設定し、英語でチャットを行なう。
第 12 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。次週アフレコの課題説明。
第 13 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコシミュレーション。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスをを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。応用アクティビティのチャットとアフレコには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

## URL

<http://www.mpaa.org/>

<http://www.ox.ac.uk/gazette/>

<http://www.sainsburys.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をとっても重視する。）

参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 研究会 (通年)

井上 奉生

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この研究会では河川、湖沼、地下水、雪氷等の「陸水」についての環境問題を取り扱い、最終的には論文作成まで実施する。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

受講決定次第（5月初め）までに各自でテーマを設定する。（3・4年生でテーマが決まっている場合はこの限りではない）。その場合、目的、方法等を受講者全員で論文作成まで進行可能か否かを徹底討議する。現地調査や文献資料収集は夏季休暇中に集中して実施し、論文作成完了は12月を日処とする。なお、各回の発表者は各自それぞれ当日の発表分についてレジュメを作成し一週間前までに全員に配布のこと。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会活動概要の説明
第2回	討議（1）	テーマ設定の討議
第3回	討議（2）	テーマ設定の討議
第4回	発表（1）	各自のテーマ発表・質疑応答
第5回	発表（2）	各自のテーマ発表・質疑応答
第6回	発表（3）	各自のテーマ発表・質疑応答
第7回	発表（4）	各自のテーマ発表・質疑応答
第8回	発表（5）	各自のテーマ発表・質疑応答
第9回	発表（6）	各自のテーマ発表・質疑応答
第10回	発表（7）	各自のテーマ発表・質疑応答
第11回	発表（8）	各自のテーマ発表・質疑応答
第12回	発表（9）	各自のテーマ発表・質疑応答
第13回	発表（10）	各自のテーマ発表・質疑応答
第14回	発表（11）	各自のテーマ発表・質疑応答
第15回	前期の総括	前期のまとめ・合宿のテーマ等
第16回	発表（12）	各自の夏季休暇中の達成度発表
第17回	発表（13）	各自の夏季休暇中の達成度発表
第18回	発表（14）	各自のテーマ発表・質疑応答
第19回	発表（15）	各自のテーマ発表・質疑応答
第20回	発表（16）	各自のテーマ発表・質疑応答
第21回	発表（17）	各自のテーマ発表・質疑応答
第22回	発表（18）	各自のテーマ発表・質疑応答
第23回	発表（19）	各自のテーマ発表・質疑応答
第24回	発表（20）	各自のテーマ発表・質疑応答
第25回	発表（21）	各自のテーマ発表・質疑応答
第26回	発表（22）	研究会修了論文達成度発表・質疑応答
第27回	発表（23）	研究会修了論文達成度発表・質疑応答
第28回	論文発表（1）	研究会論文発表
第29回	論文発表（2）	研究会論文発表
第30回	総括	一年間のまとめ

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

夏季休暇中に実施する合宿（グループ毎の共通テーマ）。

## 【テキスト】

特に無し

## 【参考書】

各自で学会誌等を検索し参考にする。

教員が指示する場合もある。

## 【成績評価基準】

研究会という性格上、出席（8割以上）、レジュメの質、討論、会の運営に対する貢献等は単位取得の重要なポイントとなる。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

呉 念聖

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

【中国語文献講読】

中国語の基本を習得した学生を対象に、中国語の文献を読みこなす力を高める訓練をする。中国の新聞、雑誌の一般的な記事なら、辞書を引ながら独力で読むことが出来るレベルへの到達を目指す。テキストは中国の新聞記事、雑誌記事、小説、随筆、ルポルタージュ、映画の台本、相声（中国の漫才）の筆記などを想定している。いろいろなタイプの文章に出会うことも必要なので、年間を通して複数のものを組み合わせることを考えている。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

最初の時間に中国語の文献を読むために必要な工具書、中国語書籍を扱う書店等について紹介する。以後は担当を割り当ててテキストを輪読してゆく。参加者各自が興味をもった文献を探してきて、それを読み合う機会も設けたい。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	工具書、書店の紹介。
第2回	文献講読（1）	教師が用意した時事文献を輪読する。
第3回	文献講読（2）	教師が用意した時事文献を輪読する。
第4回	文献講読（3）	教師が用意した時事文献を輪読する。
第5回	文献講読（4）	教師が用意した時事文献を輪読する。
第6回	文献講読（5）	教師が用意した時事文献を輪読する。
第7回	文献講読（6）	学生の発表。講評。学生が探してきた文献を輪読する。
第8回	文献講読（7）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第9回	文献講読（8）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第10回	文献講読（9）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第11回	文献講読（10）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第12回	文献講読（11）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第13回	文献講読（12）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第14回	文献講読（13）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第15回	文献講読（14）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第16回	文献講読（15）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第17回	文献講読（16）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第18回	文献講読（17）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第19回	文献講読（18）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第20回	文献講読（19）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第21回	文献講読（20）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第22回	文献講読（21）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第23回	文献講読（22）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第24回	文献講読（23）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第25回	文献講読（24）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第26回	文献講読（25）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第27回	文献講読（26）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。
第28回	文献講読（27）	学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。

発行日：2021/6/1

- 第 29 回 文献講読（28） 学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。  
第 30 回 文献講読（29）、まとめ 学生の発表。講評。学生が探してきた資料を輪読する。一年間のまとめ。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

辞書を引き、次回読む文章を下読みしておく。すらすら読めるまで音読練習を行なう。

#### 【テキスト】

はじめの数回分は担当者が用意する。以後のテキストについては最初の時間に参加者と相談して決める。

#### 【参考書】

授業のなかで紹介する。

#### 【成績評価基準】

平常点（出席・発表内容）

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会（通年）

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

現代社会を健康に生きていくために  
ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 12 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。

#### 【授業の到達目標】

【

#### 【授業の概要と方法】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、プレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが求められている。

【

【

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（10）	同上（10）
第 13 回	同上（11）	同上（11）
第 14 回	同上（12）	同上（12）
第 15 回	前期のまとめ	前期のまとめ
第 16 回	ガイダンス	後期の発表日程及びテーマの決定
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（13）	研究発表とディスカッション
第 18 回	同上（14）	同上（14）
第 19 回	同上（15）	同上（15）
第 20 回	同上（16）	同上（16）
第 21 回	同上（17）	同上（17）
第 22 回	同上（18）	同上（18）
第 23 回	同上（19）	同上（19）
第 24 回	同上（20）	同上（20）
第 25 回	同上（21）	同上（21）
第 26 回	同上（22）	同上（22）
第 27 回	同上（23）	同上（23）
第 28 回	同上（24）	同上（24）
第 29 回	同上（25）	同上（25）
第 30 回	1 年のまとめ	1 年のまとめ

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

#### 【テキスト】

開講時に指定します

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価基準】

前期、後期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 地域形成論

## 石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この授業では、人々の生活の基盤である地域空間の形成を、時代にあった形で総合的に考えることとする。すなわち、「サステイナブルで豊かなコミュニティの形成」をテーマに、人間と環境の時代の「地域プランナー」となるための基礎として、まずは基本的なセンスと柔軟な考え方、そして骨太の方向感覚を身につけることを目標とする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

地域空間の形成として、国土開発、地方開発、都市開発、まちづくりを対象とし、基本的な考え方、計画手法、制度、政策等について論じる。各回とも、なるべく具体的な国内外の事例を対象としてとりあげ、実際的な問題に触れる。また、まちづくりプロジェクトや地域おこしプロジェクトの創案なども試みることで、実践的な企画能力も養成する。授業は、常に問題発見、問題提起からはじめ、様々なソリューションを考えていく形での、思考の訓練に重点を置いて進めていく。授業は講義形式で進めるが、授業内演習として、問題提起に対する自分の考えをまとめるなどの数分間のミニペーパーを作成し提出することとする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域形成論の学び方 「地域プランナーの視座『地域を見る眼』」ほか
第2回	地域のシステム考現学(1)	具体的な地域現象のメカニズムの考察(例)「混雑現象はなぜ起こるか」ほか
第3回	地域のシステム考現学(2)	具体的な地域現象のメカニズムの考察(例)「集中と分散の動きの原因」ほか
第4回	地域の具体的課題ケーススタディ(1)	公共事業と市民参加の議論(例)「東京外郭環状道路計画」ほか
第5回	地域の具体的課題ケーススタディ(2)	一極集中問題と解決策の議論(例)「首都機能移転問題」ほか
第6回	日本の国土形成(1)	戦後の国土開発と地域開発の流れ(例)「全国総合開発計画」ほか
第7回	日本の国土形成(2)	近世以降の地域環境と現代の環境復元(例)「庭園の鳥・日本の源流」ほか
第8回	地域の総合的ケーススタディ(1)	「沖縄の地域社会と経済」を考える(例)「沖縄の非貨幣経済」ほか
第9回	地域の総合的ケーススタディ(2)	「沖縄の開発と環境」を考える(例)「新石垣空港建設問題」ほか
第10回	日本の地域課題(1)	過疎地域・中山間地域問題とその挑戦(例)「地域主義と内発的發展論」ほか
第11回	日本の地域課題(2)	中心市街地問題と活性化への努力(例)「まちなか再生事業」ほか
第12回	地域プロジェクト企画(1)	新規創案と評価(地方編)(例)「ゼロエミッション計画」ほか
第13回	地域プロジェクト企画(2)	新規創案と評価(都心編)(例)「東京湾埋立地土地利用」ほか
第14回	地域デザインの新しい基底(1)	地球環境問題と都市・地域開発(例)「サステイナブル・コミュニティ」ほか
第15回	地域デザインの新しい基底(2)	空間から場所へ、計画論の再考(例)「バナキュラー、地霊、トポフィリア」ほか

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

## 【テキスト】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。パワーポイントによる映像資料も多用する。

## 【参考書】

基本的なものに関しては第1～2回目に紹介する。各回の内容に関連するものはそれぞれ授業で紹介する。

【成績評価基準】

定期試験（持ち込み不可）70％、平常点（授業内でミニペーパーの提出ほか）30％

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

比較演劇論

平野井 ちえ子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることである。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えることで、われわれ自身の美意識のありようが浮かびあがってくることだろう。他文化を学ぶことの意義は、ここにある。受講希望者多数の場合、選抜を行なう可能性もあるので、第1回目の授業には必ず出席すること。

【授業の到達目標】

【

【授業の概要と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、非常に密度の濃い講義形式となる。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能である。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いてもらう。

【

【

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、受講希望者多数の場合、選抜を行なう。受講を希望する人は、必ず出席すること。尚、この回のみ、通常とは別の教室で授業を行なう可能性があるため、掲示（学部掲示板・BT24階平野井掲示板）には十分注意すること。
第2回	歌舞伎海外公演	歌舞伎海外公演の歴史とその効果について考える。
第3回	何もない空間	能やギリシャ悲劇の舞台づくりを対象として、観客の想像力について考える。
第4回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、屋体くずしなど、歌舞伎舞台の仕掛けを学ぶ。
第5回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考える。
第6回	歌舞伎のせりふ	間かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学ぶ。
第7回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能を、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察する。
第8回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察する。
第9回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの核について考える。
第10回	日本人の余情と旅情 一道の美学—	日本の伝統芸能における「旅」の表現について考える。
第11回	日本人と自然	歌舞伎の季節感を学ぶ。庭園や盆栽など、人口の自然美についても考える。
第12回	東西の残酷シーン	歌舞伎の「殺し場」について考える。
第13回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を対象として、演劇におけるリアリズムとフィクションについて考える。
第14回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察のまとめ。
第15回	期末試験（記述式）	14回までの講義内容について理解度・知識定着度を確認する。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次週の講義範囲については、必ず下読みをして参加すること。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要である。

【テキスト】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示する。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 一日本人の美意識—』 TBS プリタニカ野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

【成績評価基準】

出席状況

ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出する）

期末試験（記述式）

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。

## 研究会 (通年)

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

\* Human Communication\*

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view. Students will also gain skills in academic writing including research techniques

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第 2 回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第 3 回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第 4 回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第 5 回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第 6 回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第 7 回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第 8 回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第 9 回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第 10 回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第 11 回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques
第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 15 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.



第 16 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication
第 17 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第 18 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships
第 19 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第 20 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第 21 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第 22 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第 23 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第 24 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication
第 25 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第 26 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 28 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 29 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 30 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

【テキスト】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

Adler, R., & Rodman, G. (2009). *Understanding Human Communication* (9<sup>th</sup> Edition). New York: Oxford.

【成績評価基準】

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on **weekly class participation, presentations and written assignments**. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

主に環境、健康、資源などに関係する図書を前後期と夏休みで10冊以上読みます。図書の購入費は自己負担です。

【授業の到達目標】

【】

【授業の概要と方法】

原則として、以下のローテーションで、2週間に1冊を読みます。

①第1週金曜日までに読了する。ゼミでは内容に関する質疑応答を行う。

②800字～1000字の書評を作成し、第2週水曜日正午までに授業支援システムにアップする。

③第2週金曜日のゼミで書評に関する講評、議論等を行う

【】

【】

【授業計画】

前期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方についての解説
第 2 回	質疑応答	『子供に教える「経済学」』
第 3 回	書評	『子供に教える「経済学」』
第 4 回	質疑応答	『生きるために一番大切な「食」の話』
第 5 回	書評	『生きるために一番大切な「食」の話』
第 6 回	質疑応答	『食料危機をあおってはいけない』
第 7 回	書評	『食料危機をあおってはいけない』
第 8 回	質疑応答	『食のリスク学』
第 9 回	書評	『食のリスク学』
第 10 回	質疑応答	『温暖化の＜発見＞とは何か』
第 11 回	書評	『温暖化の＜発見＞とは何か』
第 12 回	質疑応答	『自然はそんなにヤワじゃない』
第 13 回	書評	『自然はそんなにヤワじゃない』
第 14 回	卒業論文	中間発表会
第 15 回	課題図書	夏休み課題図書の提示

後期

回	テーマ	内容
第 16 回	書評	夏休み課題図書
第 17 回	質疑応答	『武器なき環境戦争』
第 18 回	書評	『武器なき環境戦争』
第 19 回	質疑応答	『勝つための論文の書き方』
第 20 回	書評	『勝つための論文の書き方』
第 21 回	質疑応答	『生物多様性とは何か』
第 22 回	書評	『生物多様性とは何か』
第 23 回	質疑応答	『資源大国アフリカ』
第 24 回	書評	『資源大国アフリカ』
第 25 回	質疑応答	『世界が水を奪い合う日』
第 26 回	書評	『世界が水を奪い合う日』
第 27 回	特別講義	日本の農政
第 28 回	特別講義	水鳥公園の設計
第 29 回	卒業論文	卒業論文発表会
第 30 回	総合討論	全体についての討論

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

指定された図書を読んで、締め切り時刻までに書評をアップしてください。

【テキスト】

順次指定します。上記授業計画に示した図書は2010年度の実績です。2011年度はこれとは異なる図書を指定します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価基準】

書評の提出状況と内容を中心に評価します。

4年生は卒業論文か書評提出のいずれかで単位が取得できます。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

機会があれば、ゲストスピーカーをお招きして特別講義を頂きます。2010年度の実績は上記事業計画に示しました。

## 地方自治論Ⅱ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

地方自治論Ⅰの応用編であるこの講義の到達目標とテーマは、第1に、自治体政策の構造や過程、自治体環境政策、持続可能な地域社会の形成に向けた自治体の役割などに関する知識を習得すること、第2に、汎用的な能力として、政策に対する考え方や自ら政策を構想する知恵、すなわち「政策型思考」の重要性を理解し涵養することである。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

今日、環境政策は、自治体政策において極めて重要な組織ドメインになってきている。しかもここでいう環境政策は幅広い内容を有しており、また持続可能な地域社会の形成という観点からも、自治体には総合的な政策展開がもたらされている。

この講義では、まず「政策型思考」を身につけるために、自治体環境政策を素材として、公共政策の基本的な構造や体系性、政策過程について検討する。次に高度経済成長期以降の自治体環境政策の軌跡や今日の動向、持続可能な地域社会の形成に向けた自治体の政策課題や展望について検討する。また公共政策は様々な政策手段を駆使して実施されていくため、その類型を整理し、法的手段としての条例や課税などについても言及する。

具体的な政策としては、循環型社会づくり、里山保全、歴史的景観保全、アーバンデザイン、ヒートアイランド対策、地球温暖化対策、観光、交通、内発的発展など、できるかぎり幅広く取り上げ、現実の動向と講義の内容の関連性を意識してもらうため、最新の情報を適宜提供する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「政策」とは何か	「政策」の概念と基本的な構造について検討する。
第2回	自治体環境政策の体系性と総合性	自治体の政策体系と政策の総合性について、地域環境空間づくりを手がかりとしながら検討する。
第3回	自治体環境政策の政策課題	政策過程の複数の局面を確認した上で、自治体環境政策における公共問題の構造と公共政策課題の設定について検討する。
第4回	自治体環境政策の形成	自治体環境政策の形成過程について、不確実性、代替的手段の選択、市民参加、説明責任などを手がかりとして検討する。
第5回	自治体環境政策の実施	自治体環境政策の実施過程について、そのパターンと理論的問題、具体的なケースを検討する。
第6回	自治体環境政策の評価	自治体環境政策における事前評価と事後評価について検討する。
第7回	自治体環境政策の手段の類型	自治体環境政策における政策手段の類型とそれぞれの特性について検討する。
第8回	自治体環境政策の手段の複合	自治体環境政策の様々な手段の複合的な活用について検討する。
第9回	自治体環境政策のケース	それまでの検討をベースとして、自治体環境政策のケースを紹介する。
第10回	第1世代の自治体環境政策	高度経済成長期において生活環境の防衛を主たる目的として登場した第1世代の自治体環境政策について検討する。
第11回	第2世代の自治体環境政策	ポスト高度経済成長期において、第2世代として、自治体環境政策の幅が広がってくる状況を、景観行政を中心として検討する。
第12回	第3世代の自治体環境政策	21世紀において地球環境問題への対応も目的とする第3世代の自治体環境政策について検討する。
第13回	持続可能な地域社会とは	持続可能な地域社会の構図について検討する。
第14回	持続可能な地域社会と自治体政策の構造	持続可能な地域社会づくりに関する自治体政策の構造について検討する。
第15回	持続可能な地域社会とガバナンス	持続可能な地域社会づくりを進めるためマネジメント、パートナーシップ、参加などのガバナンスについて検討する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するため配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・講義で言及した自治体環境政策や持続可能な地域社会に関連する報道などの情報収集に努めること。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

### 【参考書】

開講時および授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

成績は、論述試験（100％）で評価する。そのため、学生には、講義に常時出席し、配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成することを期待する。このことにより、事実関係や学術用語の理解とともに自治体環境政策に関する理論的な思考方法を習得すれば、試験において一定水準以上の論述は十分可能である。また参考文献等による自己学習で講義を補完すれば、さらに質の高い論述が可能であろう。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

法律・政治関連の科目、地域環境コースの関連科目（人間環境学部のガイドブックに掲載）をあわせて履修することが望ましい。地方自治論Ⅰの履修は必須である。

## 地方自治論Ⅱ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

地方自治論Ⅰの応用編であるこの講義の到達目標とテーマは、第1に、自治体政策の構造や過程、自治体環境政策、持続可能な地域社会の形成に向けた自治体の役割などに関する知識を習得すること、第2に、汎用的な能力として、政策に対する考え方や自ら政策を構想する知恵、すなわち「政策型思考」の重要性を理解し涵養することである。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

今日、環境政策は、自治体政策において極めて重要な組織ドメインになってきている。しかもここでいう環境政策は幅広い内容を有しており、また持続可能な地域社会の形成という観点からも、自治体には総合的な政策展開がもたらされている。

この講義では、まず「政策型思考」を身につけるために、自治体環境政策を素材として、公共政策の基本的な構造や体系性、政策過程について検討する。次に高度経済成長期以降の自治体環境政策の軌跡や今日の動向、持続可能な地域社会の形成に向けた自治体の政策課題や展望について検討する。また公共政策は様々な政策手段を駆使して実施されていくため、その類型を整理し、法的手段としての条例や課税などについても言及する。具体的な政策としては、循環型社会づくり、里山保全、歴史的景観保全、アーバンデザイン、ヒートアイランド対策、地球温暖化対策、観光、交通、内発的発展など、できるかぎり幅広く取り上げ、現実の動向と講義の内容の関連性を意識してもらうため、最新の情報を適宜提供する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「政策」とは何か	「政策」の概念と基本的な構造について検討する。
第2回	自治体環境政策の体系性と総合性	自治体の政策体系と政策の総合性について、地域環境空間づくりを手がかりとしながら検討する。
第3回	自治体環境政策の政策課題	政策過程の複数の局面を確認した上で、自治体環境政策における公共問題の構造と公共政策課題の設定について検討する。
第4回	自治体環境政策の形成	自治体環境政策の形成過程について、不確実性、代替手段の選択、市民参加、説明責任などを手がかりとして検討する。
第5回	自治体環境政策の実施	自治体環境政策の実施過程について、そのパターンと理論的問題、具体的なケースを検討する。
第6回	自治体環境政策の評価	自治体環境政策における事前評価と事後評価について検討する。
第7回	自治体環境政策の手段の種類	自治体環境政策における政策手段の類型とそれぞれの特性について検討する。
第8回	自治体環境政策の手段の複合	自治体環境政策の様々な手段の複合的な活用について検討する。
第9回	自治体環境政策のケース	それまでの検討をベースとして、自治体環境政策のケースを紹介する。
第10回	第1世代の自治体環境政策	高度経済成長期において生活環境の防衛を主たる目的として登場した第1世代の自治体環境政策について検討する。
第11回	第2世代の自治体環境政策	ポスト高度経済成長期において、第2世代として、自治体環境政策の幅が広がってくる状況を、景観行政を中心として検討する。
第12回	第3世代の自治体環境政策	21世紀において地球環境問題への対応も目的とする第3世代の自治体環境政策について検討する。
第13回	持続可能な地域社会とは	持続可能な地域社会の構図について検討する。
第14回	持続可能な地域社会と自治体政策の構造	持続可能な地域社会づくりに関する自治体政策の構造について検討する。
第15回	持続可能な地域社会とガバナンス	持続可能な地域社会づくりを進めるためマネジメント、パートナーシップ、参加などのガバナンスについて検討する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するため配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・講義で言及した自治体環境政策や持続可能な地域社会に関連する報道などの情報収集に努めること。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

### 【参考書】

開講時および授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

成績は、論述試験（100％）で評価する。そのため、学生には、講義に常時出席し、配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成することを期待する。このことにより、事実関係や学術用語の理解とともに自治体環境政策に関する理論的な思考方法を習得すれば、試験において一定水準以上の論述は十分可能である。また参考文献等による自己学習で講義を補完すれば、さらに質の高い論述が可能であろう。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

法律・政治関連の科目、地域環境コースの関連科目（人間環境学部のガイドブックに掲載）をあわせて履修することが望ましい。地方自治論Ⅰの履修は必須である。

## 自然環境論 I

井上 奉生

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義は人類の生活舞台である地球の自然環境を構成する要素のうち、以下の授業計画に示す各項目について、その形成過程、地域の特徴等を平易に解説する。また、これらの諸要素は個々バラバラにあるのではなく、相互に密接な有機的関連をもちながら地球上に様々な自然環境地域をつくり出していることと、災害等、人間の生活に密接な諸関係項目についても言及する

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地球について	地球に関する諸元、地球観の変遷
第2回	大気について（1）	大気の組成、大気の鉛直分布、気圧、気団、前線等
第3回	大気について（2）	大気の大循環、様々な風、日本および世界の気候、温暖化の影響
第4回	地形をつくる作用（1）	内的営力（地殻変動）等
第5回	地形をつくる作用（2）	外的営力（河川、湖沼、地下水、氷河、風）等
第6回	火山	地球上の分布、噴出物、形態等
第7回	地震	P波、S波、マグニチュード、震度、活断層等
第8回	地質・岩石	日本の地質、堆積岩、火成岩、深成岩、石英の含有量による分類等
第9回	土壌	世界および日本の土壌、土壌の生成過程、生成因子等
第10回	植生	世界および日本の植生分布、自然植生、代償植生、植生遷移等
第11回	動物	地理的分布、日本の外来種、絶滅種等
第12回	自然と生活（1）	開発と自然環境の変貌
第13回	自然と生活（2）	災害と防災
第14回	総括（1）	第1回～第7回までの総括
第15回	総括（2）	第8回～第13回までの総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業において指示する。

### 【テキスト】

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

### 【参考書】

適宜、参考書は紹介する。

### 【成績評価基準】

期末試験

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

各項目に関係するトピック的ニュースがあった場合には内容を変更することもある。  
地図帳を持参すること。  
配布したプリントはファイルして忘れず必ず持参すること。

## 地方自治論 I

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義では、地方自治の基本的考え方とともに、地方自治の制度、現代の地方自治の動向について検討を進めていく。地域レベルの環境政策を理解し、実際に政策を構想するためには、地方自治の知識は不可欠である。したがって、この講義の到達目標は、自治体環境政策の前提となる地方自治の基礎を習得し、また、報道や社会生活などを通して日常的に接する現代の地域社会に関する幅広い事象を読み取る力を身につけることである。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

この講義では、まず地方自治の考え方について、基礎概念や歴史・理論を通して検討する。さらに主として自治体の環境政策との関連性に留意しながら、地方自治の基本制度とその動向について検討する。次に国と地方の政府関係の構造について、中央集権と地方分権を取り上げ、改革の推移をみていく。その際、地方財政についても言及する。

最後に、市民に対して責任を負い、地域社会において総合的かつ自主的にまちづくりを担う「市民の政府」としての自治体の今後のあり方について、最新の動向とともに検討する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地方自治」とは何か	「地方自治」の概念について検討する。
第2回	地方自治の歴史	地方自治の歴史的について地域環境の視点も交えて検討する。
第3回	地方自治の理論的根拠	地方自治の正当性について理論的根拠を検討する。
第4回	二層制と市町村合併	日本の地方自治の基本構造である二層性を説明した上で、市町村合併による自治体数の減少などについて検討する。
第5回	地域間格差と小規模自治体	「平成の大合併」とともに浮上した地域間格差と小規模自治体の現状と課題について、地域環境への影響とともに検討する。
第6回	道州制と連邦制	都道府県の再編構想である道州制について、連邦制と対比しながら検討する。
第7回	都市特例制度	規模と能力に基づく都市特例制度について、指定都市を中心として検討する。
第8回	広域行政の制度	複数の自治体にまたがる広域行政の重要性と制度について、主に環境政策を手がかりとして検討する。
第9回	二元代表制	首長と地方議会の関係性について、権力分立と機関対立主義の考え方からみた現状と課題を検討する。
第10回	直接民主主義の制度と市民参加	法律に基づく直接請求権と自治体の市民参加システムについて検討する。

第 11 回	政府間関係のモデル	政府間関係と呼ばれる国と自治体の関係に関する理論モデルについて検討する。
第 12 回	中央集権型の政府間関係システム	明治の近代化以来形成されてきた中央集権型の政府間関係システムについて検討する。
第 13 回	地方分権改革	中央集権型の政府間関係システムを転換する地方分権改革の構図と動向について検討する。
第 14 回	自治体の自己改革	「国から地方へ」という地方分権改革に対して、自治体が自ら進めるべき改革について検討する。
第 15 回	分権型社会に向けて	「分権型社会」における地域の総合的な政策主体であり、「市民の政府」としての自治体のあり方について検討する。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

- ・講義内容をより深く理解するため配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・講義で言及した地方自治、現代の地域社会に関する新聞報道などの情報収集に努めること。

**【テキスト】**

特定のテキストは使用しない。

**【参考書】**

開講時および授業中に適宜紹介する。

**【成績評価基準】**

成績は、論述試験（100 %）で評価する。そのため、学生には、講義に常時出席し、配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成することを期待する。このことにより、事実関係や学術用語の理解とともに地方自治に関する理論的な思考方法を習得すれば、試験において、一定水準以上の論述は十分可能である。また参考文献等による自己学習で講義を補完すれば、さらに質の高い論述が可能であろう。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

**【その他】**

地方自治論Ⅰの関連科目として、市ヶ谷基礎科目の「政治学Ⅰ・Ⅱ」、専門科目の「市民社会と政治」、「行政法の基礎」、「行政学」、さらに、その他の地域環境コースの関連科目（人間環境学部のガイドブックに掲載）などをあわせて履修することが望ましい。

**環境法Ⅲ**

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

個別の公害法、廃棄物法などの国内環境法の内容を学び、環境汚染を防止するための仕組みや政策を把握する。環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識が修得できる。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

公害、廃棄物、リサイクルに関連する主要な法律に関連して、これに対する法の仕組み（規制対象、規制基準、規制を遵守させる仕組み）などの概要を把握するとともに、大気汚染等の状況や廃棄物リサイクルの状況を学び、現行政策の内容と問題点を考える。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	紛争処理と法	豊島の事例と公害紛争処理法
第 2 回	被害救済と法	公害被害救済法から公害健康被害補償法への発展
第 3 回	費用負担と法	補償法の費用負担 公害防止事業者負担法の費用負担
第 4 回	大気汚染防止法Ⅰ	固定発生源の規制
第 5 回	大気汚染防止法Ⅱ	移動発生源の規制
第 6 回	その他大気汚染諸法	自動車NOxPM法など
第 7 回	水質汚濁防止法Ⅰ	工場事業場規制
第 8 回	水質汚濁防止法Ⅱ	生活排水対策
第 9 回	その他水質汚濁諸法	瀬戸内法、湖沼法、下水道法など
第 10 回	地盤沈下、土壌汚染と法	地盤沈下二法 土壌汚染二法
第 11 回	感覚公害と法	騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法
第 12 回	廃棄物処理法Ⅰ	一般廃棄物
第 13 回	廃棄物処理法Ⅱ	産業廃棄物
第 14 回	リサイクルと法	容器包装リサイクル法など
第 15 回	まとめ	授業の総括

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

テキスト、プリントを学習する。興味をもった制度を掘り下げて調べてみる。

**【テキスト】**

開講時に指定するテキストとプリントによる。

**【参考書】**

授業内で紹介。

**【成績評価基準】**

定期試験による。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

**【その他】**

この講義は、環境法Ⅰの各論にあたる。

## 衛生・公衆衛生学 I

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

衛生公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学と技術である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

授業の到達目標およびテーマ、に記載

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え
第 2 回	予防医学の基本的概念	予防医学の基礎について
第 3 回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第 4 回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患 生活習慣病の予防について
第 5 回	喫煙の健康影響	タバコの害、法的規制、社会の取り組み、禁煙について
第 6 回	アルコールの健康影響	アルコールの健康被害について ビデオ鑑賞
第 7 回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会 健康問題
第 8 回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題について
第 9 回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第 10 回	生命倫理①	安楽死、尊厳死
第 11 回	生命倫理②	臓器移植
第 12 回	職場におけるヘルスケア	過重労働と過労死
第 13 回	職場におけるメンタルヘルスケア	過労自殺
第 14 回	感染症	性感染症・食中毒
第 15 回	授業内試験	試験実施

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義後に復習をする。

### 【テキスト】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

### 【参考書】

開講時に指定する

### 【成績評価基準】

期末試験を最終講義日に授業内で行う。持ち込みは不可。原則として出席はとらないが、感想文などを求めることがある。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## リサイクル論

錦木 儀郎

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「リサイクル」には廃棄物問題の解決、資源・エネルギー有効活用の決めるような強いポジティブイメージがある。しかし、現実の廃棄物問題は複雑で多様で簡単には片付かない。本科目では、「廃棄物」、リサイクルの意義、今後の対策のあり方等を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

講義資料と参考図書をもとにして、日常生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎知識を学ぶ。それらを基にして、自らが廃棄物問題に悩む市長となった事態を想定し、廃棄物のリサイクルを進める計画について考察する。廃棄物のリサイクルと社会との関係についての考察力を深める。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	全体構成と進め方 まず知っておくべき廃棄物の基本的な事実と知識（1）	講義の全体像を説明したのち廃棄物とは何かという概念整理を行い廃棄物と有価物の違いについての基礎知識を得る。
第 2 回	廃棄物の基本的な事実と知識（2）	自分が日常排出しているごみの処理方法について考えることを通じて廃棄物処理方法の多様さについての知識を得る。
第 3 回	廃棄物の基本的な事実と知識（3）	明治時代の東京、大阪や中世のパリなどの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化について知識を得る。
第 4 回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第 5 回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第 6 回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第 7 回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第 8 回	特別管理廃棄物の処理体系の考え方	P C B 廃棄物などの特別管理廃棄物制度の創設の背景や現状についての知識を得る。
第 9 回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第 10 回	中間処理技術	焼却などの中間処理技術について知識を得る。
第 11 回	エコタウン	エコタウンと呼ばれるリサイクル団地などについて知識を得る。
第 12 回	最終処分技術	埋め立て技術についてその考え方や技術的背景の知識を得る。
第 13 回	リサイクル推進等による廃棄物の処理計画立案	レポートのテーマとなる仮想の都市の現状・将来の姿などの考察の前提条件を説明する。
第 14 回	まとめとレポートの作成・提出	講義全体の内容をまとめるとともに、レポートの作成と提出を指導する。（この時間内にレポート提出）
第 15 回	小テスト（理解度の確認）	講義の理解度を確認するための小テストを行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効果的に講義が受講できるように、事前に下の参考書を読んでおくこと

### 【テキスト】

講義の際に資料を配布する

### 【参考書】

「新・廃棄物学入門」（田中勝著 中央法規出版株式会社）

#### 【成績評価基準】

①出席の状況、②提出レポートの内容、③小テストの結果により、講義の理解度と、廃棄物とリサイクルについて考える力がつかどうか等を評価の基準とする。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 生命の現在と倫理

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本講義は、「生きること」「いのち」を最優先のキーワードとして成立する応用倫理学(生命倫理学・環境倫理学)を中心に据えて展開する。そこで、「ただ生きること」と「よく生きること」の乖離が、先鋭なかたちで顕著になりつつある現代社会の現状(環境汚染・遺伝子操作・脳死・安楽死・生殖補助医療技術など)に対して、プラトンの生命論という原理的地平から考察する。現代倫理学の基本的概念(人格・自律・自己決定・ケア)の論議を素材にして「主体的に生きるとは、いかなることか」を学ぶ。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

最初に「いのち」とは、どのようなものなのかを、プラトンの生命観から原理的考察をします。その上で bio(生命)ethics(倫理学)の成立と歴史を学ぶことにします。その後は、生命倫理学で取り扱う問題群を、個別に授業計画に沿って講義します。

この分野の技術革新は日進月歩で進むので、その都度、資料をプリントして配布し、VTR・DVD・NIE などを用いて学ぶことにします。人数によってはグループで議論を、また大教室の場合は意見の記述(レポート)を実施します。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と学び方
第2回	「生命とは何か」	プラトンの生命観から遡源
第3回	「bioethicsの歴史」	米国における bioethics の成立と日本への輸入と現状
第4回	「健康と病気」	健康の定義をめぐる議論と病気の定義をめぐる議論
第5回	「エイジング」	高齢者介護の問題
第6回	「高齢社会と生命の質」	クオリティ・オブ・ライフとサントゥリティ・オブ・ライフ
第7回	「パーソン(人格)論」	パーソン論の内容とそれに伴う問題点
第8回	「自己決定権の限界」	インフォームド・コンセントと患者の自己決定権
第9回	「自律(autonomy)の倫理」	自律と弱いパターナリズムの共存の可能性
第10回	「生殖補助医療技術をめぐる倫理的問題」	生殖補助医療技術の原則とは何か
第11回	「脳死と臓器移植」	臓器移植の現実的諸問題
第12回	「積極的安楽死と消極的安楽死」	安楽死の分類と治療停止問題
第13回	「ケアの倫理」	ターミナル・ケアの現実とその意味
第14回	「応用倫理学の(生命倫理学・環境倫理学)の課題」	その現状とそれへの要請
第15回	期末試験	論述試験

#### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

授業では、今、現実社会で起きている生命倫理問題を提題して、受講者一人ひとりがどのように対処すべきかを自分で考える必要があります。そのためにさまざまな事例研究の課題を出すので、そのレポートの提出が義務づけられます。

#### 【テキスト】

テキストは使用しません。講義時に資料プリントを配布します。

#### 【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

#### 【成績評価基準】

積極的な授業参加を重視します。出席は最低でも7回以上が必要です。試験は、期末試験を1回を、レポートは、1~2回を課します。それぞれを総合して判定します。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 地域形成論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・7

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【成績評価基準】

定期試験（持ち込み不可）70%、平常点（授業内でミニペーパーの提出ほか）30%

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【授業のテーマ】

この授業では、人々の生活の基盤である地域空間の形成を、時代にあった形で総合的に考えることとする。すなわち、「サステイナブルで豊かなコミュニティの形成」をテーマに、人間と環境の時代の「地域プランナー」となるための基礎として、まずは基本的なセンスと柔軟な考え方、そして骨太の方向感覚を身につけることを目標とする。

### 【授業の到達目標】

①

### 【授業の概要と方法】

地域空間の形成として、国土開発、地方開発、都市開発、まちづくりを対象とし、基本的な考え方、計画手法、制度、政策等について論じる。各回とも、なるべく具体的な国内外の事例を対象としてとりあげ、実際の問題に触れる。また、まちづくりプロジェクトや地域おこしプロジェクトの創案なども試みることにより、実践的な企画能力も養成する。授業は、常に問題発見、問題提起からはじめ、様々なソリューションを考えていく形での、思考の訓練に重点を置いて進めていく。授業は講義形式で進めるが、授業内演習として、問題提起に対する自分の考えをまとめるなどの数分間のミニペーパーを作成し提出することとする。

②

③

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域形成論の学び方 「地域プランナーの視座『地域を見る眼』」ほか
第2回	地域のシステム考現学(1)	具体的な地域現象のメカニズムの考察 (例)「混雑現象はなぜ起こるか」ほか
第3回	地域のシステム考現学(2)	具体的な地域現象のメカニズムの考察 (例)「集中と分散の動きの原因」ほか
第4回	地域の具体的課題ケーススタディ(1)	公共事業と市民参加の議論 (例)「東京外郭環状道路計画」ほか
第5回	地域の具体的課題ケーススタディ(2)	一極集中問題と解決策の議論 (例)「首都機能移転問題」ほか
第6回	日本の国土形成(1)	戦後の国土開発と地域開発の流れ (例)「全国総合開発計画」ほか
第7回	日本の国土形成(2)	近世以降の地域環境と現代の環境復元 (例)「庭園の島・日本の源流」ほか
第8回	地域の総合的ケーススタディ(1)	「沖縄の地域社会と経済」を考える (例)「沖縄の非貨幣経済」ほか
第9回	地域の総合的ケーススタディ(2)	「沖縄の開発と環境」を考える (例)「新石垣空港建設問題」ほか
第10回	日本の地域課題(1)	過疎地域・中山間地域問題とその挑戦 (例)「地域主義と内発的發展論」ほか
第11回	日本の地域課題(2)	中心市街地問題と活性化への努力 (例)「まちなか再生事業」ほか
第12回	地域プロジェクト企画(1)	新規創案と評価(地方編) (例)「ゼロエミッション計画」ほか
第13回	地域プロジェクト企画(2)	新規創案と評価(都心編) (例)「東京湾埋立地土地利用」ほか
第14回	地域デザインの新しい基底(1)	地球環境問題と都市・地域開発 (例)「サステイナブル・コミュニティ」ほか
第15回	地域デザインの新しい基底(2)	空間から場所へ、計画論の再考 (例)「バナキュラー、地霊、トポフィリア」ほか

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じた自主的な調査や見聞を推奨する。

### 【テキスト】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。パワーポイントによる映像資料も多用する。

### 【参考書】

基本的なものに関しては第1～2回目に紹介する。各回の内容に関連するものはそれぞれ授業で紹介する。



## 現代社会論 I

藤本 隆史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

自分と自分を取り巻く生活環境を見直す機会としてほしい。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

社会は人と人が様々な形で関わりあうことの結果として成り立っており、またわれわれ一人一人も他者や社会と関わりあうことにより自己を形成し、社会の一員となっていく。様々な生活環境において、人々の関わり方に表面の上の違いはあるが、そこには一定のメカニズムが働いている。この講義では、様々な日常の生活場面での身近な話題から、自分と他者、そして社会との関わりについて理解を深める。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要の紹介など	講義内容の概要と現代社会論Ⅱとの違いなど説明する
第2回	社会的行為	人間の行為と意味づけについて、社会的相互作用の観点から考える
第3回	社会的自己 (1)	地位と役割の関係、自我 (自己) の発達などについて考える
第4回	社会的自己 (2)	自己の形成と社会的相互作用の関係について考える
第5回	価値と規範	価値と規範の関係について考える
第6回	役割	印象操作など、様々な社会的場面での個人の役割の在り方について考える
第7回	対人認知	他者の印象形成やステレオタイプなどについて考える
第8回	社会的比較	他者との比較から自己の評価をするプロセスなどについて考える
第9回	態度 (1)	社会的交換など他者との相互作用による態度形成について考える
第10回	態度 (2)	説得的コミュニケーションによる態度変容について考える
第11回	社会的ジレンマ	共有地の悲劇などから、自己の利益と他者との協力について考える
第12回	援助行動	人を助ける行為について、助ける人、助けられる人、その場の状況の、それぞれの要因を考える
第13回	社会的スキル	対人関係の形成、保持に必要な技能について考える
第14回	まとめ	これまでの内容の復習を行う
第15回	試験	論述試験を行う

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業で紹介された内容について、自分自身の経験などを照らし合わせて具体的に考えてみる。

## 【テキスト】

講義時に適宜紹介する。

## 【参考書】

講義時に適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

論述式試験を行う。毎授業時にリアクション・ペーパー (出欠の確認も兼ねる) の提出を要求する。代返は認めない。体育会の活動など、出席については考慮するが、試験の点数については原則として一律に評価する (出席3割+試験7割)。授業内で発表を促すこともある。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 現代社会論 I

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ「現代社会を人間行動の視点から考える」。この講義では人間の行動ないし行為のメカニズムについて理解し、現代社会の諸現象を分析する視点を身につけることを目標とする。人間の社会的行動がいかなる要因によって形づくられているか、行動の集積として出現する社会現象をどのように考察したらよいか、を社会学の知見から学ぶ。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

はじめに人間の行動を考えるための「枠組み」を取り上げ、いくつかの基礎概念について説明する。つぎに、人はなぜこのように行動しあるいは行動しないのか、を課題として行動をかたちづくる要因について、いくつかの研究を紹介しながら考える。さらに、環境問題や都市問題という現代社会の社会問題を行動の集積という視点からとりあげ、その生起してくるメカニズムを論じる。また、このような問題の解決はいかにして可能か、についても受講学生からアイデアを募集し、検討を加える。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」とはなにか？	「人々の共同生活」としての社会を個人の行動というミクロな観点から考察する意図を説明する。
第2回	人間行動を考える枠組み (1) 欲求と規範	「欲求」「規範」概念を説明、研究事例を紹介する。
第3回	人間行動を考える枠組み (2) 地位と役割	「地位・役割行動」概念を説明、研究事例を紹介する。
第4回	人間行動を考える枠組み (3) 社会関係と行動の文脈	「社会関係」概念を説明し、行動の生じる文脈の理解を深める。
第5回	行動と文化 (1) 「文化」とは何か	行動に形を与えるものとしての「文化」概念を、伝達・学習・共有の側面から解説する。
第6回	行動と文化 (2) 文化の伝承と変化、文化のダイナミズム	文化を、動的なものとして考え、伝統の継承と文化の変容を取りあげる。
第7回	行動と文化 (3) 文化相対主義とエスノセントリズム	文化を見る目を相対化することの意味を「自民族中心主義」的文化理解と対比して学ぶ。
第8回	情報と行動 (1) 「予言の自己成就」	情報とそれへの反応により「予期せざる結果」が生じるメカニズムについて取りあげる。
第9回	情報と行動 (2) 「予言の自己破壊」、情報は行動を変えるか	行動のコントロールは可能であるか、「警鐘を鳴らす」ことの有効性について解説する。
第10回	「社会的ジレンマ」(1) 「共有地の悲劇」、私益と公益	合理的な個別利益追求行動がもたらす結果についてハーディンの「共有地の悲劇」を取りあげ説明する。
第11回	「社会的ジレンマ」(2) 「社会的ジレンマ」のメカニズム	ジレンマゲームを紹介、行動主体間の選択とその結果について事例をあげながら説明する。
第12回	「社会的ジレンマ」(3) 「囚人のジレンマ」と相互信頼	「囚人のジレンマ」研究を通して行動主体間の「信頼」の構築について考える。
第13回	環境配慮行動を考える、意識は行動を生み出すか	環境意識は環境行動につながるか？、という問題を提起。研究事例を紹介する。
第14回	環境配慮行動を促進する仕組みづくり	環境配慮行動を促す仕組み作りは可能かを考察する。
第15回	まとめ-人間の行動が社会をつくる	社会を人間の社会行動の集積として考える意義を取りあげ、講義の目標を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

特定のテキストは用いないが、トピックスごとの参考文献のリストを配布するので関連箇所を読んでおくこと。また、講義時に課題を出すのできちんと提出すること。

## 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

## 【参考書】

西澤・渋谷,2008,「社会学をつかむ」有斐閣  
 井上・船津,2005,「自己と他者の社会学」有斐閣  
 山岸俊男,2000,「社会的ジレンマ」PHP 研究所  
 杉浦淳吉,2003,「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版  
 このほか開講時に文献リストを配布する。

## 【成績評価基準】

定期試験による、また講義時に数回「スタディ・クエスチョン」を行い評価に加える。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

あらゆる環境問題は「社会」の中で起こっています、私たちがどのような社会を作っているのか考えることはこの学部での学習の基礎となります、社会学の思考法を身につけよう。

## 現代社会論Ⅱ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：「現代日本社会の変動をとらえる視点」。本講義の目標は、1960 年代以降を中心に戦後日本社会の変動プロセスを各種社会統計によって跡づけ、社会諸領域の変動が相互に関連して生じていることを理解する、ことにある。また、講義を通して長期統計データの検索法・利用法および読解力を身につけることをめざす。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

「社会の何が変化するのか？」という問いから始め、長期社会統計データを用いて変化の様相を知るやり方について説明した後、産業化・都市化・少子高齢化・小家族化などいくつかの領域における変化を詳しく取り上げる。常識的に述べられる「社会の変化」を疑い、本当に変化しているのか、何が変化を促進し阻害する要因であるのか、ある領域における変化が別の領域における変化とどのように関連しているのか、などの問いに答えることを課題として進める。講義では統計資料を配付し、データがどのように得られたのか、データに見られる変化を読み取る方法について解説する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス。	講義ガイダンス。社会を変動という視点から考える意味を理解する。
第 2 回	社会変動とは何か	社会の何が変化するのか、変化を何によって捉えるか。
第 3 回	近代化・産業化・都市化	1960 年代以降の日本社会の変動。高度経済成長と公害・環境問題の噴出・拡大。産業構造の変化。
第 4 回	教育と就業の変化	教育期間の長期化。就業率と就業構造の変化。職業生活の変容。
第 5 回	地域社会の変化①	都市化と都市的生活様式。都市の定義と職住形態の変容。
第 6 回	地域社会の変化②	向都離村現象。地理的移動と社会移動、社会移動率。三大都市圏への人口集中。
第 7 回	地域社会の変化③	都市の過密と農村の過疎。ヒートアイランド現象、限界集落。第一次産業の衰退。
第 8 回	人口の変化①	人口数と構造の変化。出生率・死亡率の変化。自然増加率の推移。
第 9 回	人口の変化②	少子・高齢化。人口の年齢構成の変化とその要因。合計特殊出生率とは。未婚率の上昇の要因。
第 10 回	人口の変化③	少子・高齢社会から人口減少社会へ。何が問題なのか。
第 11 回	家族の変化①	世帯統計と家族。世帯数の増加と家族形態の変化。
第 12 回	家族と世帯②	核家族化と小家族化。家族機能の変化。単独世帯の増加。
第 13 回	家族と世帯③	高齢化し人口が減少していく社会における家族。家族は不要になるか。
第 14 回	環境問題と社会の変化	我々はいかなる社会を作ってきたのか、作っていくのか。環境問題と社会。
第 15 回	まとめ	社会変動の相互連関。社会を見る目の重要性。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

統計資料を配布するので、そこからどのような変化を読み取ることができるか、その変化がどのような要因と関連しているか、など事前に学習しておくこと。講義時にスタディクエスチョンとして文章化して提出を求めることがあります。

## 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

## 【参考書】

友枝ほか,2007,「社会学のエッセンス」有斐閣  
 藤田・吉原,1999,「都市社会学」有斐閣  
 進見編,2007,「講座社会学 3 村落と地域」東大出版会  
 国立社会保障・人口問題研究所「人口の動向」、各年、厚生統計協会  
 このほか開講時に文献リストを配布する

#### 【成績評価基準】

定期試験による、また講義時に数回「スタディ・クエスチョン」を行い評価に加える。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

ここで取りあげる変化は半ば常識的に語られている事柄です、でもそれはホントか証拠をあげて論じることが重要、「常識を疑う」「実証」を合い言葉に学びましょう。

## 労働環境論 I

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。「労働環境を考える」をテーマに、その前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の教育訓練、昇進、昇給、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関係する基本的な概念や現象を理解できるようになることをめざす。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、雇用とジェンダー、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、その時々話題になっている諸問題をも随時紹介しつつ、理解を深める。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
第 2 回	学校から職場へ	大学生の就職がどう変化してきたのを見ながら、現在の問題を考える。
第 3 回	能力開発とキャリア	日本企業の教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
第 4 回	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルが、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
第 5 回	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみていく。
第 6 回	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に影響する。それが時代とともにどう変化してきたのか学ぶ。
第 7 回	賃金システム	労働条件の基本をなし、かつきわめて複雑な日本の賃金システムについて学習する（『産業と労使』第 8 章）。
第 8 回	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
第 9 回	失業と転職	市場経済で失業は避けられない現象である。失業と転職、国の失業対策等について学ぶ。
第 10 回	仕事からの引退過程	私たちは一定の年齢に達すると仕事から引退する。その過程について学び、その後の人生について考える。
第 11 回	性別職域分離	男女間で担当する仕事は異なる。その現状と近年の変化について学ぶ。
第 12 回	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加の現状や問題点について考える。
第 13 回	高齢化社会と雇用	少子高齢化の進行とともに高齢者の働き方が注目されている。その現状と今後について考える。
第 14 回	日本的雇用慣行	日本的雇用慣行の特徴は何かについて、メリット、ディメリットを含め総合的に評価する。
第 15 回	試験	本講義の理解を確認する。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義が受講できるよう、事前にテキストの関連する章を読むこと、理解できなかった箇所を再度読み直し、疑問点を確認しておくこと。

#### 【テキスト】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方』有斐閣ブックス、2004 年。

#### 【参考書】

神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会、2003 年（第 7 回、第 13 回、第 14 回については主教材として使う）。

#### 【成績評価基準】

論述式の試験により、特定のテーマについて基本的な理解ができているか、説明できているか等を評価の基準にする。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが必ず経験するようなものばかりです。そのことを念頭において学んでほしい。

## スポーツビジネス論 I

千田 利史

配当年次／単位：年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

現代社会におけるスポーツを、ビジネスの側面から総合的に解説したい。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

スポーツマーケティングの実務経験を持つ講師が、ケーススタディを紹介しつつ、最新の理論体系をわかりやすく解説する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会とスポーツ	見るスポーツ、するスポーツ
第 2 回	マーケティングとスポーツ	理論
第 3 回	スポーツマーケティングの実際	ケーススタディ
第 4 回	スポーツ団体の仕組み	各種競技団体
第 5 回	オリンピックの運営の仕組み	ビジネスとしてのオリンピック
第 6 回	ワールドカップサッカーの仕組み	ビジネスとしてのワールドカップ
第 7 回	競技団体とスポンサー	企業のスポンサーシップ
第 8 回	広告会社の役割	広告会社のスポーツ部門の仕事
第 9 回	人気スポーツと財政基盤	野球、すもう、バレーボール、スケート
第 10 回	テレビとスポーツ	放映権とスポーツ番組
第 11 回	報道とスポーツ	ニュースとスポーツの関係
第 12 回	インターネット状況とスポーツ	新しいメディアとスポーツ
第 13 回	スポーツと消費者	理論、消費者類型
第 14 回	現代社会にとってのスポーツの意味	総論
第 15 回	現代のスポーツビジネスの課題と可能性（まとめ）	スポーツビジネスのさらなる成長には、何が必要か

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

試合結果だけではなく、新聞、雑誌、テレビ、ネットなどでスポーツビジネスに関する記事に多く目を通しておくこと

## 【テキスト】

各テーマに応じ配布

## 【参考書】

特に指定しない

## 【成績評価基準】

レポートの評価

および出席状況を加味する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、スライドなどを活用

## 研究会 (通年)

安田 章人

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

<フィールドワークにもとづく伊豆大島の地域研究>  
人間と環境のかかわりをテーマとして、フィールドワークにもとづいた地域研究をおこなう。その過程をとおり、各自の具体的な経験のなかから問題意識を練りあげ、じっさいに自分が取り組むことのできる課題を見だし、その課題にフィールドワークによってアプローチして、解答をあたえる方法を身につける。フィールドは伊豆大島とする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

本授業は、授業時間外にフィールドワークを実施することが必須である。授業時間中には、フィールドワークの構想、および調査レポートや論文に関するプレゼンテーションとディスカッションをおこなう。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション・ガイダンス
第 2 回	フィールドワーク計画 1	研究計画の発表・ディスカッション
第 3 回	フィールドワーク計画 2	研究計画の発表・ディスカッション
第 4 回	フィールドワーク計画 3	研究計画の発表・ディスカッション
第 5 回	フィールドワーク計画 4	研究計画の発表・ディスカッション
第 6 回	フィールドワーク計画 5	研究計画の発表・ディスカッション
第 7 回	フィールドワーク計画 6	研究計画の発表・ディスカッション
第 8 回	フィールドワーク計画 7	研究計画の発表・ディスカッション
第 9 回	フィールドワーク計画 8	研究計画の発表・ディスカッション
第 10 回	フィールドワーク計画 9	研究計画の発表・ディスカッション
第 11 回	フィールドワーク計画 10	研究計画の発表・ディスカッション
第 12 回	フィールドワーク計画 11	研究計画の発表・ディスカッション
第 13 回	フィールドワーク計画 12	研究計画の発表・ディスカッション
第 14 回	フィールドワーク計画 13	研究計画の発表・ディスカッション
第 15 回	フィールドワーク計画 14	研究計画の発表・ディスカッション

## 後期

回	テーマ	内容
第 16 回	フィールドワーク報告 1	調査報告・ディスカッション
第 17 回	フィールドワーク報告 2	調査報告・ディスカッション
第 18 回	フィールドワーク報告 3	調査報告・ディスカッション
第 19 回	フィールドワーク報告 4	調査報告・ディスカッション
第 20 回	フィールドワーク報告 5	調査報告・ディスカッション
第 21 回	フィールドワーク報告 6	調査報告・ディスカッション
第 22 回	フィールドワーク報告 7	調査報告・ディスカッション
第 23 回	フィールドワーク報告 8	調査報告・ディスカッション
第 24 回	フィールドワーク報告 9	調査報告・ディスカッション
第 25 回	フィールドワーク報告 10	調査報告・ディスカッション
第 26 回	フィールドワーク報告 11	調査報告・ディスカッション
第 27 回	フィールドワーク報告 12	調査報告・ディスカッション
第 28 回	フィールドワーク報告 13	調査報告・ディスカッション
第 29 回	成果報告準備	プレゼンテーション準備
第 30 回	成果報告	プレゼンテーション

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

フィールドワーク。必要となる期間は、学年によって異なるが年間 2 週間が必要だろう。くわえて、プレゼンテーションと報告書の準備には、相当の時間が必要となる。

## 【テキスト】

適宜、授業中に指示する。

## 【参考書】

適宜、授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

最終成果報告書によって評価。ただし、毎回の出席および夏休みのフィールドワークは成績評価の前提である。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境科学入門

渡邊 誠、朝比奈 茂、井上 奉生、北川 徹哉、谷本 勉、藤倉 良、宮川 路子

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

人間環境学部は、人文・社会科学系学部として環境問題を多角的に捉え、これからの社会のあり方を考えていく学部であるが、それには自然科学の基礎的な知見・理解は不可欠である。この講義では環境問題を学ぶ上で必要な自然科学の基本的な事柄と概念を学ぶことを目的としている。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

自然科学に関連する専攻分野の教員が、オムニバス形式で講義を行なう。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (渡邊) 【中止】	本科目の概要やテーマなどについて講義し、科目履修のためのオリエンテーションを行う。【中止】
第 2 回	環境モデルとデータ分析 A (渡邊) 【中止】	環境問題を定量的に分析し理解するための基礎事項について、データ分析法ならびに統計的手法を中心に学習する。【中止】
第 3 回	環境モデルとデータ分析 B (渡邊) 【テーマ変更】 ガイダンス (渡邊)	環境問題を定量的に分析し理解するための基礎事項について、モデル化手法とシミュレーションの事例を中心に学習する。 【内容変更】 本科目の概要やテーマなどについて講義し、科目履修のためのオリエンテーションを行う。
第 4 回	地球環境観の変遷 A (谷本)	17 世紀の近代科学誕生から 20 世紀半ばまでの西欧の地球環境に対する見方・考え方の歴史を学習する。
第 5 回	地球環境観の変遷 B (谷本)	「沈黙の春」(1962) 以降の地球環境観の現代史を、温暖化問題を中心にして学習する。
第 6 回	自然環境の基礎 (井上)	我々、人類をとりまいている地球の自然環境について、気圏 (気象・気候等)、岩圏 (岩石・地質・土壌等)、水圏 (海洋・陸水等)、生物圏 (生物多様性・自然保護等) を中心に学習する。なお、自然環境を知る上で必要な基礎的用語についても解説する。
第 7 回	エネルギーの基礎 A (北川)	エネルギー・資源の歴史と種類を知り、化石エネルギーの可採年数などの人類が直面している問題の基礎について学ぶ。
第 8 回	エネルギーの基礎 B (北川)	エネルギー自給率、エネルギー利用効率と GDP、環境問題と非化石エネルギーなどに関する基礎事項を学習する。
第 9 回	環境工学の基礎 A (藤倉)	環境にやさしいとはどういうことか。石鹸と合成洗剤のどちらが環境にやさしいのか。ペットボトルのリサイクルは本当に環境にやさしいのか。
第 10 回	環境工学の基礎 B (藤倉)	地球温暖化問題について学ぶ。地球は本当に温暖化しているのか。本当に人間活動のせいなのか。温暖化を止めるにはどうすればいいのか。
第 11 回	健康と環境 A (宮川)	現代社会において人が健康に生きていくための基礎的な知識を身につける。少子・超高齢時代における健康の概念について考える。
第 12 回	健康と環境 B (宮川)	健康を守るための予防、産業保健現場における健康問題について学ぶ。

- 第13回 スポーツと医学A（朝比奈）  
【テーマ変更】  
スポーツと医学（朝比奈）  
適度の運動は、血液循環が促進され、代謝が亢進する。いき過ぎた運動は、細胞を破壊し、機能が低下する。どのような運動が健康に良いのか、また体にとって運動は害を及ぼすことがあるのかなど、運動の功罪について学習する。
- 第14回 スポーツと医学B（朝比奈）  
【テーマ変更】  
環境モデル論とデータ分析（渡邊）  
体力とは何か。体力がある人は健康であるか。一般にアスリートは風邪などの感染症に罹りやすいと言われているが、それはどうしてだろうか？アスリートの内科的障害とその対策方法について学習する。

## 第15回 試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後には毎回復習をすること。とくに配布された資料の内容をしっかりと把握しておくこと。

## 【テキスト】

授業時に資料を配布する。

## 【参考書】

必要に応じて授業時に紹介する。

## 【成績評価基準】

試験の結果により判定する。授業時に出席はとらないが、事実上授業に出席しておかないと合格点の確保は難しい。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクターなどの機器を用いて解説を行う。

## 【その他】

本科目は一年次の必修科目である。A～D・Hクラスは6時限目に、E～Gクラスは3時限目に登録・履修すること。なお再履修する方は自分のクラスの時に登録・履修すること。

## 研究会（通年）

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

この研究会では、持続可能な地域社会に向けた公共政策（まちづくり）をテーマとして、環境政策とともに多様な政策領域を統合的に検討する。また自治体以外にも、市民、NPO、企業などの参加・協働を展望する。

共通テーマと個人テーマの調査研究を通じて、文章力、プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力、チームとしての協働力、政策やプロジェクトの構想力（問題発見と解決能力）、地域実践の企画運営能力などを涵養し、大学生としての総合的な能力を構築することが目標である。

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

この研究会では、都市的地域と非都市的地域では異なる持続可能な地域社会の多様な姿、具体的課題や実践について地域再生、環境再生などの視点から検討する。また共通テーマでは特定地域との連携による実践・交流を通じた調査研究を行い、個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定して研究論文を作成する。研究会は、文献講読、グループワーク、ワークショップなどを組み合わせて進めていく。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第2回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告、質疑応答により共有する。
第3回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第4回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第5回	文献講読（2）	同上。
第6回	文献講読（3）	同上。
第7回	文献講読（4）	同上。
第8回	文献講読（5）	同上。
第9回	文献講読（6）	同上。
第10回	文献の総括と後期の方向性の検討	文献全体を総括しながら、共通テーマに関する知見を整理し、後期の調査研究課題への視点を共有する。
第11回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究計画と前期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第12回	個人テーマの報告（2）	同上。
第13回	個人テーマの報告（3）	同上。
第14回	個人テーマの報告（4）	同上。
第15回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第16回	地域連携プロジェクトの検証（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、後期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第17回	地域連携プロジェクトの検証（2）	同上。
第18回	共通テーマの調査研究（1）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第19回	共通テーマの調査研究（2）	同上。
第20回	共通テーマの調査研究（3）	同上。
第21回	共通テーマの調査研究（4）	同上。
第22回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第23回	共通テーマの調査研究（5）	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第24回	共通テーマの調査研究（6）	同上。
第25回	共通テーマの最終成果の共有	共通テーマの最終成果について、全体で確認し共有する。

- 第 26 回 個人テーマの報告（1） 個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
- 第 27 回 個人テーマの報告（2） 同上。
- 第 28 回 個人テーマの報告（3） 同上。
- 第 29 回 個人テーマの報告（4） 同上。
- 第 30 回 個人テーマの報告（5） 同上。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。
- ・共通テーマに関する事前のグループワーク。
- ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

【テキスト】

開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

【成績評価基準】

出席（50%）、参加姿勢（30%）、個人テーマへの取り組み（20%）による総合評価とする。演習という性格上、常時、出席して共通テーマについて他者と協働しながら、かつ課題や個人テーマに着実に取り組むことが必要である。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

この研究会は、地域環境コースに登録した学生を対象としている。したがって、履修にあたって、地域環境コースの関連科目（人間環境学部のガイドブックに掲載）とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連する科目を人間環境学部のカリキュラム全体から検討し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を図っていくことが望ましい。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的栄養が得られる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じるので、積極的に助言をもとめてほしい。

## 研究会 (通年)

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

<授業のテーマ>

国際協力におけるインクルーシブ・ビジネスの事例を学ぶ－貧困削減と環境の視点から

<授業の到達目標>

国際協力の分野に関心を持ち、基礎知識のある者を対象とし、

1. インクルーシブ・ビジネスの事例を学ぶと同時に、背景にある各国の事情や各セクターの課題についても理解を深める。
2. 国際協力分野での研究や業務に不可欠な、英文の報告書やウェブサイトを活用する能力を高める。(ただし英語学習を主目的とするわけではない)
3. 報告書作成、発表のスキルを高める。

【授業の到達目標】

【

【授業の概要と方法】

途上国の開発の主な担い手はこれまで ODA 実施機関や NGO などを中心だった。しかし、近年ではビジネスが貧困削減に果たす役割（＝インクルーシブ・ビジネス）が注目されている。当研究会では、2009 年度には国連開発計画（UNDP）の報告書、2010 年度は社会企業家を支援する民間基金（Acumen Fund）創設者による書籍やウェブサイトを用いて事例を学んだ。2011 年度は、貧困削減に加えて、環境配慮の視点を重視し、各セクターの課題をより深く掘り下げて学ぶ。また、日本企業についての事例研究を行う。

【

【

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	概要紹介
第 2 回	グループワーク	討議による受講者同士の相互理解
第 3 回	グループワーク (UNDP 事例)	討議と発表
第 4 回	文献講読（全体）と討議	テーマに対する理解を深める
第 5 回	文献講読（全体）と討議	テーマに対する理解を深める
第 6 回	文献講読（全体）と討議	テーマに対する理解を深める
第 7 回	海外事例研究 (グループごと)	事例の選定
第 8 回	海外事例研究 (グループごと)	事例調査
第 9 回	海外事例研究 (グループごと)	事例調査
第 10 回	プレゼンテーション	調査結果発表
第 11 回	プレゼンテーション	調査結果発表
第 12 回	プレゼンテーション	調査結果発表
第 13 回	国内事例研究 (グループごと)	事例選定
第 14 回	国内事例研究 (グループごと)	事例調査
第 15 回	国内事例研究 (グループごと)	事例調査
第 16 回	国内事例研究 (グループごと)	事例調査
第 17 回	プレゼンテーション	調査結果発表
第 18 回	プレゼンテーション	調査結果発表
第 19 回	プレゼンテーション	調査結果発表
第 20 回	全体討議	これまでに学んだことを振り返る
第 21 回	ゲストスピーカーによる講演	テーマに関連する実務者の講義
第 22 回	報告書作成	プレゼンテーションの成果とコメントをもとに報告書作成
第 23 回	報告書作成	同上
第 24 回	報告書作成	同上
第 25 回	文献講読（全体）と個人発表	テーマに対する理解を深める 個人作業の成果発表
第 26 回	文献講読（全体）と個人発表	同上
第 27 回	文献講読（全体）と個人発表	同上
第 28 回	文献講読（全体）と個人発表	同上

第 29 回 文献講読（全体）と個人 同上

発表

第 30 回 文献講読（全体）と個人 同上

発表

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキストや参考資料は必ず予習すること。  
グループ活動（発表前の事前打ち合わせ、夏休みの共同学習、報告書作成など）

#### 【テキスト】

国連開発計画編、吉田秀美訳『世界とつながるビジネス』  
関智恵『開発途上国における社会起業および CSR 活動』  
（授業内に適宜紹介します）

#### 【参考書】

授業内に適宜紹介

#### 【成績評価基準】

出席と平常点：50%  
発表：25% タームペーパー（前・後期）：25%

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会（通年）

鶴田 佳史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

BOP（base of the pyramid / bottom of the pyramid）ビジネスの現状と可能性について考えていきます。さらに、環境、経済、社会のサステナビリティに対して企業は、その事業を通じて、何ができ、何をすべきなのか、についても一緒に考えていきましょう。

研究会では、理論を学ぶだけではなく、産学共同でのワークショップの運営（ショウワノート株式会社との産学ワークショップ）を通じて実際の企業活動にも積極的に関わっていきます。

みなさんとともに学び、活動することを楽しみにしています。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

BOP、BOP ビジネス、環境経営、経営戦略論に関わる図書を読み、ディスカッションを行います。勉強はもちろんのこと、実学も重んじます。そのためワークショップを通じて現実からも学びます。さらに、プレゼンテーションスキルの向上のため、1分間スピーチ、新聞記事の紹介（解説）も行います。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキストの選定と発表グループ分け
第 2 回	文献講読（1）	BOP ビジネスについての文献レビューと発表を行う
第 3 回	文献講読（2）	BOP ビジネスについての文献レビューと発表を行う
第 4 回	産学ワークショップ	ワークショップの顔合わせ
第 5 回	文献講読（3）	BOP ビジネスについての文献レビューと発表を行う
第 6 回	文献講読（4）	BOP ビジネスについての文献レビューと発表を行う
第 7 回	文献講読（5）	BOP ビジネスについての文献レビューと発表を行う
第 8 回	産学ワークショップ	植樹式の準備を行う
第 9 回	文献講読（6）	BOP ビジネスについての文献レビューと発表を行う
第 10 回	文献講読（7）	BOP ビジネスについての文献レビューと発表を行う
第 11 回	文献講読（8）	BOP ビジネスについての文献レビューと発表を行う
第 12 回	産学ワークショップ	環境学習会の担当を決める
第 13 回	文献講読（9）	BOP ビジネスについての文献レビューと発表を行う
第 14 回	環境学習会準備	環境学習会の準備を行う
第 15 回	環境学習会	環境学習会の運営
第 16 回	事例研究（1）	BOP ビジネスについて国内外の事例を調査し発表を行う
第 17 回	産学ワークショップ	エコ商品開発のアイデアを考える
第 18 回	事例研究（2）	BOP ビジネスについて国内外の事例を調査し発表を行う
第 19 回	事例研究（3）	BOP ビジネスについて国内外の事例を調査し発表を行う
第 20 回	事例研究（4）	BOP ビジネスについて国内外の事例を調査し発表を行う
第 21 回	産学ワークショップ	エコ商品開発のアイデアを考える
第 22 回	事例研究（5）	BOP ビジネスについて国内外の事例を調査し発表を行う
第 23 回	事例研究（6）	BOP ビジネスについて国内外の事例を調査し発表を行う
第 24 回	事例研究（7）	BOP ビジネスについて国内外の事例を調査し発表を行う
第 25 回	産学ワークショップ	ワークショップ報告書の担当を決める
第 26 回	事例研究（8）	BOP ビジネスについて国内外の事例を調査し発表を行う
第 27 回	事例研究（9）	BOP ビジネスについて国内外の事例を調査し発表を行う
第 28 回	ゼミ交流会	卒業生や社会人を招き社会活動について学ぶ
第 29 回	ワークショップ報告書作成	ワークショップ報告書の編集作業を行う



発行日：2021/6/1

第 30 回 ワークショップ報告書作 ワークショップ報告書を校了する  
成

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ビジネスの世界は日々変化しています。各種メディアの情報や報告書等を積極的にチェックして下さい。

【テキスト】

候補となる書籍を数冊提示し、第 1 回ゼミの際に、みなさんと相談の上で決定します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価基準】

出席状況、発表内容、学習意欲、研究会へのコミットメントにより総合的に評価します。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、DVD、ビデオ。

## 環境法 I

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

有害物質、廃棄物、地球環境問題などわれわれのまわりには、解決をせまられている環境問題が山積する。我が国の公害・環境法の生成、現在の体系、環境法の特徴、基本理念などを学び、環境政策を考えるうえでの基礎的な到達点を把握する。持続可能な社会に生きていくための基本が修得できる。

【授業の到達目標】

【

【授業の概要と方法】

高度経済成長のひずみとして現れてきた公害、自然破壊などの環境問題に対し、公害対策基本法などの公害法や自然保護法が生成した。さらに地球環境問題を迎え、環境基本法を中心とした法体系が完成した。また、大量生産大量消費から生じてきた廃棄物問題に対しては循環型社会の形成が要請される。歴史的視点に立ってこれらの環境法体系を俯瞰するとともに、環境法の基本原則・理念を学ぶいわば、環境法の総論である。

【

【

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の進め方と概要
第 2 回	公害法の萌芽	戦前の公害問題とその対応
第 3 回	戦後の復興と公害法	公害防止条例と水質二法
第 4 回	公害事例と法 I	イタイイタイ病と鉱業法 公害裁判
第 5 回	公害事例と法 II	水俣病と水質二法等 公害裁判
第 6 回	公害事例と法 III	四日市公害とばい煙規制法 公害裁判
第 7 回	公害対策基本法	全総計画 新産業都市 三島沼津コンビナート計画 公害対策基本法の制定
第 8 回	公害国会	公害 1 4 法の整備
第 9 回	自然保護法の歩み	国立公園制度、自然公園制度の整備
第 10 回	環境法の発展	都市生活型公害 地球環境問題
第 11 回	環境基本法	環境基本法の概要
第 12 回	循環型社会形成推進基本法	循環型社会形成推進基本法の概要、体系
第 13 回	生物多様性基本法	生物多様性基本法の概要、体系
第 14 回	近年の環境法	環境法の体系と新しい動き
第 15 回	まとめ	授業の総括

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキスト、プリントを学習する。興味をもった事例、制度を掘り下げて調べてみる。

【テキスト】

開講時に指定するテキストとプリントによる。

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価基準】

定期試験による

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

この講義は、各論として環境法Ⅲ、国際環境法Ⅱへ発展する。

## 日本環境史論 I

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：近世日本の人間社会と自然環境

環境問題の解決には、歴史事実の分析が大変重要です。そのために、必要なさまざまな学習スキルの習得や論理的思考力を養うことを目標とします。この授業では、人間と自然とのかかわりを、歴史的な視点から考えていきます。同時に、歴史史料の読解力や分析力を養うとともに、自然資源管理の持続可能性の論理を探求します。この科目は、情報源の把握や情報の価値判断の知識・技術を修得することにより、情報収集・分析力に関する就業力を育成します。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行います。

人間は自然とどのような関係を築いてきたのかを、主として日本の近世社会、とりわけ農村・漁村・山村の地域を事例としながら、開発と環境破壊、資源管理と利用、動物の保護と駆除、公害などの問題を考えていきます。ただし、人間と自然との関係についても、自然をめぐる人間同士が社会で取り持つ関係の考察が中心になります。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー環境史を学ぶ意義	日本環境史を学ぶ意義と役割を共有する
第2回	人の暮らしと山林利用	山林の所有と利用との関係を史料読解を通じて学習する
第3回	山林破壊とその影響 (1)	山林荒廃の要因を史料読解を通じて学習する
第4回	山林破壊とその影響 (2)	山林荒廃を環境思想との関連で学習する
第5回	山林保護政策の諸相 (1)	幕府の山林保護政策を史料読解を通じて学習する
第6回	山林保護政策の諸相 (2)	諸藩の山林保護政策を史料読解を通じて学習する
第7回	植林政策の諸相と問題点	幕府や諸藩の植林政策を比較検討し、地域差の事例を学習する
第8回	共有資源の所有と利用 (1)	山野河海の訴訟における幕府の裁定基準を学習する
第9回	共有資源の所有と利用 (2)	山野河海という共有資源の所有と利用を学習する
第10回	狩猟と環境保全 (1)	鷹狩りにみられる環境保全政策を法的な側面から学習する
第11回	狩猟と環境保全 (2)	鷹狩りにみられる鳥類保護の実態を史料の読解を通じて学習する
第12回	鳥獣害とその対策 (1)	鳥獣の被害実態と鳥獣威しの種類について学習する
第13回	鳥獣害とその対策 (2)	鳥獣害対策および鳥獣と人間の共生関係について学習する
第14回	公害の発生とその対策 (1)	公害の種類とその発生要因について学習する
第15回	公害の発生とその対策 (2)	公害対策およびその補償のあり方について学習する

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

- ①テキストの環境史料を事前に読解および現代語訳すること。
- ②テキストの環境史料を事前に読み、論点を整理すること。
- ③当該テーマを論じた文献を調べて学習すること。

## 【テキスト】

『日本近世環境史料演習・改訂版』(根崎光男編、同成社、2011年)

## 【参考書】

『近世林業史の研究』(所三男著、吉川弘文館、1980年)

## 【成績評価基準】

期末試験 (100%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境モデル論 I

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本科目では、現象分析と数値予測の問題について実際にコンピュータを利用しながら体験し、それらの意義や役割について考えていく。具体的なモデル化の考え方や手法に触れ、コンピュータの役割を理解していく。本授業では、EXCELの高度利用法を習得することも重要な到達目標としている。そのため、情報処理教室を利用して実習形式で授業を進めていく。具体的なテーマとしては、近年、自然科学系の領域から社会科学の領域にわたる共通概念として注目されている複雑系(カオス・フラクタルを中心とした)に関する問題を取り上げ、モデルの考え方やその応用法を修得する。さらに様々なモデル化手法にもとづいた具体的な事例を紹介する。Excelについて若干の経験があれば受講可能である。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

毎回、情報処理教室を利用して EXCEL による計算、各種関数利用、グラフ処理などを体験する。EXCEL を比較的高度に利用したいと考えている方にも受講を薦めたい。数値的計算とその結果の表示法について、サンプルを提示しながら進めていく。カオスの時間発展の意味を理解し、様々な分野への応用について試みる。またフラクタルについてもビジュアルな処理を含めながら進めていく。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	授業内容、授業予定などの説明と受講者の決定について
第2回	EXCEL の利用法 (その1)	数値計算、グラフ機能、データベース機能の利用法などについて学習する。
第3回	EXCEL の利用法 (その2)	各種関数の利用法について学習する。特に IF 関数による条件分岐や論理構造、さらには条件付合計・個数関数などの利用法などについて理解する。
第4回	モデルとは何か? について考える	モデルと現象分析、コンピュータの役割、シミュレーションなどについて概観する。
第5回	カオス (その1)	カオスの基礎的事項について学習する。決定論と確率論、複雑変動と初期値敏感性について理解する。
第6回	カオス (その2)	動物個体数の変動モデルに関わる内容(捕食と被捕食、微生物増殖のモデル、人口論など)について学習する。
第7回	「持続可能性」について	個体数変動モデルを例にとり、持続可能とは何か? について考える。複雑変動における「+」の効果と「-」の効果のバランスについて理解する。
第8回	フラクタル (その1)	フラクタルの基礎的事項について学習する。自己相似性と非整数次元について学習し、自然界に存在するフラクタルを描画する。
第9回	フラクタル (その2)	フラクタル分布について学習する。指数関数とべき乗関数による分布表現、ジップの統計法則、ランダムウォークモデルなどについて理解する。
第10回	事例研究 (その1)	森林の縮小現象を格子モデルにもとづいてシミュレートし、その成因を探る。
第11回	事例研究 (その2)	交通流をセルオートマトンモデルによりシミュレートし、渋滞現象を探る。
第12回	事例研究 (その3)	フラクタルの応用的立場から、都市成長のメカニズムについて考える。都市構造の特徴をフラクタル次元により測る。
第13回	演習 (その1)	具体的な問題をもとに演習する。
第14回	演習 (その2)	具体的な問題をもとに演習する。
第15回	まとめ	授業の復習とモデルのもつ意義や可能性などについて検討する。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の後に復習をすること。授業で使用した EXCEL ファイルを保存し整理しておくこと。

【テキスト】

特にテキストは使用しない。毎回プリントを配布する予定である。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価基準】

提出されたレポートの内容と授業への出席状況を勘案して決定する。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

パソコンを利用する授業なので、あまり速く進行することのないよう、受講者の状況を見ながらゆっくりと進めていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室に設置されているパソコンを使用する。とくに EXCEL を中心に利用する。

【その他】

本科目では情報処理教室を利用しますので受講者数に制限を設けます。受講を希望する方は、必ず第 1 回の授業に出席してください。受講希望者が多数の場合、その授業に出席した方の中から選抜し受講を認めることとします。

## 自然環境論Ⅱ

### 井上 奉生

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

河川、湖沼、地下水等を取り扱う「陸水学」は、往々にして自然科学的立場からの研究、解説が主流を占めていることは否めない。しかし、「水」は自然環境の重要な要素のひとつであると同時に人間の生活、生産活動等に密接な関係にあることは言うまでもない。講義内容は「水」の物理、化学、生物的性状等の基礎的側面および利水、治水、親水機能や環境問題等の応用的側面について歴史性、地域性をふまえながら各地の調査事例とともに解説する。

【授業の到達目標】

【

【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載

【

【

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	陸水学とは	水の惑星地球、生物と水、人間と水の係り方
第 2 回	河川（1）	水質（日本と世界の比較）、流量、物質の流送、洪水 等
第 3 回	河川（2）	塩水遡上およびその実態、酸性河川の実態
第 4 回	湖沼	成因別分類、熱的分類、生産力的分類、水温、水質
第 5 回	地下水（1）	地下水の基本的性格、地形と地下水、植生と地下水
第 6 回	地下水（2）	地下水の開発、利用と障害（地盤沈下等）、地下水保全
第 7 回	温泉	泉質、地質と温泉、日本人と温泉、海外の温泉、効能 等
第 8 回	氷雪、永久凍土	現在と過去の氷雪分布、永久凍土の分布
第 9 回	陸水の生態系	食物連鎖、プランクトン、底生生物、淡水魚類 等
第 10 回	人為による陸水の変化（1）	鉱業活動、農林・畜産・水産業 等
第 11 回	人為による陸水の変化（2）	農業
第 12 回	人為による陸水の変化（3）	工業活動、都市活動、観光 その他
第 13 回	人為による陸水の変化（4）	水質汚染（自浄作用）等
第 14 回	総括（1）	第 1 回～第 7 回までの総括
第 15 回	総括（2）	第 8 回～第 13 回までの総括

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業において指示する。

【テキスト】

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

【参考書】

適宜、参考書は紹介する。

【成績評価基準】

期末試験

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

各項目に関係するトピックのニュースがあった場合には内容を変更することもある。

地図帳を持参すること。

配布したプリントはファイルして忘れず必ず持参すること。

## 研究会 (通年)

## 梶 裕史

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

【テーマ】「文化的景観」とエコツーリズム：「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、広義のエコツーリズムや「観光文化」、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、個別の現地訪問を通じて事例研究をおこなう。

【到達目標】「五感尊重の環境教育やまちづくり」「無形の（目に見えない）宝物」などのキーワードを意識しながら、「よい（美しい）景観」とは何か、エコツーリズムとは何か、といったことについて、世間一般の表面的なイメージを越えて、旅の現地調査を通じて考察し、どんな地域でも潜在的に可能性をもつことを実感的につかむ。また、一見「環境」というテーマと関係が薄そうな事例も、大いにエコにかかわるという柔軟な視野を養う。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

一年の流れは授業計画参照。現地訪問（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する。グループ研究も可）は、都会も含めて身近な地域を選んでも構わないし、特定の地域に限定されないテーマ（例えば、日本人とある動物との関わり など）も想定可。訪問期は、夏休み他、通年設定可能。教室では、各自の調査についての発表・披露が中心になるが、「五感」「無形のもの」「目に見えないもの」など、重要なキーワードをめぐって、随時グループワークも行う。例年夏休みに、個別の旅とは別に、親睦をはかるゼミ合宿が企画されている。

[]

[]

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	昨年度の研究成果発表 ①、意見交換	研究発表は 1 人 10～15 分程度、1 回につき 1～2 名。
第 3 回	①に関連するグループワーク (GW)	前回発表の中でのポイントに沿ったテーマ設定。
第 4 回	昨年度の研究成果発表 ②、意見交換	第 2 回と同じ。
第 5 回	②に関連する GW、現地訪問の個別構想情報交換 (1)	第 3 回と同じ。
第 6 回	昨年度の研究成果発表 ③、意見交換	第 2 回と同じ。
第 7 回	③に関連する GW	第 3 回と同じ。
第 8 回	昨年度の研究成果発表 ④、意見交換	第 2 回と同じ。
第 9 回	④に関連する GW、現地訪問の個別構想情報交換 (2)	第 3 回と同じ。
第 10 回	昨年度の研究成果発表 ⑤、意見交換	第 2 回と同じ。
第 11 回	⑤に関連する GW	第 3 回と同じ。
第 12 回	昨年度の研究成果発表 ⑥、意見交換	第 2 回と同じ。
第 13 回	現地訪問の個別構想情報交換 (3)	テーマやフィールドの性格に共通性がある学生同士は互いに協力することを考える。
第 14 回	小フィールドスタディ (神楽坂等の夏の祭事)	90 分以内で学べるフィールドを選ぶ。
第 15 回	ゼミ合宿	個別の現地訪問計画書提出
<b>通年</b>		
回	テーマ	内容
第 16 回	現地訪問成果の中間報告 ①、意見交換	研究発表は 1 人 10～15 分程度、1 回につき 1～2 名。
第 17 回	①に関連する GW	第 3 回と同じ
第 18 回	現地訪問成果の中間報告 ②、意見交換	第 16 回と同じ
第 19 回	②に関連する GW	第 3 回と同じ
第 20 回	現地訪問成果の中間報告 ③、意見交換	第 16 回と同じ
第 21 回	③に関連する GW	第 3 回と同じ
第 22 回	現地訪問成果の中間報告 ④、意見交換	第 16 回と同じ

第 23 回	④に関連する GW	第 3 回と同じ
第 24 回	現地訪問成果の中間報告 ⑤、意見交換	第 16 回と同じ
第 25 回	⑤に関連する GW	第 3 回と同じ
第 26 回	現地訪問成果の中間報告 ⑥、意見交換	第 16 回と同じ
第 27 回	⑥に関連する GW、4 年生による自主就活セミナー	第 3 回と同じ
第 28 回	学年末論文の構想発表 (タイトル・要旨・仮目次等)	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第 29 回	小フィールドスタディ (年末の街のイベント)	第 14 回と同じ。
第 30 回	一年の総括と年始街歩き	論文作成の最終アドバイス

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

各自、現地訪問の準備にあたる予備知識や現地情報の収集 (主に前期)。授業内 (教室) 以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

## 【テキスト】

特に指定なし。

## 【参考書】

授業のなかで紹介します。

## 【成績評価基準】

出席、発表内容、学年末論文、ゼミという組織の中での協調性・貢献度、等々の総合評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

## 國則 守生

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本研究会は環境経済の観点から、環境問題を捉え、そのための政策や方法などを考えるために必要な素養を基礎的なレベルから出発して理解することができるようになることを目的とする。したがって、到達目標はおもに環境経済学の観点から必要となる基礎的な経済学的な素養を獲得することを目指す。そのためにプレゼンテーションおよび全員によるディスカッションを通じて、経済学を考え方を自分の言葉で理解・判断する能力を獲得する努力を行う。参加者の主体的、積極的な準備と活発なディスカッションが必須である。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会は、ミクロ経済学などに関する文献を全員で輪読し、それに関してディスカッションする。環境経済に関する重要でベーシックな考え方、とらえ方を基礎文献を通じてしっかりと身につけるため、お互いとの意見交換を重視するが、議論の後、各参加者は読書や議論を通じて得た知見や感想、評価などをまとめた報告を提出する。また、そのなかで見つけた個別テーマを選択してグループディスカッションなども行う。夏季休暇等には、読書課題をまとめる。

[]

[]

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方について議論する。
第2回～	文献講読	指定されたミクロ経済学の書籍の輪読・プレゼンテーション・ディスカッションを行う。
第14回		
第15回	前期まとめ	前期の学習のまとめを行う。
第16回	課題発表	夏季に指定された文献講読の発表を行う。
第17回	文献講読	指定されたミクロ経済学の書籍の輪読・プレゼンテーション・ディスカッションを行う。
～第19回		
第20回	外部ヒアリング	環境政策実施部署を訪問し、質問などを行う。
第21回	文献講読	指定されたミクロ的基礎を持ったマクロ経済学の書籍の輪読・プレゼンテーション・ディスカッションを行う。
～第29回		
第30回	論文発表会への参加	上級ゼミでの論文発表会に参加し、議論を行う。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

- 1) 毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) 理解力を高めるため、サブゼミを行うので出席し、そのための準備も本ゼミと同じように行う。
- 3) ゼミ合宿に参加する。

## 【テキスト】

ミクロ経済学の書籍およびマクロ経済学のミクロ的基礎の書籍をそれぞれ読する (輪読文献については授業時に指示する)。

## 【参考書】

授業時に指示する。

## 【成績評価基準】

研究会への出席・プレゼンテーション・ディスカッションおよび提出されたレポート等について総合判断する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境経営実践論 I

## 向井 常雄

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

21世紀のゼロ成長時代の経済社会では、健全な企業ビジョン・理念に基づき、環境を確実に配慮した経営を継続改善的に推進することが必要となり、循環型経済社会システムサイクルに合った経営活動が求められている。

産・官・学事業体は、グローバルな循環型経済社会を目指した持続的な開発 (Sustainable development) を図り、「確たる企業倫理及び社会との共通価値観に基づく環境配慮経営システム」の円滑な構築、運用及びその継続的改善を図り続けることが重要となる。こうした「環境配慮経営システム」は、ISO (国際標準化機構) でも環境経営の基本ルール「ISO14001 環境マネジメントシリーズ規格」として国際標準化されている。この規格は、経営上のムリ・ムラ・ムダを省き、即ち効率経営を通じて経済効果と環境効果を両立させ、経営体質の改善、BPR (Business Process Reengineering) を推進することによって経営を継続的に向上に結び付けるための国際共通のルール」となっている。こうした環境経営システムに基づき、健全な経営発展を目指し、戦略的な経営方針を確実に展開・達成させる施策を適切に実行して行くための補完要件として、リスクマネジメント、ライフサイクルアセスメント (LCA)、市場原理、コンプライアンス、環境コミュニケーション、CSR、環境会計、品質システム等がある。

前期講義では、これから21世紀ゼロ成長時代の国際的循環型経済社会を指導的に支えて行くフレッシュな人材育成を目的として、上記の内容を「実践的な環境経営論の基礎編」として演習を含めて展開させて行く。

受講者は新聞を定期的に読み、経済社会情勢を可能な限りの確に理解しておくこと。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

「授業計画」に記載

[]

[]

## 【授業計画】

前期	回	テーマ	内容
	第1回	環境経営のコンセプト	環境配慮経営にサステナビリティ経営上の必要性及び位置付けを認識。現代の経営ではCSR≒社会貢献が求められることの理解。
	第2回	地域的環境汚染問題 (公害問題) と地球環境問題	循環型社会へ国際的経済・社会システム変換の必要性 (地域的環境汚染問題と地球環境問題発生の原因と対策) を考える。
	第3回	ISO14000 シリーズ規格の意図と基本概念	国際共通の環境経営基本ツール・ISO14000 シリーズ規格の意図と基本概念を認識する。
	第4回	環境経営における基本原則	環境経営における基本原則である「環境側面 (原因系要素)」、「環境影響 (結果系インパクト)」、環境パフォーマンス (実績度) を考える。
	第5回	演習- 1 : 上記にかかる基礎的なグループ実践演習	経営活動・社会活動を取巻く環境中の土インセンティブを与える要素 (原因) とそのインパクト (影響・結果) を実践的に考える Gr 演習
	第6回	演習- 1 結果の発表と討議	演習- 1 結果の発表と討議
	第7回	環境経営改善の内部監査及び補完・支援のISO14000 シリーズ規格の要点	環境経営を継続的に改善するための内部監査及び補完・支援をするためのISO14000 シリーズ規格の要点を認識。
	第8回	特別演習: 東京都下水道局水再生センター訪問演習	公共環境浄化施設における環境経営活動上の改善点抽出の演習を東京都下水道局落水水再生センターで実施。
	第9回	演習- 2 : 演習-1 の応用編	演習- 2 経済社会活動から環境経営上の側面 (経営への土影響要素)、環境影響 (経営への土インパクト・影響) 及び重要な土影響の継続改善的な「+向上」及び「-予防」のための対策を考える。
	第10回	演習- 2 の続き	演習- 2 の続き
	第11回	演習- 2 の発表と討議	演習- 2 の発表と討議

第12回	環境経営に係るコンプライアンス	環境経営に係るコンプライアンス（法規制、条例、企業倫理に基づく自主的規制など）を考える。
第13回	経営に求められるコンピタンス（力量）	経営には知識に止まらずコンピタンス（力量）が重要となるコンピタンスマネジメントを理解し、考える力の重要性を認識する。
第14回	環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付け	産業界における環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付けを考える。
第15回	環境経営システムの実効性と環境会計	サステナビリティ経営における環境経営システムの実効性と環境会計を考える。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

可能な限り新聞を読む

**【テキスト】**

テキストは、各回講義時に資料プリントを配布する。環境経営を理解しやすく講義するため、PPTで図表を多用する。

**【参考書】**

参考文献として、「実践環境経営論—戦略的アプローチ、堀内・向井、東洋経済新報社」を参照するとよい。

**【成績評価基準】**

最終授業終了時に事前提示の環境経営課題に関するレポートを提出する。演習-1,2の結果を各グループ毎に提出し、授業中の観察評価も含めてレポート採点結果を補完する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

聴講では理解しづらいコア事項を、社会に出てから実践できるように、演習によって理解度を高める。

**【学生が準備すべき機器他】**

PC, Power point projector

**【その他】**

経済社会活動における真の環境問題とは何か、経営上でエコバランス、エコエフィシアンシーを重視した継続的改善を伴った解決策はどのように推進していったらよいのか等のあり方を考える。

新聞を読む習慣をもち、それを活かして講義・演習・討議を通じて考える力を高めていく。

**人間環境特論（気流と社会環境Ⅰ）**

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

気流と社会との関係がテーマであり、到達目標は以下の通りである。

1. 気流がもたらす現象の性質を説明できる。
2. 気流によるリスクを説明できる。
3. 人間生活圏における気流の流れ方を説明できる。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

地球を覆っている大気は地球の規模から見ると、薄い膜のようなものである。その薄い膜の中で人は生活し、大気は気流となって動いている。人にとって気流は生存するために必要なものであると同時に、時には脅威となる存在であり、またある時は心地良さをもたらすものでもある。本講義においては、気流と人間、社会、都市との関係について多角的に学ぶ。前期においては、特に気流の性質と社会への影響を中心に講義する。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	社会にとっての気流	人の生活圏の気流、強風の要因
第2回	台風	台風のエネルギー、台風の発生と移動
第3回	局地風	陸海風、オロシ、ダシ、フェーン
第4回	竜巻、ダウンバースト	竜巻発生件数、フジタスケール、マイクロバースト
第5回	強風による社会の被害	強風による都市、交通、インフラ、文化財などの損壊
第6回	気流の観測	気流の観測方法
第7回	気流の統計的性質（1）	平均風速、瞬間最大風速、最大風速
第8回	気流の統計的性質（2）	再現期間、風速の超過確率・非超過確率
第9回	気流の統計的性質（3）	再現期待値、T年最大値
第10回	気流と地表面性状	地表面の粗度、風速の高度分布
第11回	気流の周期性と評価時間	スペクトルとは何か、風速の長周期変動、10分間平均
第12回	気流の乱れ	風速の短周期変動
第13回	渦、風の息	カルマン渦の性質、風速変動と渦の重なり
第14回	気流と騒音	音の強さ、風騒音
第15回	気流と生活	気流による生活障害、高層建物とビル風

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

次の内容を事前に学習しておくこと。第1～4回：天候・強風に関する時事問題、第5回：気流災害の事例、第6回：風向風速計について、第7～9回：確率統計の基礎的な用語、第10回：対流圏について、第11～13回：周期・周波数について、第14回：音の大小・高低、第15回：ビル風について

**【テキスト】**

使用しない。

**【参考書】**

必要に応じて紹介する。

**【成績評価基準】**

レポート（100%）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

気流と社会に関する話題を分野横断的に取り上げます。本講義を受講することにより、気象や都市の見方が変わると思います。

## 環境法 I

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

有害物質、廃棄物、地球環境問題などわれわれのまわりには、解決をせまられている環境問題が山積する。我が国の公害・環境法の生成、現在の体系、環境法の特徴、基本理念などを学び、環境政策を考えるうえでの基礎的な到達点を把握する。持続可能な社会に生きていくための基本が修得できる。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

高度経済成長のひずみとして現れてきた公害、自然破壊などの環境問題に対し、公害対策基本法などの公害法や自然保護法が生成した。さらに地球環境問題を迎え、環境基本法を中心とした法体系が完成した。また、大量生産大量消費から生じてきた廃棄物問題に対しては循環型社会の形成が要請される。歴史的視点に立ってこれらの環境法体系を俯瞰するとともに、環境法の基本原則・理念を学べれば、環境法の総論である。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の進め方と概要
第 2 回	公害法の萌芽	戦前の公害問題とその対応
第 3 回	戦後の復興と公害法	公害防止条例と水質二法
第 4 回	公害事例と法 I	イタイイタイ病と鉱業法 公害裁判
第 5 回	公害事例と法 II	水俣病と水質二法等 公害裁判
第 6 回	公害事例と法 III	四日市公害とばい煙規制法 公害裁判
第 7 回	公害対策基本法	全総計画 新産業都市 三島沼津コンビナート計画 公害対策基本法の制定
第 8 回	公害国会	公害 14 法の整備
第 9 回	自然保護法の歩み	国立公園制度、自然公園制度の整備
第 10 回	環境法の発展	都市生活型公害 地球環境問題
第 11 回	環境基本法	環境基本法の概要
第 12 回	循環型社会形成推進基本法	循環型社会形成推進基本法の概要、体系
第 13 回	生物多様性基本法	生物多様性基本法の概要、体系
第 14 回	近年の環境法	環境法の体系と新しい動き
第 15 回	まとめ	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキスト、プリントを学習する。興味をもった事例、制度を掘り下げて調べてみる。

### 【テキスト】

開講時に指定するテキストとプリントによる。

### 【参考書】

授業内で紹介。

### 【成績評価基準】

定期試験による

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

この講義は、各論として環境法Ⅲ、国際環境法Ⅱへ発展する。

## 労働環境論 I

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。「労働環境を考える」をテーマに、その前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の教育訓練、昇進、昇給、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関する基本的な概念や現象を理解できるようになることをめざす。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、雇用とジェンダー、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、その時々話題になっている諸問題をも随時紹介しつつ、理解を深める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
第2回	学校から職場へ	大学生の就職がどう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
第3回	能力開発とキャリア	日本企業の教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
第4回	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルが、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
第5回	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみていく。
第6回	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に影響する。それが時代とともにどう変化してきたのか学ぶ。
第7回	賃金システム	労働条件の基本をなし、かつきわめて複雑な日本の賃金システムについて学習する（『産業と労使』第8章）。
第8回	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
第9回	失業と転職	市場経済で失業は避けられない現象である。失業と転職、国の失業対策等について学ぶ。
第10回	仕事からの引退過程	私たちは一定の年齢に達すると仕事から引退する。その過程について学び、その後の人生について考える。
第11回	性別職域分離	男女間で担当する仕事は異なる。その現状と近年の変化について学ぶ。
第12回	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加の現状や問題点について考える。
第13回	高齢化社会と雇用	少子高齢化の進行とともに高齢者の働き方が注目されている。その現状と今後について考える。
第14回	日本的雇用慣行	日本的雇用慣行の特徴は何かについて、メリット、デメリットを含め総合的に評価する。
第15回	試験	本講義の理解を確認する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義が受講できるよう、事前にテキストの関連する章を読むこと、理解できなかった箇所を再度読み直し、疑問点を確認しておくこと。

### 【テキスト】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方』有斐閣ブックス、2004年。

### 【参考書】

神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会、2003年（第7回、第13回、第14回については主教材として使う）。

### 【成績評価基準】

論述式の試験により、特定のテーマについて基本的な理解ができてい、説明できているか等を評価の基準にする。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが必ず経験するようなものばかりです。そのことを念頭において学んでほしい。



## 日本環境史論 I

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：近世日本の人間社会と自然環境

環境問題の解決には、歴史事実の分析が大変重要です。そのために必要なさまざまな学習スキルの習得や論理的思考力を養うことを目標とします。前期の授業では、人間と自然とのかかわりを、歴史的な視点から考えていきます。同時に、歴史史料の読解力や分析力を養うとともに、自然資源管理の持続可能性の論理を探求します。この科目は、情報源の把握や情報の価値判断の知識・技術を修得することにより、情報収集・分析力を育成します。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行います。

人間は自然とどのような関係を築いてきたのかを、主として日本の近世社会、とりわけ農村・漁村・山村の地域を事例としながら、開発と環境破壊、資源管理と利用、動物の保護と駆除、公害などの問題を考えていきます。ただし、人間と自然との関係といっても、自然をめぐる人間同士が社会で取り持つ関係の考察が中心になります。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー環境史を学ぶ意義	日本環境史を学ぶ意義と役割を共有する
第2回	人の暮らしと山林利用	山林の所有と利用との関係を史料読解を通じて学習する
第3回	山林破壊とその影響 (1)	山林荒廃の要因を史料読解を通じて学習する
第4回	山林破壊とその影響 (2)	山林荒廃を環境思想との関連で学習する
第5回	山林保護政策の諸相 (1)	幕府の山林保護政策を史料読解を通じて学習する
第6回	山林保護政策の諸相 (2)	諸藩の山林保護政策を史料読解を通じて学習する
第7回	植林政策の諸相と問題点	幕府や諸藩の植林政策を比較検討し、地域差の存在を学習する
第8回	共有資源の所有と利用 (1)	山野河海の訴訟における幕府裁定基準を学習する
第9回	共有資源の所有と利用 (2)	山野河海という共有資源の所有と利用を学習する
第10回	狩猟と環境保全 (1)	鷹狩りにみられる環境保全政策を法的な側面から学習する
第11回	狩猟と環境保全 (2)	鷹狩りにみられる鳥類保護の実態を史料の読解を通じて学習する
第12回	鳥獣害とその対策 (1)	鳥獣の被害実態と鳥獣威しの種類について学習する
第13回	鳥獣害とその対策 (2)	鳥獣害対策および鳥獣と人間の共生関係について学習する
第14回	公害の発生とその対策 (1)	公害の種類とその発生要因について学習する
第15回	公害の発生とその対策 (2)	公害対策とその補償のあり方について学習する

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

- ①テキストの環境史料を事前に読解および現代語訳すること。
- ②テキストの環境史料を事前に読み、論点を整理すること。
- ③当該テーマを論じた文献を調べて学習すること。

## 【テキスト】

『日本近世環境史料演習・改訂版』(根崎光男編、同成社、2011年)

## 【参考書】

『近世林業史の研究』(所三男著、吉川弘文館、1980年)

## 【成績評価基準】

期末試験 (100%)

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 公害防止管理論 I

大岡 健三

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

近年、企業は環境マネジメントシステムを始めとした新しい管理方法を採用し、環境問題への対応を経営の柱の一つとしている。企業の中心的役割を果す者は、環境問題に関する知識が必須となっている。また環境保全に対する国際協力に貢献する機会が増えている。

そこで、当講座では、良好な水質環境の維持を行うことのできる人材の育成と公害防止管理者国家資格の取得を目標に基礎知識の習得を図る。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

水質汚濁物質の性質、汚濁のメカニズム、環境法を理解して環境問題に関係する解決の基礎を学び、水質浄化対策技術、測定技術等を学ぶことによって環境保全方法を習得する。

これらについて、講義及び成績考課を兼ねた練習問題によって授業を進める。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第1回	水環境の現状	主としてわが国の水質汚濁状況の現状
第2回	水質汚濁のメカニズム	水質汚濁はどのようなメカニズムで起こるのか。
第3回	水質汚濁の種類と発生源	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。これらの発生源はどこか。
第4回	環境法	環境基本法、水質汚濁防止法、公害防止者管理法の概要。
第5回	水質汚濁処理対策の概要	水質汚濁を予防、防止するための計画と方法の概要。
第6回	物理化学的処理法 (1)	排水を浄化するための沈殿等物理化学的処理法。
第7回	物理化学的処理法 (2)	排水を浄化するための浮上、ろ過、化学処理等物理化学的処理法。
第8回	生物学的処理法 (1)	排水を浄化するための好気性微生物を利用する処理法。
第9回	生物学的処理法 (2)	排水を浄化するための嫌気性微生物を利用する処理法。
第10回	高度処理法	排水を浄化するための活性炭利用等高度な処理法。
第11回	有害物質処理法 (1)	健康に有害な金属物質を含む排水を浄化するための処理法。
第12回	有害物質処理法 (2)	健康に有害な有機化合物質を含む排水を浄化するための処理法。
第13回	水質測定法 (1)	生活上問題になる水質汚濁物質についての測定方法。
第14回	水質測定法 (2)	健康に有害な水質汚濁物質についての測定方法。
第15回	総括	前期習得事項の整理。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

第3回以降、毎回筆記試験を行うので、テキストは熟読しておくこと。

## 【テキスト】

水質汚濁対策の基礎知識・二訂 8版  
発行所 (社) 産業環境管理協会

## 【参考書】

新・公害防止の技術と法規 水質編  
発行所 (社) 産業環境管理協会  
公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質  
発行所 (社) 産業環境管理協会

## 【成績評価基準】

授業内で筆記試験を行い、総合点で判定する。

A + : 100-90 A : 89-80 B : 79-70

C : 69-60 D : 59点以下で不合格。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 自然環境論Ⅱ

### 井上 奉生

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

河川、湖沼、地下水等を取り扱う「陸水学」は、往々にして自然科学的立場からの研究、解説が主流を占めていることは否めない。しかし、「水」は自然環境の重要な要素のひとつであると同時に人間の生活、生産活動等に密接な関係にあることは言うまでもない。講義内容は「水」の物理、化学、生物的性状等の基礎的側面および利水、治水、親水機能や環境問題等の応用的側面について歴史性、地域性をふまえながら各地の調査事例とともに解説する。

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	陸水学とは	水の惑星地球、生物と水、人間と水の係り方
第2回	河川（1）	水質（日本と世界の比較）、流量、物質の流送、洪水等
第3回	河川（2）	塩水遡上およびその実態、酸性河川の実態
第4回	湖沼	成因別分類、熱的分類、生産力的分類、水温、水質
第5回	地下水（1）	地下水の基本的性格、地形と地下水、植生と地下水
第6回	地下水（2）	地下水の開発、利用と障害（地盤沈下等）、地下水保全
第7回	温泉	泉質、地質と温泉、日本人と温泉、海外の温泉、効能等
第8回	氷雪、永久凍土	現在と過去の氷雪分布、永久凍土の分布
第9回	陸水の生態系	食物連鎖、プランクトン、底生生物、淡水魚類等
第10回	人為による陸水の変化（1）	鉱業活動、農林・畜産・水産業等
第11回	人為による陸水の変化（2）	農薬
第12回	人為による陸水の変化（3）	工業活動、都市活動、観光 その他
第13回	人為による陸水の変化（4）	水質汚染（自浄作用）等
第14回	総括（1）	第1回～第7回までの総括
第15回	総括（2）	第8回～第13回までの総括

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業において指示する。

#### 【テキスト】

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

#### 【参考書】

適宜、参考書を紹介する。

#### 【成績評価基準】

期末試験

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

各項目に関係するトピック的ニュースがあった場合には内容を変更することもある。

地図帳を持参すること。

配布したプリントはファイルして忘れず必ず持参すること。

## 環境表象論

### 梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

この講義は、「文化」という視点からの環境問題へのとりくみの一例を紹介するものである。科目名称の「表象」とは、心の中に現れる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にどう捉えるか、ということであると思うとよい。この講義では、その好例といえるテーマとして、「文化的景観」という考え方をとりあげる（→次項「概要」参照）。

国内を中心とした具体的な事例の紹介と考察を通じて、わが国の各地域の伝統文化・民俗資産を活かすことが、環境共生型の地域形成や人間形成にきわめて有益であることを理解し、「環境」という語の指す内容、範囲が世間一般のイメージよりずっと広く、柔軟に考えるべきものであることを知る機会とする。

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

<概要>

「文化（的）景観」は、もともとは手付かずの「自然景観」に対して、人間の暮らしが創った地表のすがたを指す地理学用語である。農林水産業の土地利用のすがたや都市景観、それに人間の手が加えられた自然（二次的自然）のすがたも含まれるが、1990年代、ユネスコがこれを世界遺産の登録基準として採用して以来、環境共生型の地域形成に資する概念として注目が高まってきている。

典型的には「自然と人間の共同作品」といえるような、良好な共生関係を表す農村の景観などを思い浮かべるとよいが、手付かずの自然＝「原生自然」であっても、古来、宗教上の聖地として自然が守られてきた場所、古典文芸の「名所」として大事にされてきた場所などは、人間が意志的に守ってきた景観ということで、「文化的景観」とみなす。また、都市や鉱工業・交通に関する景観も「文化的景観」であり、範囲は幅広い。そして「景観」の構成要素は可視の有形物に限定されない。「無形」の文化や「五感」で感受される要素も含まれ、このような「目に見えない部分」が価値の本質となる場合が多い。見た目だけでなく、それを支えている人間の暮らしぶりを、心で感受するものだという考え方である。

<授業の形式>

ふつうの講義形式。テーマの性格上、OHC（書画カメラ）を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなるが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って頂きたい。

[]

[]

#### 【授業計画】

前期	回	テーマ	内容
	第1回	ガイダンス	「景観」について、導入的説明。
	第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説	併せて国内の世界遺産を紹介
	第3回	世界遺産のなかで「文化的景観」導入の経緯	「自然遺産」「文化遺産」のはざま
	第4回	ユネスコによる「文化的景観」の定義・内容	「環境」、持続可能性重視の新視点
	第5回	日本の対応	「文化財保護法」の新文化財として導入の経緯
	第6回	「文化的景観」保全の多面的効用	文化庁種別Ⅰ類（農林漁業の持続可能性豊かな土地利用の景観）を例として
	第7回	「景観」・「風景」・「原風景」	「センス・オブ・プレイス」も併せて
	第8回	近江八幡から学ぶべきこと	国内の新文化財「重要文化的景観」第1号
	第9回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義（1）	宗教・信仰の聖地として守られてきた場所
	第10回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義（2）	古典文芸の“名所”として守られてきた場
	第11回	Ⅱ類の拡大解釈—その場にはないもの、見えないものが作り出す魅力	文学作品、映画、アニメが創る作品舞台の魅力／「ことば」が景観を創／心の中のイメージの重要性 など
	第12回	生きて変化する文化財として（1）	「五感」で体感される周期変化
	第13回	生きて変化する文化財として（2）	「伝統」の非固定性／「有機的に進化」する景観
	第14回	「伝統」継承のための階層的発想	観光文化、エコツーリズムの可能性

第 15 回 無形文化尊重の潮流／概 視覚のみから「五感」へ／鉱工業や都  
念発展の可能性 市の産業・生活に関わる景観

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励する。

#### 【テキスト】

特に指定しない。授業のなかで随時配布するプリントをもって代える。

#### 【参考書】

『日本の文化的景観』（文化庁監修、同成社 2005）ほか、授業のなかで紹介する。

#### 【成績評価基準】

期末試験。他に、授業マナーも影響する場合あり（私語・メール等発覚した場合は単位取得不可です）。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業が中断して（当然ながら）雰囲気が悪くなることもあり、そのことへの批判的意見もあります。それはもともとですが、大教室で常時静粛な授業環境を確保する効果があるため、方針は変えません。関連して・・・「雑談」「余談」的なくだけた話のときは別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、（その話題に関連して適度に隣の友人と話したり）笑ったりして楽しんでください。要は、真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感覚で聴いてもらうのがベストと思います。

また、OHC（書画カメラ）で写真等をたくさんお見せするのですが、専用の時間を設けるといふかたちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態で見ると、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

#### 【その他】

日本の伝統文化を広義の環境政策の視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

## 環境科学入門

渡邊 誠、朝比奈 茂、井上 奉生、北川 徹哉、谷本 勉、藤倉 良、宮川 路子

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

人間環境学部は、人文・社会科学系学部として環境問題を多角的に捉え、これからの社会のあり方を考えていく学部であるが、それには自然科学の基礎的な知見・理解は不可欠である。この講義では環境問題を学ぶ上で必要な自然科学の基本的な事柄と概念を学ぶことを目的としている。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

自然科学に関連する専攻分野の教員が、オムニバス形式で講義を行なう。

【】

【】

#### 【授業計画】

##### 前期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（渡邊）【中止】	本科目の概要やテーマなどについて講義し、科目履修のためのオリエンテーションを行う。【中止】
第 2 回	環境モデルとデータ分析 A（渡邊）【中止】	環境問題を定量的に分析し理解するための基礎事項について、データ分析法ならびに統計的手法を中心に学習する。【中止】
第 3 回	環境モデルとデータ分析 B（渡邊） 【テーマ変更】 ガイダンス（渡邊）	環境問題を定量的に分析し理解するための基礎事項について、モデル化手法とシミュレーションの事例を中心に学習する。 【内容変更】 本科目の概要やテーマなどについて講義し、科目履修のためのオリエンテーションを行う。
第 4 回	地球環境観の変遷 A（谷本）	17 世紀の近代科学誕生から 20 世紀半ばまでの西欧の地球環境に対する見方・考え方の歴史を学習する。
第 5 回	地球環境観の変遷 B（谷本）	「沈黙の春」（1962）以降の地球環境観の現代史を、温暖化問題を中心にして学習する。
第 6 回	自然環境の基礎（井上）	我々、人類をとりまいている地球の自然環境について、気圏（気象・気候等）、岩圏（岩石・地質・土壌等）、水圏（海洋・陸水等）、生物圏（生物多様性・自然保護等）を中心に学習する。なお、自然環境を知る上で必要な基礎的用語についても解説する。
第 7 回	エネルギーの基礎 A（北川）	エネルギー・資源の歴史と種類を知り、化石エネルギーの可採年数などの人類が直面している問題の基礎について学ぶ。
第 8 回	エネルギーの基礎 B（北川）	エネルギー自給率、エネルギー利用効率と GDP、環境問題と非化石エネルギーなどに関する基礎事項を学習する。
第 9 回	環境工学の基礎 A（藤倉）	環境にやさしいとはどういうことか。石鹼と合成洗剤のどちらが環境にやさしいのか。ペットボトルのリサイクルは本当に環境にやさしいのか。
第 10 回	環境工学の基礎 B（藤倉）	地球温暖化問題について学ぶ。地球は本当に温暖化しているのか。本当に人間活動のせいなのか。温暖化を止めるにはどうすればいいのか。
第 11 回	健康と環境 A（宮川）	現代社会において人が健康に生きていくための基礎的な知識を身につける。少子・超高齢時代における健康の概念について考える。
第 12 回	健康と環境 B（宮川）	健康を守るための予防、産業保健現場における健康問題について学ぶ。

第 13 回 スポーツと医学 A (朝比奈) 【テーマ変更】  
スポーツと医学 (朝比奈)

適度の運動は、血液循環が促進され、代謝が亢進する。いき過ぎた運動は、細胞を破壊し、機能が低下する。どのような運動が健康に良いのか、また体にとって運動は害を及ぼすことがあるのかなど、運動の功罪について学習する。

第 14 回 スポーツと医学 B (朝比奈) 【テーマ変更】  
環境モデル論とデータ分析 (渡邊)

体力とは何か。体力がある人は健康であるか。一般にアスリートは風邪などの感染症に罹りやすいと言われているが、それはどうしてだろうか？ アスリートの内科的障害とその対策方法について学習する。

【内容変更】  
環境問題を定量的に分析し理解するための基礎事項について、データ分析法やモデル化手法を中心に学習する。成績評価のための試験を行う。

第 15 回 試験

#### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業後には毎回復習をすること。とくに配布された資料の内容をしっかりと把握しておくこと。

#### 【テキスト】

授業時に資料を配布する。

#### 【参考書】

必要に応じて授業時に紹介する。

#### 【成績評価基準】

試験の結果により判定する。授業時に出席はとらないが、事実上授業に出席しておかないと合格点の確保は難しい。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクターなどの機器を用いて解説を行う。

#### 【その他】

本科目は一年次の必修科目である。A～D・Hクラスは6時限目に、E～Gクラスは3時限目に登録・履修すること。なお再履修する方は自分のクラスの時に登録・履修すること。

## 研究会 (通年)

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

この研究会の基本的なテーマは、持続可能な地域社会に向けた公共政策である。特に「ソーシャル・イノベーション」といわれるテーマについて、ローカルな視点から理論やケースについて検討を行う。また共通テーマ以外に、各人が研究会修了論文の執筆に向けた調査研究を行う。さらに地域実践の企画運営を通してコミュニケーション能力、チームとしての協働力、政策やプロジェクトの構想力 (問題発見と解決能力) などの涵養も含め、大学生としての総合的な能力構築と大学生活のインテグレーションを目標とする。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

この研究会の共通テーマでは、持続可能な地域社会の多面的なとらえ方をふまへながら、「ソーシャル・イノベーション」の主体やプロセスのパターンについて、文献と地域実践の両面から理解を深めていく。研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果についてはプレゼンテーションも行う。研究会の方法としては、文献講読、討論、地域連携による社会実験と報告書の作成などを予定している。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第 3 回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第 4 回	文献講読 (1)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読 (2)	同上。
第 6 回	文献講読 (3)	同上。
第 7 回	地域連携プロジェクトの企画 (1)	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第 8 回	文献講読 (4)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	文献講読 (5)	同上。
第 10 回	地域連携プロジェクトの企画 (2)	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本設計について検討する。
第 11 回	地域連携プロジェクトの企画 (3)	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施設計について検討する。
第 12 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマ (研究会修了論文) の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 14 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 15 回	地域連携プロジェクトの企画 (4)	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第 16 回	後期の方向性の確認	後期の共通テーマの方向性を確認する。
第 17 回	地域連携プロジェクトの検証 (1)	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 18 回	地域連携プロジェクトの検証 (2)	同上。
第 19 回	文献講読 (1)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 20 回	文献講読 (2)	同上。
第 21 回	文献講読 (3)	同上。
第 22 回	文献講読 (4)	同上。
第 23 回	文献講読 (5)	同上。
第 24 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。
第 25 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマ (研究会修了論文) の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 27 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 28 回	個人テーマの報告 (4)	同上。

発行日：2021/6/1

- 第 29 回 個人テーマの報告（5） 同上。  
第 30 回 研究会の総括 1 年間の研究会の内容を総括し、成果を共有する。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・文献の事前学習
- ・地域連携プロジェクトの企画
- ・研究会修了論文執筆のための調査研究

#### 【テキスト】

- ・開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

#### 【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

#### 【成績評価基準】

出席（50%）、参加姿勢（30%）、研究会修了論文への取り組み（20%）による総合評価とする。演習という性格上、常時出席し共通テーマについて他者と協働しながら、かつ課題や個人テーマに着実に取り組むことが必要である。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

この研究会は、地域環境コースに登録した学生を対象としている。したがって、履修にあたって、地域環境コースの関連科目（人間環境学部のガイドブックに掲載）とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連する科目を人間環境学部のカリキュラム全体から検討し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を図っていくことが望ましい。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的栄養が得られる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じるので、積極的に助言をもとめてほしい。

## 研究会（通年）

### 関口 和男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

前年度に引き続き、H アーレント『人間の条件』を徹底的に精読し、議論をしていきます。とくに、「現代とは何か、現代社会とは何か」さらには「われわれ人間はそもそも何なのか」という大きな問題を念頭に置きつつ進めていきます。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

文献の精密な読解と質疑応答

【】

【】

#### 【授業計画】

##### 通年

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 1	精読と質疑応答
第 2 回	文献講読 2	同上
第 3 回	文献講読 3	同上
第 4 回	文献講読 4	同上
第 5 回	文献講読 5	同上
第 6 回	文献講読 6	同上
第 7 回	文献講読 7	同上
第 8 回	文献講読 8	同上
第 9 回	文献講読 9	同上
第 10 回	文献講読 10	同上
第 11 回	文献講読 11	同上
第 12 回	文献講読 12	同上
第 13 回	文献講読 13	同上
第 14 回	文献講読 14	同上
第 15 回	文献講読 15	同上
第 16 回	文献講読 16	同上
第 17 回	文献講読 17	同上
第 18 回	文献講読 18	同上
第 19 回	文献講読 19	同上
第 20 回	文献講読 20	同上
第 21 回	文献講読 21	同上
第 22 回	文献講読 22	同上
第 23 回	文献講読 23	同上
第 24 回	文献講読 24	同上
第 25 回	文献講読 25	同上
第 26 回	文献講読 26	同上
第 27 回	文献講読 27	同上
第 28 回	文献講読 28	同上
第 29 回	文献講読 29	同上
第 30 回	文献講読 30	同上

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回の学習部分を読んで、質問箇所を明瞭にしておくこと。終了後の再検討。

#### 【テキスト】

H アーレント『人間の条件』志水速雄訳、ちくま学芸文庫（筑摩書房）を使用。必要に応じて原文をコピーし配布します。

#### 【参考書】

特になし

#### 【成績評価基準】

平常評価

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境科学 I

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I（前期）では、比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II（後期）では、地球規模や国境を超える問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I と II のどちらか片方だけを履修してもかまいません。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

[]

[]

## 【授業計画】

## 前期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その 2（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小
第 14 回	基準の決め方（第 6 章）	環境基準と排出基準
第 15 回	まとめ	全体のまとめ

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

## 【テキスト】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

## 【参考書】

講義中に指定します。

## 【成績評価基準】

期末試験のみで評価します。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 英語 I（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course description and student selection	Lecture and English test
第 2 回	Personal Information	Student interviews and discussion
第 3 回	Family	Student interviews and discussion
第 4 回	Friends	Student interviews and discussion
第 5 回	House and home	Student interviews and discussion
第 6 回	Food and diet	Student interviews and discussion
第 7 回	Speech writing	Writing and feedback
第 8 回	Speech practice and performance	Speech performances
第 9 回	School life	Student interviews and discussion
第 10 回	Books and reading	Student interviews and discussion
第 11 回	Money and spending	Student interviews and discussion
第 12 回	Transportation	Student interviews and discussion
第 13 回	Holidays	Student interviews and discussion
第 14 回	Speech writing	Writing and feedback
第 15 回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation. Students who cannot attend every class should not take the class.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson.

## 英語 I（4 群必修）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course description and student selection	Lecture and English test
第 2 回	Personal Information	Student interviews and discussion
第 3 回	Family	Student interviews and discussion
第 4 回	Friends	Student interviews and discussion
第 5 回	House and home	Student interviews and discussion
第 6 回	Food and diet	Student interviews and discussion
第 7 回	Speech writing	Writing and feedback
第 8 回	Speech practice and performance	Speech performances
第 9 回	School life	Student interviews and discussion
第 10 回	Books and reading	Student interviews and discussion
第 11 回	Money and spending	Student interviews and discussion
第 12 回	Transportation	Student interviews and discussion
第 13 回	Holidays	Student interviews and discussion
第 14 回	Speech writing	Writing and feedback
第 15 回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation. Students who cannot attend every class should not take the class.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson.

## 英語 I（4 群選択）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course description and student selection	Lecture and English test
第 2 回	Personal Information	Student interviews and discussion
第 3 回	Family	Student interviews and discussion
第 4 回	Friends	Student interviews and discussion
第 5 回	House and home	Student interviews and discussion
第 6 回	Food and diet	Student interviews and discussion
第 7 回	Speech writing	Writing and feedback
第 8 回	Speech practice and performance	Speech performances
第 9 回	School life	Student interviews and discussion
第 10 回	Books and reading	Student interviews and discussion
第 11 回	Money and spending	Student interviews and discussion
第 12 回	Transportation	Student interviews and discussion
第 13 回	Holidays	Student interviews and discussion
第 14 回	Speech writing	Writing and feedback
第 15 回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation. Students who cannot attend every class should not take the class.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson.

## 中国語Ⅰ（スキルアップ科目）

劉 湯氷

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

入門会話であるため、発音における指導を重視する。教師マニュアルに発音指導のみではなく、教室活動に用いる「ドリル」と「練習問題」を設ける。「ドリル」は主に口頭練習に、「練習問題」は主に書くトレーニングに活用することを目的とする。中国語の声調、音節、簡体字及び基礎文法を勉強する。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

この授業は初級中国語に必要な語彙、文法、会話を習得すると同時に聴力、会話の反復練習にも力を入れる。教師マニュアルに発音指導のみではなく、教室活動に用いる「ドリル」と「練習問題」を設ける。「ドリル」は主に口頭練習に、「練習問題」は主に書くトレーニングに活用することを目的とする。「聞く、読む、書く」といった三つの面において、練習を重ねることにより発音段階の基礎作りを完成する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	中国語とは
第2回	発音（一）	母音
第3回	発音（二）	子音1
第4回	発音（三）	子音2
第5回	発音（四）	鼻母音 奥母音 アル化
第6回	発音（五）	総合練習
第7回	第1課	文法・本文・練習問題
第8回	第2課	文法・本文・練習問題
第9回	第3課	文法・本文・練習問題
第10回	第4課	文法・本文・練習問題
第11回	第5課	文法・本文・練習問題
第12回	1～5課の復習	復習と応用練習
第13回	自己紹介発表	中国語で自己紹介
第14回	総まとめ	まとめと練習
第15回	授業内試験	試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ピンインを覚える  
単語調べる  
本文を暗記する

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅰ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に紹介する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 【その他】

学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に思い切って声を出して発音してもらおう。習ったものをなるべく応用してもらおう。

## 中国語Ⅰ（4群必修）

劉 湯氷

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

入門会話であるため、発音における指導を重視する。教師マニュアルに発音指導のみではなく、教室活動に用いる「ドリル」と「練習問題」を設ける。「ドリル」は主に口頭練習に、「練習問題」は主に書くトレーニングに活用することを目的とする。中国語の声調、音節、簡体字及び基礎文法を勉強する。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

この授業は初級中国語に必要な語彙、文法、会話を習得すると同時に聴力、会話の反復練習にも力を入れる。教師マニュアルに発音指導のみではなく、教室活動に用いる「ドリル」と「練習問題」を設ける。「ドリル」は主に口頭練習に、「練習問題」は主に書くトレーニングに活用することを目的とする。「聞く、読む、書く」といった三つの面において、練習を重ねることにより発音段階の基礎作りを完成する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	中国語とは
第2回	発音（一）	母音
第3回	発音（二）	子音1
第4回	発音（三）	子音2
第5回	発音（四）	鼻母音 奥母音 アル化
第6回	発音（五）	総合練習
第7回	第1課	文法・本文・練習問題
第8回	第2課	文法・本文・練習問題
第9回	第3課	文法・本文・練習問題
第10回	第4課	文法・本文・練習問題
第11回	第5課	文法・本文・練習問題
第12回	1～5課の復習	復習と応用練習
第13回	自己紹介発表	中国語で自己紹介
第14回	総まとめ	まとめと練習
第15回	授業内試験	試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ピンインを覚える  
単語調べる  
本文を暗記する

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅰ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に紹介する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 【その他】

学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に思い切って声を出して発音してもらおう。習ったものをなるべく応用してもらおう。



## 中国語 I（4 群選択）

## 劉 渴水

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

入門会話であるため、発音における指導を重視する。教師マニュアルに発音指導のみではなく、教室活動に用いる「ドリル」と「練習問題」を設ける。「ドリル」は主に口頭練習に、「練習問題」は主に書くトレーニングに活用することを目的とする。中国語の声調、音節、簡体字及び基礎文法を勉強する。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

この授業は初級中国語に必要な語彙、文法、会話を習得すると同時に聴力、会話の反復練習にも力を入れる。教師マニュアルに発音指導のみではなく、教室活動に用いる「ドリル」と「練習問題」を設ける。「ドリル」は主に口頭練習に、「練習問題」は主に書くトレーニングに活用することを目的とする。「聞く、読む、書く」といった三つの面において、練習を重ねることにより発音段階の基礎作りを完成する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	中国語とは
第 2 回	発音（一）	母音
第 3 回	発音（二）	子音 1
第 4 回	発音（三）	子音 2
第 5 回	発音（四）	鼻母音 奥母音 アル化
第 6 回	発音（五）	総合練習
第 7 回	第 1 課	文法・本文・練習問題
第 8 回	第 2 課	文法・本文・練習問題
第 9 回	第 3 課	文法・本文・練習問題
第 10 回	第 4 課	文法・本文・練習問題
第 11 回	第 5 課	文法・本文・練習問題
第 12 回	1～5 課の復習	復習と応用練習
第 13 回	自己紹介発表	中国語で自己紹介
第 14 回	総まとめ	まとめと練習
第 15 回	授業内試験	試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ピンインを覚える  
単語調べる  
本文を暗記する

## 【テキスト】

『みんなの中国語 I』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に紹介する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 【その他】

学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に思い切って声を出して発音してもらおう。習ったものをなるべく応用してもらおう。

## 環境経営論 I

## 堀内 行蔵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

地球環境問題の根本は経済問題である。現代の企業は巨大化し、さまざまな影響を及ぼしている。環境経営論の目的は、地球環境問題の解決に貢献する企業経営のあり方を学習し、将来の変革のリーダーシップを取る人材を育成することである。テーマは「持続可能な社会」の構築である。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

地球環境問題は企業経営のあらゆる活動に関係している。そこで、まず、経営論の基礎である戦略、組織、リーダーシップ、組織文化、企業変革などのテーマについて学習する。つぎに、21 世紀のビジョンである「持続可能な社会」について学習し、最後にビジョンと企業の環境経営との関連をまとめる。この授業は社会力養成の授業の一部である。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概略について説明する。
第 2 回	地球環境問題に対する経済・経営の問題	現在は経済成長の時代から経済発展の時代へと転換していることを学習する。
第 3 回	企業、組織、経営とは何か	市場経済や企業経営などについて、基礎的な知識を得る。
第 4 回	競争戦略とドメインの決定	戦略やドメインなどを学び、差別化戦略について知識を得る。
第 5 回	企業成長と多角化戦略	企業が成長するための戦略として、事業を多角化させることを学ぶ。
第 6 回	事業部制と組織構造	企業が多角化する際の組織構造の変化について学ぶ。
第 7 回	企業統治（コーポレート・ガバナンス）	企業と利害関係者との調整問題を学習する。とくに経営者と株主との関係に注目する。
第 8 回	インセンティブ・システム	企業は、分業と協業のシステムのもとで活動する。この活動を有効にするための誘因について知識を得る。
第 9 回	経営理念と組織文化の形成	優れた企業について、理念がどのように企業活動に影響するかを学習する。
第 10 回	リーダーシップ	企業という組織を牽引する経営者のあり方や役割を学習する。
第 11 回	組織文化の転換と企業の脱成熟化	新たな飛躍のための企業のパラダイム転換について学習する。
第 12 回	21 世紀のビジョン（定常状態の経済）	現在の日本経済は、ゼロ成長の時代に入っていることを認識し、その意味を学習する。
第 13 回	21 世紀のビジョン（エコロジカル・フットプリント）	地球への環境負荷と地球の環境容量について学習し、世界経済の持続可能性を検討する。
第 14 回	21 世紀のビジョン（ナチュラル・ステップ）	自然の循環法則から持続可能性の条件を導き、環境経営に役立てる。
第 15 回	21 世紀のビジョンと企業経営	持続可能な発展というビジョンを実現するための総合的な条件について、企業経営を中心に学習する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキスト（伊丹・加護野、堀内・向井）を読むこと。新聞や雑誌や企業のHPには、持続可能性について関連することが多いため、よく目を通しておくこと。

## 【テキスト】

伊丹敬之・加護野忠雄『ゼミナール経営学入門』（日本経済新聞社）  
堀内行蔵・向井常雄『実践環境経営論』（東洋経済新報社）

## 【参考書】

金原達夫『やさしい経営学』（文真堂）  
P. F. ドラッカー『マネジメント』（ダイヤモンド社）  
K = H・ロバート『ナチュラル・チャレンジ』（新評論）  
堀内行蔵『日本経済のビジョンと政策』（東洋経済新報社）

## 【成績評価基準】

論述を中心にした期末試験（参照不可）で評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## テキストと人間像

山本 長一

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

内外の文学作品を広く鑑賞、吟味して、そこに底流として存在する人間像のアーキタイプを探る。したがって広く浅くテキストにあたっていく。人間とは不可解な存在であるが、文学作品を通して受講生の鋭い感性を引き出すきっかけになれないものだろうか、問いつつ授業を進めていく。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

約10作品のテキストを取り上げ、解説していく。1作品を1ないし2回の講義にあてる。

後半に97年に死刑執行された永山則夫が獄中で書いた自伝小説『木橋』他を加える。広い意味での比較文学というスタイルをとることになる。受講生はあらかじめ定められたテキストを読んでおくことが望ましい。講義前にハンドアウトを提供する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、テキスト及び参考文献の指示、次回分のハンドアウト配布。
第2回	テキスト1	『山の音』について解説・分析。
第3回	テキスト1	『山の音』の映画による原作の確認。
第4回	テキスト2・3	『斜陽』、チャーホフの『桜の園』との比較。
第5回	テキスト4	『ヴィヨンの妻』の映画による原作との比較。
第6回	テキスト5	イングロの『日の名残り』について解説・分析。
第7回	テキスト5	『日の名残り』の映画によるイギリス的なるもの発見。
第8回	テキスト6	つげ義春の『リアリズムの宿』、『無能の人』、および『ねじ式』について解説・分析。
第9回	テキスト6	つげ作品の映画による原作の脚色。
第10回	テキスト7	ソボクレスの『オイディプス王』について解説・分析。
第11回	テキスト8・9	同『アンティゴネー』及び聖書の『ヨブ記』について悲劇的なるもの解説・分析。
第12回	テキスト10	村上春樹の『海辺のカフカ』と『オイディプス王』との比較。
第13回	テキスト11	永山則夫の『木橋』他についての解説・分析。
第14回	テキスト12	死刑囚永山則夫の『裸の十九才』の映画により、人間永山則夫の実像を考察。
第15回	まとめ	定期試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

この授業でとり上げる文学作品を是非読んでおいてもらいたい。全作品が無理なら一作品でもいい。

### 【テキスト】

授業計画にあるテキストはつげ義春を除いてすべて文庫本で入手可能なものととめた。生協で求めるように。

### 【参考書】

参考資料は事前に当方で用意し、ハンドアウトとして配布。

### 【成績評価基準】

定期試験（論述問題）による。出席調査は時々するが、評価の対象ではない。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

単なる解説という批判があったので、前年よりやや、つっこんだ解説にしたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室内のビデオ機器

### 【その他】

この機会に文学作品をよく読んで授業に臨んでもらいたい。新しい発見があるだろう。

## 英語Ⅲ（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

This is an English discussion class, that aims to provide students with opportunities for expressing their ideas and opinions about events and issues of current interest.

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

Students will work in pairs and groups to exchange ideas and opinions about various current topics, and will work together to produce suggestions and proposals about those topics.

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and English test
第2回	Self- and partner introductions	Student interviews and discussion
第3回	Ice-breakers and conversation starters	Student interviews and discussion
第4回	Making friends	Student interviews and discussion
第5回	Free time and leisure	Student interviews and discussion
第6回	Jobs and Careers	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performances
第9回	Living independently	Student interviews and discussion
第10回	Travel	Student interviews and discussion
第11回	The film industry	Student interviews and discussion
第12回	Describing objects	Student interviews and discussion
第13回	Health talk	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

### 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

### 【参考書】

None.

### 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation. Students who cannot attend every class should not take the class.

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【学生が準備すべき機器他】

None.

### 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson.

## 英語Ⅲ（4群必修）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an English discussion class, that aims to provide students with opportunities for expressing their ideas and opinions about events and issues of current interest.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

Students will work in pairs and groups to exchange ideas and opinions about various current topics, and will work together to produce suggestions and proposals about those topics.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and English test
第2回	Self- and partner introductions	Student interviews and discussion
第3回	Ice-breakers and conversation starters	Student interviews and discussion
第4回	Making friends	Student interviews and discussion
第5回	Free time and leisure	Student interviews and discussion
第6回	Jobs and Careers	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performances
第9回	Living independently	Student interviews and discussion
第10回	Travel	Student interviews and discussion
第11回	The film industry	Student interviews and discussion
第12回	Describing objects	Student interviews and discussion
第13回	Health talk	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation. Students who cannot attend every class should not take the class.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson.

## 英語Ⅲ（4群選択）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an English discussion class, that aims to provide students with opportunities for expressing their ideas and opinions about events and issues of current interest.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

Students will work in pairs and groups to exchange ideas and opinions about various current topics, and will work together to produce suggestions and proposals about those topics.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and English test
第2回	Self- and partner introductions	Student interviews and discussion
第3回	Ice-breakers and conversation starters	Student interviews and discussion
第4回	Making friends	Student interviews and discussion
第5回	Free time and leisure	Student interviews and discussion
第6回	Jobs and Careers	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performances
第9回	Living independently	Student interviews and discussion
第10回	Travel	Student interviews and discussion
第11回	The film industry	Student interviews and discussion
第12回	Describing objects	Student interviews and discussion
第13回	Health talk	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation. Students who cannot attend every class should not take the class.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson.

## 中国語Ⅲ（スキルアップ科目）

劉 湯氷

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この授業はすでに一年間中国語を履修した学生を対象に、「聞く、話す、読む、書く」といった四技能のトレーニングを優先し、授業を進める。学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に勇気を持って質問したり、会話練習に積極的に参加したりするように頑張してほしい。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

一課の内容は2コマの授業でこなせる。1コマ目は「解釈」を主とした文法項目の導入と翻訳に重点を置き、2コマ目は「ドリル」を優先し、発話とライティングに重点を置く。履修者に長文を聞き取ったり、言ったりする力を伸ばし、中国語の文章の特徴を理解してもらうことを狙いとする。学生の要求に応じて、中国語検定試験3級の練習も行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション 中国語で自己紹介
第2回	第1課	文法・課文
第3回	第1課	会話・練習問題
第4回	第2課	文法・課文
第5回	第2課	会話・練習問題
第6回	第3課	文法・課文
第7回	第3課	会話・練習問題
第8回	第4課	文法・課文
第9回	第4課	会話・練習問題
第10回	第5課	文法・課文
第11回	第5課	会話・練習問題
第12回	第6課	文法・課文
第13回	第6課	会話・練習問題
第14回	総まとめ	まとめと応用練習
第15回	授業内試験	試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に新出単語を調べること  
習得した本文を暗記すること

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅱ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 中国語Ⅲ（4群必修）

劉 湯氷

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この授業はすでに一年間中国語を履修した学生を対象に、「聞く、話す、読む、書く」といった四技能のトレーニングを優先し、授業を進める。学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に勇気を持って質問したり、会話練習に積極的に参加したりするように頑張してほしい。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

一課の内容は2コマの授業でこなせる。1コマ目は「解釈」を主とした文法項目の導入と翻訳に重点を置き、2コマ目は「ドリル」を優先し、発話とライティングに重点を置く。履修者に長文を聞き取ったり、言ったりする力を伸ばし、中国語の文章の特徴を理解してもらうことを狙いとする。学生の要求に応じて、中国語検定試験3級の練習も行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション 中国語で自己紹介
第2回	第1課	文法・課文
第3回	第1課	会話・練習問題
第4回	第2課	文法・課文
第5回	第2課	会話・練習問題
第6回	第3課	文法・課文
第7回	第3課	会話・練習問題
第8回	第4課	文法・課文
第9回	第4課	会話・練習問題
第10回	第5課	文法・課文
第11回	第5課	会話・練習問題
第12回	第6課	文法・課文
第13回	第6課	会話・練習問題
第14回	総まとめ	まとめと応用練習
第15回	授業内試験	試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に新出単語を調べること  
習得した本文を暗記すること

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅱ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 中国語Ⅲ（4群選択）

劉 湯水

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この授業はすでに一年間中国語を履修した学生を対象に、「聞く、話す、読む、書く」といった四技能のトレーニングを優先し、授業を進める。学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に勇気を持って質問したり、会話練習に積極的に参加したりするように頑張してほしい。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

一課の内容は2コマの授業でこなせる。1コマ目は「解釈」を主とした文法項目の導入と翻訳に重点を置き、2コマ目は「ドリル」を優先し、発話とライティングに重点を置く。履修者に長文を聞き取ったり、言ったりする力を伸ばし、中国語の文章の特徴を理解してもらうことを狙いとする。学生の要求に応じて、中国語検定試験3級の練習も行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション 中国語で自己紹介
第2回	第1課	文法・課文
第3回	第1課	会話・練習問題
第4回	第2課	文法・課文
第5回	第2課	会話・練習問題
第6回	第3課	文法・課文
第7回	第3課	会話・練習問題
第8回	第4課	文法・課文
第9回	第4課	会話・練習問題
第10回	第5課	文法・課文
第11回	第5課	会話・練習問題
第12回	第6課	文法・課文
第13回	第6課	会話・練習問題
第14回	総まとめ	まとめと応用練習
第15回	授業内試験	試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に新出単語を調べること  
習得した本文を暗記すること

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅱ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 人間環境セミナー I

永野 秀雄、石神 隆、小島 聡、田中 勉、長峰 登記夫、西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ： 離島に関する総合的検討

到達目標： わが国の離島の優れた自然環境や文化、現状や問題点を総合的に理解することを目標としています。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

わが国の離島は、自然に恵まれ、優れた文化を持っています。その一方で、様々な問題に直面しています。この離島の特徴、諸問題、新興のあり方について総合的に検討します。具体的には、離島の多面的機能、定義、生物多様性、芸術・芸能・文化、ライフライン、生活環境、水産業、観光業、自治体経営、地政学的問題、海洋論、国土管理論について学びます。

本セミナーでは、学外からそれぞれの専門分野の講師をお招きして、各テーマについての講演を聴講します。各講師の豊かな講義と経験に触れることで、皆さんの視野が広がることを期待します。

担当者：永野、石神、田中、長峰、小島、西城戸

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	セミナーのねらいと離島概論	日本離島センターからの外部講師による離島概論。
第2回	セミナー	各回の講師と講演タイトルについては、4月に掲示します。また、第1回のときに全体像を説明します。
第3回	セミナー	外部講師による講義。
第4回	セミナー	外部講師による講義。
第5回	セミナー	外部講師による講義。
第6回	セミナー	外部講師による講義。
第7回	セミナー	外部講師による講義。
第8回	セミナー	外部講師による講義。
第9回	セミナー	外部講師による講義。
第10回	セミナー	外部講師による講義。
第11回	セミナー	外部講師による講義。
第12回	セミナー	外部講師による講義。
第13回	セミナー	外部講師による講義。
第14回	セミナー	外部講師による講義。
第15回	試験	これまでの講義内容につき、筆記試験を実施します。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

先生方が配布されたプリントを復習してください。

## 【テキスト】

テキストは使用しません。外部講師の先生方が、プリントを配布されます。

## 【参考書】

参考書は、外部講師の先生方が、必要に応じて紹介されます。

## 【成績評価基準】

出席50%（出席は毎回とります。10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。4回以上の欠席はD評価となります）。

期末テスト50%（各講義に現れたキーワードのような基礎的な事項に関する試験を行います）。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業は、パソコンを利用し、使いこなしていくために必要なスキルの取得を目標とする。初心者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

基本操作の他、インターネットの活用、文書作成、表計算、統計データの活用、プレゼンテーション資料作成といったレポート作成に必要な技術について演習を行う。なお、授業は電算室を使用する。2～3回の講義と演習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説／スキルの確認／情報系の資格について／コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第2回	ネットワークの活用	学内のネットワーク・インターネットの活用／電子メールの活用
第3回	情報検索と活用 1	インターネットを利用した情報の検索と活用
第4回	情報検索と活用 2	インターネットを利用した情報の検索と活用
第5回	ワードプロセッサによる文書作成 (1)	word を利用した文書作成の基礎
第6回	ワードプロセッサによる文書作成 (2)	word を利用した文書作成の基礎
第7回	ワードプロセッサによる文書作成 (3)	word を利用した文書作成の応用
第8回	ワードプロセッサによる文書作成 (4)	word を利用した文書作成の応用
第9回	表計算ソフトによる表作成 (1)	excel を利用した表計算処理の基礎
第10回	表計算ソフトによる表作成 (2)	excel を利用した表計算処理の基礎
第11回	表計算ソフトによる表作成 (3)	excel を利用した表計算処理の基礎
第12回	表計算ソフトによる表作成 (4)	excel を利用した表計算処理の応用
第13回	表計算ソフトによる表作成 (5)	excel を利用した表計算処理の応用
第14回	プレゼンテーションソフトによる資料作成 (1)	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎
第15回	プレゼンテーションソフトによる資料作成 (2)	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

実習の内容が確実に身につくように必要に応じて復習・練習を繰り返すこと。

### 【テキスト】

資料プリントを配布。

### 【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

### 【成績評価基準】

出席の状況と授業内で作成する3～4つのレポートにより成績評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上で行う。データを持ち替えり、自宅で作業を行いたい場合にはUSBメモリ等を用意するとよいだろう（任意）。初回講義時にユーザID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1年生はガイダンス時に配布されたプリント、2年生以上は不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。

## 仏教思想

関口 和男

配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

3・11以降の日本と日本人の在り方は、根本的に見直されなくてはなりません。その際、念頭に置かなくてはならないのは、今まで当たり前とみなしてきた考え方、暮らし方を見直す場合の視点をしっかりと確保することです。では、どうすればいいのか？このような基本的で素朴な疑問を抱く学生諸君のために本講義はあります。重要なことは、自分を見直す力を養うことであり、複眼的な視点を身につけることです。このようなことから始めてあらゆる問題に責任持って真摯に取り組む姿勢が形成されるものと考えます。本講義は、このことを目指します。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載。

授業計画にある通り、インド初期仏教の成立から密教への道を中心に授業を行います。学生諸君との質疑応答をできるだけ入れて、ユニークな講義形式をとっていくつもりです。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	仏教思想を学ぶ今日的意義	西洋的な思考とは全く異なる仏教の思想がもたらす新たな視点について考える。
第2回	初期仏教思想史の概観とゴータマ・ブッダの生涯	巷にあふれる誤った仏教史・仏教思想史を正し、初期インド仏教史を概観する。
第3回	ゴータマ・ブッダの思想 (I) 四諦説	四諦（四つの心理）について学び、それらを「無明」という視点から総括する。
第4回	ゴータマ・ブッダの思想 (II) 五蘊説	西洋的な主観や自我の観念との相違を明らかにする。
第5回	初期仏教の基本概念－苦・無我・無常－	アーガマ經典類が説く苦・無我・無常について考える。
第6回	説一切有部の教説の意義	いわゆる有部の思想を概観し、それが仏教思想史において果たした役割を考える。
第7回	大乘仏教の興起 (I) 仏塔崇拜集団・アショーカ王の事績	いわゆる大乘仏教とは、何かをその形成過程から考える。
第8回	大乘仏教の興起 (II) 十方世界観の形成と諸仏・菩薩論	同上
第9回	大乘仏教の理論的展開 (I) 中観の思想	ナーガルジュナの中観の思想を概観する。とくに、「空」の観念を徹底的に考える。
第10回	大乘仏教の理論的展開 (II) 唯識の思想	唯識の内容とその現代性について考える。
第11回	大乘仏教の理論的展開 (III) 如来蔵の思想	いわゆる大乘仏教の思想的な柱である「如来蔵」思想の意味と意義を明らかにする。
第12回	インド密教の形成とその特質	密教についての正しい理解のために、その形成過程を学ぶ。
第13回	チベット仏教の史的概観	チベット仏教とは、そもそも何か、史的側面から学ぶ。
第14回	チベット仏教の思想	チベット仏教の思想的特質を考える。
第15回	中国・日本の仏教の特質	とくに、日本の仏教とは何か、上記の講義を振り返りつつ考える。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

今まで皆さんが、当たり前として受け取ってきた仏教行事や説法などを整理して、授業に臨むこと。新聞の文化思想芸術関係の記事を精読し、そこに現れてくる現代社会の精神的な病巣を認識しておくこと。

### 【テキスト】

原則として用いません。

### 【参考書】

授業時に適宜指示します。

### 【成績評価基準】

期末に実施されるペーパーテストの成績によります。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

初期仏教の基本的な思想を通じて、東西の思惟の相異を発見することに興味がある諸君の聴講を期待します。

## フィールドスタディ

朝比奈 茂、安藤 俊次、石神 隆、井上 奉生、國則 守生、小島 聡、武貞 稔彦、長峰 登記夫、田中 勉、辻 英史、西城戸 誠、長谷川 直哉、藤倉 良、渡邊 誠、吉田 秀美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期集中 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

フィールドスタディは「人間環境学」の学習を進めていくなかで、講義や文献から学んだ事柄を直接現地に赴いて検証するために設けられている。この科目は人間環境学部のカリキュラムの特色を体現したもので、私たちがおかれている社会環境や自然環境を肌で感じ、現地でさまざまな実体験を重ね、自らの問題意識を高めていくことを目的としている。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会、小テストなどを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略を把握する。
第2回～	事前講義	各分野（自然環境保護、廃棄物処理・リサイクル、社会福祉、農業、まちづくり）について講義を行う。
第4回		
第5回～	現地実習・観察	現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。なお、実習の日数はコースによって異なる。基本は3泊4日であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディは1週間から10日前後に及ぶこともある。
第11回		
第12回	報告会	現地実習について担当教員が総括的な説明を行うとともに、学生による報告や反省および討論等を行い、あるいはコースによっては試験を行う。
～		
第14回		
第15回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

### 【テキスト】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

### 【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

### 【成績評価基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

- ・参加確定後はキャンセルを認めない。
- ・参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自分の都合でキャンセルした場合、原則として費用は返還されない。

## インターンシップ

田中 勉、宮川 路子

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この科目は、在学中に短期の就業を体験することで卒業後の進路選択およびキャリア形成に役立てることを目的としています。政府や自治体、企業、NPO など各種の機関での実習を対象とします。ただし、通常の大学での学習を阻害しないことが条件です。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

大学外での就業体験であるため通常の授業と異なり、実習先での学習と就業体験が主たる内容となります。そのため、大学では準備のための指導および実習後の指導を行います。実習機関によって内容が異なりますので担当教員による個別指導が中心となります。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	インターンシップ説明会（前・後期セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合必ず出席しなければなりません。 出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、科目履修はできません。
第 2 回	「インターンシップ申込書」の提出	担当教員による面接で実習期間や実習内容について審査し、科目登録の可否を通知します。
第 3 回	「インターンシップ実習計画書」の提出	履修が許可された場合、実習受け入れ機関や実習プログラムに関する所定の項目を記入し提出する。これと同時に「インターンシップ保険」の手続きを行いません。保険料は不要です。「キャリアセンター」で手続きをします。これは科目履修の必須条件です。
第 4 回～ 第 13 回	実習	上記の第 1 回～第 3 回の手続きを終えた後、実習を行います。
第 14 回	実習終了後「インターンシップ実習報告書」の作成	作成に当たっては担当教員の指導を受けなければなりません。
第 15 回	インターンシップ実習報告会（実習終了後のセメスターに開催）	実習終了後のセメスターに開催される「インターンシップ実習報告会」で口頭発表を行います。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

実習機関の検索と選択は各自が自主的に行わなければなりません。実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考書】

個別に指導します。

### 【成績評価基準】

この科目は通常の成績評価は行わず、「単位認定」をおこないます。この科目は GPA の対象科目とはなりません。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

履修・単位登録に関する注意事項

- ①登録時期：実習終了後のセメスター登録時に行います。
- ②履修手続き、書類の配布、提出はすべて窓口です。

## 国際法 I（教職）

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法の基本原則
第 3 回	法源（1）	条約、国際慣習法
第 4 回	法源（2）	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理の関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的發展
第 10 回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法（1）	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第 15 回	期末試験	筆記試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

### 【テキスト】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

### 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

### 【成績評価基準】

期末試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】



**国際法 I（教職）**

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時間：水・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。個人の社会的・経済的活動がグローバル化している今日の国際社会では国際法の規律が国際社会に限定されることなく、国内法にも及んでいる。本講義では、国際法の基礎理論（総論）部分を扱い、国際法の基本的枠組および概念を理解することを目標とする。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

国際法の総論部分についての講義を行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ガイダンス
第 2 回	国際法の基本原理	現代国際法の特徴、基本原則
第 3 回	法源（1）	国際慣習法、条約法
第 4 回	法源（2）	条約法、その他の法源
第 5 回	国際法と国内法の関係	国際法と国内法
第 6 回	国家・国家機関（1）	国家
第 7 回	国家・国家機関（2）	外交関係・領事関係
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の競合と調整
第 9 回	国際組織法（1）	国際組織の概念、分類
第 10 回	国際組織法（2）	国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法（1）	国家責任の概念
第 12 回	国家責任法（2）	国家責任の追及
第 13 回	国家領域（1）	領域主権
第 14 回	国家領域（2）	領域紛争の解決
第 15 回	期末試験	授業の理解を確認する。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

**【テキスト】**

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 第 2 版』有斐閣、2010 年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【成績評価基準】**

期末試験による。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****ネットワークとマルチメディア**

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時間：水・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

インターネットとマルチメディアの基礎について演習を行う。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

ネットワークの基礎と xhtml/css を用いた情報の発信、基礎的な画像処理、情報倫理と情報セキュリティについて演習を行う。

授業は情報教室で行い、各自がコンピュータの操作を行う実習形式である。情報処理基礎の応用編に相当するため、基本的なコンピュータ操作スキルと知識があることを前提に講義を進める。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容の確認／スキルの確認／情報系の資格について／コンピュータの基礎知識
第 2 回	ネットワーク入門	インターネットでできること／コンピュータネットワークの基礎
第 3 回	ネットワーク入門	コンピュータネットワークの基礎
第 4 回	ネットワーク入門	情報セキュリティと情報倫理
第 5 回	画像処理入門	様々なマルチメディアコンテンツのフォーマット
第 6 回	画像処理入門	基本的なペイント系の画像処理
第 7 回	画像処理入門	基本的なペイント系の画像処理
第 8 回	web による情報発信	www の歴史と様々な形態の情報発信 xhtml 入門 (1)
第 9 回	web による情報発信	xhtml 入門 (2)
第 10 回	web による情報発信	css 入門 (1)
第 11 回	web による情報発信	css 入門 (2)
第 12 回	web による情報発信	css 入門 (3)
第 13 回	web による情報発信	課題作成
第 14 回	web による情報発信	課題作成

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

講義内容の復習と実習内容の繰り返し演習を行い、確実に身につけること。

**【テキスト】**

講義時に指示する。

**【参考書】**

講義の進行にあわせ随時紹介する。

**【成績評価基準】**

出席状況と課題提出状況・内容によって評価する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

基本的なコンピュータ操作スキルと知識があることを前提に講義を進める。初回講義時に実習室のコンピュータにログインし、作業できる状態になっていること。

## ミクロ経済学Ⅱ

林 直嗣

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：後期授業 | 曜日・時限：月・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

人の身の回りから日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの各主体の視点から理解する力をつけることを目標とする。この講座をとることにより、経済学の素養を体系的に身につけることができる。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行うことは、実社会に出て役に立つ分析力を養うトレーニングであり、各種資格試験や就職試験のための実践力を涵養する。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

消費者の需要行動、企業の生産活動、市場価格の決まり方、独占価格の問題点、賃金や利潤などの分配、投資と資本蓄積、市場機構の限界と政府の役割、民主的意識決定機構、不確実性と経済活動、など私たちの身の回りの経済問題についてやさしく、しかも体系的に講義する。

授業の方法は講義を主体とする。インターネットによる先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を視聴して e ラーニングを行い、予習や復習に役立てることができる。また章ごとに問題演習を行い、レポート提出や小テストを行うこともある。ミクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。

[]

[]

### 【授業計画】

#### 後期

回	テーマ	内容
第 1 回	6-1. 独占市場	完全独占の基礎理論を解説する。
第 2 回	6-2. 独占市場	独占の進んだ問題を解説する。
第 3 回	6-3. 独占市場	寡占理論の核心を解説する。
第 4 回	6-4. 独占市場	寡占理論の進んだ考え方を説明する。
第 5 回	7-1. 所得分配	所得分配の基礎理論を説明する。
第 6 回	7-2. 所得分配	所得分配の進んだ問題を解説する。
第 7 回	8-1. 資本と利子	資本理論の核心を解説する。
第 8 回	8-2. 資本と利子	資本理論の進んだ問題を説明する。
第 9 回	9-1. 厚生経済学と社会的選択	厚生経済学のエッセンスを解説する。
第 10 回	9-2. 厚生経済学と社会的選択	市場の失敗の諸問題を考える。
第 11 回	9-3. 厚生経済学と社会的選択	厚生経済学の進んだ問題を考える。
第 12 回	10-1. 国際貿易	国際貿易の基礎理論を解説する。
第 13 回	10-2. 国際貿易	国際貿易の進んだ問題を説明する。
第 14 回	11-1. 情報と不確実性の経済学	情報と不確実性の基礎理論を説明する。
第 15 回	後期のまとめ	後期のまとめをする。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

予習は最も効果的な勉強法である。まず自分で教科書を読み、Web 授業を聴講し、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

### 【テキスト】

林 直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（入門的教科書）

林 直嗣著『問題演習 ミクロ経済学 再訂版』（スタディーガイドと問題集）

### 【参考書】

石井・西條・塩澤著『入門・ミクロ経済学』有斐閣（初級の教科書）

### 【成績評価基準】

定期試験を行う。レポート提出ないし小テストをさらに加えることもある。出席を取る時もある。それらの総合点を出して、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、その得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【学生が準備すべき機器他】

先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を作成し、本学サイトから聴講できるようにしてあるので、学内の PC 端末から、あるいは学外からは VPN 接続をした PC 端末から、予習をすると効果的である。病気などで欠席した場合には、それを聴講して代用できる。

教室では、板書を利用するとともに、プレゼンテーション用教材（Power Point による教材）をスクリーンに投影する。

### 【その他】

公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているので、理論だけでなく問題演習もする必要がある人には、この講義をとることを特に勧める。

## 基礎演習

小島 聡

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する 20 名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

### 【授業計画】

#### 後期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第 2 回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第 3 回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの用法、検索法等。
第 4 回	レポート・論文・発表の心得（2）	第 1 回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第 5 回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第 6 回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により 1 班 2～4 人程度の班に分類。
第 7 回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第 8 回	グループ発表・討論 1	1 回 2 班。1 班の発表 10 分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第 9 回	グループ発表・討論 2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第 10 回	グループ発表・討論 3	同上
第 11 回	グループ発表・討論 4	同上
第 12 回	グループ発表・討論 5	同上
第 13 回	グループ発表・討論 5	同上
第 14 回	小フィールドスタディ（街歩き）	90 分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第 15 回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

### 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

5～6 月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業は、パソコンを利用し、使いこなしていくために必要なスキルの取得を目標とする。初心者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

基本操作の他、インターネットの活用、文書作成、表計算、統計データの活用、プレゼンテーション資料作成といったレポート作成に必要な技術について演習を行う。なお、授業は電算室を使用する。

2～3 回の講義と演習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習環境の解説／スキルの確認／情報系の資格について／コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第 2 回	ネットワークの活用	学内のネットワーク・インターネットの活用／電子メールの活用
第 3 回	情報検索と活用 1	インターネットを利用した情報の検索と活用
第 4 回	情報検索と活用 2	インターネットを利用した情報の検索と活用
第 5 回	ワードプロセッサによる文書作成（1）	word を利用した文書作成の基礎
第 6 回	ワードプロセッサによる文書作成（2）	word を利用した文書作成の基礎
第 7 回	ワードプロセッサによる文書作成（3）	word を利用した文書作成の応用
第 8 回	ワードプロセッサによる文書作成（4）	word を利用した文書作成の応用
第 9 回	表計算ソフトによる表作成（1）	excel を利用した表計算処理の基礎
第 10 回	表計算ソフトによる表作成（2）	excel を利用した表計算処理の基礎
第 11 回	表計算ソフトによる表作成（3）	excel を利用した表計算処理の基礎
第 12 回	表計算ソフトによる表作成（4）	excel を利用した表計算処理の応用
第 13 回	表計算ソフトによる表作成（5）	excel を利用した表計算処理の応用
第 14 回	プレゼンテーションソフトによる資料作成（1）	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎
第 15 回	プレゼンテーションソフトによる資料作成（2）	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

実習の内容が確実に身につくように必要に応じて復習・練習を繰り返すこと。

### 【テキスト】

資料プリントを配布。

### 【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

### 【成績評価基準】

出席の状況と授業内で作成する 3～4 つのレポートにより成績評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上に行く。データを持ち替わり、自宅で作業を行いたい場合には USB メモリ等を用意するとよいだろう（任意）。初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1 年生はガイダンス時に配布されたプリント、2 年生以上は不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。

## 国際環境法 I

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第 3 回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第 4 回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第 5 回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第 6 回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第 7 回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第 8 回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第 9 回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第 10 回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第 11 回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第 12 回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第 13 回	貿易と環境	GATT/WTO と環境問題
第 14 回	企業活動と環境	多国籍企業の活動と責任
第 15 回	期末試験	筆記試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

### 【テキスト】

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005 年。(PDF ファイルにて配布する) 奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価基準】

期末試験による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

国際法 I を履修済みであることが望ましいが、必ずしもそれが履修要件ではない。

## 基礎演習

藤倉 良

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2 年次からの勉強に備えて、学部の 4 コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する 20 名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得 (1)	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得 (パラグラフ単位)。
第 2 回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第 3 回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第 4 回	レポート・論文・発表の心得 (2)	第 1 回の続き。論文 (発表) 全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第 5 回	レポート・論文・発表の心得 (3)	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第 6 回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により 1 班 2～4 人程度の班に分類。
第 7 回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第 8 回	グループ発表・討論 1	1 回 2 班。1 班の発表 10 分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第 9 回	グループ発表・討論 2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第 10 回	グループ発表・討論 3	同上
第 11 回	グループ発表・討論 4	同上
第 12 回	グループ発表・討論 5	同上
第 13 回	グループ発表・討論 6	同上
第 14 回	小フィールドスタディ (街歩き)	90 分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第 15 回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

### 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

5～6 月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 地域コモンズ論

齋藤 暖生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

人々が直接的に自然資源と対峙する「地域」は、持続可能な人間社会を考える上で重要である。そこにある資源は、しばしば人々によって共同に利用・管理され、その組織および資源はコモンズと呼ばれ、持続可能な資源利用・管理を考える上で重要な概念となってきた。コモンズ論は、地域の自然と人間社会を包括的に理解する見方を提供するものである。この講義では、理論解説に加え多くの実例を紹介することによって、コモンズ論における諸概念を理解し、実践的知識を蓄積することを目的とする。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

この講義では、生態学や経済学など、コモンズ論を構築してきた諸学問分野の概念・知識を解説するとともに、できる限り写真やビデオを利用して実在する（した）コモンズの実例および歴史的経緯を、日本を中心に紹介する。これに加え、コモンズ論が現代の環境問題の実践的方法として応用される議論について触れる。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地域」とコモンズ	本講義のガイダンスとして、本講義が焦点を当てる「地域」の定義及び、コモンズという視点の特色を説明する。
第2回	「コモンズの悲劇」とコモンズ論	コモンズ論が台頭するきっかけとなった「コモンズの悲劇」と呼ばれるシナリオを解説する。
第3回	国有化の悲劇と私有化の悲劇	「コモンズの悲劇」によって示唆された国有化、私有化の道が現実には多くの悲劇を生んできた事実を紹介する。
第4回	コモンズ論の理論とフレームワーク①	北米の研究者を中心に、1980年代後半から1990年ころにかけて築き上げられた基礎的な理論とフレームワークを解説する。
第5回	コモンズ論の理論とフレームワーク②	囚人のジレンマゲーム等、コモンズにおける状況を説明するために用いられる経済学的モデルを解説する。
第6回	コモンズ論の理論とフレームワーク③	群集生態学の観点から提示されたコモンズに関するモデルを解説する。
第7回	地域生態系：コモンズと資源のつながり	日本の典型的な村社会を例に、村単位での地域資源を利用する仕組みと生態系のつながりについて解説する。
第8回	入会（いりあい）林野とその歴史①	日本のコモンズの代表格である入会林野と近代化以降たどった歴史について基礎的な知識を得る。
第9回	入会（いりあい）林野とその歴史②	日本のコモンズの代表格である入会林野と近代化以降たどった歴史について基礎的な知識を得る。
第10回	水利コモンズとその歴史	水に関するコモンズと近代化以降たどった歴史について基礎的な知識を得る。
第11回	海のコモンズとその歴史	海に関するコモンズと近代化以降たどった歴史について基礎的な知識を得る。
第12回	無主物を享受する秩序：ある山村の山菜・きのこ採り	ルースなコモンズの実態について事例を紹介する。
第13回	市場経済とコモンズ①：マツタケに関するコモンズ	市場経済の仕組みをしたたかに利用するコモンズが存在を事例から明らかにする。
第14回	市場経済とコモンズ②：温泉に関するコモンズ	市場経済の仕組みをしたたかに利用するコモンズが存在を事例から明らかにする。
第15回	コモンズ論の展開	社会関係資本論、ガバナンス論、クロス・スケール・リンケージ論など、コモンズ論をベースに展開する視座を紹介する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

配布プリント、ノートでの復習を行うこと。配布プリントは授業終了後、授業ページに公開するので、欠席したものは各自入手の上利用すること。

### 【テキスト】

特になし

### 【参考書】

随時指定するが、さしあたって以下のもの。  
鳥越皓之・宮内泰介・井上真編『コモンズの社会学—森・川・海の資源共同管理を考える』、新陽社、2001年  
秋道智彌『なわばりの文化誌』、小学館ライブラリー、1998年  
室田武・三俣学『入会林野とコモンズ—持続可能な共有の森』日本評論社、2004年  
井上真編『コモンズ論の挑戦—新たな資源管理を求めて』新陽社、2008年  
三俣学ほか編『ローカル・コモンズの可能性』ミネルヴァ書房、2010年

### 【成績評価基準】

成績評価は、期末試験の評価により行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイントによるスライドを用いる

### 【その他】

幅広く知り、考えることの楽しさを共有しましょう！

## 民事法Ⅱ

### 花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時間：月・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

テーマ

市民間の法律問題

到達目標

市民間の取り引きやトラブル等に対応する法の全体の理解および、問題を法的に考え解決する力を習得する。

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。そして、具体的な問題を通して、自ら考えることをしていきたい。内容としては、民法に規定されている制度と契約法および不法行為法についてみるとともに、関連する法律問題をみる。たとえば、成年となる年齢とはどのような意味を有するのか、成年となる年齢はどのようにして決められたのか、今後変更の可能性はあるのか、未成年と成年とで法的にどのように違ってくるのか、未成年者の法律行為の問題、成年の法律行為の問題等のように、テーマごとに検討する。その過程で、法律の役割、法律的な考え方を習得していきたい。

市民間には、様々なトラブルがある。具体的にどのような点が法律問題となるのか、そのような法律問題をどのように解決すべきか、民法や民法関連法も含めてみていくことになる。

適宜、話題となっていることもテーマとして取り上げるため、シラバスと異なることもあることをお断りする。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考える。また、授業の終わりに質問や感想を書いていただき、次回に伝えることで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたい。

(2) 授業では、六法を用いる。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、社会問題となっているテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	民事法の体系、法体系の概観	民事法の授業での対象、民事法とは何か、民事法の中の民法について、民法の基本原則を取り上げる。また日常行われる契約について概観する。
第2回	未成年者の契約問題について	未成年者の取引は法律上どのように考えられているかをみる。あわせて、成人年齢について考える(成人年齢決定の背景、成人年齢の変更の可能性、各種法律との関係)
第3回	成年の契約問題について	成年後見制度の概観をみる。あわせて、成年後見制度と高齢社会を考える
第4回	法律行為について	契約する際に予定したことと、異なる結果となった場合の契約について考える。
第5回	契約と代理について	契約は本人でなく誰かに代わってしてもらった場合に法律上どうなるかをみる。
第6回	契約を消滅させる場合について	賃貸借を通じて、解除と解約告知についてみる。
第7回	クーリングオフ制度について	特定商取引法等をみながら、悪質商法等の社会における問題点を考える。
第8回	リボルビング制度	リボルビング払いを通じて金銭消費貸借契約と利息について考える。
第9回	労働契約について	現代の多様な労働形態と、雇用契約、請負契約、および労働法の体系をみる。
第10回	不法行為制度①	自転車走行中の事故を通じてと不法行為制度をみる。
第11回	不法行為制度②	自動車事故の判例を読み、交通事故について考える。
第12回	近隣問題と法	具体的事例を通して、法が近隣問題にどうかかわるのかを検討する。

第13回	インターネットと法	現代の問題として、知的財産法について概観する。
第14回	現代の契約	民法13典型契約以外の現代の契約について概観する。
第15回	まとめ	ここでは、授業全体をまとめ、民事法の役割について考える。

#### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々と話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

#### 【テキスト】

レジュメを配布する。

コンパクト六法

#### 【参考書】

適宜指示する。

#### 【成績評価基準】

平常点(ミニテスト、法律問題について考えたことを適宜書いていただく(30%)、および最後に行なわれる試験(70%)で総合評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 情報処理基礎

本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第1に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第2に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第3に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の3点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第2回	第1回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第3回	第1回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第4回	基本的なコンピュータ操作（1）	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第5回	第4回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第6回	第4回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第7回	基本的なコンピュータ操作（2）	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第8回	第7回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第9回	第7回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第10回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第11回	第10回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第12回	第10回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第13回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第14回	第13回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第15回	第13回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学習しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

**基礎演習****堀内 行蔵**

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

**【授業計画】****後期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

**【テキスト】**

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価基準】**

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

**基礎演習****梶 裕史**

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

**【授業計画】****後期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

**【テキスト】**

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価基準】**

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。



## 比較社会史

永井 匠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

現在、モンゴル民族の主な居住地域として、モンゴル国（北モンゴル、外モンゴル）と中国の内モンゴル自治区（南モンゴル、内モンゴル）を挙げることができる。内モンゴル自治区は中華人民共和国の領土の一部であり、モンゴル国は独立国家であるが、社会主義時代にはソビエト連邦の強い影響力のもとにあった。20世紀初頭以来、モンゴルはこうした政治的枠組みのもとで、ロシア（ソビエト連邦）の影響の強い地域と中国の影響の強い地域に分かれており、中ソ対立時代には相互の交流も容易ではなかった。この授業では、モンゴル国と内モンゴル自治区が持つ共通点と相違点、またそれぞれの社会がロシア（ソビエト連邦）と中国の影響を受けてどのように変容していったかについて理解することを目標とする。

## 【授業の到達目標】

I]

## 【授業の概要と方法】

モンゴルがモンゴル国と中国の内モンゴル自治区の二つの地域に分かれていった経緯、この二つの地域が持つ共通点と相違点、それぞれの社会がロシア（ソビエト連邦）と中国の影響を受けてどのように変容していったかについて、モンゴルが清朝統治下にあった時代から歴史をたどりながら講義する。講義形式で授業を進め、話の要点は板書する。殆どの受講生にとってなじみの薄い分野についての授業であろうと思われるので、できるだけ分かりやすく丁寧な授業を心がけたいと思う。

II]

III]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	モンゴル族とその分布について	授業の前提となる現在のモンゴル族の分布やモンゴル国と内モンゴル自治区の現況を概観する。
第2回	モンゴルが清朝統治下に入ってゆく過程	モンゴル地域が内モンゴルから外モンゴルへと徐々に清朝の支配下に入ってゆく過程について述べる。
第3回	清朝支配下におけるモンゴルの状況 (1)	清朝がモンゴルに対して行った政策について、外モンゴル・内モンゴルの違いに留意しながら講義する。
第4回	清朝支配下におけるモンゴルの状況 (2)	清朝支配下のモンゴルにおける漢人の進出とその影響について述べる。
第5回	モンゴル国（モンゴル人民共和国）独立の経緯と当時の国際関係 (1)	清朝の崩壊とそれに伴うモンゴルの独立宣言、及びモンゴルの独立をめぐるモンゴル、帝政ロシア、中華民国の駆け引きについて述べる。
第6回	モンゴル国（モンゴル人民共和国）独立の経緯と当時の国際関係 (2)	帝政ロシアの崩壊、ロシアの混乱とそれがモンゴルに与えた影響、及び中華民国による外モンゴル自治の撤廃について述べる。
第7回	モンゴル国（モンゴル人民共和国）の歴史とソビエト連邦（ロシア）の影響 (1)	モンゴルに対するソ連の軍事介入とモンゴル人民共和国の成立、及び初期のモンゴル人民共和国とソ連との関係について講義する。
第8回	モンゴル国（モンゴル人民共和国）の歴史とソビエト連邦（ロシア）の影響 (2)	モンゴル人民共和国に対するソ連の影響力の拡大とモンゴル人民共和国の社会の変容について講義する。
第9回	モンゴル国の現在 (1)	モンゴル人民共和国が社会主義体制を放棄してモンゴル国になってゆく過程とモンゴル社会の変容について講義する。
第10回	モンゴル国の現在 (2)	現在のモンゴル国の諸問題について考える。
第11回	内モンゴルと中国、日本 (1)	モンゴルの独立宣言から後の内モンゴルの状況、内モンゴルが自治の範囲から除外された原因などについて講義する。
第12回	内モンゴルと中国、日本 (2)	満洲国（東部内モンゴルを含む）の成立や内モンゴル西部に対する日本の働きかけなど、内モンゴルと日本との関係について講義する。
第13回	第二次世界大戦後の内モンゴル	第二次世界大戦後から内モンゴル自治区が成立するまでの過程について講義する。

第14回 現在の内モンゴル

現在の内モンゴルの諸問題について考える。

第15回 まとめ

今までの講義のまとめを行う。必要と認められた場合にはテストを行うこともありうる。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特にないが、大半の受講生にとってなじみの薄い分野の講義であると思うので、休まず出席して欲しい。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

授業の中で紹介する。

## 【成績評価基準】

出席状況とレポート、或いはテストの成績によって評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 民事法Ⅱ

### 花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時間：月・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

テーマ

市民間の法律問題

到達目標

市民間の取り引きやトラブル等に対応する法の全体の理解および、問題を法的に考え解決する力を習得する。

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。そして、具体的な問題を通して、自ら考えることをしていきたい。内容としては、民法に規定されている制度と契約法および不法行為法についてみるとともに、関連する法律問題をみる。たとえば、成年となる年齢とはどのような意味を有するのか、成年となる年齢はどのようにして決められたのか、今後変更の可能性はあるのか、未成年と成年とで法的にどのように違ってくるのか、未成年者の法律行為の問題、成年の法律行為の問題等のように、テーマごとに検討する。その過程で、法律の役割、法律的な考え方等を習得していきたい。

市民間には、様々なトラブルがある。具体的にどのような点が法律問題となるのか、そのような法律問題をどのように解決すべきか、民法や民法関連法も含めてみていくことになる。

適宜、話題となっていることもテーマとして取り上げるため、シラバスと異なることもあることをお断りする。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考える。また、授業の終わりに質問や感想を書いていただき、次回に伝えることで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたい。

(2) 授業では、六法を用いる。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、社会問題となっているテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	民事法の体系、法体系の概観	民事法の授業での対象、民事法とは何か、民事法の中の民法について、民法の基本原則を取り上げる。また日常行われる契約について概観する。
第2回	未成年者の契約問題について	未成年者の取引は法律上どのように考えられているかをみる。あわせて、成人年齢について考える(成人年齢決定の背景、成人年齢の変更の可能性、各種法律との関係)
第3回	成年の契約問題について	成年後見制度の概観をみる。あわせて、成年後見制度と高齢社会を考える
第4回	法律行為について	契約する際に予定したことと、異なる結果となった場合の契約について考える。
第5回	契約と代理について	契約は本人でなく誰かに代わってしてもらった場合に法律上どうなるかをみる。
第6回	契約を消滅させる場合について	賃貸借を通じて、解除と解約告知についてみる。
第7回	クーリングオフ制度について	特定商取引法等をみながら、悪質商法等の社会における問題点を考える。
第8回	リボルビング制度	リボルビング払いを通じて金銭消費貸借契約と利息について考える。
第9回	労働契約について	現代の多様な労働形態と、雇用契約、請負契約、および労働法の体系をみる。
第10回	不法行為制度①	自転車走行中の事故を通じてと不法行為制度をみる。
第11回	不法行為制度②	自動車事故の判例を読み、交通事故について考える。
第12回	近隣問題と法	具体的事例を通して、法が近隣問題にどうかかわるのかを検討する。

第13回	インターネットと法	現代の問題として、知的財産法について概観する。
第14回	現代の契約	民法13典型契約以外の現代の契約について概観する。
第15回	まとめ	ここでは、授業全体をまとめ、民事法の役割について考える。

#### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々と話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

#### 【テキスト】

レジュメを配布する。

コンパクト六法

#### 【参考書】

適宜指示する。

#### 【成績評価基準】

平常点(ミニテスト、法律問題について考えたことを適宜書いていただく(30%)、および授業の最後に行なわれる試験(70%)で総合評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 情報処理基礎

本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第1に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第2に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第3に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の3点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第2回	第1回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第3回	第1回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第4回	基本的なコンピュータ操作（1）	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第5回	第4回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第6回	第4回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第7回	基本的なコンピュータ操作（2）	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第8回	第7回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第9回	第7回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第10回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第11回	第10回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第12回	第10回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第13回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第14回	第13回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第15回	第13回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学習しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 国際環境法 I

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第 3 回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第 4 回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第 5 回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第 6 回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第 7 回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第 8 回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第 9 回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第 10 回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第 11 回	国際環境法的手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第 12 回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第 13 回	貿易と環境	GATT/WTO と環境問題
第 14 回	企業活動と環境	多国籍企業の活動と責任
第 15 回	期末試験	筆記試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

## 【テキスト】

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005 年。(PDF ファイルにて配布する)

奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【成績評価基準】

期末試験による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

国際法 I を履修済みであることが望ましいが、必ずしもそれが履修要件ではない。

## グローバルコミュニティ

小松 光一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

アジアの現代史は、古代ともかさなりつつ実に複雑な文化状況を見せている。本授業ではアジアの結節点ともいえるべき、アジアの照葉樹林帯の少数民族にふれながら、そのゆくすえと今日の問題を考えていきたい。

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

アジアの現地の事物にふれながら、授業を展開する。なお、希望者については、北タイ・ラフ族の村でのワークショップを実施する。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 2 次大戦中のアジア — インパール作戦と『ビルマの堅琴』の少数民族	インパール作戦とビルマの少数民族
第 2 回	ビルマ、ナガー族の焼畑	少数民族と焼畑
第 3 回	タイ、ラフ族の焼畑	同上
第 4 回	タイ、ラフ族の村における社会と文化	社会と文化の古層
第 5 回	長江における苗族と稲作のはじまり	苗族のアジア的世界性
第 6 回	稲作文化と日本 — 古事記の世界のアジア性 —	長江文化と古事記
第 7 回	メコン河と長江のかさなりを考える	長江上流の歴史的意義
第 8 回	照葉樹林文化の再検討	照葉樹林文化論の再検討を考える
第 9 回	モン(苗)族の悲劇とベトナム戦争	現代とモン(苗)族
第 10 回	中国・アヘン戦争とビルマのアヘン栽培 — 銀本位制ともいべき —	現代史とアヘン
第 11 回	照葉樹林帯の少数民族の現在 — 貧困と流浪 —	アジアの少数民族の現代性
第 12 回	NGO の役割と非対称性	少数民族と NGO
第 13 回	ビルマ現代史とアウンサン将軍	ビルマの現在と NGO
第 14 回	ビルマ・シャン州における少数民族の自立のための模索	同上
第 15 回	アジアの多様性を生きる	討議

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

希望者には、北タイ・ラフ族の村に 9 月、スタディツアーを行う。

## 【テキスト】

『北タイ、焼畑の村』 小松光一著 三一書房

## 【参考書】

『続 東南アジア現代史』 今川瑛一著 亜紀書房

『ビルマ・アヘン国潜入記』 高野秀行著 草思社

『稲と鳥と太陽の道 — 日本文化の原点を追う』 萩原秀三郎著 大修館書店

## 【成績評価基準】

出席状況をベースにしながら、数回の簡単なレポートとテスト時におけるレポートを通じて成績評価を行う。レポートは極力インターネットに依存せず、配布資料とテキストをもとに書くようにしてほしい。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

モンsoonアジアのしめった空気と稲作になつた人々と私たちとの関係を考えてみよう。

## NGO活動論

中村 玲子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

NGOは、Non Governmental Organizationの略。GO（Government＝政府）の対極にあり、安定性、公平性、持続性に基礎をおくGOの手の届きにくい社会のすきま（ニッチ）を、先取的に発見し、発信し、必要な対策を実現していくための重要な役割を担っている。

NGO活動の核は「参加」であり、活動の現場は世界中にある。NGO活動に参加する人がふえれば、社会を変えていくことができる。ラムサール条約、生物多様性条約、気候変動枠組条約など、地球環境を守るための多くの国際条約の誕生やその効果的な実施には、NGOによる発見、提言、具体的な活動が大きく寄与している。

本授業は主に環境・自然保護NGO活動に焦点をあて、講師自らが環境NGOを創設・運営し、アジアの湿地を舞台にシンポジウムの開催や子ども湿地交流を実現してきた経験を基に、ひとりひとりが新しいNGO活動を創造することを究極の目標とする実践的NGO論である。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

講義のほか、NGOの現場から外部講師を招いての事例研究やディスカッションを活用する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のねらい。NGOとは。	歴史、定義、役割など。
第2回	NGOの目標、使命、活動分野	なぜ、NGO活動が必要なのか
第3回	国際NGOとローカルNGO	種類、活動分野、役割分担
第4回	NGO活動の実際（1）	国際NGOの活動事例
第5回	NGO活動の実際（2）	地域密着型NGOの活動事例
第6回	NGO活動の実際（3）	ネットワーク型NGO
第7回	NGO活動の実際（4）	フィールド活動型NGOの事例
第8回	NGO活動の実際（5）	政策提言型NGO活動
第9回	NGO活動の実際（6）	ラムサールセンターの活動を事例に（1）
第10回	NGO活動の実際（7）	ラムサールセンターの活動を事例に（2）
第11回	NGOとパートナーシップ	NGOと企業、大学、社会、政府
第12回	NGOで働くということ	組織、財政、スタッフ、経営
第13回	NGOをつくる（1）	NGOのつくりかた：テーマを見つける
第14回	NGOをつくる（2）	NGOのつくりかた：組織をつくる
第15回	まとめ。試験。	記述式が中心

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

現在の社会、政治、とくに地球環境の動きについて、国際・国内ともに日常的恒常的に情報を収集し、理解するように努めること。

## 【テキスト】

適宜、プリントとして配布。

## 【参考書】

必要に応じて、授業中に紹介する。

## 【成績評価基準】

授業への積極的な参加と、試験。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクター、スクリーン、ビデオ

## マクロ経済学Ⅱ

田中 茉莉子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

経済関連記事等に登場する現実のマクロ経済現象について考察する際に、授業で学習したマクロ経済学の理論的枠組みを適用できるようになること。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

マクロ経済学Ⅰに引き続き、図解を用いた下記テキストに沿って、金融政策・日本経済・国際経済等、マクロ経済に関する諸問題を解説します。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	金融政策（1）	間接金融と直接金融、企業の資金調達
第2回	金融政策（2）	金融資産の種類、中央銀行の金融政策、信用創造
第3回	金融政策（3）	金融政策の効果、流動性の罫
第4回	金融政策（4）	日本の金融システムの変遷、デフレと金融政策
第5回	日本経済（1）	景気循環と経済成長の要因、日本の経済成長の変遷
第6回	日本経済（2）	失業率、貯蓄率、資産価格の変動
第7回	日本経済（3）	政府の役割、潜在成長率、経済成長の国際比較
第8回	国際経済（1）	国際収支表、為替レートの推移と2つの制度
第9回	国際経済（2）	為替レートの決定、円高のメリット・デメリット
第10回	国際経済（3）	開放経済における財政政策と金融政策の効果
第11回	国際経済（4）	国際貢献、地域経済統合、国際化の進展
第12回	マクロ経済の課題（1）	地球環境と南北問題、再分配政策
第13回	マクロ経済の課題（2）	政策のラグ、ルールと裁量、動学的不整合性
第14回	マクロ経済の課題（3）	政治的景気循環、政府の失敗
第15回	期末テスト	期末テストにより授業の理解を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に、テキストの第1章から第4章までに目を通しておくことが望ましい。適宜、授業内容に関連した練習問題を紹介するので、復習の際に活用してください。

## 【テキスト】

『図解雑学マクロ経済学』井堀利宏著、ナツメ社、2002年。

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示します。

## 【成績評価基準】

最終回に期末テストを実施します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 地球科学史Ⅱ

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

19世紀に誕生した地質学は地球を科学的に取り扱うことを期待され、しばらくは十分その期待に応えた。しかし科学の諸分野が急速に進歩し始めた20世紀になると、次第にその独占的立場は揺らいできた。人が本当に地球を限りある星として理解するためのに必要な科学のあるべき姿を考えていきたい。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生（化石）層序学へ
第3回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第4回	地層と時代	Dinosaur (恐竜)の発見と時間の発見
第5回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの「種の起源」(1859)
第6回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論争：地質学対物理学
第7回	19世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第8回	20世紀前半の地質学	シュティレ：地向斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第9回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アイソスタシー説と地震学
第10回	大陸移動説(1)	生物地理学と地質学
第11回	大陸移動説(2)	ヴェーゲナーの大陸移動説
第12回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命(1)	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第13回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命(2)	プレート・テクトニクスの登場
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球科学

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

授業の中で随時指示する

## 【テキスト】

使用しない

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する

## 【成績評価基準】

学期末の試験を主に、レポートと出席を加味して、総合的に評価する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 基礎演習

岡松 暁子

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会(ゼミ)を、後期中に選べるよう意識を高める。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

## 【授業計画】

後期回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得(1)	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得(パラグラフ単位)。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得(2)	第1回の続き。論文(発表)全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得(3)	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ(街歩き)	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

## 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

## 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 国際法Ⅱ

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法(1)	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法(2)	排他的経済水域、公海
第4回	海洋法(3)	大陸棚、深海底
第5回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第6回	個人の管轄(1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第7回	個人の管轄(2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第8回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第9回	紛争の平和的解決(1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決(2)	非裁判的手続
第11回	紛争の平和的解決(3)	裁判的手続
第12回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動
第13回	武力紛争法規(国際人道法)(1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第14回	武力紛争法規(国際人道法)(2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第15回	期末試験	筆記試験

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

## 【テキスト】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法[第2版]』有斐閣、2010年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

## 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選[第2版]』有斐閣、2011年。

## 【成績評価基準】

期末試験による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

## 地球科学史Ⅱ

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

19世紀に誕生した地質学は地球を科学的に取り扱うことを期待され、しばらくは十分その期待に応えた。しかし科学の諸分野が急速に進歩し始めた20世紀になると、次第にその独占的立場は揺らいできた。人が本当に地球を限りある星として理解するためのに必要な科学のあるべき姿を考えていきたい。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生(化石)層序学へ
第3回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第4回	地層と時代	Dinosaur(恐竜)の発見と時間の発見
第5回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの『種の起源』(1859)
第6回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論
第7回	19世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第8回	20世紀前半の地質学	シュティレ：地向斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第9回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アイソトプ・シエラと地震学
第10回	大陸移動説(1)	生物地理学と地質学
第11回	大陸移動説(2)	ヴェーゲナーの大陸移動説
第12回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命(1)	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第13回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命(2)	プレート・テクトニクスの登場
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球科学

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

授業の中で随時指示する

## 【テキスト】

使用しない

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する

## 【成績評価基準】

学期末の試験を主に、レポートと出席を加味して、総合的に評価する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 基礎演習

根崎 光男

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

### 【授業計画】

#### 後期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

### 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

グローバル化が進展する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。この講義では、国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりが必要なことに伴って、自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力をを行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	前期講義の簡単な概括とあわせ、後期によりあがるテーマについて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による経済協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による経済協力（2）民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	新たな主体による経済協力（3）南々協力および新たな援助国の登場	開発途上国同士の経済協力の取り組みや、従来の先進国（援助国）とは異なる新興援助国について紹介する。
第6回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第7回	人間の安全保障と国連ミレニアム開発目標	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第8回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力が紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第9回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第10回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第11回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第12回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第13回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第14回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。



第15回 まとめ：なぜ国際経済協力が必要なのか  
後期の講義でとりあげた各トピックをあらためて概観するとともに、様々な協力が必要とされる背景について理解を深める。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

【参考書】

斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）  
下村恭民他（2009年）『国際協力（新版）』（有斐閣）  
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 日本美術の系譜

豊田 和平

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

本講義では、社会との関連において、近代日本画の美術史的な意義を考察するとともに、絵画の読解力を養うことを到達目標とする。テーマは「近代日本画の系譜」とし、「日本画」という、時代的、地域的に極めて限定的な絵画の一ジャンルが、日本美術史上どのような意義を持っているのかということ、美術環境と人々の暮らしおよび社会との関係を考慮にいれつつ考察していく。

【授業の到達目標】

【】

【授業の概要と方法】

授業では、近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、「日本画」の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、絵画作品だけでなく、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本美術の一系譜としての近代日本画	講義の導入として、近代日本画の「定義」、概略を学習する。
第2回	近代日本画のイメージ	引き続き導入として、現代の私たちと、近代日本画の「接点」を考察する。
第3回	近代日本画の誕生	近代における「日本画」誕生の経緯を学習する。
第4回	懐古趣味の醸成	引き続き「日本画」誕生の経緯に関連して、明治中期における文化史、美術史的な傾向を学習する。
第5回	東京美術学校の開校	東京美術学校の創設、開校の経緯を学習する。
第6回	近代日本画壇の勢力①	明治末年の東京画壇の動向を学習する。
第7回	近代日本画壇の勢力②	明治末年の京都画壇の動向を学習する。
第8回	大正期の日本画壇①	近代日本画の最盛期である大正期、再興日本美術院の活動を中心に学習する。
第9回	大正期の日本画壇②	金鈴社の活動を中心に学習する。
第10回	大正期の日本画壇③	国画創作協会の活動を中心に学習する。
第11回	大正期の日本画壇④	大正期官展の動向を中心に学習する。
第12回	近代日本画と洋画	近代美術史上、近代日本画と言わば表裏の関係をなす近代洋画の歴史を概観し、大正末から昭和初期にかけての両者の関係を考察する。
第13回	日本画と芸術のパトロンたち	近代日本画の歴史を、その後援者たちの役割をもとに考察する。
第14回	まとめ	日本美術史における、近代日本画の意義を考察する。
第15回	期末試験	本講義における学習の理解度を問う。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義で扱う日本画作品を、参考書等により、確認すること。講義で取り上げる関連史料について、語句の意味を調べるなどして、内容の理解を深めること。

【テキスト】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979、小学館／高階秀爾ほか編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992、講談社／根崎光男・監『美のながれ—講談社野間記念館名品図録』2005、財団法人野間文化財団  
このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、必要に応じて講義の中で随時紹介する。

【成績評価基準】

期末試験の成績による。ただし、主として論述式の試験により、近代日本画に関する用語の事実関係を理解できているか、講義で取り上げた近代日本画作品の内容を理解できているか、等々を評価の基準とする。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【学生が準備すべき機器他】

絵画の画像を紹介するため、液晶プロジェクタを（PC接続で）使用する。

## 【その他】

講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。

## 地域経済論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

地域経済に関する、基本的な理論、実際問題、政策についての理解を深めることを目標とする。また、具体的な企画能力を身につけることももう一つの目標とする。

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

地域の発展を考えると、地域の環境的側面や社会的側面に加えて、経済的側面をとらえることが不可欠である。この授業では、地域の経済構造、産業立地、社会資本整備を中心に理論上の整理を行うとともに、実際面での諸問題を論じる。また、地域の産業連関、自治体の産業政策、立地企業の動向、地域活性化の動きなど各地のケーススタディも行い、実際の地域経済問題に対する分析能力とともに企画立案能力を養う。授業は講義が主体であるが、簡単な演習として毎回授業内で、数分間のミニペーパーを作成提出する。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域経済とは何か、地域経済論の学び方
第 2 回	地域経済の分析・基礎 (1)	地域人口分布、人口移動、地域所得構造
第 3 回	地域経済の分析・基礎 (2)	地域産業立地、産業クラスター、地域集積
第 4 回	地域経済の分析・実際 (1)	首都圏の事例分析、例「シブヤ圏の解剖」
第 5 回	地域経済の分析・実際 (2)	海外地域の事例分析、例「シリコンバレー」
第 6 回	地域発展と産業 (1)	ICT 産業集積を考える、世界の ICT クラスター
第 7 回	地域発展と産業 (2)	地域インテリジェンスと地域産業の関係
第 8 回	地域発展と産業 (3)	地域と観光、観光産業の系譜、地域観光開発
第 9 回	地域発展と産業 (4)	地域と集客、イベント・博覧会・テーマパーク
第 10 回	地域経済と地域経営 (1)	地域の情報・経済装置、地域経済活性化
第 11 回	地域経済と地域経営 (2)	地域プロジェクトメイキング、企画の進め方
第 12 回	地域経済と地域経営 (3)	地域プロジェクトの投資採算計算とその評価
第 13 回	地域経済と地域経営 (4)	地域プロジェクトのファイナンス、手法と実際
第 14 回	地域と社会経済 (1)	地域環境の経済分析、事業の社会的費用便益分析
第 15 回	地域と社会経済 (2)	地域コミュニティビジネス、地域マクロエンジニアリング

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

## 【テキスト】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。

## 【参考書】

第 1 回目に基本的な参考書を紹介する。また、各回講義時にテーマに応じた参考書を紹介する。

## 【成績評価基準】

定期試験（持ち込み不可）70 % 、平常点（授業内でのミニペーパーの提出ほか）30 %

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 国際法Ⅱ

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講義では、国家関係を規律する法である国際法のうち、各論部分を扱う。国際社会における様々な分野において、具体的な事例を検討すると共に、国際法の規律がどのように及んでいるかを理解することを目標とする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	ガイダンス
第2回	海洋法（1）	海洋法の全体像
第3回	海洋法（2）	海域の具体的制度
第4回	海洋法（3）	紛争解決
第5回	国際化地域・空域・宇宙	国際化地域・空域・宇宙に関わる制度
第6回	個人の管轄（1）	個人の法主体性
第7回	個人の管轄（2）	個人責任の追及
第8回	人権	国際人権法
第9回	国際経済法	国際通商・投資に関する規律
第10回	紛争の平和的解決（1）	国際紛争の平和的解決
第11回	紛争の平和的解決（2）	国際司法裁判所
第12回	武力行使の規制と国際安全保障	武力行使の規制
第13回	武力紛争法（1）	交戦法規
第14回	武力紛争法（2）	軍備管理・軍縮
第15回	期末試験	授業の理解を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

## 【テキスト】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 第2版』有斐閣、2010年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

期末試験による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という視点から捉え直し、その多様なかたちや活動の条件、活動の意味などを理解することを目的とする。そして、社会運動から見える現代社会や社会問題（環境問題）について理解する。

さらに、環境問題に対して住民、市民がどのように関わることが可能なかという実践的な課題にアプローチするために、環境問題や地域問題の解決を担う新たな動きを、国家・行政が独占してきた公共性の再編と捉えた上で、地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計について考える。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解きながら講義する。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について述べる。続いて社会運動が社会問題を立ち上げるといった側面を議論した後、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに応える。最後に戦後日本の社会運動のマクロな動態を、政治体との関連が議論した後、反原発運動、脱原発運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的な公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第3回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（1）	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第4回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（2）	チェルノブイリ原発事故と反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第5回	環境問題の設定者としての環境運動：社会問題の構築論	社会構築主義に依拠しながら、環境（社会）問題の設定者としての環境（社会）運動の役割について講義する。
第6回	なぜ環境運動に関わるのか－運動参加の承認論（1）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第7回	なぜ環境運動に関わるのか－運動参加の承認論（2）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第8回	運動のさまざまな形とその変化（1）	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第9回	運動のさまざまな形とその変化（2）	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第10回	どのように環境運動を展開するのか（1）：資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第11回	どのように環境運動を展開するのか（2）：フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第12回	環境運動と政治	イベントデータを用いたマクロ分析によって、戦後日本の社会（環境）運動と政治との関連について講義する。
第13回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（1）	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。

- 第 14 回 再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開 (2) 市民風車運動・事業を事例として、再生可能エネルギーの普及と環境運動の可能性について論じる。
- 第 15 回 現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力 講義のまとめとして、現代社会における社会運動の潜勢力と可能性について論じる。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義中に参照した文献の講読。

#### 【テキスト】

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004 年）

#### 【参考書】

西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008 年）（できれば教科書として購入することが望ましい）

#### 【成績評価基準】

期末試験と、コメントシートもしくは追加レポートで評価する

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境モデル論 I

### 渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本科目では、現象分析と数値予測の問題について実際にコンピュータを利用しながら体験し、それらの意義や役割について考えていく。具体的なモデル化の考え方や手法に触れ、コンピュータの役割を理解していく。本授業では、EXCEL の高度利用法を習得することも重要な到達目標としている。そのため、情報処理教室を利用して実習形式で授業を進めていく。具体的なテーマとしては、近年、自然科学系の領域から社会科学の領域にわたる共通概念として注目されている複雑系（カオス・フラクタルを中心とした）に関する問題を取り上げ、モデルの考え方やその応用法を修得する。さらに様々なモデル化手法にもとづいた具体的な事例を紹介する。Excel について若干の経験があれば受講可能である。

#### 【授業の到達目標】

【

#### 【授業の概要と方法】

毎回、情報処理教室を利用して EXCEL による計算、各種関数利用、グラフ処理などを体験する。EXCEL を比較的高度に利用したいと考えている方にも受講を薦めたい。数値的計算とその結果の表示法について、サンプルを提示しながら進めていく。カオスの時間発展の意味を理解し、様々な分野への応用について試みる。またフラクタルについてもビジュアルな処理を含めながら進めていく。

【

【

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	授業内容、授業予定などの説明と受講者の決定について
第 2 回	EXCEL の利用法 (その 1)	数値計算、グラフ機能、データベース機能の利用法などについて学習する。
第 3 回	EXCEL の利用法 (その 2)	各種関数の利用法について学習する。特に IF 関数による条件分岐や論理構造、さらには条件付合計・個数関数などの利用法などについて理解する。
第 4 回	モデルとは何か？ について考える	モデルと現象分析、コンピュータの役割、シミュレーションなどについて概観する。
第 5 回	カオス (その 1)	カオスの基礎的事項について学習する。決定論と確率論、複雑変動と初期値敏感性について理解する。
第 6 回	カオス (その 2)	動物個体数の変動モデルに関わる内容 (捕食と被捕食、微生物増殖のモデル、人口論など) について学習する。
第 7 回	「持続可能性」について	個体数変動モデルを例にとり、持続可能とは何か？ について考える。複雑変動における「+」の効果と「-」の効果のバランスについて理解する。
第 8 回	フラクタル (その 1)	フラクタルの基礎的事項について学習する。自己相似性と非整数次元について学習し、自然界に存在するフラクタルを描画する。
第 9 回	フラクタル (その 2)	フラクタル分布について学習する。指数関数とべき乗関数による分布表現、ジップの統計法則、ランダムウォークモデルなどについて理解する。
第 10 回	事例研究 (その 1)	森林の縞枯れ現象を格子モデルにもとづいてシミュレートし、その成因を探る。
第 11 回	事例研究 (その 2)	交通流をセルオートマトンモデルによりシミュレートし、渋滞現象を探る。
第 12 回	事例研究 (その 3)	フラクタルの応用的立場から、都市成長のメカニズムについて考える。都市構造の特徴をフラクタル次元により測る。
第 13 回	演習 (その 1)	具体的な問題をもとに演習する。
第 14 回	演習 (その 2)	具体的な問題をもとに演習する。
第 15 回	まとめ	授業の復習とモデルのもつ意義や可能性などについて検討する。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の後に復習をすること。授業で使った EXCEL ファイルを保存し整理しておくこと。

【テキスト】

特にテキストは使用しない。毎回プリントを配布する予定である。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価基準】

提出されたレポートの内容と授業への出席状況を勘案して決定する。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

パソコンを利用する授業なので、あまり速く進行することのないよう、受講者の状況を見ながらゆっくりと進めていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室に設置されているパソコンを使用する。とくに EXCEL を中心に利用する。

【その他】

本科目では情報処理教室を利用しますので受講者数に制限を設けます。受講を希望する方は、必ず第 1 回の授業に出席してください。受講希望者が多数の場合、その授業に出席した方の中から選抜し受講を認めることとします。

## 社会統計論

藤本 隆史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際にデータを使って集計の方法を学習する。そして集計結果を元にしてリサーチペーパーを作成する。

【授業の到達目標】

【】

【授業の概要と方法】

統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計を行う。データの集計には、主に統計解析ソフトの SPSS を用いるが、統計処理の過程を確かめるために、エクセルによる計算も行う。基礎的なデータ処理の方法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第 2 回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第 3 回	データとは何か	データの種類や、量的データの収集方法（手順）などを学ぶ
第 4 回	データセットの作成	データの入力方法や、SPSS で外部データを読み込む方法を学ぶ
第 5 回	基礎集計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第 6 回	データの加工	正規分布の考え方や、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第 7 回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方や作成方法を学ぶ
第 8 回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第 9 回	カイ 2 乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の関連の測定方法を学ぶ
第 10 回	分散分析	平均値の差の分析方法を学ぶ
第 11 回	相関係数と回帰分析	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第 12 回	エクセルによる統計処理	ピボットテーブルなどエクセルによる統計処理の方法を学ぶ
第 13 回	集計結果のまとめ方 (1)	SPSS の集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第 14 回	集計結果のまとめ方 (2)	SPSS の集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第 15 回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

SPSS やエクセルによる集計方法などを復習する。

【テキスト】

講義時に適宜紹介する。

【参考書】

講義時に適宜紹介する。

【成績評価基準】

パソコン実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視する。授業内で作業した結果を提出してもらう。データ分析に関する複数の課題（統計処理の基礎的な計算課題）の提出を求める。また、学期末にデータ分析を含みリサーチペーパーの提出を求める。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

パソコンの基礎的な操作方法を習得していることを前提として授業を進める。また、受講希望者が多い場合には抽選となるので、第 1 回目の授業には必ず参加すること。

## エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：後期授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマはエネルギーと環境問題であり、到達目標は以下の通りである。

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという循環の輪の中にあった。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	エネルギーの環境対策（電力を中心に）
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、新エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車の種類と性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱発電、海洋温度差発電
第14回	燃料電池	EVとFCV、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ
第15回	エネルギー貯蔵	エネルギー貯蔵方法の種類と特徴

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておくこと。第1回：エネルギーのCO<sub>2</sub>換算、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題、第15回：回生と蓄電

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート（50％）：各種再生可能エネルギーの利用方法に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。試験（50％）：各種再生可能エネルギーの仕組みや原理、環境問題への貢献などに関する知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。

## 社会統計論（スキルアップ）

藤本 隆史

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：後期授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際にデータを使って集計の方法を学習する。そして集計結果を元にしてリサーチペーパーを作成する。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計を行う。データの集計には、主に統計解析ソフトのSPSSを用いるが、統計処理の過程を確かめるために、エクセルによる計算も行う。基礎的なデータ処理の方法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第2回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第3回	データとは何か	データの種類や、量的データの収集方法（手順）などを学ぶ
第4回	データセットの作成	データの入力方法や、SPSSで外部データを読み込む方法を学ぶ
第5回	基礎集計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第6回	データの加工	正規分布の考え方と、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第7回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方と作成方法を学ぶ
第8回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第9回	カイ2乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の関連の測定方法を学ぶ
第10回	分散分析	平均値の差の分析方法を学ぶ
第11回	相関係数と回帰分析	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第12回	エクセルによる統計処理	ピボットテーブルなどエクセルによる統計処理の方法を学ぶ
第13回	集計結果のまとめ方(1)	SPSSの集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第14回	集計結果のまとめ方(2)	SPSSの集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第15回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

SPSSやエクセルによる集計方法などを復習する。

## 【テキスト】

講義時に適宜紹介する。

## 【参考書】

講義時に適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

パソコン実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視する。授業内で作業した結果を提出してもらう。データ分析に関する複数の課題（統計処理の基礎的な計算課題）の提出を求める。また、学期末にデータ分析を含むリサーチペーパーの提出を求める。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

パソコンの基礎的な操作方法を習得していることを前提として授業を進める。また、受講希望者が多い場合には抽選となるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

## 地域協力・統合

大中 一彌

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

この授業では、ヨーロッパ大陸における国境を越えた各種の動きを水平的統合、地中海をはさみ南側に位置するアフリカ諸国との関係を垂直的な協力関係と捉え、これら2つの軸の重なりあいをつうじて、地域協力・統合の現状と問題点を学習する。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

国民国家という単位を国際関係における唯一絶対的な主体とみなさないとき、国民国家を構成する各地方や、国民国家を越えるヨーロッパ連合のような超国家的アクターが重要となる。

この授業では、超国家的アクターのひとつとしてのヨーロッパ連合を、歴史と機構、鍵となる政策領域、思想的背景といった観点から、多面的に検討する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の紹介と質疑（科目選択にあたって）。地域とは？ 経済統合の諸段階。統合をめぐる諸仮説
第2回	主権と帝国	地域統合や地域協力はなぜ必要なのか？ その必要性を理解するうえで前提となる概念や知識を学ぶ。
第3回	「ヨーロッパ」理念の浮沈(1)	古代における「ヨーロッパ」という用語の誕生から中世まで
第4回	「ヨーロッパ」理念の浮沈(2)	キリスト教中世～市民革命・産業革命によって生まれる近代ヨーロッパ
第5回	「ヨーロッパ」理念の浮沈(3)	19世紀以降、国民国家間の戦争と、植民地支配を展開したヨーロッパ
第6回	ヨーロッパ統合構想	第2次世界大戦終結時までの、国家主権という発想を超えるための思想的な営みを概観
第7回	第2次世界大戦直後のヨーロッパ 1947-50年	マーシャル・プラン、ドイツ問題（ザールラントおよびルールの地位）、欧州審議会（CoE）の設立
第8回	「不戦」と「冷戦」の間 1950-58年	石炭鉄鋼共同体の成立、およびその後の統合の複線的な発展
第9回	脱植民地化とヨーロッパ 1958-69年	共通農業政策、独仏協調と空席危機、イギリス加盟問題、アフリカとの関係
第10回	通貨問題という茨の道 1969-79年	米ソ緊張緩和、ドル危機、「トンネルのなかの蛇」
第11回	冷戦の終焉に向かうヨーロッパ 1979-91年	アフガニスタンへのソ連軍介入以降の時期；日米による技術革新への対応（「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の時代）
第12回	「連合市民権」の成立とヨーロッパの現実 1992-98年	マーストリヒト条約、東欧への拡大
第13回	ポスト 9/11 の時代におけるヨーロッパ 1998-2011年	統合の現況と諸課題について学ぶ。
第14回	個別の論点	ヨーロッパにおける移民のプレゼンス、「要塞ヨーロッパ」、東アジア共同体構想との比較、最適通貨圏理論
第15回	まとめ	学生発表（希望者のみ）含む。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

・前半の授業回で取り上げるヨーロッパの概念の変遷についての説明は、文明論の古典的な素材からの抜粋からなっています。ぜひそうした古典のテキストに親しむ機会を作ってください。

・中盤以降の授業回で論ずる、第2次世界大戦以降のヨーロッパ統合については、今日の国際情勢の背景となっています。ぜひ新聞やニュースなどをつうじて最新のヨーロッパ情勢に触れるようにして下さい。

## 【テキスト】

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史 史料と解説』名古屋大学出版会、2008年。

## 【参考書】

金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史—一人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996年。

エティエンヌ・バリバル『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』（大中訳）平凡社、2006年。

#### 【成績評価基準】

- ・出席はとらない。
- ・小テストの受験【全員必須。ただし多くはネット上で授業外実施】
- ・学生による発表【希望者のみ】
- ・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】
- ・期末試験
- ・毎回「授業支援システム」上で点数をつけるので、各自、自分の評価を「eカルテ」で見ることが出来る。
- ・評価項目ごとの比率については、授業開始後決定する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

前半の授業回では、とくに高校や大学1年時の学習との橋渡しを意識しています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

- ・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。
- ・Twitter上で質問を受け付ける。@kazouille

## 地域経済論

### 石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

地域経済に関する、基本的な理論、実際問題、政策についての理解を深めることを目標とする。また、具体的な企画能力を身につけることももう一つの目標とする。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

地域の発展を考えると、地域の環境的側面や社会的側面に加えて、経済的側面をとらえることが不可欠である。この授業では、地域の経済構造、産業立地、社会資本整備を中心に理論上の整理を行うとともに、実際面での諸問題を論じる。また、地域の産業連関、自治体の産業政策、立地企業の動向、地域活性化の動きなど各地のケーススタディも行い、実際の地域経済問題に対する分析能力とともに企画立案能力を養う。授業は講義が主体であるが、簡単な演習として毎回授業内で、数分間のミニペーパーを作成提出する。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域経済とは何か、地域経済論の学び方
第2回	地域経済の分析・基礎(1)	地域人口分布、人口移動、地域所得構造
第3回	地域経済の分析・基礎(2)	地域産業立地、産業クラスター、地域集積
第4回	地域経済の分析・実際(1)	首都圏の事例分析、例「シブヤ圏の解剖」
第5回	地域経済の分析・実際(2)	海外地域の事例分析、例「シリコンバレー」
第6回	地域発展と産業(1)	ICT産業集積を考える、世界のICTクラスター
第7回	地域発展と産業(2)	地域インテリジェンスと地域産業の関係
第8回	地域発展と産業(3)	地域と観光、観光産業の系譜、地域観光開発
第9回	地域発展と産業(4)	地域と集客、イベント・博覧会・テーマパーク
第10回	地域経済と地域経営(1)	地域の情報・経済装置、地域経済活性化
第11回	地域経済と地域経営(2)	地域プロジェクトメイキング、企画の進め方
第12回	地域経済と地域経営(3)	地域プロジェクトの投資採算計算とその評価
第13回	地域経済と地域経営(4)	地域プロジェクトのファイナンス、手法と実際
第14回	地域と社会経済(1)	地域環境の経済分析、事業の社会的費用便益分析
第15回	地域と社会経済(2)	地域コミュニティビジネス、地域マクロエン지니어リング

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

#### 【テキスト】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。

#### 【参考書】

第1回目に基本的な参考書を紹介する。また、各回講義時にテーマに応じた参考書を紹介する。

#### 【成績評価基準】

定期試験（持ち込み不可）70%、平常点（授業内でのミニペーパーの提出ほか）30%

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】



## 公共経済学

小田 圭一郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

ミクロ経済学の基礎的な理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身に付けること。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

ミクロ経済学の復習を行った後、公共政策の必要要件（市場の失敗（公共財、外部性）、情報非対称性問題（逆選択）等）、及び、その解決方法（外部性の内部化、メカニズムデザインの初歩等）について学ぶ。またこれらに基づき、環境政策等の典型事例の分析を行う。（なお、授業計画は、参加学生のバックグラウンド、関心分野等に応じて適宜修正する。）

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第2回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第3回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第4回	ミクロ経済学③	市場の失敗
第5回	課税政策	最適課税の考え方
第6回	公共財①	定義・効率的配分条件
第7回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第8回	外部効果①	定義、コースの定理
第9回	外部効果②	市場的解決方法
第10回	公的企業	自然独占と規制
第11回	環境政策①	環境問題の定式化
第12回	環境政策②	環境税と排出権取引
第13回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第14回	情報非対称性問題②	逆選択問題の定式化
第15回	全体の復習	重要論点のレビュー

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ミクロ経済学とゲーム理論の初歩について配布資料の自習

### 【テキスト】

特になし

### 【参考書】

林貴志著「ミクロ経済学」（ミネルヴァ書房）；他は初回授業時に指示

### 【成績評価基準】

試験（必須）、及び、課題（optional）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 基礎演習

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

### 【授業計画】

後期 回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティ」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

### 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 基礎演習

田中 勉

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

## 【授業計画】

## 後期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

## 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

## 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 基礎演習

西城戸 誠

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

## 【授業計画】

## 後期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

## 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

## 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

近代西洋医学の発展とともに、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。一方で細かい部分（臓器、細胞、遺伝子レベル）に視点が行きすぎた結果、からだ全体を統一的な視点で観ることが失われていることも否めない。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。本講義の到達目標は、「補完代替医療」について、その概要を把握し、現代社会における役割や位置づけ、将来への可能性などを述べることができる。また世界にはおよそ600種の「補完代替医療」が存在する。それら医療の特徴は、その国の気候や風土などの環境、さらには文化や哲学的な思考が大きく反映されているものもある。これらの中から代表的なものを取り上げ、その内容を学習することで、それぞれの長所・短所を理解し、必要に応じて現代西洋医学と融合または使い分けできる思考、姿勢を身につけることである。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVDを用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	補完代替医療の健康観（1）	NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第3回	補完代替医療の健康観（2）	ドイツのがん治療の現状をDVDを視聴しながら解説する。
第4回	補完代替医療システム:中国伝統医学（1）	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第5回	補完代替医療システム:中国伝統医学（2）	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第6回	補完代替医療システム:中国伝統医学（3）	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第7回	補完代替医療システム:中国伝統医学（4）	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として7種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第8回	補完代替医療システム：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第9回	補完代替医療システム：インド伝統医学（アーユルヴェーダ医学）	インド地域を中心として発達した5000年の歴史があるアーユルヴェーダ医学について、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第10回	精神・身体相互介入による医療（1）：瞑想・リラクゼーション法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禅」との関連性を解説する。
第11回	生物学的療法：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われて、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。

第12回	手技および身体を介する療法：按摩・指圧・マッサージ（1）	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。
第13回	手技および身体を介する療法：按摩・指圧・マッサージ（2）	按摩・指圧・マッサージについて、それぞれの理論に基づき、実際に体験学習する。
第14回	手技および身体を介する療法およびエネルギー療法	カイロプラクティック、オステオパシー、セラピューティックタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第15回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて適宜配布する。

## 【参考書】

健康・体づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店  
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社  
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫  
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書  
ホメオパシー医学への招待 松本丈二著 フレグランスジャーナル社  
東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版社

## 【成績評価基準】

提出物（20%）と期末試験（80%）により評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクターなど

## 西欧近代批判の思想

越部 良一

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義は、西欧の近代とその思想に批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の到達目標および授業の中心となる視点は、西洋近代批判の視点を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判として把握することである。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。まず、西欧思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、デカルト、功利主義、ヘーゲル、マルクス主義などをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代の特徴など、この講義の全体を概観する。
第2回	プラトンの思想Ⅰ	プラトンの魂と正義の考え方について。
第3回	プラトンの思想Ⅱ	プラトンの民衆制批判の考え方について。
第4回	聖書の思想	イエスにおける人間と神の関係について。
第5回	功利主義の思想	ベンサム、ミルの功利主義の基本的な考え方。
第6回	デカルトの思想Ⅰ	デカルトの「我思う、ゆえに我あり」について。
第7回	デカルトの思想Ⅱ	デカルトの人間中心主義的な思考について。
第8回	ヘーゲルの思想Ⅰ	絶対者と人間精神の一致について。
第9回	ヘーゲルの思想Ⅱ	ヘーゲルの歴史観について。
第10回	マルクス主義の思想	マルクス主義の人間中心主義について。
第11回	キルケゴールの思想Ⅰ	キルケゴールのヘーゲル批判。
第12回	キルケゴールの思想Ⅱ	キルケゴールの現代への批判。
第13回	ニーチェの思想Ⅰ	ニーチェのニヒリズム論について。
第14回	ニーチェの思想Ⅱ	ニーチェの大衆批判。
第15回	試験	筆記（論述）試験を行う予定である。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の実際の著作（もちろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。

### 【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、思想家の言葉を引用したプリントを配布する。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

出席状況と期末試験によって成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境調査論

金城 盛彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講は水質測定などの自然科学系の「環境調査論」ではない。本講は「直交表」を用いたアンケート調査の負担を軽減すると同時に「表明選好法」による環境の経済的価値評価法への応用も図る。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

配布資料を中心に進める。「初等統計学」等に関する講義と、PC実習が中心となる。単位取得にはExcelならびに初等統計学に精通していることが望ましい。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	講義概要の説明や参考文献、履修要件などの説明。
第2回	アンケート設計－理論編－	「L8直交表」を例に「直交表」の理論と活用方法を解説。
第3回	直交表を用いたアンケート設計－事例編－	「L8直交表」を例にその活用例を紹介。
第4回	アンケート設計－実戦編①－	「L12直交表」あるいは「L18直交表」を用いたアンケートの設計実習を行う。
第5回	アンケート設計－実戦編②－	第4回に引き続き、「L12直交表」あるいは「L18直交表」を用いたアンケートの設計実習を行う。
第6回	予備日及びプロジェクト告知	これまでの復習と、グループ・プロジェクト（アンケート設計）の詳細指示（告知）。
第7回	統計解析－理論編①－	「直交実験計画」の多重回帰分析法の理論を解説。
第8回	統計解析－理論編②－	第7回に引き続き、「直交実験計画」の多重回帰分析法の理論を解説。
第9回	プロジェクト中間報告	「直交表」ベースのアンケート、ならびに調査結果の報告
第10回	数値化Ⅰ類分析－実戦編①－	「直交実験計画」の多重回帰分析法の事例を紹介。
第11回	数値化Ⅰ類分析－実戦編②－	第10回に引き続き、「直交実験計画」の多重回帰分析法の事例を紹介。
第12回	環境の経済的価値評価法①	「直交実験計画」の環境（財）の経済的価値評価法への応用解説
第13回	環境の経済的価値評価法②	第12回に続き、「直交実験計画」の環境（財）の経済的価値評価法への応用解説
第14回	プロジェクト最終報告	「直交表」ベースのアンケート調査の解析結果報告
第15回	予備日 or エピローグ	講義の総括あるいはグループ・プロジェクト最終報告の書き

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

予習・復習は特に必要としないが、グループワークの場合、メンバーとの良好なコミュニケーションの維持を図る必要がある。

### 【テキスト】

自作資料（入手方法は後述）。

### 【参考書】

1. 菅民郎『Excelで学ぶ多変量解析入門第2版』オーム社、2007。等 ※ 他は講義で開示。参考書の購入は必ずしも必要ない。

### 【成績評価基準】

「実戦編」、「プロジェクト」を通じた2～3回の報告（60点）と期末レポート（40点）をもとに評価する予定。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

・実践的な内容が概ね好評を得ているが、「統計学」やEXCEL実習を伴う性格上、履修登録前の授業に参加し、自身の目で履修の可否を見極めて欲しい。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜、プロジェクターなどを用いる。

#### 【その他】

実習科目のため計画には変更が有り得る。週1コマの授業のため、統計学は概説となる。同手法を実用する場合は、経験者のアドバイスが必要となろう。自作資料は、<http://cid-e70210fa5b9d2b44.skydrive.live.com/home.aspx> にアップ・ロードする。「0413 -」のファイルは、ファイル「0427 -」の名のファイルがアップ・ロードされるまで使用する。プリント・アウトの上出席すること。閲覧 Password 等は、初回開講時に周知する。

## 英語Ⅳ（スキルアップ科目）

### 磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第2回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第3回	Unit 1 A Common Language	Language in use Writing
第4回	Unit 1 A Common Language	Case study
第5回	Unit 2 Work to live, live to work	Talking business Listening
第6回	Unit 2 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第7回	Unit 2 Work to live, live to work	Writing
第8回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第9回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第10回	Unit 3 Transitions	Writing
第11回	Unit 4 Company culture	Talking business & listening
第12回	Unit 4 Company culture	Language in use & speaking
第13回	Unit 4 Company culture	Writing
第14回	Unit 5 Free to trade	Talking business & listening
第15回	Test	students will take a test.

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

#### 【テキスト】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941 円

#### 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

#### 【成績評価基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

## 英語Ⅳ（４群必修）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第2回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第3回	Unit 1 A Common Language	Language in use Writing
第4回	Unit 1 A Common Language	Case study
第5回	Unit 2 Work to live, live to work	Talking business Listening
第6回	Unit 2 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第7回	Unit 2 Work to live, live to work	Writing
第8回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第9回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第10回	Unit 3 Transitions	Writing
第11回	Unit 4 Company culture	Talking business & listening
第12回	Unit 4 Company culture	Language in use & speaking
第13回	Unit 4 Company culture	Writing
第14回	Unit 5 Free to trade	Talking business & listening
第15回	Test	students will take a test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

## 【テキスト】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

## 英語Ⅳ（４群選択）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1.5単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第2回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第3回	Unit 1 A Common Language	Language in use Writing
第4回	Unit 1 A Common Language	Case study
第5回	Unit 2 Work to live, live to work	Talking business Listening
第6回	Unit 2 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第7回	Unit 2 Work to live, live to work	Writing
第8回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第9回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第10回	Unit 3 Transitions	Writing
第11回	Unit 4 Company culture	Talking business & listening
第12回	Unit 4 Company culture	Language in use & speaking
第13回	Unit 4 Company culture	Writing
第14回	Unit 5 Free to trade	Talking business & listening
第15回	Test	students will take a test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

## 【テキスト】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

## 研究会

越部 良一

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時間：水・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

小林秀雄『考えるヒント』を読む

この研究会では、小林秀雄を思想家、哲学者と見る視点で、彼の後期の代表作ともいべき『考えるヒント』の中から、いくつかの文章を選んで読んでゆく。「自己を超えた精神と対話が始まらなければ、生きる深い理由には至れない」と小林秀雄は言うが、彼がもつこのような哲学的な資質は、おのずとソクラテスが言及する「汝自身を知れ」という言葉につながってくる。『考えるヒント』は、文芸雑誌に連載された論考を中心に編まれた本であり、その日本語としての表現は、西洋哲学の翻訳文章がもちがちな難解さから離れ、平易ではあるが、その内容は深く考えさせるものをもっている。その文章の立派さを味わいながら、読み進めたいと考えている。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

はじめに小林秀雄の紹介をして、そのあと『考えるヒント』の中の、下の授業計画に挙げた文章を取り上げて読んでゆきたい。「批評」以下はゆっくり読み進み、1回に2～3頁くらいの心づもりである。基本的には、発表希望者が内容発表し、みなで議論する形をとりたいと考えている。哲学の視点といっても堅苦しく考える必要は全くない。どんなささいなことでも問いにしてよのが哲学だと考えられるのだから。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	小林秀雄の生涯と思想	小林秀雄の哲学的な思考の特徴を概観する。
第2回	「四季」のいくつかの短い文章を読む	テキストの「人形」「季」「スランプ」などを読む。
第3回	「批評」(1)	テキストの「批評」を読み進める。
第4回	「批評」(2)	テキストの「批評」を読み進める。
第5回	「批評」(3)	テキストの「批評」を読み進める。
第6回	「プラトンの『国家』」(1)	テキストの「プラトンの『国家』」を読み進める。
第7回	「プラトンの『国家』」(2)	テキストの「プラトンの『国家』」を読み進める。
第8回	「プラトンの『国家』」(3)	テキストの「プラトンの『国家』」を読み進める。
第9回	「プラトンの『国家』」(4)	テキストの「プラトンの『国家』」を読み進める。
第10回	「漫画」(1)	テキストの「漫画」を読み進める。
第11回	「漫画」(2)	テキストの「漫画」を読み進める。
第12回	「漫画」(3)	テキストの「漫画」を読み進める。
第13回	「良心」(1)	テキストの「良心」を読み進める。
第14回	「良心」(2)	テキストの「良心」を読み進める。
第15回	「良心」(3)	テキストの「良心」を読み進める。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

このゼミのテキストである『考えるヒント』の他に、文春文庫では『考えるヒント2』『考えるヒント3』『考えるヒント4』も出ているので、時間があれば、その中からどれか興味のある文章を選んで目を通しておくとよい。

## 【テキスト】

小林秀雄『考えるヒント』（文春文庫・新装版、「常識」で始まるもの）（各自で開講までに購入しておいてほしい。同じ文春文庫の『考えるヒント2～4』ではないので注意すること。）

## 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

出席状況、議論、発表を総合して評価する予定である。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 自然環境論V

宇野 真介

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時間：水・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本授業では、生物学的発展によってもたらされた科学技術とその影響を、バイオテクノロジーを例として学びます。より具体的には、近代農業のもたらした環境問題や食糧問題の解決策として注目される遺伝子組み換え作物（GM作物）に焦点をあて、社会問題の解決策としての科学技術について、一般市民として必要とされる基礎知識を学習します。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

GM作物の生産は、1990年代半ばに商業栽培が開始されて以来急速に拡大しており、この新技術は「食」という面で私たちの生活に密接な関わりをもっています。GM作物の普及が人間社会や生態系にもたらす影響について、1)生物学的・技術的側面、2)食品面・環境面での安全性、3)本科学技術の社会的受容、の3点について講義形式で解説します。

[]

[]

## 【授業計画】

後期	回	テーマ	内容
	第1回	はじめに	本授業の全体像、評価方法などの解説
	第2回	背景：食糧生産と農業技術1	遺伝子組み換え技術が利用されている「育種」とはどのようなものか、その歴史的概要
	第3回	背景：食糧生産と農業技術2	「近代農業」の成果とそれによってもたらされた環境問題
	第4回	遺伝子組み換え技術の発展1	遺伝子組み換え技術の生物学的基礎となるゲノム・DNA・遺伝子についての理解の発展
	第5回	遺伝子組み換え技術の発展2	生物学的基礎理解から遺伝子組み換えの技術利用への展開
	第6回	遺伝子組み換え技術の発展3	遺伝子組み換え技術の実用化と実用例
	第7回	GM作物の食品利用1	GM作物の食品利用におけるリスクと食品事故
	第8回	GM作物の食品利用2	GM作物の食品利用における安全性確保への取り組み（国内・国外の事例）
	第9回	GM作物の環境インパクト1	環境インパクトを考えるための生態系・生物多様性の基礎理解
	第10回	GM作物の環境インパクト2	GM作物の屋外利用におけるリスク
	第11回	GM作物の環境インパクト3	GM作物の屋外利用における安全性確保への取り組み（国内・国外の事例）
	第12回	GM作物の社会受容1	GM作物の広がりや農業技術としての成果
	第13回	GM作物の社会受容2	遺伝子組み換え技術の商業利用の影響
	第14回	GM作物の社会受容3	経済政策の一環としての遺伝子組み換え技術と市民社会の反応
	第15回	科学技術の社会的位置づけ（まとめ）	社会問題の解決策としての遺伝子組み換え技術の総合的把握・評価

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

指示の無い限りは特になし。ただし、欠席時等の授業内容・連絡事項については、授業支援システムを利用して各自把握すること。

## 【テキスト】

教科書はなし。  
各講義で資料を配布。

## 【参考書】

必要に応じて参考書、参考Webサイトを授業中に指示。

## 【成績評価基準】

授業内で提示される課題および期末試験（あるレポート）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## ミクロ経済学Ⅱ

金城 盛彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

不完全競争市場下の「財の価格や取引量」の決定メカニズムの学習を通じ、「市場の失敗や不在」といった現象について学ぶ。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

配布資料や板書、講義中の質疑応答で授業を進める。環境経済学のテーマも織り交ぜる。中学レベルの数学（「線形関数・グラフ」等）を用いる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	（「ミクロ経済学Ⅰ」の総括と「ミクロ経済学Ⅱ」への展望、講義概要の説明）
第2回	「ミクロ経済学Ⅰ」の復習	完全競争市場の効率性の復習を通じミクロ経済学的思考も復習する。
第3回	環境経済学への応用①-1	「環境税・補助金による環境保全策」、「コースの定理」を中心に講じる。
第4回	環境経済学への応用①-2	前回に続き「環境税・補助金による環境保全策」、「コースの定理」を中心に講じる。
第5回	環境経済学への応用①-3	前回に続き「環境税・補助金による環境保全策」、「コースの定理」を中心に講じる。
第6回	不完全競争①	完全競争市場と不完全競争市場の相異を「供給独占」を中心に講じる。
第7回	不完全競争②	前回に続き「需要独占」、「双方独占」を中心に講じる。
第8回	不完全競争③	前回に続き「自然独占」、「参入阻止価格」を中心に講じる。
第9回	環境経済学への応用②-1	「排出権取引」を中心に講じる。
第10回	環境経済学への応用②-2	前回に続き「排出権取引」を中心に講じる。
第11回	ゲーム理論①	「ゲームの理論とは」、「戦略型ゲームとナッシュ均衡」を中心に講じます。
第12回	ゲーム理論②	「ゲームの木と展開型ゲーム」、「繰返しゲーム」を中心に講じます。
第13回	環境経済学への応用③-1	環境保全の制度設計への「ゲーム理論」の応用例を中心に講じます。
第14回	環境経済学への応用③-2	前回に続き、環境保全の制度設計への「ゲーム理論」の応用例を中心に講じます。
第15回	エピローグ	総括と「環境経済学」等への発展学習について紹介。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

自作資料の多くは【参考書】①を基に作成され、事前にアップ・ロードされるので、予習し疑問点等を予め明確にし講義に臨むとよい。

### 【テキスト】

自作資料（入手方法は後述）

### 【参考書】

①嶋村紘輝・佐々木宏夫編『入門ミクロ経済学』中央経済社（※参考文献は必ずしも必要ではない）。

### 【成績評価基準】

期末に定期試験を行う。レポートの可能性もある。問題の難易等を踏まえ、総合的に成績をつける。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

・経済系以外学生には難しいかもしれない。履修登録の前に授業に参加し、自身で履修の判断をして欲しい。  
・板書が見えづらいのであれば、前列に来て欲しい。  
・「環境学」を学ぶ関連情報の提供（留学等）は好評のようなので、講義の妨げとならない範囲で続けて行きたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜、プロジェクターなどを用いる。

### 【その他】

資料は <http://cid-e70210fa5b9d2b44.skydrive.live.com/home.aspx> にアップ・ロードする。プリント・アウトの上で出席すること。閲覧 Password は、開講時に告知する。

## 市民社会と政治

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、本講座では1990年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に扱います。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及びNPO・NGO（市民セクター）と政府セクターとの協働ないし緊張関係に焦点を当てながら、日本の伝統的な統治の姿を具体的に理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策過程への市民セクターの関与のあり方について、多面的な統治（ガバナンス）という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義で扱う言葉を概説
第2回	市民セクターの活動と政府(1)	1990年代後半からの動向
第3回	市民セクターの活動と政府(2)	国内の動向
第4回	市民セクターの活動と政府(3)	国際的な動向
第5回	戦後日本の市民セクターと政治(1)	「運動」の変遷
第6回	戦後日本の市民セクターと政治(2)	「市民参加」の系譜
第7回	市民セクターと自治体の意思決定(1)	住民投票の動き
第8回	市民セクターと自治体の意思決定(2)	地域における意思決定の課題
第9回	市民セクターと自治体の意思決定(3)	国政との関係を考える
第10回	市民セクターの合意形成	市民参加の新たな取り組み
第11回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の試み
第12回	市民社会のガバナンスを考える(1)	事例検討
第13回	市民社会のガバナンスを考える(2)	事例検討
第14回	市民社会のガバナンスを考える(3)	事例検討
第15回	まとめ	全体の振り返り

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

### 【テキスト】

特定の教科書は特に使用しません。授業内にレジュメと資料を配付します。

### 【参考書】

授業内で必要に応じ、参考文献等を紹介いたします。

### 【成績評価基準】

期末の論述試験と出席状況を勘案し、総合的に評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

地方自治論Ⅰ、NPO・ボランティア論及びNGO活動論を履修済か、同時期に履修することで、本講義の理解をより深めます。



## 基礎演習

## 井上 奉生

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

## 【授業計画】

## 後期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

## 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

## 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 国際経済協力論Ⅱ

## 武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

グローバル化が進展する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。この講義では、国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりとなし得ることについて、自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力をを行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	前期講義の簡単な概括とあわせ、後期によりあがるテーマについて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による経済協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による経済協力（2）民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	新たな主体による経済協力（3）南々協力および新たな援助国の登場	開発途上国同士の経済協力の取り組みや、従来の先進国（援助国）とは異なる新興援助国について紹介する。
第6回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第7回	人間の安全保障と国連ミレニアム開発目標	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第8回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力が紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第9回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がかかっている厳しい状況について概観する。
第10回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第11回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第12回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第13回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第14回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。

第 15 回 まとめ：なぜ国際経済協力の必要なのか  
後期の講義でとりあげた各トピックをあらためて概観するとともに、様々な協力が必要とされる背景について理解を深める。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

#### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

#### 【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）  
下村恭民他（2009 年）『国際協力（新版）』（有斐閣）  
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

#### 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 環境科学Ⅱ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰ（前期）では、比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱ（後期）では、地球規模や国境を超える問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。ⅠとⅡのどちらか片方だけを履修してもかまいません。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【】

【】

#### 【授業計画】

後期 回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第 2 回	オゾン層・その 1（第 7 章）	紫外線、フロンガス
第 3 回	オゾン層・その 2（第 7 章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第 4 回	気候変動・その 1（第 8 章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第 5 回	気候変動・その 2（第 8 章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響、国際交渉
第 6 回	気候変動・その 3（第 8 章）	京都議定書、京都メカニズム
第 7 回	気候変動・その 4（第 8 章）	緩和策
第 8 回	気候変動・その 5（第 8 章）	適応策
第 9 回	越境大気汚染（第 9 章）	酸性雨の化学、影響、光化学オキシダント
第 10 回	中国の環境と資源・その 1（第 11 章）	人口、食料と水資源
第 11 回	中国の環境と資源・その 2（第 11 章）	エネルギー、公害、政策
第 12 回	環境の評価（第 12 章）	環境アセスメント、L C A、環境ラベル
第 13 回	環境と貿易	貿易は環境に悪影響を及ぼすか？ G A T T、W T O
第 14 回	国際環境協力	開発援助の環境配慮、環境 O D A
第 15 回	まとめ	全体のとりまとめ

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

#### 【テキスト】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

#### 【参考書】

講義中に指定します。

#### 【成績評価基準】

期末試験のみで評価します。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

月曜日 7 時限と土曜日 1 時限の講義は同一です。原則、同じベースで進みますので、どちらに出席しても構いません。ただし、期末試験は登録した曜日・時限で受験してください。

## 人間環境特論（農と食から考える現代日本社会）

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「農」や「食」を自然環境の仕組みや環境問題から理解することによって、「農」や「食」に対する私たちの考え方やライフスタイルを問い直します。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

そもそも農業は、人間の「いのち」を支える「生命産業」です。また農産物は動植物の「いのち」そのものです。しかし「近代社会＝資本主義社会」においては、農業は「金儲け」の手段となり、農産物は「金銭的価値」として見なされます。こうして「市場原理＝経済的な効率性」を求めがゆえに、農業は自然環境への負荷を高め、環境問題を引き起こしてしまうのです。そこで、この授業では、農業・農村にかかわる諸問題を取りあげるだけでなく、私たちの生命の源であり、暮らしの根幹である「食」の現場からも考察を深め、「農＝食」という立場から自然環境や環境問題を理解し、現代日本社会を考えていきます。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「農」から「現代日本社会」が見えてくる～まずは農業・農村に興味をもとう！	現代社会において日本農業や農村を考える意義について学習します。
第2回	高度経済成長と戦後の農業・農村社会～『ALWAYS 三丁目の夕日』は「美しい日本」なのか？	戦後の日本農業や農村社会の変容を高度経済成長との関連で学習します。
第3回	「過疎」問題と「限界集落」の出現～『田舎に泊まろう！』では伝わらない現実とは？	過疎や限界集落の成立背景やその課題について学習します。
第4回	戦後農政と農業・化学肥料の登場～なぜレイチェル・カーソンは「春は沈黙する」と言ったのか？	戦後の農業現場で普及していった農業や化学肥料の功罪について学習します。
第5回	「WTO体制」と農業・農村の「多面的価値」～田んぼはコメだけでなく自然環境も生産している！	市場経済で取り引きされない農業や農村の価値について学習します。
第6回	食生活の欧米化と食料自給率の低下～いつから「牛丼」は国民食になったのか？	戦後の日本人の食生活の変化を高度経済成長との関連で学習します。
第7回	日本人の食生活と環境破壊～エビからアジアが見えてくる！	海外に依存する日本人の食生活が途上国の自然環境の破壊につながっていることを学習します。
第8回	ファストフード批判と「スローフード」運動～ほんとうにマクドナルドは食文化を破壊しているのか？	食のグローバル化に対する社会運動の意義について学習します。
第9回	農業とバイオテクノロジー～「GM（遺伝子組換え）」作物は良いの？悪いの？	遺伝子組み換え作物の普及背景やその功罪について学習します。
第10回	「BSE」の発生と食品行政の転換～なぜ食に「自己責任」を求めるのか？	BSE問題から食の安全・安心やリスクについての考え方を学習します。
第11回	「有機農業」運動の始まり～都市の消費者が農家を支える関係とは？	有機農業運動の目的や意図を理解することによって消費者の農業・農村に対する役割について学習します。
第12回	「グリーン・ツーリズム（都市農村交流事業）」の登場～「棚田オーナー制」は最先端の観光！？	都市住民による農村滞在や農業体験の意義について学習します。

- 第13回 「生身の自然」から「切り身の自然」へ～バック詰めの鶏肉に「いのち」を実感できるのか？
- 第14回 「循環」型社会をめざして～生ゴミのリサイクルで野菜を作って地域をつなげる！
- 第15回 まとめ～「食」が変われば「農」は変わる！

自分で育てた家畜を自ら解体する活動によって現代日本の食事情について学習します。

生命・物質が循環する自然生態系の中に農業の営みを埋め戻す意義について学習します。

日本の食や日本農業・農村をめぐる諸問題を理解したうえで農業や農村の意義について再度考えます。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておいてください。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習をお願いします。

### 【テキスト】

テキストは指定しません。毎回、プリントを配布します。

### 【参考書】

参考文献は、授業で適宜紹介します。

### 【成績評価基準】

学期末に提出するレポートで成績を評価します。なお受講者の人数次第では、評価方法を変更することがあります。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育を上げさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および組織化された地域社会の努力が必要である。

本講座では、疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。

また、近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

授業の到達目標およびテーマ、に記載

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健①	三大精神病について
第3回	精神保健②	心身症、摂食障害について
第4回	社会保障	社会保障制度について
第5回	母子保健・学校保健	母子保健・学校保健
第6回	就労女性の母性保護	ワークライフバランスを考えるために
第7回	成人保健・老人保健	成人保健・老人保健の課題と施策
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第10回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第11回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える ビデオ鑑賞
第12回	水俣病について	ビデオ鑑賞
第13回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第14回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第15回	授業内試験	試験の実施

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後に復習を行う。

### 【テキスト】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

### 【参考書】

開講時に指定する

### 【成績評価基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込み不可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めることがある。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

基本的に衛生・公衆衛生学Ⅰと継続した内容であるため、衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが履修の条件となる。

## 福祉工学 (国際遠隔講座)

小林 尚登

配当年次／単位：2～4年／2単位

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

文系・理系を横断して介護や福祉分野における機器・技術の活用について学ぶことが本授業の到達目標とテーマである。

ロボット工学の看護、介護及びリハビリテーション分野への応用に関する最新の知見を学ぶことを講義内容とし、米国、韓国、スウェーデンなどの最先端の取組・事例を学ぶ。

まず、介護・福祉とハイテク技術・ロボットとの関係を学び、次にリハビリテーションロボット、ヴァーチャルリアリティの福祉・介護への活用、ジャスターによる福祉ロボットの操作、リモートコントロールによる遠隔地リハビリテーションなど各国の最先端の技術を学ぶ。

また、ゲストスピーカーによる講演を通し、本当のバリアフリー、ユニバーサルデザインとは何かを理解する。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

海外と結んだ「リアルタイム遠隔方式」や「オンデマンドコンテンツ」を利用したユニークな形態で授業を行っていく。

日本・米国・韓国・スウェーデンの教員が担当する「オンデマンドコンテンツ」を視聴し、教室授業では実際にその授業を担当した講師が解説を行う。

米国、韓国、スウェーデンの教員は「遠隔講義システム」を使用して講義を実施。

外国人教員はすべて英語で講義を行うため、講義内容が理解できるよう日本語通訳のサポートあり。

各外国人教員へ質疑を行う時間を設け、オンデマンドコンテンツを視聴した際に生じた疑問などの質疑を行うことができる。

また、ゲストスピーカーを招き、福祉工学に関する講演を行う。

講義は、3キャンパスを遠隔授業システムで接続して開講するので、下記のいずれの教室でも受講可能である。

(1) 市ヶ谷キャンパス 田町校舎 5階 マルチメディアホール (50名)

(2) 多摩キャンパス 総合棟 3階 遠隔講義室 (50名)

(3) 小金井キャンパス 南館 7階 AV教室 (50名)

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび全体説明 オンデマンドコンテンツ 1-2 事前説明	講義概要の説明 受講方法の説明 ロボット・ハイテク技術と福祉・介護 (概要)
第2回	オンデマンドコンテンツ 1-2の解説 小テスト	最先端の福祉ロボット (Assistive Technologies: Cutting-edge Technologies in nurse, care, rehabilitation) 小テスト
第3回	オンデマンドコンテンツ 3-4の解説 小テスト	リハビリテーション支援ロボット セラピー・リハビリテーションロボット (Assistive Rehabilitation Robots 、Therapy Rehabilitation Robots) 小テスト
第4回	講演 (ゲストスピーカー)	日本におけるバリアフリーの現状 ユニバーサルデザインの重要性
第5回	オンデマンドコンテンツ 6の視聴 ※教室授業はなし	オンデマンドコンテンツ 6「Virtual Reality in Rehabilitation」の視聴
第6回	オンデマンドコンテンツ 5-6の解説 小テスト	臨床用途のリハビリテーションロボット ヴァーチャル・リアリティとリハビリテーション (Clinical-Use Rehabilitation Robots, Virtual Reality in Rehabilitation) 小テスト
第7回	オンデマンドコンテンツ 3-6 担当教員による解説・質疑応答	米国の教員による取組・事例紹介を交えた質疑応答

第 8 回	オンデマンドコンテンツ 7-8 の視聴 ※教室授業はなし	オンデマンドコンテンツ 7「Service Robotic Systems for the needed」の視聴 オンデマンドコンテンツ 8「Wheelchair-based Robot System」の視聴
第 9 回	オンデマンドコンテンツ 7-8 の解説 小テスト	ロボットによる支援 (概要) 車イスを基本としたシステム (Service Robotic Systems for the needed、Wheelchair-based Robot System) 小テスト
第 10 回	オンデマンドコンテンツ 9-10 の解説 小テスト	ジャスチャー制御の福祉ロボット スマートハウス (Human-Robot Interaction Technique with special attention to Hand Gesture、Smart High-tech House as a Large-scale Care Robot) 小テスト
第 11 回	オンデマンドコンテンツ 7-10 担当教員による解説・質疑応答	韓国の教員による取組・事例紹介を交えた質疑応答
第 12 回	オンデマンドコンテンツ 11-12 の解説 小テスト	福祉のためのデザイン 遠隔治療 (Design for Wellbeing Innovations for People、Remote Controlled Robot to Perform Echocardiography on Distance) 小テスト
第 13 回	オンデマンドコンテンツ 13-14 の視聴 ※教室授業はなし	オンデマンドコンテンツ 13「Telemedicine and information services for a patient focused proces」の視聴 オンデマンドコンテンツ 14「NeedInn」の視聴
第 14 回	オンデマンドコンテンツ 13-14 の解説 小テスト	遠隔治療と情報サービス NeedIn プロジェクト (Telemedicine and information services for a patient focused proces、NeedInn) 小テスト
第 15 回	オンデマンドコンテンツ 11-14 担当教員による解説・質疑応答 レポート課題発表	スウェーデンの教員による取組・事例紹介を交えた質疑応答 レポート課題発表

【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

IT 研究センターへ事前登録 (CMS:Sakai への登録)  
オンデマンドコンテンツの視聴

【テキスト】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価基準】

授業内小テスト 60 %

レポート 40 %

授業内小テストは、積極的な授業への参加 (講義内容に関する意見・質問等) 及び自律学習行動 (オンデマンドコンテンツを利用した自学・自習) を加味して評価する。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業内容は毎年更新するとともに、受講生によっても説明方法等をかえるので、意見があれば積極的に教員に伝えて頂きたい。前年度授業評価での一年遅れの改善よりも当該年度でのリアルタイムでの調整の方が望ましい

【学生が準備すべき機器他】

様々なインターネット関連ツール・メディアを活用して授業を進めるため、受講に際しては、インターネット接続等についての基礎知識とインターネット常時接続環境が必要である。

## 自然環境論Ⅲ

### 井上 奉生

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

地球は水の惑星と言われるように、地球表面の約 70 % は海洋でおおわれ、深さを平均すると約 3800 m にも達する。また、その体積は約 13.72 億 km<sup>3</sup> である。四方を海洋に囲まれた日本に住む我々にとって海洋は非常に身近な存在である。日本人は世界中で一番海産物を好む国民であると言われている。このように海洋の恩恵を多く受けている我々だが、この膨大な海洋に関する知識はごく一部分である。本講義は以下の授業計画にある各項目を現在、理解および認識されている範囲で平易に解説する。

【授業の到達目標】

【】

【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋研究史	地中海、大西洋、インド洋、太平洋
第 2 回	海図 (1)	海図の歴史、海図の見方、海図の記号、基準水位 等
第 3 回	海図 (2)	等深線作図作業
第 4 回	海岸地形	各種の海岸地形
第 5 回	海底地形	干潟、大陸棚、大陸斜面、大洋底、海底火山 等
第 6 回	プレートテクトニクス	海嶺、海溝、ホットスポット 等
第 7 回	海水の性質	水温、水質 (塩分濃度) 等
第 8 回	海流	世界の海流、黒潮、親潮 等
第 9 回	波	波浪、潮汐、津波 等
第 10 回	海洋の生物	生態系 (食物連鎖、栄養段階)、プランクトン、ネクトン、バントスの説明
第 11 回	海洋の生産力 (水産資源含む)	沿岸域、外洋域、湧昇域、TAC 等
第 12 回	鉱物資源	石油、天然ガス、熱水鉱床、マンガン団塊、メタンハイドレード 等
第 13 回	海洋汚染	汚染物質の種類およびその移動
第 14 回	海洋開発	日本および諸外国 (特にアメリカ)
第 15 回	総括	第 1 回~第 14 回の総括

【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

適宜、授業において指示する。

【テキスト】

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

【参考書】

適宜、参考書を紹介する。

【成績評価基準】

期末試験

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

各項目に関係するトピック的ニュースがあった場合には内容を変更することもある。

地図帳を持参すること。

配布したプリントはファイルして忘れず必ず持参すること。

## 環境人類学Ⅱ

目黒 紀夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

人間社会と生態環境との関係を理解するための人類学的な視座を身につける。具体的には、全地球的スケールの生態環境を舞台としてくりひろげられてきた「人類の自然史」というマクロな視座と、地域生態系との具体的な関係のなかで営まれている人々の「日常的な生活実践」というミクロな視座の獲得である。本講義の到達目標は、グローバル化が進展する今日にミクロ（＝ローカル）な現場で展開する人間社会と生態環境とのかわりか、いかにマクロ（＝ナショナル／グローバル）な政治政策・経済活動・社会変化の影響を受けながら実践されているのかを理解することである。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

＜一＞自然保護・生物多様性保全の歴史と、自然（生態環境）に強く結び付いて暮らしてきた人間社会のあり方を説明する。＜二＞地域社会が自然とのあいだに歴史的に培ってきた関係を紹介し、ミクロな「日常的な生活実践」が自然資源管理・生物多様性保全に果たしてきた役割を説明する。＜三＞人間が自然に手を加えることで創り出される生物多様性を説明し、「守るべき自然」について再考する。＜四＞ローカルな地元社会がグローバルな環境政策・運動の影響を被るなかでどのような対応を取っているのかを説明し、人間社会と生態環境の関係をミクロとマクロの視点から複合的に考察する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	当講義の進め方の説明と教員の研究紹介
第2回	＜一＞導入：グローバル時代の生物多様性保全	今日の生物多様性保全に連なる自然保護・環境保全の考えと取り組みの歴史
第3回	＜一＞導入：多様な人間社会の歴史	自然基盤の人間社会（狩猟採集・農耕・牧畜・漁労）の基本的なあり方と歴史
第4回	＜二＞ローカルな自然資源管理・生物多様性保全：コモンズ論の歴史	「コモンズ＝みんなのもの」である自然の管理を議論するコモンズ論の導入
第5回	＜二＞ローカルな自然資源管理・生物多様性保全：自然の所有権	多様な人間社会においてどのように自然が所有され保護されてきたのか
第6回	＜二＞ローカルな自然資源管理・生物多様性保全：伝統的生態知識の可能性	西洋科学とは異なる生物多様性保全の手段としての伝統的生態知識の具体例
第7回	＜二＞ローカルな自然資源管理・生物多様性保全：コモンズの設計原理	持続的なローカル・コモンズの構築に重要な要素とこれまでの議論の課題
第8回	＜三＞「守るべき自然・管理すべき環境」の複数性：自然／環境の資源化	特定の生物種や生態環境が「守るべき」対象として選択されるプロセス
第9回	＜三＞「守るべき自然・管理すべき環境」の複数性：ドメスティケーション	人間が自然に手を加え「飼い馴らす」ことで創り出されてきた生物多様性
第10回	＜三＞「守るべき自然・管理すべき環境」の複数性：「半栽培」という自然	完全にコントロールできない自然との間に歴史的に築かれてきた複雑な関係
第11回	＜四＞ローカルなかわりかグローバルなつながり：ローカルな抵抗	地元社会の歴史を無視した外発的な保全政策・活動に示される人々の抵抗
第12回	＜四＞ローカルなかわりかグローバルなつながり：ローカルな順応	外からの変化・影響に地元社会が順応し、好機として活用するやり方
第13回	＜四＞ローカルなかわりかグローバルなつながり：環境ガバナンス	複雑化・多様化・重層化する環境問題をめぐる地元社会と外部者の協働
第14回	本講義のまとめ	ミクロとマクロをつなぐ環境人類学的な視点の内容を確認
第15回	試験	環境人類学の概念などを問う基礎問題と他の環境問題を事例とする応用問題

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

期末試験では、授業では取り上げていない地球環境問題・生物多様性保全活動について、本講義で学習した人類学的なモノの見方から考察・解答することを求める。そのため、講義内で紹介する参考文献や関係するテレビ番組・映画（DVD）を通じて、授業時間外に自主的に情報を収集しておくことが求められる。

## 【テキスト】

特定の教科書はなし。

## 【参考書】

参考文献は多数あるため、講義中に適宜提示する。

## 【成績評価基準】

期末試験（100点）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、DVD再生機

## 【その他】

履修対象は2～4年とするが、3年次以降での履修を推奨する。環境人類学Ⅰを履修していることを前提として講義をすすめる。高校の地理・世界史・生物の知識をもち、さらに市ヶ谷基礎科目のうち本講義の内容と関連のあるもの（文化人類学、社会学、西洋史・東洋史など）を履修しておくか、並行して履修することが望ましい。

## 国際環境法Ⅱ

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

今日の環境問題の主要なテーマである自動車排出ガス、有害物質などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。地球社会の一員として、国際的に協調した環境保全への取り組みについての意欲を増進する。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

世界的に取り組まれている環境問題の主要なテーマである、環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質対策、地球環境問題について、わが国の取り組みの経緯と内容、同じ問題に対する外国の取り組みの差異などを比較考察する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第2回	国際的な環境保護の歩みⅠ	産業革命期の環境法の萌芽 国立公園制度とナショナルトラスト
第3回	国際的な環境保護の歩みⅡ	原子力事故 国際会議
第4回	環境影響評価制度Ⅰ	わが国の制度とNEPA①
第5回	環境影響評価制度Ⅱ	わが国の制度とNEPA②
第6回	環境影響評価制度Ⅲ	SEA
第7回	自動車排出ガス規制	マスク規制
第8回	自動車排出ガス規制 2	ディーゼル規制
第9回	自動車問題に対する新しい動き	地球温暖化対策 混雑税
第10回	有害物質対策Ⅰ	DDT等の農業 PCBと化審法
第11回	有害物質対策Ⅱ	外国の制度 ダイオキシン
第12回	有害物質対策Ⅲ	PRTR
第13回	土壌汚染対策	スーパーファンド法とわが国の制度
第14回	地球環境問題 新エネルギー	温室効果ガス算定報告 RPS法など
第15回	むすび	授業の総括

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

プリント、参考書を学習する。興味を持った制度を掘り下げて調べてみる。

## 【テキスト】

プリント

## 【参考書】

授業内で紹介

## 【成績評価基準】

定期試験による

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

この講義は、国内環境政策を考える一環として位置づけている。

## 英語Ⅱ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.

Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第2回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第3回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第4回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第5回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第6回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第7回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第8回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第9回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第10回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise

第 11 回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 12 回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 13 回	Wrap up	The rest of Unit 10 and discussion
第 14 回	Acting out of the scene	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.
第 15 回	Test	Students are given a 60-minute written test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Reading the script and summarize each unit.  
Writing down their favorite line.  
Studying the new words and phrases in advance.

## 【テキスト】

*The Devil Wears Prada* (松柏社、2,200 円)

## 【参考書】

必要に応じて講義で指示する。

## 【成績評価基準】

Test (60%) , Attendance and Assignments (40%)

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 英語Ⅱ（4群必修）

## 磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.

Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 3 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第 4 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第 5 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第 6 回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第 7 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第 8 回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 9 回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 10 回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise



第 11 回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 12 回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 13 回	Wrap up	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 14 回	Acting out of the scene	The rest of Unit 10 and discussion
第 15 回	Test	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair. Students are given a 60-minute written test.

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**  
 Reading the script and summarize each unit.  
 Writing down their favorite line.  
 Studying the new words and phrases in advance.

**【テキスト】**  
 The Devil Wears Prada (松柏社、2,200 円)

**【参考書】**  
 必要に応じて講義で指示する。

**【成績評価基準】**  
 Test (60%) , Attendance and Assignments (40%)

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

**【学生が準備すべき機器他】**  
 DVD, CD

## 英語Ⅱ（4群選択）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
 開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video. Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 3 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context)
第 4 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Unit 2 words & phrases, first viewing The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context)
第 5 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Unit 3 words & phrases, first viewing The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context)
第 6 回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	Unit 4 words & phrases, first viewing The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context)
第 7 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context)
第 8 回	Unit 7 Andy's Dilemma	Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context)
第 9 回	Unit 8 A Night in Paris	Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 10 回	Unit 9 A Plot against Miranda	Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context)
		Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise

第 11 回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 12 回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 13 回	Wrap up	The rest of Unit 10 and discussion
第 14 回	Acting out of the scene	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.
第 15 回	Test	Students are given a 60-minute written test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Reading the script and summarize each unit.  
Writing down their favorite line.  
Studying the new words and phrases in advance.

## 【テキスト】

*The Devil Wears Prada* (松柏社、2,200 円)

## 【参考書】

必要に応じて講義で指示する。

## 【成績評価基準】

Test (60%), Attendance and Assignments (40%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 研究会

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

日本のシェイクスピア  
シェイクスピアの移入史・翻訳史・上演史の概略について講義を行なった後、参加者各自の舞台鑑賞レポートを課題として、現代日本におけるシェイクスピア上演の意味を探ります。

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

第一段階として、参加者が基礎知識を共有できるように、重要なせりふを確認しながら、主要作品・移入史・翻訳史・上演史の概略を講義します。また、開講期間のシェイクスピア上演についても講義し、舞台鑑賞レポートの導入として、着眼点・資料の探し方・書式などを指導します。参加者は、必ず、ゼミ内の発表に間に合うよう、生の舞台を見て記録を残しておく必要があります。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	主要作品解説 (1)	エリザベス朝の時代背景と歴史劇について
第 2 回	主要作品解説 (2)	四大悲劇 (『ハムレット』・『マクベス』・『オセロー』・『リア王』) についての講義
第 3 回	主要作品解説 (3)	喜劇 (『夏の夜の夢』・『空騒ぎ』・『十二夜』・『お気に召すまま』) についての講義
第 4 回	最新舞台情報	開講期のシェイクスピア上演についての講義
第 5 回	主要作品解説 (4)	ロマンス劇 (『ペリクリーズ』・『テンペスト』) についての講義
第 6 回	舞台鑑賞レポート指導	論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説する。
第 7 回	移入史講義	明治期の翻案物についての講義
第 8 回	翻訳史講義	坪内逍遙以来の本格的翻訳の変遷を辿り、それぞれの特徴を考える。
第 9 回	上演史講義 (1)	翻案上演の系譜を辿り、その意義を考える。
第 10 回	上演史講義 (2)	翻訳上演の系譜を辿り、その意義を考える。
第 11 回	舞台鑑賞レポート発表 (1)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 12 回	舞台鑑賞レポート発表 (2)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 13 回	舞台鑑賞レポート発表 (3)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 14 回	舞台鑑賞レポート発表 (4)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 15 回	総括 (ラウンドテーブル)	われわれがシェイクスピアを学ぶ意義は何か共に考える。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

第 10 回の講義までは、講義後の復習を行ない、特に興味深かった点を抽出しておいてください。

開講期間内なるべく早い段階で、舞台鑑賞レポートの準備を始めましょう。自分が選んだ舞台を観劇しその日のうちに記録を残しておきましょう。

関連資料も調べて、興味深く説得力のある舞台鑑賞レポートを作成してください。

発表の工夫も必要です。

## 【テキスト】

プリント配布。

## 【参考書】

大場建治ほか (2002) 『シェイクスピア大事典』 日本図書センター

A.D. カズンスほか (2010) 『シェイクスピア百科図鑑』 悠書館

翻訳は、小田島雄志訳 (白水Uブックス) や松岡和子訳 (ちくま文庫) などが入手しやすい。

## 【成績評価基準】

出席・参加態度、舞台鑑賞レポート (口頭発表+レポート提出) などから総合的に評価します。

## 生命の現在と倫理

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義は、「生きること」「いのち」を最優先のキーワードとして成立する応用倫理学(生命倫理学・環境倫理学)を中心に据えて展開する。そこで、「ただ生きること」と「よく生きること」の乖離が、先鋭なかたちで顕著になりつつある現代社会の現状(環境汚染・遺伝子操作・脳死・安楽死・生殖補助医療技術など)に対して、プラトンの生命論という原理的地平から考察する。現代倫理学の基本的概念(人格・自律・自己決定・ケア)の論議を素材にして「主体的に生きるとは、いかなることか」を学ぶ。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

最初に「いのち」とは、どのようなものなのかを、プラトンの生命観から原理的考察をします。その上でbio(生命)ethics(倫理学)の成立と歴史を学ぶことにします。その後は、生命倫理学で取り扱う問題群を、個別に授業計画に沿って講義します。

この分野の技術革新は日進月歩で進むので、その都度、資料をプリントして配布し、VTR・DVD・NIEなどを用いて学ぶことにします。人数によってはグループで議論を、また大教室の場合は意見の記述(レポート)を実施します。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と学び方
第2回	「生命とは何か」	プラトンの生命観から遡源
第3回	「bioethicsの歴史」	米国におけるbioethicsの成立と日本への輸入と現状
第4回	「健康と病気」	健康の定義をめぐる議論と病気の定義をめぐる議論
第5回	「エイジング」	高齢者介護の問題
第6回	「高齢社会と生命の質」	クオリティ・オブ・ライフとサウンクティティ・オブ・ライフ
第7回	「パーソン(人格)論」	パーソン論の内容とそれに伴う問題点
第8回	「自己決定権の限界」	インフォームド・コンセントと患者の自己決定権
第9回	「自律(autonomy)の倫理」	自律と弱いパターナリズムの共存の可能性
第10回	「生殖補助医療技術をめぐる倫理的問題」	生殖補助医療技術の原則とは何か
第11回	「脳死と臓器移植」	臓器移植の現実的諸問題
第12回	「積極的安楽死と消極的安楽死」	安楽死の分類と治療停止問題
第13回	「ケアの倫理」	ターミナル・ケアの現実とその意味
第14回	「応用倫理学の(生命倫理学・環境倫理学)の課題」	その現状とそれへの要請
第15回	期末試験	論述試験

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

授業では、今、現実社会で起きている生命倫理問題を提題して、受講者一人ひとりがどのように対処すべきかを自分で考える必要があります。そのためにさまざまな事例研究の課題を出すので、そのレポートの提出が義務づけられます。

**【テキスト】**

テキストは使用しません。講義時に資料プリントを配布します。

**【参考書】**

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

**【成績評価基準】**

積極的な授業参加を重視します。出席は最低でも 7 回以上が必要です。試験は、期末試験を 1 回を、レポートは、1~2 回を課します。それぞれを総合して判定します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****研究会****長峰 登記夫**

配当年次／単位：2~4 年／ 2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

本研究会の目的は基本的に前期と同じである。前期に学んだことを基礎に学生はそれぞれ個別的なテーマを設定し、学習を深め、レジュメやレポートの作成、発表の仕方等いっそうの向上をはかる。それが仕事や社会活動のなかで得た経験と連関を持つようなかたちで学習を進め、社会人としての就業力向上にもつなげる。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

前期の学習を基礎に個別的なテーマを設定し、すでに前期にテーマを設定している者は、その学習を深め、前期に学んだ資料収集や整理の方法を駆使して、レジュメやレポートの作成、授業内での発表等のいっそうの向上をはかる。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	前期レポートの点検と問題点 (1)	前期行った発表や提出したレポートの問題点等についてチェックする
第 2 回	前期レポートの点検と問題点 (2)	同上
第 3 回	学生による報告 (1)	個別的なテーマを設定し、レジュメを作成して報告する
第 4 回	学生による報告 (2)	同上
第 5 回	学生による報告 (3)	同上
第 6 回	学生による報告 (4)	同上
第 7 回	学生による報告 (5)	同上
第 8 回	学生による報告 (6)	同上
第 9 回	学生による報告 (7)	同上
第 10 回	学生による報告 (8)	同上
第 11 回	学生による報告 (9)	同上
第 12 回	学生による報告 (10)	同上
第 13 回	学生による報告 (11)	同上
第 14 回	レポート作成の進捗状況のチェック	同上
第 15 回	レポート提出	同上

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

テキストの予習、復習は必須であるが、それ以外に授業で扱う様々なテーマおよびそれらに関連する社会的事象や動向に注目し、新聞やマスメディアには常に注目し、学習する。

**【テキスト】**

授業内で適宜指示する。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価基準】**

出席、授業内での議論や発表、とくに作成したレジュメに基づく発表や最終レポート等によって評価を行う。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

今年度初めて開講。

## 研究会

## 長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本研究会には主要な目的が二つある。一つは、2012年度から同一科目の昼夜2回開講制がなくなることから、とくに社会人学生に与える影響を考え、そうした事態に伴う様々な問題について指導すること、もう一つは、社会人学生が関心を持てるようなテーマを取り上げ、それについて学習し、資料収集やレジュメ、レポートの作成方法について学ぶことである。とくに後者では資料収集や文章の作成、発表の仕方等を学ぶが、それは職場での調査や報告書作成等に関連して社会人学生の就業力向上にもつながる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

様々なテーマのなかから関心のあるテーマを選択し、それに関する資料の収集・整理、レジュメの作成、レポートの作成、授業内での発表等、一連の基本的な研究手法について学ぶ。とくに社会人学生は仕事を持っていることから時間的な制約も多く、限られた時間のなかで効率的に勉強を進める必要があるが、同時に、仕事や社会活動のなかで様々な経験をもっている。それを生かしたテーマを設定し、学習を進める。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	昼夜2回開講制と効率的な履修(1)	同一科目昼夜2回開講制の廃止に伴う問題と対処法について
第2回	昼夜2回開講制と効率的な履修(2)	同上
第3回	情報収集の方法(1)	調査や研究を行う場合の情報収集の仕方について学ぶ
第4回	情報収集の方法(2)	同上
第5回	レジュメおよびレポートの書き方(1)	レジュメやレポートを作成する際の基本的な事柄について学ぶ
第6回	レジュメおよびレポートの書き方(2)	同上
第7回	テーマの設定(1)	研究テーマを設定する際に気をつけるべきこと等について、その基本を学ぶ
第8回	テーマの設定(2)	同上
第9回	学生による報告(1)	簡単なテーマを設定し、レジュメを作成して報告する
第10回	学生による報告(2)	同上
第11回	学生による報告(3)	同上
第12回	学生による報告(4)	同上
第13回	学生による報告(5)	同上
第14回	レポート作成の進捗状況のチェック	これまでの報告に問題はないか、レポート作成の進捗状況についてチェックする
第15回	レポート提出	レポートを提出

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

テキストの予習、復習は必須であるが、それ以外に授業で扱う様々なテーマおよびそれらに関連する社会的事象や動向に注目し、新聞やマスメディアには常に注目し、学習する。

## 【テキスト】

授業内で適宜指示する。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価基準】

出席、授業内での議論や発表、とくに作成したレジュメに基づく発表や最終レポート等によって評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

今年度初めて開講。

## 都市環境論

## 石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この授業では、「サステイナブル・コミュニティ」の計画、すなわち、環境負荷の少ない人間重視の都市づくりをテーマに、新時代の都市に関わる様々な問題を探っていく。地球環境を含めた広義の都市環境について、多面的な見方や手法を理解し、対応に当たってのセンスを磨き形成していくことを目標とする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

人間行動と都市デザイン、都市の景観やアメニティ、安全と防災のまちづくりなど、あくまで人間と環境を中心とした都市づくりについて様々な観点から考えていく。特に海外や国内におけるサステイナブル・コミュニティ(環境負荷の少ない、人間重視のまちづくり)の計画や実践活動のケースを多くとり上げ議論する。このような中から新しい時代における都市社会基盤のあり方や市民サイドの対応のあり方を学ぶ。授業では、スライド等の映像を多用して国内外の事例を紹介する。ほぼ毎回、数分間のミニペーパーを作成提出する。また、身近な実際調査をとまなうホームワークを課することがある。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市環境論の視点と方法、および、学び方
第2回	住宅地開発の系譜	田園都市の展開とクオリティ・オブ・ライフ
第3回	都市居住の将来	サステイナブル・コミュニティとその要素
第4回	都市と地球環境	都市における地球環境負荷の大きさと低減問題
第5回	都市の交通問題	都市の形態と交通分担、モーダルシフト
第6回	都市の成長管理	都市の土地利用コントロールと緑の保全
第7回	都市の水と水辺	都市の形成と水の関わり、大都市の水辺
第8回	都市の水辺再生	世界におけるウォーターフロント再開発の潮流
第9回	都市の記憶装置	都市の歴史遺産、街並み、その保全・活用
第10回	都市の景観論争	都市景観への視点、国内外の論争、手法
第11回	まちづくりデザイン	都市のユニバーサルデザイン、市民参加
第12回	都市の安全と防災	都市災害への対応、市街地整備のあり方
第13回	都市のリノベーション	日本の都市の問題点、その解決への手法
第14回	都市のプランニング論	場所性への配慮、有機的成長への計画の方法
第15回	総集編	社会的共通資本としての都市の将来、市民の関わり

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

## 【テキスト】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。パワーポイントによる映像資料も多用する。

## 【参考書】

多岐に渡るため、第1回および各回講義時にリストを提示し紹介、説明する。

## 【成績評価基準】

定期試験(持ち込み不可)70%、平常点(授業内でのミニペーパーの提出、ホームワークレポートほか)30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

地域の文化を考える

近年アートマネジメントや文化政策への関心が高まる中、政治・経済の枠組みからの地域文化へのアプローチは盛んだが、文化の中身（ソフトウェア）からのアプローチは必ずしも議論の枠組みが明瞭でない。本ゼミでは、舞台芸術を切り口として、日本の文化政策の現状を考える。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

前期は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行なった後、参加者各自に舞台鑑賞レポートの作成と発表を求める。後期は、文化政策の基本書を輪読しつつ、参加者各自の地域の文化ケーススタディを指導する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義・討論 (能・狂言)	能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視覚効果の特徴などを講義する。映像資料について意見交換する。
第 2 回	講義・討論 (歌舞伎 1)	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」の特徴を講義する。映像資料について意見交換する。
第 3 回	講義・討論 (歌舞伎 2)	「世話物」・「所作物」について講義する。映像資料について意見交換する。
第 4 回	講義・討論 (文楽)	文楽と歌舞伎を対照的に考察する。映像資料について意見交換する。
第 5 回	最新舞台情報・舞台鑑賞レポート作成指導	舞台情報の探し方を指導。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説する。
第 6 回	講義・討論 (現代演劇 1)	翻訳劇の承譜について講義する。映像資料について意見交換する。
第 7 回	講義・討論 (現代演劇 2)	日本の劇作家・演出家について講義する。映像資料について意見交換する。
第 8 回	講義・討論 (前衛)	「アングラ」・「舞踏」につて講義する。映像資料について意見交換する。
第 9 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (1)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 10 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (2)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 11 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (3)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 12 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (4)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 13 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (5)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 14 回	後期文献購読のオリエンテーション (1)	『入門文化政策』講読への導入講義。
第 15 回	後期文献購読のオリエンテーション (2)	『シンポジウム・劇場芸術の地平』への導入講義。
第 16 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』 1)	1. 文化政策の観点からの京都観光 2. 国際観光と文化政策 3. 地域文化資源と文化マネジメント (富山の事例)
第 17 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』 2)	1. 市民と自治体による文化芸術創造都市づくり (横浜の事例) 2. 中山間地域の文化政策 3. 人材育成と地域ガバナンス
第 18 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』 3)	1. ライフスタイルのための文化政策 2. 文化政策としてのミュージアム・マネジメント 3. 活動の現場からみた公と民の協働論
第 19 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』 4)	1. 市民文化の創造環境 2. 公共施設の運営と指定管理者制度 3. 文化創造拠点としての宗教空間
第 20 回	地域文化レポート作成指導	調査方法や論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説する。

第 21 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』 1)	1. 日本の現代演劇の問題点 2. 「日本的」であることとその超越
第 22 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』 2)	1. グローバリゼーションと舞台芸術の関わり 2. 20世紀演劇の表現と教育・批評との関わり
第 23 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』 3)	1. 日本の芸術教育 2. 公共文化施設の創造活動 (公共劇場と美術館の現状)
第 24 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』 4)	1. 公共ホールと指定管理者制度 2. 地域と文化創造の未来
第 25 回	地域文化レポート発表・討論 (1)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 26 回	地域文化レポート発表・討論 (2)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 27 回	地域文化レポート発表・討論 (3)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 28 回	地域文化レポート発表・討論 (4)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 29 回	地域文化レポート発表・討論 (5)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 30 回	総括 (ラウンドテーブル)	「地域」と「文化」の関わりについて共に考える。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

文献講読の予習 (発表者はレジュメの準備)  
舞台鑑賞とフィールド調査 (レポート作成)

## 【テキスト】

井口真 (2008) 『入門文化政策 地域の文化を創るということ』 ミネルヴァ書房  
舞台芸術財団演劇人会議 (2005) 『シンポジウム・劇場芸術の地平』 舞台芸術財団演劇人会議

## 【参考書】

日本放送協会 (2010) 『NHK日本の伝統芸能 (2010年度版)』 日本放送出版協会  
SPAC (1999) 『劇場とは何か 新しい文化活動の創出に向けて』 SPAC  
平野井 (2006) 「小鹿野歌舞伎の現在」 『法政大学人間環境論集』 第6巻第2号  
平野井 (2007) 「SPACの地域性と国際性」 『法政大学人間環境論集』 第7巻第2号

## 【成績評価基準】

出席・参加態度、口頭発表、レポートなどから総合的に評価します。口頭発表は、テキスト輪読分とレポート (舞台鑑賞+地域文化のケーススタディ) 分とします。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

**研究会 (通年)**

藤倉 良、宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

テーマは、「環境政策を考える」

幅広い環境問題の中から自分の興味のある課題を選び、研究をすすめることを通じて一つのことを完遂する事の大変さを学ぶ。

仲間で議論し、意見をまとめることでグループワークの進め方を学ぶ。

合わせて資料収集、分析、まとめ方、プレゼンテーションの方法等の訓練をする。

また時事問題や実用英語についての勉強をする。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

各自の課題は環境政策に関するものなら、国内の問題でも地球規模の問題でもよい。担当する学生は、発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、プレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが求められている。

[]

[]

**【授業計画】****前期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1)	研究発表とディスカッション (1)
第 4 回	同上 (2)	同上 (2)
第 5 回	同上 (3)	同上 (3)
第 6 回	同上 (4)	同上 (4)
第 7 回	同上 (5)	同上 (5)
第 8 回	同上 (6)	同上 (6)
第 9 回	同上 (7)	同上 (7)
第 10 回	同上 (8)	同上 (8)
第 11 回	同上 (9)	同上 (9)
第 12 回	同上 (10)	同上 (10)
第 13 回	同上 (11)	同上 (11)
第 14 回	同上 (12)	同上 (12)
第 15 回	前期のまとめ	前期のまとめ

**後期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	後期の発表日程及びテーマの決定
第 2 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (13)	研究発表とディスカッション (13)
第 3 回	同上 (14)	同上 (14)
第 4 回	同上 (15)	同上 (15)
第 5 回	同上 (16)	同上 (16)
第 6 回	同上 (17)	同上 (17)
第 7 回	同上 (18)	同上 (18)
第 8 回	同上 (19)	同上 (19)
第 9 回	同上 (20)	同上 (20)
第 10 回	同上 (21)	同上 (21)
第 11 回	同上 (22)	同上 (22)
第 12 回	同上 (23)	同上 (23)
第 13 回	同上 (24)	同上 (24)
第 14 回	同上 (25)	同上 (25)
第 15 回	1年のまとめ	1年のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

日頃から関連のニュースに関心をもち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

**【テキスト】**

開講時に指定します

**【参考書】**

特になし

**【成績評価基準】**

前期、後期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

## 自然環境論Ⅲ

井上 奉生

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

地球は水の惑星と言われるように、地球表面の約70%は海洋でおおわれ、深さを平均すると約3800mにも達する。また、その体積は約13.72億km<sup>3</sup>である。四方を海洋に囲まれた日本に住む我々にとって海洋は非常に身近な存在である。日本人は世界中で一番海産物を好む国民であると言われている。このように海洋の恩恵を多く受けている我々だが、この膨大な海洋に関する知識はごく一部分である。本講義は以下の授業計画にある各項目を現在、理解および認識されている範囲で平易に解説する。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	海洋研究史	地中海、大西洋、インド洋、太平洋
第2回	海図(1)	海図の歴史、海図の見方、海図の記号、基準水位等
第3回	海図(2)	等深線作図作業
第4回	海岸地形	各種の海岸地形
第5回	海底地形	干潟、大陸棚、大陸斜面、大洋底、海底火山等
第6回	プレートテクトニクス	海嶺、海溝、ホットスポット等
第7回	海水の性質	水温、水質(塩分濃度)等
第8回	海流	世界の海流、黒潮、親潮等
第9回	波	波浪、潮汐、津波等
第10回	海洋の生物	生態系(食物連鎖、栄養段階)、プランクトン、ネクトン、ベントスの説明
第11回	海洋の生産力(水産資源含む)	沿岸域、外洋域、湧昇域、TAC等
第12回	鉱物資源	石油、天然ガス、熱水鉱床、マンガン団塊、メタンハイドレード等
第13回	海洋汚染	汚染物質の種類およびその移動
第14回	海洋開発	日本および諸外国(特にアメリカ)
第15回	総括	第1回～第14回の総括

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

適宜、授業において指示する。

### 【テキスト】

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

### 【参考書】

適宜、参考書を紹介する。

### 【成績評価基準】

期末試験

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

各項目に関係するトピック的ニュースがあった場合には内容を変更することもある。

地図帳を持参すること。

配布したプリントはファイルして忘れず必ず持参すること。

## 国際環境法Ⅱ

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

今日の環境問題の主要なテーマである自動車排出ガス、有害物質などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。地球社会の一員として、国際的に協調した環境保全への取り組みについての意欲を増進する。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

世界的に取り組まれている環境問題の主要なテーマである、環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質対策、地球環境問題について、わが国の取り組みの経緯と内容、同じ問題に対する外国の取り組みの差異などを比較考察する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第2回	国際的な環境保護の歩みⅠ	産業革命期の環境法の萌芽 国立公園制度とナショナルトラスト
第3回	国際的な環境保護の歩みⅡ	原子力事故 国際会議
第4回	環境影響評価制度Ⅰ	わが国の制度とNEPA①
第5回	環境影響評価制度Ⅱ	わが国の制度とNEPA②
第6回	環境影響評価制度Ⅲ	SEA
第7回	自動車排出ガス規制	マスキー規制
第8回	自動車排出ガス規制Ⅱ	ディーゼル規制
第9回	自動車問題に対する新しい動き	地球温暖化対策 混雑税
第10回	有害物質対策Ⅰ	DDT等の農薬 PCBと化審法
第11回	有害物質対策Ⅱ	外国の制度 ダイオキシン
第12回	有害物質対策Ⅲ	PTRR
第13回	土壌汚染対策	スーパーファンド法とわが国の制度
第14回	地球環境問題 新エネルギー	温室効果ガス算定報告 RPS法など
第15回	むすび	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

プリント、参考書を学習する。興味を持った制度を掘り下げて調べてみる。

### 【テキスト】

プリント

### 【参考書】

授業内で紹介

### 【成績評価基準】

定期試験による

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

この講義は、国内環境政策を考える一環として位置づけている。



## 衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育を上げさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および組織化された地域社会の努力が必要である。

本講座では、疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。

また、近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

授業の到達目標およびテーマ、に記載

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健①	三大精神病について
第3回	精神保健②	心身症、摂食障害について
第4回	社会保障	社会保障制度について
第5回	母子保健・学校保健	母子保健・学校保健
第6回	就労女性の母性保護	ワークライフバランスを考えるために
第7回	成人保健・老人保健	成人保健・老人保健の課題と施策
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第10回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第11回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える ビデオ鑑賞
第12回	水病について	ビデオ鑑賞
第13回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第14回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第15回	授業内試験	試験の実施

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後に復習を行う。

### 【テキスト】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

### 【参考書】

開講時に指定する

### 【成績評価基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込み不可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めていることがある。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

基本的に衛生・公衆衛生学Ⅰと継続した内容であるため、衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが履修の条件となる。

## 都市環境論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・7

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では、「サステイナブル・コミュニティ」の計画、すなわち、環境負荷の少ない人間重視の都市づくりをテーマに、新時代の都市に関わる様々な問題を探っていく。地球環境を含めた広義の都市環境について、多面的な見方や手法を理解し、対応に当たってのセンスを磨き形成していくことを目標とする。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

人間行動と都市デザイン、都市の景観やアメニティ、安全と防災のまちづくりなど、あくまで人間と環境を中心とした都市づくりについて様々な観点から考えていく。特に海外や国内におけるサステイナブル・コミュニティ（環境負荷の少ない、人間重視のまちづくり）の計画や実践活動のケースを多くとり上げ議論する。このような中から新しい時代における都市社会基盤のあり方や市民サイドの対応のあり方を学ぶ。授業では、スライド等の映像を多用して国内外の事例を紹介する。ほぼ毎回、数分間のミニペーパーを作成提出する。また、身近な実際調査をとまなうホームワークを課することがある。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市環境論の視点と方法、および、学び方
第2回	住宅地開発の系譜	田園都市の展開とクオリティ・オブ・ライフ
第3回	都市居住の将来	サステイナブル・コミュニティとその要素
第4回	都市と地球環境	都市における地球環境負荷の大きさと低減問題
第5回	都市の交通問題	都市の形態と交通分担、モーダルシフト
第6回	都市の成長管理	都市の土地利用コントロールと緑の保全
第7回	都市の水と水辺	都市の形成と水の関わり、大都市の水辺
第8回	都市の水辺再生	世界におけるウォーターフロント再開発の潮流
第9回	都市の記憶装置	都市の歴史遺産、街並み、その保全・活用
第10回	都市の景観論争	都市景観への視点、国内外の論争、手法
第11回	まちづくりデザイン	都市のユニバーサルデザイン、市民参加
第12回	都市の安全と防災	都市災害への対応、市街地整備のあり方
第13回	都市のリノベーション	日本の都市の問題点、その解決への手法
第14回	都市のプランニング論	場所性への配慮、有機的成長への計画的な方法
第15回	総集編	社会的共通資本としての都市の将来、市民の関わり

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

### 【テキスト】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。パワーポイントによる映像資料も多用する。

### 【参考書】

多岐に渡るため、第1回および各回講義時にリストを提示し紹介、説明する。

### 【成績評価基準】

定期試験（持ち込み不可）70%、平常点（授業内でのミニペーパーの提出、ホームワークレポートほか）30%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 現代社会論Ⅱ

藤本 隆史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時間：金・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

メディアで流される情報を鵜呑みにしないで、自分なりに整理して考えることを心掛けてほしい。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

いわゆる社会現象や社会問題といわれる事柄の取り上げられ方は、その事の一面が強調され、視点が偏ってしまうことがよくある。この講義では、様々な生活環境で生じる事柄について、そのような部分的な切り取り方ではなく、より広い視野から捉えられるような情報の受け止め方を検討する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要の紹介など	講義内容の概要や現代社会論Ⅰとの違いなど説明する
第2回	産業社会について	トフラーの『第三の波』などから社会変動と産業構造の変化の関係について考える
第3回	資本主義社会について(1)	ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から資本主義社会について考える
第4回	資本主義社会について(2)	日本における資本主義や、日本の経営について考える
第5回	社会の中の企業について	企業の社会的責任など、社会における企業の存在について考える
第6回	組織と社会について	官僚制組織を中心に組織構造について考える
第7回	職場での働き方について	職場での働き方と労働者の健康問題について考える
第8回	ストレス社会について	ストレス社会の背景やストレス発生の仕組みなどについて考える
第9回	消費社会について	社会の変化と消費行動について考える
第10回	情報化社会について	インターネットなど電子メディアの発達と社会との関係について考える
第11回	マス・メディアと社会について	マス・メディアの社会への影響について考える
第12回	少子化社会について	少子化進行の背景やワーク・ライフ・バランスなどについて考える
第13回	高齢化社会について	高齢化が進行する社会の現状とその影響について考える
第14回	医療と社会について	医療問題について、医療制度や病院組織の在り方だけでなく、自治体の姿勢や住民の意識の関係も含めて考える
第15回	まとめ	現代の日本社会の位置づけについて様々な視点から考える

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞やテレビなどのメディアで取り上げられる様々な事柄に触れる。その際に、できるだけ複数の情報源を活用するようにすること。

### 【テキスト】

講義時に適宜紹介する。

### 【参考書】

講義時に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

隔週および学期末にレポート作成する。毎授業時にリアクション・ペーパーの提出を要求する（出欠の確認も兼ねる）。代返は認めない。体育会の活動などについて、出席は考慮するが、レポートは提出日と内容により一律に評価する（出席3割+レポート7割）。授業内で発表を促すこともある。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 労働環境論Ⅱ

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時間：火・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、仕事や雇用に関するより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的なテーマについて考え、仕事や雇用に関する理解を深め、円滑な仕事遂行に役立つ知識の習得をめざす。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

就職、昇進、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1テーマ1～3回で授業を進める。

[]

[]

### 【授業計画】

後期 回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて広く考える。
第2回	大学生の就職	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのか考える。
第3回	日本的雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本的雇用慣行の特徴を概観する。
第4回	日本的雇用慣行 2	前週に続いて、日本的雇用慣行をどう理解すればよいのか、近年の変化もふまえて学習する。
第5回	労働環境と安全衛生 1	仕事場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第6回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスについて考える。
第7回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に労働時間について考える。
第8回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制につち学ぶ。
第9回	労働環境と労働時間 3 (長時間労働をめぐる諸問題)	メンタルヘルスや過労死等、労働時間がもたらす影響について考える。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は雇用に関する女性の地位の低さについて国際機関から指摘されている。その現状について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別（年齢差別禁止を中心に）	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	企業の社会的責任（CSR）	企業の社会的責任（CSR）とは何か、とくに労働の領域におけるCSRについて考える。
第14回	派遣等非正規雇用をめぐる諸問題	近年社会問題化した非正規雇用の問題を考えるなかで、若者の雇用問題について学ぶ。
第15回	試験	14回の学習の到達度をみるために試験を行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回、テキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前に学習と事後の復習を必須とする。

### 【テキスト】

学期はじめに関係するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本をテキストとして使うことはしない。

### 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方』有斐閣ブックス、2004年、および神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会、2003年。

### 【成績評価基準】

論述式の試験により、それぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を基準に評価する。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をもう少し掘り下げて勉強します。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性差別など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱います。

## スポーツビジネス論Ⅱ

千田 利史

配当年次／単位：年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

スポーツビジネス上の課題を発見し、その解決策を考案する。チームでのプレゼンテーションを行い、チームごとに競う。

【授業の到達目標】

【

【授業の概要と方法】

スポーツビジネスの応用編として、グループごとに選択した課題をもとに、ソリューションを発見し、発表する実践的な授業を行う。

【

【

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	課題の設定	①スポーツチームの経営 ②メディアとのよりよい関係づくり ③スポンサーシップ
第 2 回	課題の解説①	チームの運営と役割分担をどう行うか
第 3 回	課題の解説②	メディアリレーション
第 4 回	課題の解説③	スポンサーシップ
第 5 回	グループ分け	編成とリーダーの決定
第 6 回	プレゼンテーションの仕方	発表形式
第 7 回	グループ発表①	質疑 コメント
第 8 回	グループ発表②	質疑 コメント
第 9 回	中間総括	プレゼンテーションのテクニックと必要なポイント
第 10 回	グループ発表③	質疑 コメント
第 11 回	グループ発表④	質疑 コメント
第 12 回	優秀プレゼンの発表	選考基準 コメント
第 13 回	スポーツビジネスとは何か	理論の整理
第 14 回	職業としてのスポーツの可能性	スポーツに関わる職業
第 15 回	グループ発表への総評とアドバイス	スポーツビジネスの発展に、具体的なアイデアをどう活用していくべきか (まとめの議論)

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業時間以外に、グループでの簡単な調整準備会議が必要

【テキスト】

各回の講義で配布

【参考書】

特になし

【成績評価基準】

発表内容

出席

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生諸君の積極的な参加と発表を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

各自が PPT で発表資料作成

## 社会開発論

吉田 秀美

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

#### 授業の到達目標：

発展途上国の社会開発や貧困削減への取り組みについて、基本的な考え方を理解する。

関連する資料や指標に触れ、慣れる。

#### テーマ：

途上国の環境問題を考える上で、貧困問題は避けて通れない。本講義では、日本や先進国とは異なる途上国の環境問題の背景を理解するための切り口として、国際開発のキーワードとなっている社会開発・貧困削減を概説する。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

#### 概要：

最初の教回で途上国の貧困問題について解説する。その後、各回で生計向上や保健などのテーマを取り上げ、各分野の課題や具体的な取り組み事例を紹介する。

#### 方法：

講義中心。必要に応じて、プリントや視聴覚教材を用いる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会開発論が対象にする範囲や課題について紹介する
第2回	途上国の人々の暮らし	生計アプローチ
第3回	貧困問題 (1)	国際開発で使われている貧困の定義や指標、貧困削減に向けた取り組み
第4回	貧困問題 (2)	同上
第5回	豊かな国と貧しい国	日本が発展した歴史的背景
第6回	分野別課題：生計向上 (1)	インクルーシブ・ビジネスの事例 (ココテック社)
第7回	分野別課題：生計向上 (2)	マイクロファイナンスの事例 (グラミン銀行)
第8回	分野別課題：生計向上 (3)	マイクロファイナンスの事例 (ICT と近年の進展)
第9回	分野別課題：生計向上 (4)	日本企業の事例 (ゲストスピーカー)
第10回	分野別課題：保健衛生 (1)PHC	課題と取り組み：NGO や国際機関の事例 (BRAC、UNICEF)
第11回	分野別課題：保健衛生 (2)マラリア、エイズ	課題と取り組み：各アクターの事例 (住友化学、サノフィアヴェンティス、WHO、MSF)
第12回	分野別課題：保健衛生 (3)ジェンダー問題	複合的な要因 (文化・歴史) と解決への取り組み
第13回	分野別課題：教育 (1)	非営利アクターの役割と課題
第14回	分野別課題：教育 (2)	文化と開発
第15回	まとめ	途上国の環境問題と貧困問題の接点

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業に関連する文献を幅広く紹介するので、是非読んでみてください。

### 【テキスト】

斎藤文彦『国際開発論：ミレニアム開発目標による貧困削減』

佐藤寛『テキスト社会開発』

### 【参考書】

国連開発計画編、吉田秀美訳『世界とつながるビジネス』

このほか、授業中に適宜紹介。

### 【成績評価基準】

定期試験：80%

出席：20%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【学生が準備すべき機器他】

内容に応じて、ビデオ・写真等を活用する。

## 開発教育

福田 紀子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

「開発教育」や隣接する地球的課題を扱う教育がなぜ必要とされ、現在のさまざまな実践につながっているのかを理解する。自分とコミュニティ、世界の課題のつながりを意識し、グローバルな合意や認識を理解し、解決のための変化をつくる主体的な学習機会の実践について考えます。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

授業は講義だけではなく参加型学習の手法を可能な限り取り入れながら行います。一人で、ペアで、グループでの作業、ディスカッションへの参加自体が学習の素材です。コンテンツと活動の中から生まれるそれぞれの「気づき」とその発展を期待します。

[]

[]

### 【授業計画】

前期	回	テーマ	内容
	第1回	わたしと世界をつなぐ学習の場	自分の認識や経験をふりかえり、考える参加型の学びかたを知り、「開発教育」なぜ参加型学習を志向するのかを考える。
	第2回	「開発」と「開発教育」1 貧困を見る目線	開発教育の基本概念である人権を理解し、貧困を見る目線の変化を世界的なキャンペーンから知る。
	第3回	「開発」と「開発教育」2 ジェンダーと貧困	女性と貧困、その解決について考える。問題解決としての政策アプローチの変遷から「エンパワーメント」とは何かを捉える。
	第4回	「開発」と「開発教育」3 格差と公正さ	世界に様々な「違い」が存在する。多様性を認め、公正な社会を実現するための手だてを考える。
	第5回	公正な社会のめざすもの、阻むもの1～積み上げられた国際合意	公正さを目指す中でも、様々な立場や価値観がある。「人権」「持続可能な発展／開発」を実現するためのいくつかの国際合意をとりあげる。
	第6回	公正な社会のめざすもの、阻むもの2～ジェンダー課題	自分たち自身の意識や経験、現状の中にある課題としてジェンダーをとりあげ、解決の課題を考える。
	第7回	公正な社会のめざすもの、阻むもの3～マイノリティとは何か	さまざまなパワーのあり方を知り、エンパワーメントについて考える。
	第8回	参加と開発～参加型調査	PRA / PLA を例に開発課題と人々の参加について考える。参加型の手法の概要と意義を知る。
	第9回	開発のリスクと学習1 学習の機会	人々の不安や対立は解決にむかうプロセスの契機である。その過程で起こる表象と、よりよい状況と関係構築のための「学びの場」を考える。
	第10回	開発のリスクと学習2 対立から学ぶ	課題のあるところに必ず対立はある。対立を前向きな機会とし、非暴力・参加型で捉える Conflict Resolution の考え方、枠組を知る。
	第11回	難民問題と国際協力	難民の置かれる状況を理解し、「人間の安全保障」の視点から必要なサポートについて考える。
	第12回	難民問題と市民社会	日本の難民支援の背景と課題について知り、これからのあり方考える。
	第13回	変化をつくる学習機会～アドボカシーについて	何気ない活動や大きな社会的現象まで私たちの社会の中にある「よりよい変化を求め社会に提示する」活動を知る。
	第14回	変化をつくる学習機会～推進の枠組	人々が望む社会の方向をどのように描き、現実にしていくのか。担い手として考えておくべき枠組を知る。
	第15回	レポート講評	授業の中で実践し、評価の視点として提示したものが、レポートの中に活かされているかを講評する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

自分の国内外の社会的な関心（あるいは無関心）がどこにあるのか、なぜなのかを意識しておいてください。大学の授業ばかりでなく、学校外の学習機会での関心のあるテーマや活動への参加、国際協力 NGO や地域課題に取り組む市民活動への参加・ボランティアなども学びの機会であり素材となります。

### 【テキスト】

特に指定しません。必要な資料は授業で配布します。

### 【参考書】

『参加型で伝える 12 のもののみかた、考え方』  
『テーマワーク』『対立から学ぼう』『人権教育ファシリテーターハンドブック』  
(以上、国際理解教育センター)  
『ジェンダー・開発・NGO』『内発的発展と教育』(以上、新評論)  
『入門 多文化教育～新しい時代の学校づくり』『参加型ワークショップ入門』  
(以上、明石書店) 他  
授業内で紹介します。

### 【成績評価基準】

出席と各回の個人ふりかえりシート・ワークシート、グループ作業の成果物。レポート（2回予定）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

時間の不足、特にここでしかできないディスカッションの時間が短い（だから不消化感が残る）指摘がありました。それは参加型学習の多くのコメントに見る「楽しさ」の裏返しでもあると思います。開発教育が蓄積した「概念」を出来るだけ「参加型学習の実践」のなかで共有出来る様、進めていきたいと思っています。

### 【その他】

開発教育は課題に「関わる」人々から生まれ、育ってきました。社会問題を読み解く力は個人にも社会にも課題解決に応用可能なものです。様々なテーマと手法による思考とディスカッションは「楽しく」「共に」学ぶ基本です。自ら気づき他者から学び行動する姿勢とスキルを磨きたい人の参加を求めます。

## 行政法の基礎

後藤 彌彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

国民生活が大きく行政に依存するようになった現代国家において、国民と行政との間の法律関係は行政法と呼ばれる。行政法では、私人間の利害調整に関する民事法とは異なった基礎原理の理解が必要となる。行政法を理解することにより現代国家に生きるものとして今後行政と関わる際の基本的な仕組みが修得できる。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

行政主体とその組織構造、法律による行政の原理と適正手続の確保等の基礎原理、行政の行為形式、行政との紛争の裁断など行政法の各分野を概観する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	現代行政の特徴 行政法とは何か 行政の担い手
第2回	行政の組織 I	①中央政府 行政の担い手
第3回	行政の組織 II	②地方自治体
第4回	行政作用の一般理論 I	法律による行政の原理
第5回	行政作用の一般理論 II	適正手続きによる行政の透明性の確保
第6回	行政作用の一般理論 III	情報公開 個人情報保護
第7回	行政の行為形式 I	行政処分（行政行為）
第8回	行政の行為形式 II	行政の裁量
第9回	行政の行為形式 III	行政指導 要綱行政
第10回	行政の行為形式 IV	行政立法 法規命令と行政規則
第11回	行政の行為形式 V	行政計画 行政契約
第12回	行政活動の実現	行政の義務履行の確保
第13回	行政救済法 1	行政不服審査法 行政事件訴訟法
第14回	行政救済法 2	国家賠償法 損失補償
第15回	まとめ	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキストを通読しておく。授業内容の復習に力を入れ、テキストに判例が紹介されている場合は判例を調べる等発展的な学習をする。

### 【テキスト】

開講時指定 行政法の改正が激しいため、最新のものを教科書とする。教科書によっては、授業計画の順序を変更することがある。

### 【参考書】

特に指定しない。

### 【成績評価基準】

定期試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

環境政策を実現する手段として環境法が重要ですが、今後環境法などの勉強を進める上でも、行政法の基礎知識が不可欠である。是非行政法に取り組んでほしい。

## 日本環境史論Ⅱ

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

テーマ：江戸の都市環境

環境問題の解決には、過去の分析が大変重要です。そのために必要なさまざまな学習スキルの習得や論理的思考力を養うことを目標とします。後期の授業では、大都市江戸の環境問題を歴史的に考えながらその取り組みを検証し、江戸の都市環境の基礎的な知識を理解していきます。同時に、歴史史料の読解力や分析力を養います。この科目は、情報源の把握や情報の価値判断の知識・技術を修得することにより、情報収集・分析力を育成します。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行います。江戸時代になって将軍の城下町となったことにより発展していく江戸の町を、「環境」という観点から見ていきます。その中心は、江戸の都市化と衣食住環境、物の再利用・再利用のあり方、塵芥処理のあり方、農村から都市に集中する人口問題、社会の変化による住民自治の再構築、これらと密接にかかわる都市行政のあり方などである。そこで、江戸の町の成立から解きほぐし、都市をめぐるさまざまな環境問題を考えていきます。

【】

【】

### 【授業計画】

後期	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー江戸の都市環境	江戸の都市環境を学習する前提として、江戸の範囲を理解する
第2回	将軍の城下町と江戸の地域構造(1)	江戸の町の都市化を、城下町の建設、人口増大などから学習する
第3回	将軍の城下町と江戸の地域構造(2)	江戸の町の都市計画を、環境思想との関連で学習する
第4回	行政と地域社会(1)	行政の組織と役割、そして地域コミュニティのありようを学習する
第5回	行政と地域社会(2)	同上
第6回	住民生活と衣食住環境(1)	衣食住環境を法令による規制という側面から学習する
第7回	住民生活と衣食住環境(2)	住環境を史料の読解を通じて、身分という観点から学習する
第8回	物直し産業の発達	物直し産業の業態とその発達理由およびその歴史評価を学習する
第9回	塵芥処理と問題点(1)	塵芥処理のあり方とその対応を、身分という観点から学習する
第10回	塵芥処理と問題点(2)	町人地の塵芥処理システムを学習し、現在との連続性を理解する
第11回	火災と防災対策(1)	火災都市としての江戸における幕府の火消し組織を学習する
第12回	火災と防災対策(2)	江戸の町における防災対策を、史料の読解を通じて学習する
第13回	水問題と上・下水道	上・下水の整備状況とその維持組織を学習する
第14回	信仰・娯楽と癒やし空間(1)	江戸の町での生活と信仰・娯楽との関係性を学習する
第15回	信仰・娯楽と癒やし空間(2)	江戸の癒やし空間としての名所のありようを学習する

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

- ①テキストの環境史料を事前に読解および現代語訳すること。
- ②テキストの環境史料を事前に読み、論点を整理すること。
- ③当該テーマを論じた文献を調べて学習すること。

### 【テキスト】

『日本近世環境史料演習・改訂版』(根崎光男編、同成社、2011年)

### 【参考書】

『環境』都市の真実(根崎光男著、講談社+α新書、2008年)

### 【成績評価基準】

期末試験(100%)

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 統計概論

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

統計学は、環境問題はもちろんのこと、様々な社会的現象を定量的に分析し論理的に最適な判断を下したりするために必要な基礎知識である。本科目では、コンピュータ(EXCEL)を利用したデータ処理法を体験しながら、統計学の基礎を学習する。具体的な問題、実例などを提示しながら分かりやすく解説していく。受講者の数学的予備知識はあまり想定していない。本科目では、EXCELについての基礎的利用法と統計処理への応用技法を修得することも目標としている。そのため実際の授業では、情報処理教室を利用して実習形式で進めていく。EXCELについてあまり経験がない方であっても受講可能である。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

この授業においては毎回情報処理教室を利用して、EXCELによる計算法、各種統計関数などの利用法、グラフ機能利用法などを実習する。統計学の入門的内容について、EXCELによる処理を通して理解していく。計算過程とその結果の表示法について、具体例を提示しながら進めていく。

【】

【】

### 【授業計画】

後期	回	テーマ	内容
	第1回	講義ガイダンス(受講者の決定について)	授業内容、授業予定などの説明と受講者の決定を行う
	第2回	EXCELの利用法(その1)	表計算の方法、データ表示の方法などについて理解する。特にセルの相対参照、絶対参照、複合参照などについて学習する。
	第3回	EXCELの利用法(その2)	統計関数、ならびにその他の関数の利用法について理解する。
	第4回	代表値について	簡単な例題をもとに、母集団と標本、平均値、モード、メジアンなどの統計的諸量について理解する。
	第5回	散布度について	偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数などの意味を理解する。
	第6回	データ位置について	分布の概念と基準値、偏差値などのデータ位置に関する量を理解する。
	第7回	演習	第6回までに学習した内容について、具体的なテーマをもとに演習する。
	第8回	相関分析と回帰分析について	相関係数、回帰直線を求めそれらの応用法を考える。また、最小自乗法(残差と残差平方和、関数当てはめなど)の概念を理解する。
	第9回	統計的推定(その1)	区間推定と信頼区間について理解し、さらに様々な分布(正規分布、t分布など)について学習する。
	第10回	統計的推定(その2)	さまざまな統計的推定の問題について演習する。
	第11回	統計的検定(その1)	危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択などについて学習する。
	第12回	統計的検定(その2)	平均値の差の検定、カイ二乗検定、サンプルサイズの評価などについて理解する。
	第13回	演習(その1)	具体的な問題について演習を行う。
	第14回	演習(その2)	具体的な問題について演習を行う。
	第15回	まとめ	これまでの復習とレポート問題の説明を行う。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

授業の後に復習をすること。授業で使用したEXCELファイルを保存し整理しておくこと。

### 【テキスト】

特にテキストは使用しない。毎回プリントを配布する予定である。

### 【参考書】

開講時に紹介する。

### 【成績評価基準】

提出されたレポートの内容と授業への出席状況を勘案して決定する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

パソコンを利用する授業なので、受講者の状況を見ながらゆっくりと分かりやすく進めていく予定です。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報処理教室に設置されているパソコンを使用する。とくに EXCEL を中心に利用する。

**【その他】**

情報処理教室を利用しますので受講者数に制限を設けます。受講を希望する方は、必ず第 1 回の授業に出席してください。受講希望者が多数の場合、その授業に出席した方の中から選抜し受講を認めることとします。

**基礎演習**

北川 徹哉

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2 年次からの勉強に備えて、学部の 4 コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

授業は、学部専任教員が担当する 20 名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【】

【】

**【授業計画】**

**後期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第 2 回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第 3 回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第 4 回	レポート・論文・発表の心得（2）	第 1 回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第 5 回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第 6 回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により 1 班 2～4 人程度の班に分類。
第 7 回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第 8 回	グループ発表・討論 1	1 回 2 班。1 班の発表 10 分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第 9 回	グループ発表・討論 2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第 10 回	グループ発表・討論 3	同上
第 11 回	グループ発表・討論 4	同上
第 12 回	グループ発表・討論 5	同上
第 13 回	グループ発表・討論 6	同上
第 14 回	小フィールドスタディ（街歩き）	90 分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第 15 回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

**【テキスト】**

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価基準】**

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

**【その他】**

5～6 月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 統計概論（スキルアップ）

### 渡邊 誠

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

統計学は、環境問題はもちろんのこと、様々な社会的現象を定量的に分析し論理的に最適な判断を下したりするために必要な基礎知識である。本科目では、コンピュータ（EXCEL）を利用したデータ処理法を体験しながら、統計学の基礎を学習する。具体的な問題、実例などを提示しながら分かりやすく解説していく。受講者の数学的予備知識はあまり想定していない。本科目では、EXCELについての基礎的利用法と統計処理への応用技法を修得することも目標としている。そのため実際の授業では、情報処理教室を利用して実習形式で進めていく。EXCELについてあまり経験がない方であっても受講可能である。

#### 【授業の到達目標】

【

#### 【授業の概要と方法】

この授業においては毎回情報処理教室を利用して、EXCELによる計算法、各種統計関数などの利用法、グラフ機能利用法などを実習する。統計学の入門的内容について、EXCELによる処理を通して理解していく。計算過程とその結果の表示法について、具体例を提示しながら進めていく。

【

【

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス（受講者の決定について）	授業内容、授業予定などの説明と受講者の決定を行う
第2回	EXCELの利用法（その1）	表計算の方法、データ表示の方法などについて理解する。特にセルの相対参照、絶対参照、複合参照などについて学習する。
第3回	EXCELの利用法（その2）	統計関数、ならびにその他の関数の利用法について理解する。
第4回	代表値について	簡単な例題をもとに、母集団と標本、平均値、モード、メディアンなどの統計的諸量について理解する。
第5回	散布度について	偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数などの意味を理解する。
第6回	データ位置について	分布の概念と基準値、偏差値などのデータ位置に関する量を理解する。
第7回	演習	第6回までに学習した内容について、具体的なテーマをもとに演習する。
第8回	相関分析と回帰分析について	相関係数、回帰直線を求めそれらの応用法を考える。また、最小自乗法（残差と残差平方和、関数当てはめなど）の概念を理解する。
第9回	統計的推定（その1）	区間推定と信頼区間について理解し、さらに様々な分布（正規分布、t分布など）について学習する。
第10回	統計的推定（その2）	さまざまな統計的推定の問題について演習する。

第11回	統計的検定（その1）	危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択などについて学習する。
第12回	統計的検定（その2）	平均値の差の検定、カイ二乗検定、サンプルサイズの評価などについて理解する。
第13回	演習（その1）	具体的な問題について演習を行う。
第14回	演習（その2）	具体的な問題について演習を行う。
第15回	まとめ	これまでの復習とレポート問題の説明を行う。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の後に復習をすること。授業で使用したEXCELファイルを保存し整理しておくこと。

#### 【テキスト】

特にテキストは使用しない。毎回プリントを配布する予定である。

#### 【参考書】

開講時に紹介する。

#### 【成績評価基準】

提出されたレポートの内容と授業への出席状況を勘案して決定する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

パソコンを利用する授業なので、受講者の状況を見ながらゆっくりと分かりやすく進めていく予定です。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室に設置されているパソコンを使用する。とくにEXCELを中心に利用する。

#### 【その他】

情報処理教室を利用しますので受講者数に制限を設けます。受講を希望する方は、必ず第1回の授業に出席してください。受講希望者が多数の場合、その授業に出席した方の中から選抜し受講を認めることとします。



## 環境経営実践論Ⅱ

向井 常雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

前期「環境経営実践論Ⅰ」に引続いて、その応用編として環境経営におけるリスクマネジメントの基礎と事例研究で学習する。

前期Ⅰを受講できなかった学生にも後期Ⅱが受講できるように配慮してある。

前期Ⅰの単位取得者は、後期Ⅱコースの受講を推奨する。

毎回の授業導入部では、毎日変化する政治、経済社会問題と環境経営との係わりを考え、受講学生の「考える力量の向上」をはかり、本授業の目的とする「21世紀の国際循環型経済社会を支えて行くフレッシュな人材育成」を目指す。

受講者は新聞を定期的に読み、経済社会情勢を可能な限り確実に理解しておくことを推奨する。

### 【授業の到達目標】

①

### 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載

①

①

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境経営のコンセプト	環境経営のコンセプト及び国際的環境経営の基本ツールである規格ISO14000シリーズの意図と基本概念(前期Ⅰレビューと新たな課題の補完)
第2回	環境経営の必要性	ゼロ成長時代に求められる健全な企業ビジョン・理念に基づく環境経営の必要性(前期Ⅰレビューと新たな課題の補完)
第3回	環境経営リスクマネジメント概論-1	リスクマネジメントの基本と経営上の重要性。経営にマフスイセンティブをもたらす有害リスクの考え方。
第4回	環境経営リスクマネジメント概論-2	経営にプラスのインセンティブをもたらす有益な事業機会リスクの考え方。
第5回	演習-1 学業活動上のリスクの考え方と対応	演習-1“学業活動におけるリスク要素(環境側面/活動上の土諸要素・側面・課題)とその環境影響(インパクト)をリスク評価。
第6回	演習-1の続き	演習-1の続き
第7回	演習-1 発表と討議	演習-1の各グループ発表と討議
第8回	リスクマネジメントにおける分析・評価	演習結果を振り返り、リスクマネジメントにおける実践的な分析・評価のあり方を考える。
第9回	演習-2 リスクマネジメント事例体験演習	演習-2“実際の経済社会活動事例から経営に土インセンティブをもたらすリスク評価し、特定した重要課題の継続改善的な対策を実践的に考える”。
第10回	演習-2の続き	演習-2の続き
第11回	演習-2の結果の発表と討議	演習-2の結果の各グループ発表と討議
第12回	リスクマネジメントの実践的な有効性	リスクマネジメントの実践的な有効性を考える。
第13回	サプライチェーンマネジメントの考え方と重要性	経営におけるサプライチェーンマネジメントの位置付け、及び環境経営適合設計の重要性を考える。
第14回	コンピタンシーマネジメント(実績主義経営)	これからの経営に必須となるのコンピタンシーマネジメント(実績・力量主義経営)の基本を考える。
第15回	実業界で求められる環境基礎知識	環境技術、環境関連法規制の基本を習得する。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

新聞の経済社会記事を読む。

### 【テキスト】

テキストは、各回講義時に資料プリントを配布する。環境経営を理解しやすく講義するため、PPTで図表を多用する。

### 【参考書】

参考文献として、「実践環境経営論—戦略的アプローチ、堀内・向井、東洋経済新報社」を参照するとよい。

### 【成績評価基準】

最終授業終了時に事前提示の環境経営課題に関するレポートを提出する。演習-1,2の結果を各グループ毎に提出し、授業中の観察評価も含めてレポート採点結果に補完させる。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

実践的な演習を通じて環境経営の理解度を高める。

### 【学生が準備すべき機器他】

PC, Power point projector

### 【その他】

経済社会活動における真の環境問題とは何か、経営上でエコバランス、エコエフィシアンシーを重視した持続的改善を伴った解決策はどのように推進していったらよいか等のあり方を、前期Ⅰをより応用的に考える。

新聞を読む習慣をもってもらい、それを活かして講義・演習・討議を通じて考える力を高めていく。

## 人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

気流と社会および環境との関係がテーマであり、到達目標は以下の通りである。

1. 気流による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市独特の気象と気流との関係を説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

前期に引き続き、気流と人間、社会、都市との関係について多角的に学ぶ。後期においては、気流と人間生活との関わりに重点をおいて講義する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	気流と人間環境	人の暮らしと気流
第2回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第3回	ストリートキャニオン	沿道大気汚染、大気汚染の環境基準
第4回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質
第5回	クリマアトラスと風の道	気候情報に基づく都市の計画、風の道をつくるには
第6回	飛砂、風紋	地表層土砂の挙動、飛砂対策
第7回	黄砂の飛来	黄砂の発生源、黄砂の飛来性状
第8回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候
第9回	住居環境と気流（1）	室内の汚染物質、換気
第10回	住居環境と気流（2）	通風、PMV、DI
第11回	火災と気流	延焼と市街地火災、火災旋風、火災の熱と気流
第12回	鉄道・自動車と気流	車両の転覆限界、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制
第13回	スポーツと気流	気流を利用するスポーツ、スポーツにおける気流対策
第14回	農作物と気流	受粉と気流、光合成と気流、農作物の倒伏、塩害
第15回	損害保険と気流	自然と損害保険、天候デリバティブとは

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておく。第1～3回：大気汚染物質の種類、第3～5回：都市における気候現象、第6～8回：微粒子の種類、第9～10回：屋内の空気管理、第11回：地震の2次災害の種類、第12回：列車や自動車の構造、第13回：流線型とはどのような形か、第14回：農作物の受粉について、第15回：損害保険の種類

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート（100%）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

気流と人の生活とに関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。

## 行政法の基礎

後藤 彌彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

国民生活が大きく行政に依存するようになった現代国家において、国民と行政との間の法律関係は行政法と呼ばれる。行政法では、私人間の利害調整に関する民事法とは異なった基礎原理の理解が必要となる。行政法を理解することにより現代国家に生きるものとして今後行政と関わる際の基本的な仕組みが修得できる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

行政主体とその組織構造、法律による行政の原理と適正手続の確保等の基礎原理、行政の行為形式、行政との紛争の裁断など行政法の各分野を概観する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	現代行政の特徴 行政法とは何か 行政の担い手
第2回	行政の組織Ⅰ	①中央政府 行政の担い手
第3回	行政の組織Ⅱ	②地方自治体
第4回	行政作用の一般理論Ⅰ	法律による行政の原理
第5回	行政作用の一般理論Ⅱ	適正手続による行政の透明性の確保
第6回	行政作用の一般理論Ⅲ	情報公開 個人情報保護
第7回	行政の行為形式Ⅰ	行政処分（行政行為）
第8回	行政の行為形式Ⅱ	行政の裁量
第9回	行政の行為形式Ⅲ	行政指導 要綱行政
第10回	行政の行為形式Ⅳ	行政立法 法規命令と行政規則
第11回	行政の行為形式Ⅴ	行政計画 行政契約
第12回	行政活動の実現	行政の義務履行の確保
第13回	行政救済法Ⅰ	行政不服審査法 行政事件訴訟法
第14回	行政救済法Ⅱ	国家賠償法 損失補償
第15回	まとめ	授業の総括

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキストを通読しておく。授業内容の復習に力を入れ、テキストに判例が紹介されている場合は判例を調べる等発展的な学習をする。

## 【テキスト】

開講時指定 行政法の改正が激しいため、最新のものを教科書とする。教科書によっては、授業計画の順序を変更することがある。

## 【参考書】

特に指定しない。

## 【成績評価基準】

定期試験による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

環境政策を実現する手段として環境法が重要ですが、今後環境法などの勉強を進める上でも、行政法の基礎知識が不可欠である。是非行政法に取り組んでほしい。

## 労働環境論Ⅱ

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、仕事や雇用に関するより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的なテーマについて考え、仕事や雇用に関する理解を深め、円滑な仕事遂行に役立つ知識の習得をめざす。

### 【授業の到達目標】

①

### 【授業の概要と方法】

就職、昇進、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1テーマ1～3回で授業を進める。

②

③

### 【授業計画】

#### 後期

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて広く考える。
第2回	大学生の就職	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのか考える。
第3回	日本的雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本的雇用慣行の特徴を概観する。
第4回	日本的雇用慣行 2	前週に続いて、日本的雇用慣行をどう理解すればよいのか、近年の変化もふまえて学習する。
第5回	労働環境と安全衛生 1	職場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第6回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスについて考える。
第7回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に労働時間について考える。
第8回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制につき学ぶ。
第9回	労働環境と労働時間 3 (長時間労働をめぐる諸問題)	メンタルヘルスや過労死等、労働時間をもたらす影響について考える。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は雇用に関する女性の地位の低さについて国際機関から指摘されている。その現状について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別(年齢差別禁止を中心に)	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	企業の社会的責任(CSR)	企業の社会的責任(CSR)とは何か、とくに労働の領域におけるCSRについて考える。
第14回	派遣等非正規雇用をめぐる諸問題	近年社会問題化した非正規雇用の問題を考えるなかで、若者の雇用問題について学ぶ。
第15回	試験	14回の学習の到達度をみるために試験を行う。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

毎回、テキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前に学習と事後の復習を必須とする。

### 【テキスト】

学期はじめに関係するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本をテキストとして使うことはしない。

### 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方』有斐閣ブックス、2004年、および神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会、2003年。

### 【成績評価基準】

論述式の試験により、それぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を基準に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をもう少し掘り下げて勉強します。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性差別など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱います。

## 日本環境史論Ⅱ

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：江戸の都市環境

環境問題の解決には、過去の分析が大変重要です。そのために必要なさまざまな学習スキルの習得や論理的思考力を養うことを目標とします。後期の授業では、大都市江戸の環境問題を歴史的に考えながらその取り組みを検証し、江戸の都市環境の基礎的な知識を理解していきます。同時に、歴史史料の読解力や分析力を養います。この科目は、情報源の把握や情報の価値判断の知識・技術を修得することにより、情報収集・分析力を育成します。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行います。  
江戸時代になって将軍の城下町となったことにより発展していく江戸の町を、「環境」という観点から見ていきます。その中心は、江戸の都市化と衣食住環境、物の再利用・再利用のあり方、塵芥処理のあり方、農村から都市に集中する人口問題、社会の変化による住民自治の再構築、これらと密接にかかわる都市行政のあり方などである。そこで、江戸の町の成立から解きほぐし、都市をめぐるさまざまな環境問題を考えていきます。

[]

[]

## 【授業計画】

後期	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー江戸の都市環境	江戸の都市環境を学習する前提として、江戸の範囲を理解する
第2回	将軍の城下町と江戸の地域構造(1)	江戸の町の都市化を、城下町の建設、人口増大などから学習する
第3回	将軍の城下町と江戸の地域構造(2)	江戸の町の都市計画を、環境思想との関連で学習する
第4回	行政と地域社会(1)	行政の組織と役割、そして地域コミュニティのあり方を学習する
第5回	行政と地域社会(2)	同上
第6回	住民生活と衣食住環境(1)	衣食住環境を法令による規制という側面から学習する
第7回	住民生活と衣食住環境(2)	住環境を史料の読解を通じて、身分という観点から学習する
第8回	物直し産業の発達	物直し産業の業態とその発達理由およびその歴史評価を学習する
第9回	塵芥処理と問題点(1)	塵芥処理のあり方とその対応を、身分という観点から学習する
第10回	塵芥処理と問題点(2)	町人地の塵芥処理システムを学習し、現在の連続性を理解する
第11回	火災と防災対策(1)	火災都市としての江戸における幕府の火消し組織を学習する
第12回	火災と防災対策(2)	江戸の町における防災対策を、史料の読解を通じて学習する
第13回	水問題と上・下水道	上・下水の整備状況とその維持組織を学習する
第14回	信仰・娯楽と癒やし空間(1)	江戸の町での生活と信仰・娯楽との関係性を学習する
第15回	信仰・娯楽と癒やし空間(2)	江戸の癒やし空間としての名所のあり方を学習する

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

- ①テキストの環境史料を事前に読解および現代語訳すること。
- ②テキストの環境史料を事前に読み、論点を整理すること。
- ③当該テーマを論じた文献を調べて学習すること。

## 【テキスト】

『日本近世環境史料演習・改訂版』(根崎光男編、同成社、2011年)

## 【参考書】

『環境』都市の真実(根崎光男著、講談社+α新書、2008年)

## 【成績評価基準】

期末試験(100%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 公害防止管理論Ⅱ

大野 香代

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

人の健康や生活環境保全のためには、企業の生産現場における公害防止技術が必要不可欠である。

我が国は1960年代の高度経済成長期に深刻な公害問題を抱え、1970年代に環境法規の整備、環境設備への投資、処理技術開発、企業努力によってそれを克服した経緯がある。本講座では大気保全の歴史や法規制、排ガス処理技術、測定技術について基礎的な知識を習得し、企業の環境管理を担う、公害防止管理者の国家資格取得を目標とする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

前半は大気汚染の歴史、現在の大気汚染問題や汚染メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの環境保全の知識を学び、後半は燃焼管理方法、排ガス処理技術、測定法等の排ガス管理・処理技術を学ぶ。授業は基本的事項を学んだ後に、例題を解く方式で理解を深める。定期試験ではなく、授業内に行う2回の試験と出席率で成績評価を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

後期	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と現状	わが国及び海外の大気汚染のエピソード及びわが国の大気汚染の現状。
第2回	大気汚染のメカニズム、地球環境問題	大気汚染の発生メカニズムと地球環境問題。
第3回	環境法	環境基本法、大気汚染防止法、公害防止管理者法の概要。
第4回	大気汚染物質の発生源と大気拡散	大気汚染物質の発生源の種類と発生源から排出された大気汚染物質がどのように拡散して我々の健康に影響を及ぼすのか。
第5回	大気汚染による影響	大気汚染物質による人の健康及び植物への影響について。
第6回	燃料の種類と燃焼管理方法	発生源から排出される大気汚染物質の量は、燃料の種類と燃焼管理方法によってどのように異なるか。
第7回	中間試験	1回～6回までの授業内容についての試験を実施する。
第8回	硫黄酸化物及び窒素酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物及び窒素酸化物の排出低減及び処理技術。
第9回	有害物質処理技術	ふっ素、塩素等の健康に有害な物質についての排出処理技術。
第10回	ダストの粒径分布と集じん性能	排出ガスに含まれる粒子(すす)を除去する技術を習得するための基礎知識。
第11回	除じん・集じん技術	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第12回	硫黄酸化物及び窒素酸化物の測定法	排ガス中の硫黄酸化物及び窒素酸化物の測定法について。
第13回	有害ガス測定方法	排出ガスに含まれる有害ガスについての測定技術。
第14回	ばいじん測定方法	排出ガスに含まれる粒子についての測定技術。
第15回	総括試験	8回から14回までの内容を中心に本講座の内容を総括した試験を実施する。

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

必須テキストの授業関連箇所を事前に読んでくること。

## 【テキスト】

大気汚染対策の基礎知識・二訂 3版  
発行所 (社)産業環境管理協会

## 【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編  
発行所 (社)産業環境管理協会  
公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 大気  
発行所 (社)産業環境管理協会

## 【成績評価基準】

授業内で筆記試験を行い、総合点で判定する。

A+：100-90      A：89-80      B：79-70  
C：69-60      D：59 点以下で不合格

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 基礎演習

後藤 彌彦

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【】

【】

### 【授業計画】

#### 後期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論1	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論1	同上
第11回	グループ発表・討論1	同上
第12回	グループ発表・討論1	同上
第13回	グループ発表・討論1	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

### 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 環境科学Ⅱ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰ（前期）では、比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱ（後期）では、地球規模や国境を超える問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。ⅠとⅡのどちらか片方だけを履修してもかまいません。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

[]

[]

## 【授業計画】

## 後期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響、国際交渉
第6回	気候変動・その3（第8章）	京都議定書、京都メカニズム
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境大気汚染（第9章）	酸性雨の化学、影響、光化学オキシダント
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境の評価（第12章）	環境アセスメント、L C A、環境ラベル
第13回	環境と貿易	貿易は環境に悪影響を及ぼすか？ G A T T、W T O
第14回	国際環境協力	開発援助の環境配慮、環境O D A
第15回	まとめ	全体のとりまとめ

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

## 【テキスト】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

## 【参考書】

講義中に指定します。

## 【成績評価基準】

期末試験のみで評価します。受講生がおおむね100名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

月曜日7時限と土曜日1時限の講義は同一です。原則、同じペースで進みますので、どちらに出席しても構いません。ただし、期末試験は登録した曜日・時限で受験してください。

## 英語Ⅱ（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

Further opportunities for students to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and English test
第2回	Personal information	Student interviews and discussion
第3回	Sports and hobbies	Student interviews and discussion
第4回	TV and pastimes	Student interviews and discussion
第5回	Travel	Student interviews and discussion
第6回	Shopping	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performance
第9回	Movies	Student interviews and discussion
第10回	Music	Student interviews and discussion
第11回	Restaurants	Student interviews and discussion
第12回	Part-time jobs and work	Student interviews and discussion
第13回	Fashion	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation. Students who cannot attend every class should not take the class.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson.

## 英語Ⅱ（4群必修）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Further opportunities for students to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and English test
第2回	Personal information 2	Student interviews and discussion
第3回	Sports and hobbies	Student interviews and discussion
第4回	TV and pastimes	Student interviews and discussion
第5回	Travel	Student interviews and discussion
第6回	Shopping	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performance
第9回	Movies	Student interviews and discussion
第10回	Music	Student interviews and discussion
第11回	Restaurants	Student interviews and discussion
第12回	Part-time jobs and work	Student interviews and discussion
第13回	Fashion	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation. Students who cannot attend every class should not take the class.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson.

## 英語Ⅱ（4群選択）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Further opportunities for students to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and English test
第2回	Personal information 2	Student interviews and discussion
第3回	Sports and hobbies	Student interviews and discussion
第4回	TV and pastimes	Student interviews and discussion
第5回	Travel	Student interviews and discussion
第6回	Shopping	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performance
第9回	Movies	Student interviews and discussion
第10回	Music	Student interviews and discussion
第11回	Restaurants	Student interviews and discussion
第12回	Part-time jobs and work	Student interviews and discussion
第13回	Fashion	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation. Students who cannot attend every class should not take the class.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson.

## 中国語Ⅱ（スキルアップ科目）

劉 湯氷

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

中国語Ⅰで身に付いた力に基づいて、文法を習得しながら、聞く力と会話力に力を入れる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

中国語に必要な語彙、文法、会話を習得する同時に聴力、会話の反復練習にも力を入れる。教師マニュアルに発音指導のみではなく、教室活動に用いる「ドリル」と「練習問題」を設ける。「ドリル」は主に口頭練習に、「練習問題」は主に書くトレーニングに活用することを目的とする。「聞く、読む、書く」といった三つの面において、練習を重ねることより発音段階の基礎作りを完成する。

学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に思い切って声を出して発音してもらおう。習ったものをなるべく応用してもらおう。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	総復習	前期授業内容を復習する
第2回	第6課	文法・本文・練習問題
第3回	第7課	文法・本文・練習問題
第4回	6～7課のまとめ	応用会話
第5回	第8課	文法・本文・練習問題
第6回	第9課	文法・本文・練習問題
第7回	8～9課のまとめ	応用会話
第8回	第10課	文法・本文・練習問題
第9回	第11課	文法・本文・練習問題
第10回	10～11のまとめ	応用会話
第11回	第12課	文法・本文・練習問題
第12回	復習	6～12課の復習 応用会話
第13回	中国映画鑑賞	中国映画鑑賞
第14回	総まとめ	総練習
第15回	試験	授業内試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

単語調べ、本文を暗記する。

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅰ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 中国語Ⅱ（4群必修）

劉 湯氷

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

中国語Ⅰで身に付いた力に基づいて、文法を習得しながら、聞く力と会話力に力を入れる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

中国語に必要な語彙、文法、会話を習得する同時に聴力、会話の反復練習にも力を入れる。教師マニュアルに発音指導のみではなく、教室活動に用いる「ドリル」と「練習問題」を設ける。「ドリル」は主に口頭練習に、「練習問題」は主に書くトレーニングに活用することを目的とする。「聞く、読む、書く」といった三つの面において、練習を重ねることより発音段階の基礎作りを完成する。

学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に思い切って声を出して発音してもらおう。習ったものをなるべく応用してもらおう。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	総復習	前期授業内容を復習する
第2回	第6課	文法・本文・練習問題
第3回	第7課	文法・本文・練習問題
第4回	6～7課のまとめ	応用会話
第5回	第8課	文法・本文・練習問題
第6回	第9課	文法・本文・練習問題
第7回	8～9課のまとめ	応用会話
第8回	第10課	文法・本文・練習問題
第9回	第11課	文法・本文・練習問題
第10回	10～11のまとめ	応用会話
第11回	第12課	文法・本文・練習問題
第12回	復習	6～12課の復習 応用会話
第13回	中国映画鑑賞	中国映画鑑賞
第14回	総まとめ	総練習
第15回	試験	授業内試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

単語調べ、本文を暗記する。

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅰ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD



## 中国語Ⅱ（4群選択）

## 劉 湯水

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

中国語Ⅰで身に付いた力に基づいて、文法を習得しながら、聞く力と会話力に力を入れる。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

中国語に必要な語彙、文法、会話を習得する同時に聴力、会話の反復練習にも力を入れる。教師マニュアルに発音指導のみではなく、教室活動に用いる「ドリル」と「練習問題」を設ける。「ドリル」は主に口頭練習に、「練習問題」は主に書くトレーニングに活用することを目的とする。「聞く、読む、書く」といった三つの面において、練習を重ねることより発音段階の基礎作りを完成する。

学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に思い切って声を出して発音してもらおう。習ったものをなるべく応用してもらおう。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	総復習	前期授業内容を復習する
第2回	第6課	文法・本文・練習問題
第3回	第7課	文法・本文・練習問題
第4回	6～7課のまとめ	応用会話
第5回	第8課	文法・本文・練習問題
第6回	第9課	文法・本文・練習問題
第7回	8～9課のまとめ	応用会話
第8回	第10課	文法・本文・練習問題
第9回	第11課	文法・本文・練習問題
第10回	10～11課のまとめ	応用会話
第11回	第12課	文法・本文・練習問題
第12回	復習	6～12課の復習 応用会話
第13回	中国映画鑑賞	中国映画鑑賞
第14回	総まとめ	総練習
第15回	試験	授業内試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

単語調べ、本文を暗記する。

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅰ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 環境経営論Ⅱ

## 堀内 行蔵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

地球環境問題の根本は経済問題である。現代の企業は巨大化し、さまざまな影響を及ぼしている。環境経営論の目的は、地球環境問題の解決に貢献する企業経営のあり方を学習し、将来の変革のリーダーシップを取る人材を育成することである。テーマは「持続可能な社会」の構築である。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

環境経営論について専門的に学習する。環境経営の歴史的展開をふまえ、1990年代から始まった競争戦略としての環境経営や21世紀の持続可能経営についての特長を学習する。取り上げるテーマは、地球環境問題と企業の競争戦略、企業倫理と経営者の役割、企業の社会的責任など、これからの企業経営にとってもっとも重要な課題である。また、環境経営を実践するための手段であるISO14001、LCA、環境会計などについても学習する。この授業は社会力養成の授業の一部である。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	後期授業について説明する。
第2回	持続可能な社会	21世紀のビジョン、経済政策と環境経営の新展開について概要を学習する。
第3回	競争的環境経営（1）	環境経営の歴史的展開を学習し、環境経営を有効に行うための、戦略と組織のあり方を学ぶ。
第4回	競争的環境経営（2）	環境経営の型を明らかにし、エコ効率性、リサイクル、業界協調などの問題を学習する。
第5回	競争的環境経営（3）	企業のイノベーションを引き起こす環境規制について学習する。
第6回	理念重視の環境経営（1）	企業経営の歴史の変遷を明らかにし、企業の新しい位置づけについて学習する。
第7回	理念重視の環境経営（2）	企業の社会的責任を学び、企業倫理についての先人の諸説を学習する。
第8回	理念重視の環境経営（3）	ビジョナリー・カンパニーやパタゴニアなど、理念経営にとって参考になる事例を学習する。
第9回	投資決定の理論（1）	企業が省エネ投資など行う際意思決定に役立つ経済分析を行う。現在価値や内部収益率の知識を得る。
第10回	投資決定の理論（2）	環境投資の私的収益率と社会的収益率との違いを学習し、政府の役割を理解する。
第11回	EMSの手段（1）	ISO14001の概要を理解し、リスク管理の重要性を認識する。
第12回	EMSの手段（2）	環境適合設計、ライフサイクル・アセスメント、エコラベルなどを学習する。
第13回	EMSの手段（3）	環境コストを把握し、アカウントビリティを果たす、という環境会計を学ぶ。
第14回	EMSの手段（4）	環境報告書の作成意義や国際的なガイドラインを学習する。
第15回	まとめ	持続可能な社会の実現を目指す環境経営のあり方を認識する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキスト（堀内・向井）を読むこと。新聞や雑誌や企業のHPには、関連することが多いため、よく目を通しておくこと。とくに自分の興味のある業界や企業については、関連する会社のHPの環境セクションを見ておくこと。

## 【テキスト】

堀内行蔵・向井常雄『実践環境経営論』（東洋経済新報社）

## 【参考書】

L. デシモン、F. ボボフ『エコ・エフィシエンシーへの挑戦』（日科技連）  
J. コリンズ、J. ポラス『ビジョナリー・カンパニー』（日経BP出版）  
I. シュナイナード『社員をサーフィンに行かせよう』（東洋経済新報社）  
『日経エコロジー』日経BP

## 【成績評価基準】

論述を中心にした期末試験（参照不可）で評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 基礎演習

山本 長一

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

## 【授業計画】

## 後期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

## 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

## 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 英語Ⅳ（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

An introduction to Business English with an emphasis on communication in everyday business situations.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

Students will work in pairs and groups to practice listening and speaking activities related to International English and the global business culture.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Meeting people in a business context	Taking about oneself and the company
第2回	Business telephoning	Taking and leaving messages
第3回	Schedules and appointments	Organizing schedules and appointments
第4回	Talking about company performance	Interpreting graphs, presenting information
第5回	Review 1	Review and revision
第6回	Talking about products and services	Describing products and services to clients
第7回	Decision-making in business	Explaining decisions, and company history
第8回	Business complaints and problems	Complaints and presenting solutions
第9回	Projects and Checking progress	Plans, business trips and updates
第10回	Review 2	Review and revision
第11回	Talking about future prospects	Financial and future trends and prospects
第12回	Regulations and advice	Job requirements and company regulations
第13回	Business meetings and discussions	Discussing ideas and suggestions
第14回	Speaking in public	Business presentations and speeches
第15回	Review 3	Review and revision

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Complete exercises started in class. Pre-reading and vocabulary study for next class.

## 【テキスト】

Business Ventures 2, Students Book by Barnard, Cady, Duckworth and Trew (Oxford University Press, 2009, ISBN: 978-0-19-457818-9)

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on attendance and a listening/writing paper test at the end of the semester.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

Cassette tape player

## 【その他】

The course assumes some fluency in English, so participants should be willing to communicate in English and have an interest in business topics. Limit: 40 students.

## 英語Ⅳ（4群必修）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

An introduction to Business English with an emphasis on communication in everyday business situations.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

Students will work in pairs and groups to practice listening and speaking activities related to International English and the global business culture.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Meeting people in a business context	Taking about oneself and the company
第2回	Business telephoning	Taking and leaving messages
第3回	Schedules and appointments	Organizing schedules and appointments
第4回	Talking about company performance	Interpreting graphs, presenting information
第5回	Review 1	Review and revision
第6回	Talking about products and services	Describing products and services to clients
第7回	Decision-making in business	Explaining decisions, and company history
第8回	Business complaints and problems	Complaints and presenting solutions
第9回	Projects and Checking progress	Plans, business trips and updates
第10回	Review 2	Review and revision
第11回	Talking about future prospects	Financial and future trends and prospects
第12回	Regulations and advice	Job requirements and company regulations
第13回	Business meetings and discussions	Discussing ideas and suggestions
第14回	Speaking in public	Business presentations and speeches
第15回	Review 3	Review and revision

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Complete exercises started in class. Pre-reading and vocabulary study for next class.

## 【テキスト】

Business Ventures 2, Students Book by Barnard, Cady, Duckworth and Trew (Oxford University Press, 2009, ISBN: 978-0-19-457818-9)

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on attendance and a listening/writing paper test at the end of the semester.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

Cassette tape player

## 【その他】

The course assumes some fluency in English, so participants should be willing to communicate in English and have an interest in business topics. Limit: 40 students.

## 英語Ⅳ（4群選択）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

An introduction to Business English with an emphasis on communication in everyday business situations.

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

Students will work in pairs and groups to practice listening and speaking activities related to International English and the global business culture.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Meeting people in a business context	Taking about oneself and the company
第2回	Business telephoning	Taking and leaving messages
第3回	Schedules and appointments	Organizing schedules and appointments
第4回	Talking about company performance	Interpreting graphs, presenting information
第5回	Review 1	Review and revision
第6回	Talking about products and services	Describing products and services to clients
第7回	Decision-making in business	Explaining decisions, and company history
第8回	Business complaints and problems	Complaints and presenting solutions
第9回	Projects and Checking progress	Plans, business trips and updates
第10回	Review 2	Review and revision
第11回	Talking about future prospects	Financial and future trends and prospects
第12回	Regulations and advice	Job requirements and company regulations
第13回	Business meetings and discussions	Discussing ideas and suggestions
第14回	Speaking in public	Business presentations and speeches
第15回	Review 3	Review and revision

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Complete exercises started in class. Pre-reading and vocabulary study for next class.

## 【テキスト】

Business Ventures 2, Students Book by Barnard, Cady, Duckworth and Trew (Oxford University Press, 2009, ISBN: 978-0-19-457818-9)

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on attendance and a listening/writing paper test at the end of the semester.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

None.

## 【学生が準備すべき機器他】

Cassette tape player

## 【その他】

The course assumes some fluency in English, so participants should be willing to communicate in English and have an interest in business topics. Limit: 40 students.

## 中国語Ⅳ（スキルアップ科目）

劉 湯氷

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

履修者に長文を聞き取ったり、言ったりする力を伸ばし、中国語の文章の特徴を理解してもらうことを狙いとする。中国語検定試験3級を目指してトレーニングをする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に勇気を持って質問したり、会話練習に積極的に参加したりするように頑張してほしい。「聞く、話す、読む、書く」といった四技能のトレーニングを優先し、授業を進める。一課の内容は2コマの授業でこなせる。1コマ目は「解釈」を主とした文法項目の導入と翻訳に重点を置き、2コマ目は「ドリル」を優先し、発話とライティングに重点を置く。学生の要求に応じて、中国語検定試験3級の練習も行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第7課	文法・課文
第2回	第7課	会話・練習問題
第3回	第8課	文法・課文
第4回	第8課	会話・練習問題
第5回	第9課	文法・課文
第6回	第9課	会話・練習問題
第7回	第10課	文法・課文
第8回	第10課	会話・練習問題
第9回	第11課	文法・課文
第10回	第11課	会話・練習問題
第11回	第12課	文法・課文
第12回	第12課	会話・練習問題
第13回	中国映画鑑賞	中国映画鑑賞
第14回	総まとめ	まとめと応用練習
第15回	授業内試験	試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に新出単語を調べる  
習得した会話を暗誦できるようにする

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅱ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 中国語Ⅳ（4群必修）

劉 湯氷

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

履修者に長文を聞き取ったり、言ったりする力を伸ばし、中国語の文章の特徴を理解してもらうことを狙いとする。中国語検定試験 3 級を目指してトレーニングをする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に勇気を持って質問したり、会話練習に積極的に参加したりするように頑張してほしい。「聞く、話す、読む、書く」といった四技能のトレーニングを優先し、授業を進める。一課の内容は 2 コマの授業でこなせる。1 コマ目は「解釈」を主とした文法項目の導入と翻訳に重点を置き、2 コマ目は「ドリル」を優先し、発話とライティングに重点を置く。学生の要求に応じて、中国語検定試験 3 級の練習も行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課	文法・課文
第 2 回	第 7 課	会話・練習問題
第 3 回	第 8 課	文法・課文
第 4 回	第 8 課	会話・練習問題
第 5 回	第 9 課	文法・課文
第 6 回	第 9 課	会話・練習問題
第 7 回	第 10 課	文法・課文
第 8 回	第 10 課	会話・練習問題
第 9 回	第 11 課	文法・課文
第 10 回	第 11 課	会話・練習問題
第 11 回	第 12 課	文法・課文
第 12 回	第 12 課	会話・練習問題
第 13 回	中国映画鑑賞	中国映画鑑賞
第 14 回	総まとめ	まとめと応用練習
第 15 回	授業内試験	試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に新出単語を調べる  
習得した会話を暗誦できるようにする

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅱ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 中国語Ⅳ（4群選択）

劉 湯氷

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

履修者に長文を聞き取ったり、言ったりする力を伸ばし、中国語の文章の特徴を理解してもらうことを狙いとする。中国語検定試験 3 級を目指してトレーニングをする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

学生全体のレベルを見ながら、無理をなく授業を進めていきたい。授業中に勇気を持って質問したり、会話練習に積極的に参加したりするように頑張してほしい。「聞く、話す、読む、書く」といった四技能のトレーニングを優先し、授業を進める。一課の内容は 2 コマの授業でこなせる。1 コマ目は「解釈」を主とした文法項目の導入と翻訳に重点を置き、2 コマ目は「ドリル」を優先し、発話とライティングに重点を置く。学生の要求に応じて、中国語検定試験 3 級の練習も行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課	文法・課文
第 2 回	第 7 課	会話・練習問題
第 3 回	第 8 課	文法・課文
第 4 回	第 8 課	会話・練習問題
第 5 回	第 9 課	文法・課文
第 6 回	第 9 課	会話・練習問題
第 7 回	第 10 課	文法・課文
第 8 回	第 10 課	会話・練習問題
第 9 回	第 11 課	文法・課文
第 10 回	第 11 課	会話・練習問題
第 11 回	第 12 課	文法・課文
第 12 回	第 12 課	会話・練習問題
第 13 回	中国映画鑑賞	中国映画鑑賞
第 14 回	総まとめ	まとめと応用練習
第 15 回	授業内試験	試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に新出単語を調べる  
習得した会話を暗誦できるようにする

## 【テキスト】

『みんなの中国語Ⅱ』 林 文男 隆美出版

## 【参考書】

授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

毎週小テストを行い、小テストの点数を期末テストの成績と併せて最終評価を出す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

CD  
DVD

## 人間環境セミナーⅡ

後藤 彌彦、岡松 暁子、武貞 稔彦、辻 英史、藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：国際舞台で活躍する人々

各方面で活躍する専門家、活動家から直接話を聞き、現代の諸テーマについて学ぶとともに、今後の進路や生き方を考える上での参考とする。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

各講師の取り組んでいるテーマとその今後の展望・課題やその経験をもとにした学生に対するアドバイスなどについて学ぶことにより、視野の広い社会人となる一助とする。

各回の講師と講演タイトルについては、新年度以降、掲示します。

担当者 後藤、辻、岡松、武貞、藤倉

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	セミナー	外部講師による講義
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	セミナー	外部講師による講義
第15回	試験	講義内容に関する筆記試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

興味をもったテーマについて掘り下げて調べてみる。

## 【テキスト】

テキストは用いず、講師により資料を配付する場合がある。

## 【参考書】

授業のなかで随時紹介する。

## 【成績評価基準】

出席状況と試験の結果による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて使用する。

## 環境哲学基礎論

関口 和男

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境哲学とは、文字通り、環境について哲学すること、考え抜くことである。しかし、現実の環境問題なるものは、その強い倫理的要請のゆえに、環境そのものについて考え抜くことをなかなか許さない状況にある。だがこのままでは、3・11以降の社会の現状に対応することができず、環境に関する論議はいつまでたっても、うわべだけの皮相的なものとどまらざるを得ないと思われる。そこで当講義では、あえて環境政策的思考を避けて、環境そのものを徹底的に考え、そこに何を見出すことができるのか、受講生の諸君と体験していきたい。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標およびテーマ」に記載。特に、双方向的な質疑応答を重視するので、一方的な講義にはしない。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現在の環境問題のおかれています思想状況について	3・11以降の環境運動の在るべき姿とは何かを考える意味を明確にする。
第2回	「考える・哲学する」とはどういうことか。	思惟・判断・行為について説明し、「考える」ことの重要性を理解する。
第3回	環境哲学とは何か。	従来の様々な環境思想の長所・短所を明らかにし、これからの環境哲学の意味を明かにする。
第4回	基礎作業Ⅰ 意識と環境① 環境の仮説的定義づけと人間の観念	まず、環境という観念は何を意味するのかを考える。
第5回	基礎作業Ⅰ 意識と環境② 「わたし」と環境の相互作用	環境という意識が、どのように「わたし」に出来るか、そのプロセスを考える。
第6回	基礎作業Ⅰ 意識と環境③ 「わたしたち」と環境の相互作用	同上
第7回	基礎作業Ⅱ 空間と環境世界① 空間とは何か。	環境という観念の持つ空間性とは何かを考える。
第8回	基礎作業Ⅱ 空間と環境世界② 環境世界の仮想実在性について	仮想実在性という観念を通じて、環境世界の世界性を明らかにする。
第9回	基礎作業Ⅲ 時間と環境世界① 時間とはなにか。	人間存在を根源的に規定する時間意識について考える。
第10回	基礎作業Ⅲ 時間と環境世界② 時間の世界性とは何か。	時間意識と環境世界との関係を、哲学的な観点から考える。
第11回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界① 共同体とは何か。	共同体と環境世界との関係を考える。
第12回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界② 正義とは何か。	共同体の正義と環境世界の正義と相異性について、昨今の「正義論」を参考にしつつ考える。
第13回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題①	なぜ、いま、環境哲学なのか、という視点から諸問題を抽出する。
第14回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題②	同上
第15回	総括：環境とは何か。	人間環境学における環境哲学の位置について。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特に重要なのは、新聞の政治・経済・国際を毎日読んでおくこと。そのほか、哲学史関係の本を読むこと。

## 【テキスト】

テキストはありません。毎回配布するプリントを用います。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価基準】

出席率と期末テストによる。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

原則として、基礎科目の哲学・倫理学・論理学のいずれかを履修していることが望ましい。

## 研究会修了論文

石神 隆

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

【授業の到達目標】

【

【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【

【

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第5回～	情報の整理	収集した情報を整理する。
第9回		
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

【テキスト】

特に特定しない。

【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

井上 奉生

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

岡松 暁子

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。



## 研究会修了論文

### 梶 裕史

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

#### 【テキスト】

特に特定しない。

#### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

#### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

### 國則 守生

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

#### 【テキスト】

特に特定しない。

#### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

#### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

### 國則 守生

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

#### 【テキスト】

特に特定しない。

#### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

#### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

### 小島 聡

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

#### 【テキスト】

特に特定しない。

#### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

#### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

小島 聡

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

北川 徹哉

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

田中 勉

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

## 【テキスト】

特に特定しない。

## 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

永野 秀雄

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

## 【テキスト】

特に特定しない。

## 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

永野 秀雄

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

西城戸 誠

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

西城戸 誠

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

## 【テキスト】

特に特定しない。

## 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

根崎 光男

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

## 【テキスト】

特に特定しない。

## 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

藤倉 良

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

堀内 行蔵

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

### 堀内 行蔵

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

#### 【テキスト】

特に特定しない。

#### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

#### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

### 辻 英史

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

#### 【テキスト】

特に特定しない。

#### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

#### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。



## 研究会修了論文

宮川 路子

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

宮川 路子

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

安田 章人

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

## 【テキスト】

特に特定しない。

## 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

吉田 秀美

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

## 【テキスト】

特に特定しない。

## 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

渡邊 誠

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

武貞 稔彦

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

朝比奈 茂

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

長谷川 直哉

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

### 梶 裕史

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

#### 【テキスト】

特に特定しない。

#### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

#### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

### 吉村 宏和

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：その他

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		
第5回～	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

#### 【テキスト】

特に特定しない。

#### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

#### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 研究会修了論文

藤倉 良、宮川 路子

配当年次／単位：4年／2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照。)

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、実践してもらう。  
下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
～第4回		
第5回	資料の収集	論文に関連する資料を収集する。
～第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～第15回		

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをとする場とする。

### 【テキスト】

特に特定しない。

### 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

構成、引用、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## インターンシップ

田中 勉、宮川 路子

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この科目は、在学中に短期の就業を体験することで卒業後の進路選択およびキャリア形成に役立てることを目的としています。政府や自治体、企業、NPOなど各種の機関での実習を対象とします。ただし、通常の大学での学習を阻害しないことが条件です。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

大学外での就業体験であるため通常の授業と異なり、実習先での学習と就業体験が主たる内容となります。そのため、大学では準備のための指導および実習後の指導を行います。実習機関によって内容が異なりますので担当教員による個別指導が中心となります。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	インターンシップ説明会（前・後期セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、科目履修はできません。
第2回	「インターンシップ申込書」の提出	担当教員による面接で実習期間や実習内容について審査し、科目登録の可否を通知します。
第3回	「インターンシップ実習計画書」の提出	履修が許可された場合、実習受け入れ機関や実習プログラムに関する所定の項目を記入し提出する。これと同時に「インターンシップ保険」の手続きを行いません。保険料は不要です。「キャリアセンター」で手続きをします。これは科目履修の必須条件です。
第4回	実習	上記の第1回～第3回の手続きを終えた後、実習を行います。
～第13回		
第14回	実習終了後「インターンシップ実習報告書」の作成	作成に当たっては担当教員の指導を受けなければなりません。
第15回	インターンシップ実習報告会（実習終了後のセメスターに開催）	実習終了後のセメスターに開催される「インターンシップ実習報告会」で口頭発表を行います。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

実習機関の検索と選択は各自が自主的に行わなければなりません。実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考書】

個別に指導します。

### 【成績評価基準】

この科目は通常の成績評価は行わず、「単位認定」をおこないます。

この科目は GPA の対象科目とはなりません。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

履修・単位登録に関する注意事項

- ①登録時期：実習終了後の Semester 登録時に行います。
- ②履修手続き、書類の配布、提出はすべて窓口です。

## 国際法Ⅱ（教職）

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講 Semester：後期授業 | 曜日・時限：水・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

本講義では、国家関係を規律する法である国際法のうち、各論部分を扱う。国際社会における様々な分野において、具体的な事例を検討すると共に、国際法の規律がどのように及んでいるかを理解することを目標とする。

【授業の到達目標】

【

【授業の概要と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【

【

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ガイダンス
第 2 回	海洋法（1）	海洋法の全体像
第 3 回	海洋法（2）	海域の具体的制度
第 4 回	海洋法（3）	紛争解決
第 5 回	国際化地域・空域・宇宙	国際化地域・空域・宇宙に関わる制度
第 6 回	個人の管轄（1）	個人の法主体性
第 7 回	個人の管轄（2）	個人責任の追及
第 8 回	人権	国際人権法
第 9 回	国際経済法	国際通商・投資に関する規律
第 10 回	紛争の平和的解決（1）	国際紛争の平和的解決
第 11 回	紛争の平和的解決（2）	国際司法裁判所
第 12 回	武力行使の規制と国際安全保障	武力行使の規制
第 13 回	武力紛争法（1）	交戦法規
第 14 回	武力紛争法（2）	軍備管理・軍縮
第 15 回	期末試験	授業の理解を確認する。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

【テキスト】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 第 2 版』有斐閣、2010 年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価基準】

期末試験による。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

**国際法Ⅱ（教職）**

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

国際法の各論部分についての講義を行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海
第4回	海洋法（3）	大陸棚、深海底
第5回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第6回	個人の管轄（1）	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第7回	個人の管轄（2）	国際犯罪、国際刑事裁判所
第8回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続
第11回	紛争の平和的解決（3）	裁判的手続
第12回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動
第13回	武力紛争法規（国際人道法）（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第14回	武力紛争法規（国際人道法）（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第15回	期末試験	筆記試験

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

教科書の該当部分を読んでおくこと。

**【テキスト】**

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法〔第2版〕』有斐閣、2010年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

**【参考書】**

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選〔第2版〕』有斐閣、2011年。

**【成績評価基準】**

期末試験による。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

**基礎演習**

谷本 勉

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

**【授業計画】**

後期 回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

**【テキスト】**

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価基準】**

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。



## 研究会

## 谷本 勉

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

自分と周りの世界の関係を考えるのに、自然科学は基本的なデータを提供し、いくつかの重要な予測を行う。

しかし自然科学はいつも正しいデータを提供し、正しい予測を行うわけではない。自然科学の限界を知り、自然科学がもたらす知識をより正確に理解するために、科学を科学として対象化する科学史、科学哲学、科学社会学、あるいは、それらをひっくるめて科学論と呼ばれる専門領域を勉強するのが本研究会の目的である。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

毎週担当者による論文紹介と、当該論文をめぐる出席者全員による討論を行う。取り上げる論文については、テキストにある著作集だけでなく、幅広い文献から選んでいく予定である。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	何をどのように勉強していくかを説明する
第 2 回	文献講読 (1)	大森荘蔵の論文を読解する
第 3 回	文献講読 (2)	大森荘蔵の論文を読解する
第 4 回	文献講読 (3)	大森荘蔵の論文を読解する
第 5 回	文献講読 (4)	大森荘蔵の論文を読解する
第 6 回	文献講読 (5)	大森荘蔵の論文を読解する
第 7 回	文献講読 (6)	大森荘蔵の論文を読解する
第 8 回	文献講読 (7)	大森荘蔵の論文を読解する
第 9 回	文献講読 (8)	大森荘蔵の論文を読解する
第 10 回	文献講読 (9)	大森荘蔵の論文を読解する
第 11 回	文献講読 (10)	大森荘蔵の論文を読解する
第 12 回	文献講読 (11)	大森荘蔵の論文を読解する
第 13 回	文献講読 (12)	大森荘蔵の論文を読解する
第 14 回	文献講読 (13)	大森荘蔵の論文を読解する
第 15 回	総括講評	大森哲学の評価を試みる

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業の中で、随時指示します

## 【テキスト】

『大森荘蔵著作集』(全 10 巻、岩波書店 1999)

## 【参考書】

『大森荘蔵－哲学の見本』(野矢茂樹、講談社 2007)

## 【成績評価基準】

出席を重視します

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境経営論 I

## 鶴田 佳史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

経済活動を通じて持続可能な社会を実現していくために企業はどのような対応をしていくのでしょうか。それを考えていくために企業の経営活動の変化や「企業がどのような原理や原則に基づいて存在し活動しているか」を学ぶことが必要です。環境経営論 I では、そのために必要な経営学の基礎を勉強します。環境経営論 II で、企業の環境経営についてさらに深く踏み込みます。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

経営学の基礎を講師のレクチャーにより学んでいきます。経営学について理解するためには、現実の経営活動について自分自身が問題意識を持ち、世の中の様々な事象・現象を捉えることが重要です。環境経営が持つ意味を読み解くため一緒に勉強していきましょう。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：オリエンテーション	授業の進め方について説明を行います。
第 2 回	会社とは 1：法人格と会社の種類	「会社」や「法人」という制度について学びます。
第 3 回	会社とは 2：株式会社制度	株式会社制度の特性について学びます。
第 4 回	会社とは 3：所有と経営の分離	専門経営者の登場と所有と経営の分離について学びます。
第 5 回	古典的管理論 1：古典的管理論の類型	古典的管理論の概要について学びます。
第 6 回	古典的管理論 2：科学的管理法	テーラーの科学的管理法について学びます。
第 7 回	古典的管理論 3：フォード方式と科学的管理法	フォード生産方式について学びます。
第 8 回	古典的管理論 4：管理過程論	ファヨールの管理過程論の概要について学びます。
第 9 回	古典的管理論 5：管理原則	ファヨールの管理原則について学びます。
第 10 回	古典的管理論 6：官僚制組織論	ウェーバーの官僚制組織論について学びます。
第 11 回	古典的管理論 7：官僚制の逆機能	マートンの官僚制の逆機能について学びます。
第 12 回	経営戦略論 1：チャンドラー	チャンドラーの戦略論について学びます。
第 13 回	経営戦略論 2：アンゾフ	アンゾフやアンドリュースの戦略論について学びます。
第 14 回	経営戦略論 3：ポーター	ポーターの競争戦略について学びます。
第 15 回	まとめ	総括を行います。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業はもちろんのこと、自分自身が問題意識を持ち、世の中の様々な事象・現象を捉えることが重要です。社会において企業活動が持つ意味を読み解くために、各種メディアの情報、環境報告書等を日々チェックしましょう。

## 【テキスト】

特に指定しません。適宜、紹介します。

## 【参考書】

岸田民樹・田中政光 (2009) 『経営学説史』有斐閣

## 【成績評価基準】

期末試験の結果、授業中数回行う小レポート・小テストの結果、出席状況、授業へのコミットメントによって総合的に評価します。

第 1 回授業にてオリエンテーションを行います。必ず出席して下さい。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、DVD、ビデオ。

## 環境経営論Ⅱ

鶴田 佳史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

企業と社会との関係は変化し続けています。特に、それは環境経営など環境保全や循環型社会構築の領域において顕著に現れています。地球環境保全の取り組みについて理解することは、現在と未来の社会を読み解くことに他なりません。本講義では、この環境という新しい時代における企業活動について理解していきます。さらに、それらが生みだされてきた背景である、地球環境問題と経済活動との関係性、環境経営、循環型社会構築、環境コミュニケーション、地球温暖化対策等についても学びます。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

本講義では、企業に限らず、行政、市民、NGO/NPO等のさまざまな主体の環境経営の取組みについて、理論や実際の事例を通じて理解することを目的としています。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに：オリエンテーション	授業の進め方について説明を行います。
第2回	企業をとりまく環境圧力の変化1	企業を取り巻く環境リスクについて学びます。
第3回	企業をとりまく環境圧力の変化2	企業のステークホルダーへの対応の変化について学びます。
第4回	持続可能性について1	持続可能な発展について学びます。
第5回	持続可能性について2	持続可能性の概念の拡張について学びます。
第6回	持続可能な社会の構築1	持続可能な社会のフレームワークについて学びます。
第7回	持続可能な社会の構築2	システム4条件、エコロジカルフットプリントについて学びます。
第8回	持続可能な社会の構築3	プランB、エコエフィシエンスシーについて学びます。
第9回	環境戦略1	環境戦略のフレームワークについて学びます。
第10回	環境戦略2	グリーン戦略について学びます。
第11回	環境戦略3	プロアクティブ環境戦略について学びます。
第12回	環境経営の諸相1	環境マネジメントシステムについて学びます。
第13回	環境経営の諸相2	戦略的環境経営について学びます。
第14回	環境経営の諸相3	環境経営から持続可能経営への展開について学びます。
第15回	まとめ	総括を行います。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

企業の環境経営は、技術、システム、ビジネスモデルともに常に変化し進歩しています。各種メディアの情報、環境報告書等を日々チェックしましょう。

## 【テキスト】

特に指定しません。適宜、紹介します。

## 【参考書】

堀内行蔵・向井常雄（2006）『実践環境経営論』東洋経済新報社

## 【成績評価基準】

期末試験の結果、授業中数回行う小レポート・小テストの結果、出席状況、授業へのコミットメントによって総合的に評価します。

第1回授業にてオリエンテーションを行います。必ず出席して下さい。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、DVD、ビデオ。

## 環境経済論Ⅰ

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・7

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境問題はさまざまなレベルの経済活動にともなって発生しており、経済活動と環境の関わりを体系的に理解する必要があります。そのため、環境経済学の側面から、基礎的で重要と思われる概念・考え方を習得すると同時にそれらの応用力を獲得することを目指す。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

環境経済論Ⅰで学ぶのは、環境問題をどのように理解し、また対処して行けばよいのかということである。そのために、環境問題は、どうして市場経済で対処が難しいのか、また対処するにはどのような枠組みが必要なのかを学ぶ。とくに、環境経済学で取り扱われる「外部性」、「公共財」などの概念や性質を理解するとともに、近年、注目を浴びるようになってきた環境問題に対する経済的手段を理解するために必要な基礎を学ぶ。

[]

[]

## 【授業計画】

前期	回	テーマ	内容
第1回	第1回	経済と環境問題の発生とその影響	経済との関係で環境の果たす役割を4つの側面から議論する。なかでも、自然資源の提供とシンクとしての機能に注目する。
第2回	第2回	日本を中心としたローカルな環境問題の類型	わが国での公害問題を概観し、これまでに対処してきた問題、現在も対処が行われている問題などを観察する。
第3回	第3回	ローカルな環境問題への対策の流れ	これまでどのような環境対策がどのような基準によって行われてきたのかを概観する。
第4回	第4回	生産・消費の理論	限界費用、限界効用、生産者余剰、消費者余剰などの考え方を紹介する。
第5回	第5回	市場の機能と役割	パレート効率の概念を学び、価格機構が「理想的に」機能する条件を確認する。
第6回	第6回	市場の機能と限界（市場の失敗）	第5回で学習した条件がわれわれの生産、消費などの経済活動の重要な局面で成立していないことを観察する。
第7回	第7回	環境と市場Ⅰ	公共財の理論を学び、環境という財サービスも公共財の性質を持っていることを確認する。
第8回	第8回	環境と市場Ⅱ	公共財の供給に関する課題を解決するために提案されている例としてリンダール・メカニズムを紹介する。
第9回	第9回	環境と市場Ⅲ	環境をとらえる際に重要な視点である外部性について考察する。
第10回	第10回	環境と市場Ⅳ	市場機構を前提に社会的最適な状態の達成を目的とする効率基準の議論を紹介する。
第11回	第11回	価格コントロールによる環境政策対応（環境税）	環境問題に対する経済的手段の1つである環境税について基礎的な議論を行う。
第12回	第12回	コースの定理	ローカルな環境問題に対して当事者間の交渉によって解決を図ろうするアプローチとその限界を議論する。
第13回	第13回	数量コントロールによる環境政策対応（排出取引）	コースの考え方を継承するといわれる排出取引を紹介する。
第14回	第14回	環境対策としての経済的手段の比較Ⅰ	情報の問題に関して、命令・規制型手段と比較するとともに、さまざまな課題を考察する。
第15回	第15回	環境対策としての経済的手段の比較Ⅱ	価格の対応と数量的対応の比較を、負担、動学性、不確実性などの側面から議論する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習をすること。その確認も含めて、homeworkのためのプリントを配布することがあり、そのhomeworkを提出すること。また、配布印刷物、紹介文献などに目を通し、その理解と問題意識の涵養につとめること。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

## 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶうえで参考となる。

R. K. ターナー他 (2001) 『環境経済学入門』 (大沼あゆみ訳) 東洋経済新報社

栗山浩一・馬奈木俊介 (2008) 『環境経済学をつかむ』 有斐閣

## 【成績評価基準】

期末試験に加え、授業中で行われるミニ・テスト (出席確認)、homework、授業への貢献度などを考慮し、総合的に判断する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境経済論Ⅱ

## 國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境経済論Ⅰに引き続き、経済活動と環境との関わりを体系的に理解し、環境問題の解決に向けての基礎的かつ重要な考え方や概念等を学習し、それらを用いる力を身につけることを目指す。また、環境にかかわる持続性の課題にも注目して学習する。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

環境経済論Ⅱでは、環境経済論Ⅰに引続き、環境経済学で取り扱われるトピックや概念を中心として学習する。とくに、持続的な資源利用や時間が本質的に入ってくる長期の環境問題などに対して、どのような点がこれまでの共通理解となっているのか、残された課題は何なのかなどに関して理解を深める学習とする。また市場が存在しない環境の評価や環境を持続的に維持するための社会的共通資本の考え方などについても学ぶ。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境とコモンズⅠ (ローカル・コモンズとグローバル・コモンズ)	コモンズとはなにか議論し、「コモンズの悲劇」が当てはまるコモンズとそうでないコモンズがあることを明らかにする。
第2回	環境とコモンズⅡ (コモンズの長期的な存立条件)	基礎的なゲーム理論を使ってコモンズでの構成員の協調行動を考える。そして歴史的に存在してきたコモンズを紹介し、果たしてきた機能をみる。
第3回	再生可能資源の利用Ⅰ (漁獲資源の例)	漁獲モデルを使って再生可能資源をいかに持続可能な形で利用するかを考える。最大持続可能収穫量などを定義する。
第4回	再生可能資源の利用Ⅱ (経済的な過剰収穫)	漁獲努力モデルを使ってコモンズによる解、参入が自由な解 (経済的な過剰漁獲の解) など複数の解を解説する。
第5回	非再生可能資源の利用	非再生可能資源に関わるヒック・リッセルルールを紹介し、資源価格の変化を考える。資源価格の上昇とバックストップ価格の関係にも言及する。
第6回	環境とコスト・ベネフィット分析 (潜在的パレート改善等の考え方)	コスト・ベネフィット分析の基礎となるカルドア・ヒックス原理を紹介する。
第7回	環境とコストベネフィット分析 (手法の限界)	前提としての個人々の所得の限界効用一定の仮定やカルドア・ヒックス原理などの限界などを検討する。
第8回	環境とコスト・ベネフィット分析 (その他の前提条件)	コスト・ベネフィット分析におけるシャドー価格、機会費用、トランスファなどの扱いを考える。
第9回	環境と割引率 (割引率とは何か)	温暖化対策などの超長期の割引率についての異なる主張を紹介し、結果に大きな差が生まれることを観察する。
第10回	環境とリスク (リスクの考え方)	期待効用理論においてリスクをどう取り扱うかを検討する (リスク回避者とリスク・プレミアムの考え方を紹介)
第11回	環境評価Ⅰ (顕示選好の考え方Ⅰ)	トラベルコスト法を取り上げ、自然公園などのリクリエーション・サイトの評価方法を解説する。
第12回	環境評価Ⅱ (顕示選好の考え方Ⅱ)	ヘドニック価格法を紹介し、環境の要因が住宅価格、地価、地代や賃金などに及ぼしている影響度合いを推計し、環境評価を行う方法を解説する。
第13回	環境評価Ⅲ (表明選好の考え方)	CVM (仮想評価法) の考え方を紹介し、その実施方法、バイアスなどの課題なども理解する。
第14回	環境評価、コスト・ベネフィット分析の応用 (地域環境、地球環境問題等への応用)	環境に関わる実際の適用例を紹介し、具体的な課題などを抽出する。
第15回	環境と社会的共通資本	社会的共通資本の考え方を学び、人々の生活、存在に重要な関わりを持つ資産として環境を位置づける。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習をすること。その確認も含めて、**homework** のためのプリントを配布することがあり、その **homework** を提出すること。また、配布印刷物、紹介文献などに目を通し、その理解につとめるとともに、問題意識を涵養すること。

**【テキスト】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

**【参考書】**

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶうえで参考となる。

R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社

栗山浩一・馬奈木俊介 (2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣

宇沢弘文 (2000)『社会的共通資本』岩波新書

**【成績評価基準】**

期末試験に加え、授業中で行われるミニ・テスト（出席確認）、授業への貢献度など考慮し、総合的に判断する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****環境経済論Ⅱ****國則 守生**

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・7

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境経済論Ⅰに引き続き、経済活動と環境との関わりを体系的に理解し、環境問題の解決に向けての基礎的かつ重要な考え方や概念等を学習し、それらを応用する力を身に付けることを目指す。また、環境にかかわる持続性の課題にも注目して学習する。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

環境経済論Ⅱでは、環境経済論Ⅰに引続き、環境経済学で取り扱われるトピックや概念を中心として学習する。とくに、持続的な資源利用や時間が本質的に入ってくる長期の環境問題などに対して、どのような点がこれまでの共通理解となっているのか、残された課題は何なのかなどに関して理解を深める学習とする。また市場が存在しない環境の評価や環境を持続的に維持するための社会的共通資本の考え方などについても学ぶ。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	環境とコモンズⅠ（ローカル・コモンズとグローバル・コモンズ）	コモンズとはなにか議論し、「コモンズの悲劇」が当てはまるコモンズとそうでないコモンズがあることを明らかにする。
第 2 回	環境とコモンズⅡ（コモンズの長期的な存立条件）	基礎的なゲーム理論を使ってコモンズでの構成員の協調行動を考える。そして歴史的に存在してきたコモンズを紹介し、果たしてきた機能をみる。
第 3 回	再生可能資源の利用Ⅰ（漁獲資源の例）	漁獲モデルを使って再生可能資源をいかに持続可能な形で利用するかを考える。最大持続可能収穫量などを定義する。
第 4 回	再生可能資源の利用Ⅱ（経済的な過剰収穫）	漁獲努力モデルを使ってコモンズによる解、参入が自由な解（経済的な過剰漁獲の解）など複数の解を解説する。
第 5 回	非再生可能資源の利用	非再生可能資源に関わるヒックズ・ルールを紹介し、資源価格の変化を考える。資源価格の上昇とバックストップ価格の関係にも言及する。
第 6 回	環境とコスト・ベネフィット分析（潜在的パレート改善等の考え方）	コスト・ベネフィット分析の基礎となるカルドア・ヒックス原理を紹介する。
第 7 回	環境とコストベネフィット分析（手法の限界）	前提としての個人々の所得の限界効用一定の仮定やカルドア・ヒックス原理の限界などを検討する。
第 8 回	環境とコスト・ベネフィット分析（その他の前提条件）	コスト・ベネフィット分析におけるシャドウ価格、機会費用、トランスファなどの扱いを考える。
第 9 回	環境と割引率（割引率とは何か）	温暖化対策などの超長期の割引率についての異なる主張を紹介し、結果に大きな差が生まれることを観察する。
第 10 回	環境とリスク（リスクの考え方）	期待効用理論においてリスクをどう取り扱うかを検討する（リスク回避者とリスク・プレミアムの考え方を紹介）
第 11 回	環境評価Ⅰ（顕示選好の考え方Ⅰ）	トラベルコスト法を取り上げ、自然公園などのリクリエーション・サイトの評価方法を解説する。
第 12 回	環境評価Ⅱ（顕示選好の考え方Ⅱ）	ヘドニック価格法を紹介し、環境の要因が住宅価格、地価、地代や賃金などに及ぼしている影響度合いを推計し、環境評価を行う方法を解説する。
第 13 回	環境評価Ⅲ（表明選好の考え方）	CVM（仮想評価法）の考え方を紹介し、その実施方法、バイアスなどの課題なども理解する。
第 14 回	環境評価、コスト・ベネフィット分析の応用（地域環境、地球環境問題等への応用）	環境に関わる実際の適用例を紹介し、具体的な課題などを抽出する。
第 15 回	環境と社会的共通資本	社会的共通資本の考え方を学び、人々の生活、存在に重要な関わりを持つ資産として環境を位置づける。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習をすること。その確認も含めて、**homework** のためのプリントを配布することがあり、その **homework** を提出すること。また、配布印刷物、紹介文献などに目を通し、その理解につとめるとともに、問題意識を涵養すること。

**【テキスト】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

**【参考書】**

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶうえで参考となる。

R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社

栗山浩一・馬奈木俊介 (2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣

宇沢弘文 (2000)『社会的共通資本』岩波新書

**【成績評価基準】**

期末試験に加え、授業中で行われるミニ・テスト（出席確認）、授業への貢献度など考慮し、総合的に判断する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

**環境経済論 I**

**國則 守生**

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境問題はさまざまなレベルの経済活動ともなって発生しており、経済活動と環境の関わりを体系的に理解する必要がある。そのため、環境経済学の側面から、基礎的で重要と思われる概念・考え方を習得すると同時にそれらの応用力を獲得することを目指す。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

環境経済論 I で学ぶのは、環境問題をどのように理解し、また対処して行けばよいのかということである。そのために、環境問題は、どうして市場経済で対処が難しいのか、また対処するにはどのような枠組みが必要なのかを学ぶ。とくに、環境経済学で取り扱われる「外部性」、「公共財」などの概念や性質を理解するとともに、近年、注目を浴びるようになってきた環境問題に対する経済的手段を理解するために必要な基礎を学ぶ。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	経済と環境問題の発生とその影響	経済との関係で環境の果たす役割を 4 つの側面から議論する。なかでも、自然資源の提供とシンクとしての機能に注目する。
第 2 回	日本を中心としたローカルな環境問題の種類	わが国での公害問題を概観し、これまでに対処してきた問題、現在も対処が行われている問題などを観察する。
第 3 回	ローカルな環境問題への対策の流れ	これまでにどのような環境対策がどのような基準によって行われてきたかを概観する。
第 4 回	生産・消費の理論	限界費用、限界効用、生産者余剰、消費者余剰などの考え方を紹介する。
第 5 回	市場の機能と役割	パレート効率の概念を学び、価格機構が「理想的に」機能する条件を確認する。
第 6 回	市場の機能と限界（市場の失敗）	第 5 回で学習した条件がわれわれの生産、消費などの経済活動の重要な局面で成立していないことを観察する。
第 7 回	環境と市場 I	公共財の理論を学び、環境という財サービスも公共財の性質を持っていることを確認する。
第 8 回	環境と市場 II	公共財の供給に関する課題を解決するために提案されている例としてインダール・メカニズムを紹介する。
第 9 回	環境と市場 III	環境をとらえる際に重要な視点である外部性について考察する。
第 10 回	環境と市場 IV	市場機構を前提に社会的最適な状態の達成を目的とする効率基準の議論を紹介する。
第 11 回	価格コントロールによる環境政策対応（環境税）	環境問題に対する経済的手段の 1 つである環境税について基礎的な議論を行う。
第 12 回	コースの定理	ローカルな環境問題に対して当事者間の交渉によって解決を図ろうとするアプローチとその限界を議論する。
第 13 回	数量コントロールによる環境政策対応（排出取引）	コースの考え方を継承するといわれる排出取引を紹介する。
第 14 回	環境対策としての経済的手段の比較 I	情報の問題 II に関して、命令・規制型手段と比較するとともに、さまざまな課題を考察する。
第 15 回	環境対策としての経済的手段の比較 II	価格コントロールと数量コントロールの比較を、負担、動学性、不確実性などの側面から議論する。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習をすること。その確認も含めて、**homework** のためのプリントを配布することもあり、その **homework** を提供すること。また、配布印刷物、紹介文献などに目を通し、その理解と問題意識の涵養につとめること。

**【テキスト】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

## 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶうえで参考となる。  
 R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』(大沼あゆみ訳) 東洋経済新報社  
 栗山浩一・馬奈木俊介 (2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣

## 【成績評価基準】

期末試験に加え、授業中で行われるミニ・テスト(出席確認)、homework、授業への貢献度などを考慮し、総合的に判断する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 環境法Ⅱ

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・2

他学部公開：グローバル | 成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようになることを目標とします。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく説明します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度を学びます。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について検討していきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と環境法との関係、および環境私法とは何かを説明します。
第2回	不法行為法(1) — 意味、成立要件、種類	一般不法行為の意味、要件、効果を説明します。
第3回	不法行為法(2) — 損害、請求権者、損害賠償の調整	損害賠償は、具体的にどのように算定されるのかといった問題を説明します。
第4回	不法行為法(3) — 時効、共同不法行為	不法行為に関する時効、複数の行為者がいる場合の不法行為について説明します。
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為 — 判例法の展開	大気汚染が、工場や道路といった複合的大気汚染に関する代表的な訴訟を学びます。
第6回	民事差止訴訟、環境訴訟と消滅時効・除斥期間	環境民事訴訟で重要な差止請求と消滅時効・除斥期間に関する判例のルールを学びます。
第7回	土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用	土地工作物責任が適用される環境訴訟と、国家賠償法に基づく代表的な訴訟を学びます。
第8回	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決	公害紛争処理法に基づく紛争解決と、環境保全協定等について学びます。
第9回	大気汚染訴訟	環境訴訟の中で最も複雑な大気汚染訴訟について、判例法理の展開を学びます。
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁による被害や、環境被害と漁業権に基づく代表的な判例を学びます。
第11回	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟	騒音、振動、悪臭、日照、通風、風害による被害に関する代表的な民事判例を学びます。
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	近年、急速に発展している眺望・景観に関する民事紛争につき、代表的な判例を学びます。
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染対策法とその改正を説明したのち、多額の賠償につながる土壌汚染に関する判例を学びます。
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境被害に端を発した風評に基づく損害賠償についての判例を学びます。
第15回	原子力施設関連訴訟、その他の嫌悪施設に関する訴訟	原子力施設や、産廃処分場などの嫌悪施設に関する判例法理を学びます。

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価基準】

定期試験により評価します。

**環境法Ⅱ**

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようになることを目標とします。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく説明します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度を学びます。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について検討していきます。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	環境問題と環境私法	環境問題と環境法との関係、および環境私法とは何かを説明します。
第 2 回	不法行為法 (1) — 意味、成立要件、種類	一般不法行為の意味、要件、効果を説明します。
第 3 回	不法行為法 (2) — 損害、請求権者、損害賠償の調整	損害賠償は、具体的にどのように算定されるのかといった問題を説明します。
第 4 回	不法行為法 (3) — 時効、共同不法行為	不法行為に関する時効、複数の行為者がいる場合の不法行為について説明します。
第 5 回	複合的大気汚染と共同不法行為 — 判例法の展開	大気汚染が、工場や道路といった複合的大気汚染に関する代表的な訴訟を学びます。
第 6 回	民事差止訴訟、環境訴訟と消滅時効・除斥期間	環境民事訴訟で重要な差止請求と消滅時効・除斥期間に関する判例のルールを学びます。
第 7 回	土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用	土地工作物責任が適用される環境訴訟と、国家賠償法に基づく代表的な訴訟を学びます。
第 8 回	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決	公害紛争処理法に基づく紛争解決と、環境保全協定等について学びます。
第 9 回	大気汚染訴訟	環境訴訟の中で最も複雑な大気汚染訴訟について、判例法理の展開を学びます。
第 10 回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁による被害や、環境被害と漁業権に基づく代表的な判例を学びます。
第 11 回	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟	騒音、振動、悪臭、日照、通風、風害による被害に関する代表的な民事判例を学びます。
第 12 回	眺望権・景観権に関する訴訟	近年、急速に発展している眺望・景観に関する民事紛争につき、代表的な判例を学びます。
第 13 回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染対策法とその改正を説明したのち、多額の賠償につながる土壌汚染に関する判例を学びます。
第 14 回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境被害に端を発した風評に基づく損害賠償についての判例を学びます。
第 15 回	原子力施設関連訴訟、その他の嫌悪施設に関する訴訟	原子力施設や、産廃処分場などの嫌悪施設に関する判例法理を学びます。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

**【テキスト】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

**【参考書】**

特にありません。

**【成績評価基準】**

定期試験により評価します。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

**研究会****安藤 俊次**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

テーマ：ことばに親しむ（詩を読む、ことば遊びに挑戦する）

到達目標：最も興味を持った詩を自身で見つけ出し、その詩・詩人に精通し、各人「我が愛する詩」を持つ。

また、川柳（または、狂歌）を作ることで、ことばに敏感になること。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

詩の鑑賞と、川柳（または狂歌）の実作を通じて、ことばに親しむ。

鑑賞する詩、及び詩人について、各自調べた上で、討議する。各自が最も興味を持った詩、詩人についてプレゼンテーションを行う。また、各自が作った川柳・狂歌について自由な意見交換を行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と川柳作りについて
第2回	詩とは何か	詩について総論と質疑応答
第3回	ことば遊び	ことば遊びについて総論と質疑応答
第4回	詩の鑑賞、または川柳作り（1）	課題詩について質疑応答、または各自が作った川柳の発表と質疑応答
第5回	詩の鑑賞、または川柳作り（2）	課題詩について質疑応答、または各自が作った川柳の発表と質疑応答
第6回	詩の鑑賞、または川柳作り（3）	課題詩について質疑応答、または各自が作った川柳の発表と質疑応答
第7回	詩の鑑賞、または川柳作り（4）	課題詩について質疑応答、または各自が作った川柳の発表と質疑応答
第8回	詩の鑑賞、または川柳作り（5）	課題詩について質疑応答、または各自が作った川柳の発表と質疑応答
第9回	詩の鑑賞、または川柳作り（6）	課題詩について質疑応答、または各自が作った川柳の発表と質疑応答
第10回	プレゼンテーション（1）	各自が選んだ詩についてプレゼンテーションと質疑応答
第11回	プレゼンテーション（2）	各自が選んだ詩についてプレゼンテーションと質疑応答
第12回	プレゼンテーション（3）	各自が選んだ詩についてプレゼンテーションと質疑応答
第13回	プレゼンテーション（4）	各自が選んだ詩についてプレゼンテーションと質疑応答
第14回	プレゼンテーション（5）	各自が選んだ詩についてプレゼンテーションと質疑応答
第15回	総括	第1回～第14回のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

課題に出された詩、詩人についてよく調べておくこと。

兼題（予め出された題）に合う川柳（狂歌）を作る。

プレゼンテーションのための準備を行う。

**【テキスト】**

適宜、プリントを配布

**【参考書】**

詩歌遍歴-木田元, 平凡社新書

川柳・狂歌-浜田義一郎, 教育社歴史新書 etc.

**【成績評価基準】**

平常点（出席状況、討議への積極的参加、等）と、各自のプレゼンテーションの内容とで、総合的に評価する。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】



## 研究会

## 安藤 俊次

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・7

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：江戸庶民の娯楽を対象に、その遊びの精神を探る。  
到達目標：歌舞伎、人形浄瑠璃、落語等、古典芸能、またはその他の江戸庶民の娯楽について、その特色と魅力を語れるようになること。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

日本の古典芸能は、西洋で言う芸術とは異なる優れた娯楽性を持つ。また、現代の娯楽にはない、素朴だが、豊かな心がある。そんな日本の古典芸能に数多く触れることにより、その特色、魅力を探る。各人が関心を持つ、種目、演目等について、プレゼンテーションと質疑応答を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と古典芸能について
第2回	古典芸能の概略	古典芸能について質疑応答
第3回	江戸庶民の娯楽	江戸庶民の娯楽について質疑応答
第4回	古典芸能の鑑賞(1)	課題演目の鑑賞と質疑応答
第5回	古典芸能の鑑賞(2)	課題演目の鑑賞と質疑応答
第6回	古典芸能の鑑賞(3)	課題演目の鑑賞と質疑応答
第7回	古典芸能の鑑賞(4)	課題演目の鑑賞と質疑応答
第8回	古典芸能の鑑賞(5)	課題演目の鑑賞と質疑応答
第9回	古典芸能の鑑賞(6)	課題演目の鑑賞と質疑応答
第10回	古典芸能の鑑賞(7)	課題演目の鑑賞と質疑応答
第11回	プレゼンテーション(1)	各自が選んだ江戸庶民の娯楽についてプレゼンテーションと質疑応答
第12回	プレゼンテーション(2)	各自が選んだ江戸庶民の娯楽についてプレゼンテーションと質疑応答
第13回	プレゼンテーション(3)	各自が選んだ江戸庶民の娯楽についてプレゼンテーションと質疑応答
第14回	プレゼンテーション(4)	各自が選んだ江戸庶民の娯楽についてプレゼンテーションと質疑応答
第15回	総括	第1回から第14回のまとめ

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

鑑賞する種目、演目、演者等について、予めよく調べておくこと。  
日頃からできるだけ古典芸能に触れるよう努めること。  
プレゼンテーションのための準備を行う。

## 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

## 【参考書】

・古典芸能楽々読本-井上由理子、アートダイジェスト  
・こんなにも面白い古典芸能入門-河出書房新社,KAWADE 夢文庫 ー etc.

## 【成績評価基準】

平常点(出席状況、質疑応答への積極的参加、等)と、各自のプレゼンテーションの内容とで、総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会

## 渡邊 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマは「現象分析と環境-数学を意識したやさしい超入門講座-」である。数学的思考は環境科学に関する分野のみならず、例えば経済学やその他の(文系としての)分野においても共通して必要な概念・手法であり道具である。数学的な考え方は、様々な現象理解やモデル化のための基礎となっておりそこにも重要な点がある。数学の初歩を学ぶことにより、今後否応なく遭遇する様々な資料・データを分析し、諸現象を理解していく力を身につけていきたいと思っている方も多いためと思われる。本研究会は、微分積分を中心としてその考え方を超入門編としてやさしく解説し、様々な現象を理解し分析する力を身につけていくための講座である。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

微分と積分の意味をやさしく解説する。また、授業計画に示されているように、いくつかの例を実際に行ってみるなどデモンストレーション(+測定)を取り入れる。この体験を通して、モデル化することの意味や現象分析のための考え方を理解し、環境問題との関わりを考えていく。受講者の到達度を把握しながらできるだけ分かりやすくゆっくりと進めていく予定である。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容、授業予定などの説明を行う。
第2回	微分とは？(その1)	微分の考え方について解説する。
第3回	積分とは？(その1)	積分の考え方について解説する。
第4回	ボールは落ちる-落下時間の測定-(デモ)	力学的問題として、ボール落下のデモを行う。(落下時間などの測定を行う。)
第5回	ボール落下と微積分(デモ+演習)	微分・積分により記述できることを理解する。
第6回	微分とは？(その2)	微分の考え方について解説する。
第7回	積分とは？(その2)	積分の考え方について解説する。
第8回	お湯は冷める-氷水につけての熱移動現象-(デモ)	熱移動現象のデモを行う。温度変化の様子を測定する。
第9回	熱移動実験から見える冷却の法則と熱力学の法則-環境問題との関連-(デモ+演習)	微分・積分との関連を考える。
第10回	微分方程式超入門(その1)	微分方程式とは何か？について理解する。
第11回	微分方程式超入門(その2)	微分方程式とは何か？について理解する。
第12回	細菌の増え方モデル-ロジスティック曲線-(細菌は扱わずそれに替わるデモを予定)	個体数の増殖現象をモデル化する。
第13回	生物個体数の変動モデル-ウサギと狐に見る捕食と被捕食のシーソーゲーム-	個体数変動モデルを理解する。
第14回	分析するとは？微積分とは？	微分・積分と現象のモデル化について考える。
第15回	まとめ	授業の復習とレポート問題の説明を行う。

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

授業中にノートをとった内容の復習を毎回行うこと。デモンストレーションを行った際には、そこで得られたデータを次回授業までに解析しておくこととする。

## 【テキスト】

特に使用しない。

## 【参考書】

開講時に紹介する。

## 【成績評価基準】

出席状況、参加の積極性、レポート内容などを勘案して総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

**研究会 (通年)****國則 守生**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

本研究会は、地球環境問題などのさまざまな環境問題に対して、環境経済学の観点から、どのようにそれらの問題をとらえ、対処していけばよいのかを考察する、より進んだレベルの研究会とする。研究会の到達目標は、①環境経済学の考え方を定着・発展させること、②各参加者が協力して具体的な環境政策や環境対応に関するテーマを決めて、表現（研究会での発表およびレポートや修了論文として記述）することである。この目標に向けて、ゼミナールでは事前の準備（途中経過の発表やほかの参加者に対するコメントなど）を積極的に進める。各人の責任として、自分が発表する分だけでなく、他の参加者に対する貢献（他人の意見を十分に踏まえて、自分のコメントや考え方を述べること）が求められている。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

前期は、各自の問題意識の定着等を図るため、環境経済にかかわる文献を輪読することを中心に、グループ・ディスカッションも取り込むこととする。後期は、前期に引き続き輪読を進めつつ、レポート等の中間発表および最終発表を行う。その際、個別必要に応じて、追加的に文献を集中的に読み、発表・討議する。最後に、レポート等の報告書の作成も行う。

[]

[]

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方について議論する。
第 2 回～	文献購読	指定された環境経済学の書籍の輪読・プレゼンテーション・ディスカッションを行う。
第 14 回		
第 15 回	前期まとめ	前期の学習のまとめを行う。
第 16 回	課題発表	夏季に指定された文献購読の発表を行う。
第 17 回	文献購読	指定された環境経済学の書籍の輪読・プレゼンテーション・ディスカッションを行う。
～第 19 回		
第 20 回	外部ヒアリング	環境政策実施部署を訪問し、質問などを行う。
第 21 回	文献購読	指定された環境経済学の書籍の輪読・プレゼンテーション・ディスカッションを行う。
～第 29 回		
第 30 回	論文発表会	論文発表会を開催し、それをもとに議論する。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

- 1) 毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) 理解力を高めるため、サブゼミを行うので出席し、そのための準備も本ゼミと同じように行う。
- 3) ゼミ合宿に参加する。

**【テキスト】**

輪読の対象は環境経済学 (E) の本を輪読する（輪読文献については授業時に指示する）

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【成績評価基準】**

研究会への出席・プレゼンテーション・ディスカッションおよび提出されたレポート等について総合判断する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****研究会 (通年)****武貞 稔彦**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

持続可能な社会を築くために、環境と開発の関係やバランスについて、今まで以上に議論を深める必要性が高まっています。同時に、豊かなライフスタイルを享受する日本のような先進国と、多数の貧困人口を抱える途上国との公平性についても考える必要があります。本研究会では、貧困に苦しむ人々の多い途上国を主な舞台に、ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像できるようになることを目標とします。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

今年度は、途上国における開発と環境保全—特に生物多様性の観点から—をテーマに、先進国の社会の姿と重ね合わせながら議論を行います。演習の詳細は下記の計画にあるとおりですが、主に a) 基礎文献の輪読 b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。なお、受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の進め方（予定）について紹介する。
第 2 回	基礎文献の輪読 (1)	生物多様性に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読 (2)	生物多様性に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読 (3)	生物多様性に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読 (4)	生物多様性に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読 (5)	開発途上国における環境問題に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読 (6)	開発途上国における環境問題に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめ発表する。
第 9 回	同上	同上
第 10 回	同上	同上
第 11 回	同上	同上
第 12 回	同上	同上
第 13 回	グループディスカッション 課題 2	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめ発表する。
第 14 回	同上	同上
第 15 回	同上（後半は合宿にて議論）	同上
第 16 回	前期まとめと後期オリエンテーション	後期のとり進め方について意見交換を行う。
第 17 回	グループディスカッション 課題 3	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめ発表する。
第 18 回	同上	同上
第 19 回	同上	同上
第 20 回	同上	同上
第 21 回	同上	同上
第 22 回	グループディスカッション 課題 4	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめ発表する。
第 23 回	同上	同上
第 24 回	同上	同上
第 25 回	同上	同上
第 26 回	同上	同上
第 27 回	グループディスカッション 課題 5	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめ発表する。

第 28 回	同上	同上
第 29 回	同上	同上
第 30 回	同上	同上

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること

**【テキスト】**

開講時に指示します

**【参考書】**

途上国の貧困について考えるうえで、『国際開発論』斎藤文彦著（2004年）日本評論社を一読してから演習に臨むことが望ましい。他は随時紹介します

**【成績評価基準】**

研究会への出席および議論への貢献、最終レポートを勘案します

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

**研究会（通年）**

朝比奈 茂

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

「なぜヒトは病気になるのだろうか？」人体はおおよそ 60 兆個の細胞で構成されており、それら全ての細胞で常に物質の出し入れが行われている。何一つ留まっている物質はない。体に入る物、体から出るもの…そのバランスが体にとって重要である。本研究会の到達目標は、「なぜヒトは病気になるのだろうか？」を追求し、病気になりにくい体づくり、特に食習慣、生活習慣を軸に考え、それ以外の要素についても理解を深める。また、鍼・灸などの補完代替医療（CAM）について学び、それぞれが興味をもった CAM について、さらに深く調査し概要を述べるができるようになる。最終的には自分に合った方法でセルフメディケーションを実践できるようになることである。

**【授業の到達目標】**

【】

**【授業の概要と方法】**

指定した図書を全員が読むことで、一定の共通理解を得ながら各自の研究テーマを決定する。授業は主に SGD（スモールグループディスカッション）形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、皆の前で文献（日本語、英語どちらでも良い）講読を行い、発表の技術を身につける。学年ごとに目標やテーマを決め、調査および討論を行う。各学年の最終段階にはレポートを提出、特に4年生においては、研究会終了論文の提出を行う。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	補完代替医療の概要	補完代替医療の概要について紹介する。
第 3 回	補完代替医療関連の DVD 鑑賞	ドイツで行われている補完代替医療を用いたガン治療を DVD にて紹介する。
第 4 回	文献講読、指定図書の講読、意見交換	テキスト（補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アケビ新書）を講読し、意見交換を行う。
第 5 回	文献講読 テキストの講読	テキスト（補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アケビ新書）を講読し、意見交換を行う。
第 6 回	文献講読 テキストの講読	テキスト（補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アケビ新書）を講読し、意見交換を行う。
第 7 回	文献講読 テキストの講読	テキスト（補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アケビ新書）を講読し、意見交換を行う。
第 8 回	文献講読 テキストの講読	テキスト（東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版）を講読し、意見交換を行う。
第 9 回	文献講読 テキストの講読	テキスト（東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版）を講読し、意見交換を行う。
第 10 回	文献講読 テキストの講読	テキスト（東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版）を講読し、意見交換を行う。
第 11 回	文献講読 テキストの講読	テキスト（東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版）を講読し、意見交換を行う。
第 12 回	文献講読 免疫について	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを関連する DVD を視聴しながら解説する。
第 13 回	文献講読 ホメオパシーについて	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 14 回	文献講読 アーユルベダについて	インド地域を中心として発達した 5000 年の歴史があるアーユルヴェーダ医学について、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。

第 15 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。
第 16 回	ガイダンス	後期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 17 回	文献講読、テーマの選別	各自で興味がある分野を検討し、研究課題に向けた準備を行う。
第 18 回	文献講読、テーマの決定	各自で興味がある分野を検討し、研究課題を決定する。
第 19 回	文献講読、レポート作成(1)	レポートの作成方法に関する DVD を鑑賞し、要点をまとめ、全員で共有する。
第 20 回	文献講読、レポート作成(2)	レポートの作成方法に関する DVD を鑑賞し、要点をまとめ、全員で共有する。
第 21 回	文献講読、文献検索	文献講読の後、各自テーマに沿った文献検索を行う。
第 22 回	文献講読、文献検索	文献講読の後、各自テーマに沿った文献検索を行う。
第 23 回	中間研究報告	今までに調査収集した文献について、途中経過を発表する。
第 24 回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第 25 回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第 26 回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第 27 回	中間研究報告	今までに作成したレポートについて、途中経過を発表する。
第 28 回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第 29 回	研究発表会	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。
第 30 回	研究発表会、レポート提出	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

補完代替医療についての概要を図書館、WEB を活用して調べておく。指定されたテキストについて、事前の講読を行う。興味のある文献講読を行い、発表の資料を作成する。

#### 【テキスト】

- ・補完代替医療入門 上野圭一著 岩波7タイプ新書
- ・東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版
- ・動的平衡 福岡伸一 木楽舎

#### 【参考書】

- ・入門漢方医学 社団法人東洋医学会 高南堂
- ・人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル 日本教文社

#### 【成績評価基準】

出席（50％）、報告（25％）、レポート（25％）を総合して判断する

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会（通年）

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

<授業のテーマ>

国際協力に関連する卒業論文を執筆する。

<授業の到達目標>

国際協力の分野に関心を持ち、基礎知識のある 4 年生を対象とし、卒業論文執筆の指導を行う。

#### 【授業の到達目標】

【】

#### 【授業の概要と方法】

論文の書き方について指導する。

受講者は、自分の関心に応じて卒業論文のテーマを設定し、文献を講読する。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	論文の書き方についての説明
第 2 回	文献講読	各自のテーマに合わせた文献を選び講読
第 3 回	文献講読	同上
第 4 回	文献講読	同上
第 5 回	文献講読	同上
第 6 回	文献講読	同上
第 7 回	文献講読	同上
第 8 回	論文テーマ報告会	選定したテーマを報告する
第 9 回	文献講読	報告会に基づき、新たな文献を選定して講読
第 10 回	文献講読	同上
第 11 回	文献講読	同上
第 12 回	文献講読	同上
第 13 回	文献講読	同上
第 14 回	文献講読	同上
第 15 回	進捗状況報告会	各自の研究の進捗を報告する
第 16 回	進捗状況報告会	同上
第 17 回	文献講読	新たな文献を講読
第 18 回	文献講読	同上
第 19 回	文献講読	同上
第 20 回	文献講読	同上
第 21 回	文献講読	同上
第 22 回	文献講読	同上
第 23 回	進捗状況報告会	各自の進捗を報告する
第 24 回	卒論ドラフト個別指導	ドラフトへのコメント
第 25 回	卒論ドラフト個別指導	同上
第 26 回	卒論ドラフト個別指導	同上
第 27 回	卒論ドラフト個別指導	同上
第 28 回	卒論ドラフト個別指導	同上
第 29 回	卒論ドラフト個別指導	同上
第 30 回	最終報告会	論文の内容を発表する

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

夏休み期間中に各自で調査・研究を進めること

#### 【テキスト】

授業内に適宜紹介

#### 【参考書】

授業内に適宜紹介

#### 【成績評価基準】

本人の取り組み姿勢と卒業論文

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 研究会 (通年)

## 辻 英史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

ヨーロッパの市民社会—過去・現在・未来

1990年代以降、冷戦終結とグローバル化、社会の高齢化と福祉国家の再編、ポスト工業化と環境保護、都市の再開発とコミュニティの再生、などの諸問題に対処するさまざまな動きが世界各国で始まった。とくに民間の非営利団体を中心とし、行政や企業の協力のもと行われているこれらの運動は、市民社会という概念のもとでとらえられ、注目されている。

こうした運動は、まったく新しく無から作り出されてきたものではなく、それぞれの社会の歴史的な発展の中から生み出されてきている。この研究会では、こうした市民社会の諸運動がひとときわ発展しているヨーロッパを中心に、その歴史と現状を理解し、問題点について考える。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

ヨーロッパ各国の市民社会について、その歴史と現状を扱った研究文献（日本語あるいは英語）を講読する。前期は全般的な理論や歴史に関する文献を、後期は個別分野に関する文献を用いる予定である。

また、参加者各自の関心にそくして、各国の協会、財団、NGOなどの具体的な活動の内容を調べ、報告してもらう。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	市民社会とは何か？ 何の役に立つのか？
第2回	文献講読	市民社会の理論 1
第3回	文献講読	市民社会の理論 2
第4回	研究報告	(4年生対象)
第5回	文献講読	市民社会の理論 3
第6回	文献講読	市民社会の歴史 1
第7回	研究報告	(4年生対象)
第8回	文献講読	市民社会の歴史 2
第9回	文献講読	市民社会の歴史 3
第10回	研究報告	(4年生対象)
第11回	文献講読	各国の状況 1：イギリス
第12回	文献講読	各国の状況 2：ドイツ
第13回	研究報告	(4年生対象)
第14回	文献講読	各国の状況 3：日本
第15回	まとめ	全体討論
第16回	オリエンテーション	市民社会が可能にすることとは？
第17回	文献講読	市民社会と環境運動 1
第18回	文献講読	市民社会と環境運動 2
第19回	研究報告	(4年生対象)
第20回	文献講読	市民社会と町づくり 1
第21回	文献講読	市民社会と町づくり 2
第22回	研究報告	(4年生対象)
第23回	文献講読	市民社会と代替医療 1
第24回	文献講読	市民社会と代替医療 2
第25回	研究報告	(4年生対象)
第26回	文献講読	市民社会と福祉 1
第27回	文献講読	市民社会と福祉 2
第28回	研究報告	(3/4年生対象)
第29回	研究報告	(3/4年生対象)
第30回	まとめ	全体討論

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ヨーロッパの市民社会に関わる運動について、各自の関心に即して具体例を見つけ、文献を調査し、研究報告の準備をすること。また、文献講読の際は、必ず事前にテキストを用意し、目を通していただくこと。

## 【テキスト】

山口定『市民社会論 歴史的遺産と新展開』、有斐閣、2004年；吉田傑俊『市民社会論 その理論と歴史』、大月書店、2005年；佐々木毅／金泰昌編『中間集団が開く公共性』、東京大学出版会、2002年、ほか。適宜コピーを配布する。

## 【参考書】

必要に応じて授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

出席、研究報告、レポート（各学期末）

## 国際環境政策

### 国則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本授業では環境問題を国際的な視点から議論する際に必要となる基礎的枠組みを紹介し、選択される政策手段の諸課題を環境経済学の側面から検討することを目的とする。受講生は国際的な視点から、経済と環境政策とのさまざまな繋がりを理解することを目指す。

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

本授業は、環境問題の解決・低減を図るために採用されるさまざまな経済的手段を中心に、他の規制的手段や自主的手段などの比較を含めて、国際的な視点から講義する。とくに、近年、環境にかかわる経済的手段が国際的に注目されるようになってきた背景を考える授業とする。そのために、各国で経済的手段がどのように利用されているかを概観するとともに、地球環境問題に対処するために採用あるいは検討されている環境税・排出権（量）取引などの効果と課題等について学習する。同時に、環境に関わる国際的な協定に関する困難な点などを経済の観点から理解し、その解決・軽減を考える契機とする。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と経済成長の関連	イントロダクションとして環境と経済成長の関係を変化を大勢的に論じた環境クズネット曲線の議論を紹介する。
第2回	国際的視点からの環境問題の時代的変遷と特徴	1960年代から現代までの環境政策の変化を概観し、そのなかで経済的手段の萌芽、発展などを観察する。
第3回	環境政策の評価Ⅰ（政策手段間の比較）	環境に関わる規制的手段（命令・規制型）と経済的手段を比較し、それぞれの特徴をまとめる。
第4回	環境政策の評価Ⅱ（自主取組の評価）	環境に関わる自主的取組と経済的手段の比較を行い、それぞれの特徴をまとめる。
第5回	OECDでの環境にかかわる経済的手段Ⅰ（課徴金、デポジット制など）	課徴金、デポジット制度、パフォーマンス・ボンド、責任支払、補助金などの制度の考え方、実施状況などを紹介する。
第6回	OECDにおける環境に関わる経済的手段Ⅱ（排出取引）	代表的な経済手段の1つである経済的手段の排出取引についての仕組みや実施状況を観察する。
第7回	OECDにおける環境に関わる経済的手段Ⅲ（環境税）	排出取引とともに代表的な経済的手段の1つとして位置づけられる環境税について実際の実施状況を観察する。
第8回	環境問題と貿易Ⅰ（部分均衡分析等による分析）	貿易が行われる状況で国内環境問題に対して行われる複数の政策手段を想定しその間の比較を行う。
第9回	環境問題と貿易Ⅱ（国際競争力との関係）	企業の行う環境対策が企業の国際競争力に与える影響についていくつかの対立する考えた理論を取り上げ、それらのインプリケーションを考える。
第10回	越境環境問題と地球環境問題（国内環境問題を超える視点と課題）	地球環境問題を含む越境環境問題を国内環境問題と比較し、国内環境問題を超える視点と課題をまとめる。
第11回	酸性雨問題（acid rain game）	越境環境問題として欧州での酸性雨問題を例に、各国が協調して行動する協力解とそれ以外の解を比較し、協力解を得るための課題を考える。
第12回	オゾン層破壊問題	地球環境問題の1つとしてオゾン層破壊問題をとらえ、相対的に対策が進展している状況についてその背景と考察する。
第13回	地球温暖化問題Ⅰ	地球環境問題への対策の特徴を経済的な視点からとらえ、さまざまな見方の前提などを検討する。
第14回	地球温暖化問題Ⅱ（各国の取組と経済的評価）	地球環境問題の各国の取組の状況を概観し、限界削減費用などを比較するとともに、わが国の状況などについて観察する。
第15回	地球環境問題と環境国際協定	環境に関わる国際協定をとらえ、協定締結の難易度などについて考察する。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回とも復習に重点をおいて欲しい。各回ごとに復習に当たっては、新出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。それらは後の授業に重ねて出てくる可能性があり、丁寧にフォローすることにより、問題意識と適用方法が身についてくる。**Homework**を課することもあるので、その際には期限内に提出すること。

#### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

#### 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶうえで参考となる。

R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社

バリー・C・フィールド (2002)『環境経済学入門』（秋田次郎他訳）日本評論社

#### 【成績評価基準】

期末試験に加え、授業中で行われるミニ・テスト（出席確認）、授業への貢献度などを考慮し、総合的に判断する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 古典芸能の現在

安藤 俊次

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

さまざまな種類のある日本の古典芸能の内、三味線音楽に関わる分野が古典芸能全体に果たしてきた役割を検証しつつ、これが現在おかれている状況、抱えている問題などを考え、今後どのように伝承されていくべきか、またそのために社会はこれをどう受け入れていくべきかを探る。さらに、大衆芸能の代表と言われる落語も取り上げ、その現状、伝承に就いて考える。芸だけではなく、日本人が持っていた広い意味での「遊びの精神」の伝承が課題となる。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本の古典芸能の概説	遊芸：遊びから芸へ。
第2回	江戸庶民芸能	江戸庶民芸の見える伝説、歴史的逸話、人物
第3回	古典芸能に使われる楽器(1)	古楽器、能の四拍子
第4回	古典芸能に使われる楽器(2)	三味線を中心に
第5回	三味線音楽(1)	語り物(浄瑠璃)
第6回	三味線音楽(2)	唄物
第7回	歌舞伎(1)	歌舞伎の概説
第8回	歌舞伎(2)	歌舞伎の音楽
第9回	文楽(1)	文楽の概説
第10回	文楽(2)	文楽の音楽
第11回	古典芸能の展望	古典芸能の過去・現在・未来
第12回	話芸(1)	寄席芸と講談について
第13回	話芸(2)	落語について
第14回	まとめ	第1回～第13回のまとめ
第15回	期末試験	理解度の確認

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

事前に配布されたプリント等の内容については、予めよく調べておくこと。また、各種メディアを通してでもできる限り実際に触れてみる。授業で質問できるよう、疑問点を整理しておくこと。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考書】

「古典芸能 楽々読本」井上 由里子、アートダイジェスト。  
 「こんなにも面白い古典芸能入門」河出書房新社、KAWADE 夢文庫。  
 「歌舞伎ハンドブック」藤田 洋 著、三省堂。  
 「文楽ハンドブック」藤田 洋 著、三省堂。  
 「落語ハンドブック」三遊亭 円楽 監修、山本 洋 編、三省堂。

### 【成績評価基準】

出席状況、レポート(1回予定)、期末試験等、総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

現在余り接触する機会が多くない古典芸能であるが、今まで伝承されてきたものの底に流れる遊びの精神に触れてもらいたい。古典芸能は、分かる、分からないのレベルではなく、分からなくともよい。とにかく、触れて感じる事が大切。できれば、何らかの方法で体験する機会も持ちたい。

## 古典芸能の現在

安藤 俊次

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火・7

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

さまざまな種類のある日本の古典芸能の内、三味線音楽に関わる分野が古典芸能全体に果たしてきた役割を検証しつつ、これが現在おかれている状況、抱えている問題などを考え、今後どのように伝承されていくべきか、またそのために社会はこれをどう受け入れていくべきかを探る。さらに、大衆芸能の代表と言われる落語も取り上げ、その現状、伝承に就いて考える。芸だけではなく、日本人が持っていた広い意味での「遊びの精神」の伝承が課題となる。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」に記載。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本の古典芸能の概説	遊芸：遊びから芸へ。
第2回	江戸庶民芸能	江戸庶民芸の見える伝説、歴史的逸話、人物
第3回	古典芸能に使われる楽器(1)	古楽器、能の四拍子
第4回	古典芸能に使われる楽器(2)	三味線を中心に
第5回	三味線音楽(1)	語り物(浄瑠璃)
第6回	三味線音楽(2)	唄物
第7回	歌舞伎(1)	歌舞伎の概説
第8回	歌舞伎(2)	歌舞伎の音楽
第9回	文楽(1)	文楽の概説
第10回	文楽(2)	文楽の音楽
第11回	古典芸能の展望	古典芸能の過去・現在・未来
第12回	話芸(1)	寄席芸と講談について
第13回	話芸(2)	落語について
第14回	まとめ	第1回～第13回のまとめ
第15回	期末試験	理解度の確認

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

事前に配布されたプリント等の内容については、予めよく調べておくこと。また、各種メディアを通してでもできる限り実際に触れてみる。授業で質問できるよう、疑問点を整理しておくこと。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考書】

「古典芸能 楽々読本」井上 由里子、アートダイジェスト。  
 「こんなにも面白い古典芸能入門」河出書房新社、KAWADE 夢文庫。  
 「歌舞伎ハンドブック」藤田 洋 著、三省堂。  
 「文楽ハンドブック」藤田 洋 著、三省堂。  
 「落語ハンドブック」三遊亭 円楽 監修、山本 洋 編、三省堂。

### 【成績評価基準】

出席状況、レポート(1回予定)、期末試験等、総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

現在余り接触する機会が多くない古典芸能であるが、今まで伝承されてきたものの底に流れる遊びの精神に触れてもらいたい。古典芸能は、分かる、分からないのレベルではなく、分からなくともよい。とにかく、触れて感じる事が大切。できれば、何らかの方法で体験する機会も持ちたい。

## 製造物責任法

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業は、日々利用されている製造物について、これに起因する損害と救済のあり方を学ぶものです。社会人として、この問題に直面したときに、基本的な対処ができるようになることを目標とします。

メーカーへ就職を希望される方には必要な知識ですので、その基本を身につけてもらいたいと思います。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

この講義では、まず製造物責任法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、わが国の製造物責任法の内容について、わかりやすく解説します。そして、食品や医薬品といった具体的な製造物の事故に関する判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。また、紛争解決制度としてのPLセンターや、消費生活用製品安全法を理解して頂きたいと思います。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	製造物責任法の意義	日常的に利用されている製造物に起因する損害と救済を説明します。
第2回	不法行為法(1) — 意味、成立要件、種類	一般不法行為の意味、要件、効果を解説します。
第3回	不法行為法(2) — 損害、請求権者、損害賠償の調整	損害賠償は、具体的にどのように算定されるのか、といった問題を説明します。
第4回	不法行為法(3) — 時効、共同不法行為	損害賠償請求はいつまでできるのかといった問題を説明します。
第5回	製造物責任法概説	製造物責任法が成立するまでの簡単な歴史と背景を説明した後、この法律の内容をわかりやすく説明します。
第6回	製造物責任法の目的と損害賠償の範囲	製造物責任法の目的や、認められる損害の範囲について説明します。
第7回	製造物責任法の責任主体、欠陥、開発危険の抗弁	製造物、製造業者等、欠陥、欠陥の基本類型、開発危険の抗弁といった概念について説明します。
第8回	部品・原材料製造業者の抗弁、責任期間、民法の適用	製造物の部品や原材料の製造業者がどのような場合に責任を負うのかといった問題を説明します。
第9回	判例(1) — 食品、医薬品、化粧品、医療機器、医療用具	食品、医薬品、化粧品、医療機器、医療用具に起因した損害に関する代表的な判例を検討します。
第10回	判例(2) — たばこ、家電、自動車、自動車部品等	たばこ、家電、自動車、自動車部品等に起因した損害に関する代表的な判例を検討します。
第11回	判例(3) — ガス石油機器、消費者生活用品、玩具	ガス石油機器、消費者生活用品、玩具に関する代表的な判例を検討します。
第12回	判例(4) — 業務用電気機器・機械、航空機、住宅部品・建設資材	業務用電気機器・機械、航空機、住宅部品・建設資材に関する代表的な判例を検討します。
第13回	製造物責任法に依拠していない関連訴訟	一般的な不法行為責任、債務不履行責任、工作物責任に基づく損害賠償請求訴訟を検討します。
第14回	PLセンター、消費生活用製品安全法とその改正	PLセンター等による裁判外紛争解決手続や消費者安全法について説明します。
第15回	アメリカの製造物責任とその判例法理	米国の製造物責任訴訟について、クラスアクション、懲罰的損害賠償など特色のある法理について説明します。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

### 【テキスト】

担当教員が、作成した印刷物を授業にて配布します。

### 【参考書】

特にありません。

### 【成績評価基準】

定期試験により評価します。



## 製造物責任法

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業は、日々利用されている製造物について、これに起因する損害と救済のあり方を学ぶものです。社会人として、この問題に直面したときに、基本的な対処ができるようになることを目標とします。

メーカーへ就職を希望される方には必要な知識ですので、その基本を身につけてもらいたいと思います。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

この講義では、まず製造物責任法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、わが国の製造物責任法の内容について、わかりやすく解説します。そして、食品や医薬品といった具体的な製造物の事故に関する判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。また、紛争解決制度としてのPLセンターや、消費生活用製品安全法を理解して頂きたいと思います。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	製造物責任法の意義	日常的に利用されている製造物に起因する損害と救済を説明します。
第2回	不法行為法(1) — 意味、成立要件、種類	一般不法行為の意味、要件、効果を解説します。
第3回	不法行為法(2) — 損害、請求権者、損害賠償の調整	損害賠償は、具体的にどのように算定されるのか、といった問題を説明します。
第4回	不法行為法(3) — 時効、共同不法行為	損害賠償請求はいつまでできるのかといった問題を説明します。
第5回	製造物責任法概説	製造物責任法が成立するまでの簡単な歴史と背景を説明した後、この法律の内容をわかりやすく説明します。
第6回	製造物責任法の目的と損害賠償の範囲	製造物責任法の目的や、認められる損害の範囲について説明します。
第7回	製造物責任法の責任主体、欠陥、開発危険の抗弁	製造物、製造業者等、欠陥、欠陥の基本類型、開発危険の抗弁といった概念について説明します。
第8回	部品・原材料製造業者の抗弁、責任期間、民法の適用	製造物の部品や原材料の製造業者がどのような場合に責任を負うのかといった問題を説明します。
第9回	判例(1) — 食品、医薬品、化粧品、医療機器、医療用具	食品、医薬品、化粧品、医療機器、医療用具に起因した損害に関する代表的な判例を検討します。
第10回	判例(2) — たばこ、家電、自動車、自動車部品等	たばこ、家電、自動車、自動車部品等に起因した損害に関する代表的な判例を検討します。
第11回	判例(3) — ガス石油機器、消費者生活用品、玩具	ガス石油機器、消費者生活用品、玩具に関する代表的な判例を検討します。
第12回	判例(4) — 業務用電気機器・機械、航空機、住宅部品・建設資材	業務用電気機器・機械、航空機、住宅部品・建設資材に関する代表的な判例を検討します。
第13回	製造物責任法に依拠していない関連訴訟	一般的な不法行為責任、債務不履行責任、工作物責任に基づく損害賠償請求訴訟を検討します。
第14回	PLセンター、消費生活用製品安全法とその改正	PLセンター等による裁判外紛争解決手続や消費者安全法について説明します。
第15回	アメリカの製造物責任とその判例法理	米国の製造物責任訴訟について、クラスアクション、懲罰的損害賠償など特色のある法理について説明します。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

### 【テキスト】

担当教員が、作成した印刷物を授業にて配布します。

### 【参考書】

特にありません。

### 【成績評価基準】

定期試験により評価します。

## 途上国経済論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、途上国経済の分析枠組み、特徴、主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、日本の社会・経済の世界における位置づけをよりよく理解できるようにする。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況(1)：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況(2)：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況(3)：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況(4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済(1)：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済(2)：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第 10 回	主要国／地域の社会と経済(3)：シンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つであるシンガポールをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 11 回	主要国／地域の社会と経済(4)：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン (Association of South East Asian Nations) の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。

- 第 12 回 主要国／地域の社会と経済(5)：マレーシア－カリスマと経済成長  
強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
- 第 13 回 主要国／地域の社会と経済(6)：中国－持続的経済成長と大国としての復活  
中国は世界有数の大国であり、社会主義経済から資本主義経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
- 第 14 回 主要国／地域の社会と経済(7)：インド－目覚めた大国  
インドは、近年、経済成長著しい BRICs の一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990 年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。同時に、インド社会固有の問題を知る。
- 第 15 回 まとめ：途上国経済（特にアジア経済）の発展と先進国経済（特に日本）との関わり  
講義全般の復習を行うとともに、日本と途上国と呼ばれる国や地域との関係を確認する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

### 【参考書】

グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）  
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 3 版）』（東洋経済新報社）

### 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 途上国経済論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1~4年 / 2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木・6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、途上国経済の分析枠組み、特徴、主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、日本の社会・経済の世界における位置づけをよりよく理解できるようにする。

### 【授業の到達目標】

【】

### 【授業の概要と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況 (1)：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況 (2)：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況 (3)：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況 (4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国/地域の社会と経済 (1)：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国/地域の社会と経済 (2)：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第 10 回	主要国/地域の社会と経済 (3)：シンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つであるシンガポールをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 11 回	主要国/地域の社会と経済 (4)：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン (Association of South East Asian Nations) の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。

- 第 12 回 主要国/地域の社会と経済 (5)：マレーシア－カリスマと経済成長  
強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
- 第 13 回 主要国/地域の社会と経済 (6)：中国－持続的経済成長と大国としての復活  
中国は世界有数の大国であり、社会主義経済から資本主義経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
- 第 14 回 主要国/地域の社会と経済 (7)：インド－目覚めた大国  
インドは、近年、経済成長著しい BRICs の一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990 年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。同時に、インド社会固有の問題を知る。
- 第 15 回 まとめ：途上国経済（特にアジア経済）の発展と先進国経済（特に日本）との関わり  
講義全般の復習を行うとともに、日本と途上国と呼ばれる国や地域との関係を確認する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前/事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

### 【参考書】

グラボウスキー他 (2008 年)『経済発展の政治経済学』(日本評論社)  
渡辺利夫編 (2007 年)『アジア経済読本 (第 3 版)』(東洋経済新報社)

### 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 人間環境特論（商社活動と CSR）

小林 一夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講semester：前期授業 | 曜日・時間：月・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

商社活動と CSR（企業の社会的責任）

21 世紀の経済社会においては、環境と CSR を確実に配慮した健全なビジョンに基づく事業運営を継続的に推進することが持続的成長を担う企業経営には必須です。CSR と企業経営との観点から、企業とは・会社とはなにかにつき整理し、次にグローバルを前提とした総合商社における環境対応等の具体的事例を紹介しつつ、基本的な見方とあるべき問題意識の一端について学習します。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

おもに講義を主体として進めていきますが、事例研究として初回は三井物産の 135 年の歴史と経営をテーマとした DVD を使います。また、第 2 回目から 4 回目は、三井物産 CSR レポート等を参照します。双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、その日の授業の内容について短い感想の提出をもとめることがあります。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	総合商社の企業経営と CSR（企業の社会的責任）、イントロダクション	講義内容のガイダンス
第 2 回	総合商社と CSR（企業の社会的責任）〔その 1〕	企業とは何かにつき、実業の観点からの見方と、企業の社会的責任について基本的知識を得る。
第 3 回	総合商社と CSR（企業の社会的責任）〔その 2〕	三井物産の CSR レポートを題材として、総合商社のとらえる企業の社会的責任について基本的知識を得る。
第 4 回	総合商社と CSR（企業の社会的責任）〔その 3〕	総合商社の本業とのかかわりから CSR をとらえると共に、産業界は CSR をどのように見ているかにつき基本的知識を得る。
第 5 回	コーポレート・ガバナンスと内部統制	CSR 経営を支えるコーポレート・ガバナンスと内部統制の概念の基本的知識を得る。企業経営の仕組みについての基本的知識を得る。
第 6 回	内部統制の構築	実際に内部統制の確立と浸透をどのように図っているか、実際の例をあげ基本的知識を得る。
第 7 回	コンプライアンス〔その 1〕	コンプライアンスとはなにか、総合商社の現場における対応について基本的知識を得る。
第 8 回	コンプライアンス〔その 2〕	コンプライアンスの概念についての基本的知識を得る。
第 9 回	リスクマネジメント、事業リスク、環境・CSR リスク等への対応	環境リスク、事業リスク等総合商社の現場でのリスク管理の考え方と、対応について。リスクとは何かの基本的知識を得る。
第 10 回	マネジメントシステムとは	ISO14001 環境、OHSAS18001、ISO26000 などのマネジメントシステムについて基本的知識を得る。
第 11 回	内部監査概論	業務監査の一環として内部監査の実施がいわゆる大企業では必須とされます。内部監査について基本的知識を得る。
第 12 回	CSR の観点からの地球温暖化問題への対応、CDM（Clean Development Mechanism）基本的な知識を得る〔その 1〕	地球温暖化問題への基本的知識を得る。
第 13 回	CSR の観点からの地球温暖化問題への対応、CDM（Clean Development Mechanism）基本的な知識を得る〔その 2〕	年末 COP17 が南アフリカで予定されています。地球温暖化問題への総合商社の対応と考え方への基本的知識を得る。
第 14 回	総合商社の企業経営と CSR（企業の社会的責任）〔まとめ、その 1〕	まとめ、その 1

第 15 回 総合商社の企業経営と まとめ、その 2  
CSR（企業の社会的責任）  
〔まとめ、その 2〕

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義を受講できるよう、授業支援システムに事前アップ・ロードするレジメ・参考資料等を読むこと。理解し難い箇所については再度読み直し、疑問点を確認しておくこと。

## 【テキスト】

事前に授業支援システムにアップ・ロードしているレジメ・参考資料等。

## 【参考書】

必要に応じて、講義時に適宜指示します。

## 【成績評価基準】

期末試験：60%

出席：40%

但し、4 年生は期末試験：100%。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義当日の資料配布は極力避け、事前参照できるようにしています。

## 【学生が準備すべき機器他】

主に Power Point を使い講義を進めていきます。

## 【その他】

受講者は新聞を丹念に読み、経済社会情勢をできる限り把握しておくことを推奨します。

## 人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）

## 辻 英史

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

## 戦争と環境

ヨーロッパの歴史を、戦争と環境という二つの要因を手がかりに通観する。この両者は一見関係がないように見えるかも知れない。戦争は人間のおこなう破壊活動の最たるものであり、環境は人間が生産し生産をおこなうために欠かせないものだ。しかし、過去のヨーロッパの歴史をみると、天然資源の有無や社会の諸制度のあり方といった環境に関わる要因から戦争が引き起こされ、同時にそのもたらす大規模な破壊が、ひとつの生活環境だけでなく自然環境にさえ大きな影響を与えた例は多い。この授業は、そうした戦争と環境の織りなす社会史としてヨーロッパの歴史を考える試みである。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

前期は、最初に古代から近世までのヨーロッパ史を概観したのち、19世紀から第一次世界大戦までの近代の代表的な戦争と環境の関わりを、さまざまな史料をもとに検証していく。ヨーロッパを中心に議論を進めるが、必要によりアメリカ・アジアなど世界の各地域にも言及する。なお、以下にテーマとしてその時代の代表的な戦争や事件の名称を掲げるが、実際の授業ではその他の事例も取り上げる。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	戦争と環境の社会史とは？
第2回	ペルシア戦争—古代の戦争	古代ギリシアの戦争
第3回	十字軍—中世の戦争	異教徒との戦いと交流
第4回	スペイン継承戦争—近世の戦争	王朝間の覇権をめぐる戦争
第5回	近代のヨーロッパ	近代のヨーロッパ社会を概観する。
第6回	大西洋革命とナポレオン戦争	大西洋の両岸で相次いで起きたアメリカ独立戦争とフランス革命、そしてナポレオン戦争までを扱う。
第7回	クリミア戦争	19世紀ヨーロッパのバランスオブパワー。
第8回	アメリカ南北戦争	「最初の総力戦」
第9回	義和団事件	世界各地の植民地化と抵抗
第10回	日露戦争	“第0次世界大戦”？
第11回	第一次世界大戦①開戦	誰も望まなかったはずの戦争
第12回	第一次世界大戦②戦争の長期化	5年に及ぶ戦争の経過を分析する。
第13回	第一次世界大戦③前線と銃後	総力戦の諸相。
第14回	第一次世界大戦④戦争の終結	戦死者合計1千万を越す大戦争の結末
第15回	まとめ	近代は戦争の時代だったのか？

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

## 【テキスト】

レジュメを配布する。

## 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

出席点（30%）のほか、学期末の筆記試験（70%）による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

## 【その他】

高校世界史程度の知識を前提として授業を進めますが、高校で世界史の授業を選択していなかった人、苦手だった人にも配慮します。

## 人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）

## 辻 英史

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

## 20世紀の戦争と環境

20世紀に起こった二回の世界大戦は、戦争のあり方を大きく変えた。このことは、戦争と環境のあり方、そしてその時代を生きる人の生活に、多大な影響を及ぼした。

世界大戦は、①イデオロギーの役割の増大、②大量破壊兵器の出現、③民間人を含む相手国の社会そのものへの攻撃、といった特徴を持ち、参加国の社会環境に破壊的影響を与え、自然環境に対しても地球規模で猛威をふるった。第二次大戦後、ヨーロッパは東西の陣営に分かれてにらみ合う冷戦の時代を迎えるが、この間実際の戦いはなかったとはいえ、核戦争の恐怖は東西いずれの社会においてもそのあり方を深く規定した。

この授業では、世界大戦のもたらした社会や自然に対する物理的な破壊の規模、あるいはその後の国際秩序の変化といった直接の結果を問題にするだけでなく、そうした環境を生きた個々の人々の個人的な経験や、価値観の変化、生き方といった問題にも注目したい。破壊的な戦争のさなか、あるいはそれがいつでも起こりえた時代、人々は加害者・被害者ないしは中立の立場から戦争をどのように体験・認識し、その記憶や反省をその後の人生にどのように活かしていったのだろうか。また彼らが戦時下で生き、あるいは戦後作り上げていった社会環境はどのようなものであったのか。さらに、戦争で破壊され、その後も大きく手が加えられていくことになる自然環境を、人々はどのように認識していたのだろうか。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

後期は、第一次世界大戦の終結から第二次世界大戦を経て冷戦終結までの時代を、戦争と環境の関係を軸に論じる。また、最近の世界各地での紛争にみられる戦争と環境のあり方についても検討を加えたい。前期と同様にヨーロッパを中心に議論を進めるが、必要によりアメリカ・アジアをはじめ、世界の各地域にも言及する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	20世紀のヨーロッパ社会について概観する。
第2回	ロシア革命とソヴィエト連邦の成立	初の共産主義国家の誕生とその課題
第3回	パリ講和会議	第一次大戦後の国際秩序の問題点とは？
第4回	大戦の植民地への影響	ヨーロッパの覇権の動揺
第5回	1930年代の危機	世界大恐慌とその世界への影響
第6回	ナチス・ドイツとソヴィエト・ロシア	国際秩序を揺るがした両国の社会体制を比較する。
第7回	第二次世界大戦の開戦と経過	連合国対枢軸国の戦いは、1941年から新しい段階に入った。
第8回	「諸君は総力戦を望むか？」	民間人はどのように戦争に巻き込まれたか？
第9回	絶滅戦争	ユダヤ人に対するホロコースト
第10回	大戦の終結	敗戦国の苦悩と生活の再建
第11回	冷戦の始まり	大戦後の国際秩序と核戦争の恐怖
第12回	冷戦下の“熱戦”	朝鮮半島、ヴェトナムなど
第13回	冷戦の終結	ベルリンの壁の崩壊とユーゴの内戦
第14回	21世紀の戦争	テロリズムと戦争の「非対称化」
第15回	まとめ	今後の戦争と環境の関係は？

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

## 【テキスト】

レジュメを配布する。

## 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

出席点（30%）のほか、学期末の筆記試験（70%）による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

## 【その他】

高校世界史程度の知識を前提として授業を進めますが、高校で世界史の授業を選択していなかった人、苦手だった人にも配慮します。

## 人間環境特論（環境と地域の持続性を考える）

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講義の目的は、日本国内の事例を中心に取り上げながら、環境（自然）と地域の持続性に関する議論への理解を深めることである。また、環境社会論Ⅰ、Ⅱで扱いきれなかった「環境と社会」の社会学的な議論（応用編）を展開する。

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

映像資料を用いながら、講義を行う。映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める。テーマである「環境と地域の持続性」に関する具体的な内容は、授業計画を参照のこと。

【】

【】

## 【授業計画】

## 後期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第2回	合意形成とレジティマシー（1）：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第3回	合意形成とレジティマシー（2）：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第4回	生業・半栽培・資源管理（1）：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第5回	生業・半栽培・資源管理（2）：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第6回	生業・半栽培・資源管理（3）：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第7回	自然再生と順応的管理（1）：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第8回	自然再生と順応的管理（2）：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第9回	過疎問題と地域社会（1）：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第10回	過疎問題と地域社会（2）：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第11回	再生可能エネルギーと地域社会（1）	再生可能エネルギーの地域社会への普及のための、さまざまな「社会的しかけ」に関して講義する。
第12回	再生可能エネルギーと地域社会（2）	風力発電に対する反対運動も含めて、再生可能エネルギーの地域社会への受容性について講義する。
第13回	負の遺産と地域再生（1）：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第14回	負の遺産と地域再生（2）：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第15回	環境・地域社会のサステイナビリティと「当事者性」を考える	環境・地域社会のサステイナビリティについてまとめながら、「当事者性」という観点から環境・地域の持続性を考える。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

## 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

関礼子・中澤秀雄・丸山 康司・田中 求『環境の社会学』有斐閣（2009 年）  
 西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008 年）  
 宮内泰介編『半栽培の環境社会学』昭和堂（2009 年）

【成績評価基準】

講義中に映像資料等に対するリアクションペーパー（小レポート）の提出を  
 求める。また、学期末に筆記試験（受講者数によってはレポート）を課す。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定している。履修制限は  
 行わないが、環境社会論Ⅰ、Ⅱの応用編としての位置づけであることを前提  
 に履修されたい。なお、本講義を履修し、単位を取得したは、次年度以降、同  
 一教員・同一サブタイトルの人間環境特論の履修は認められない。

人間環境特論（ファシリテーションの基礎）

三田地 真実

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

1. 話し合いを始め、様々な場をデザインし、マネジメントするためのノウハウである「ファシリテーション」についての基礎的な知識・技能を獲得すること。
2. 実際にファシリテーションを行う、「ファシリテーター」として行動できること。

【授業の到達目標】

【】

【授業の概要と方法】

環境問題に関わろうとする際に、単独で問題を解決できるということはほとんどなく、多くの場合、そこにかかわる多くの利害関係者（ステークホルダー）の間でいかにうまく話し合いを持ち、最適解を見出すための「合意形成」をもたらす必要がある。

その際に、単に人が集えば「意味ある場」になるのではなく、綿密な準備とその場への適切な関わりが不可欠である。本授業では、「意味ある場」とは何か？ そういう「場」を作っていくためには、具体的にファシリテーターとしてどのような心構えと技が必要なのかについて学んでいく。そのため授業は講義と演習を織り交ぜながら進めていく。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・「意味ある場づくりとは何か？」 ・ファシリテーターとしての 3 つの行動キーワード ・「Why（根拠）」、「プロセス」、「安心・安全な場」
第 2 回	ワークショップ体験（自己紹介ワーク）	・何気なく行っている自己紹介という活動をファシリテーションの視点で見直す
第 3 回	ワークショップ体験（アイスブレイク）	・異なる複数の場を体験して、外で何が起きているか、自分の中で何が起きているのか「プロセスを見る」
第 4 回	コミュニケーションの基礎（1）	・ファシリテーターには必須のコミュニケーションの基礎について演習を行い、プロセスを振り返る
第 5 回	ファシリテーションの基礎	・ファシリテーションの基本の 3 つの段階、準備・本番・フォローアップについて学ぶ
第 6 回	ファシリテーションの準備（1）	・空間のデザインである場づくりと、基本の 10 ステップについて学ぶ
第 7 回	ファシリテーションの準備（2）	・時間のデザインである、プログラムデザインを「プログラムデザイン 曼茶羅図」というツールを用いて行う演習をする
第 8 回	ファシリテーションの本番（1）	・10 ステップ演習、ライブレコーディング他のスキルを学ぶ
第 9 回	ファシリテーションの本番（2）	・再度、一対一のコミュニケーションを見直す ・行動の基礎である、応用行動分析学（ABA）の概論について学ぶ
第 10 回	ファシリテーションのフォローアップの段階	・意味ある場とするためには、参加者の行動変容が図られるものでなければならないことを理解する ・行動計画の書き方
第 11 回	ファシリテーションの応用編	・困ったケースについてどう対応するかの方法
第 12 回	グループプレゼンテーションに向けて	・最終プレゼンテーションに向けてのグループ活動
第 13 回	グループプレゼンテーション（1）	・グループ毎にテーマに基づいた発表を行う（第 1 回） ・発表しないグループは、発表のプロセスを観察・フィードバックする
第 14 回	グループプレゼンテーション（2）	・グループ毎にテーマに基づいた発表を行う（第 1 回） ・発表しないグループは、発表のプロセスを観察・フィードバックする

## 第 15 回 まとめ

- ・グループ・プレゼンテーションのふり返し
- ・授業全体のふり返し「意味ある場づくりのために」

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・毎回の文献・資料講読（事前準備として）
- ・グループ・プレゼンテーションの事前準備として、グループで授業外に集まっての話し合いや準備活動（必須）
- ・様々な場面の観察実習など

## 【テキスト】

- ・「ファシリテーターのための行動指南書」（三田地真実、ナカニシヤ出版、印刷中）

## 【参考書】

- ・「ファシリテーション革命」（中野民夫、岩波アクティブ新書、2003）
- ・「特別支援教育 連携づくりファシリテーション」（三田地真実、金子書房、2007）他

## 【成績評価基準】

- ・出席点：約 60 % （毎回、出席カードの代わりにふり返しシートへ記入する）
- ・最終グループプレゼンテーション：約 40 % （グループ、個人での提出物も含む）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他】

ファシリテーションは、環境問題に留まらず、人間が集う場をどのようにして意味あるもの、つまりそこに参加している人にとって「参加してよかった」と思えるような場にしていくかについての具体的なノウハウを提供してくれるものです。

職場内、あるいは家庭内の人間関係を見直すことにも十分役立つ内容と思います。

なお、本講義は、受講希望者が多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

## 【専門領域】

ファシリテーション、応用行動分析学 (ABA)、コミュニケーション（言語聴覚学）

## 【研究テーマ】

- ・教育・医療現場における連携づくりのための、ファシリテーションの活用
- ・問題行動を理解し、対処するための、応用行動分析学 (Applied Behavior Analysis)
- ・人と人が本当に理解するための、コミュニケーションの考え方と具体的な分析手法

## 【主要研究業績】

- ・三田地真実『L-POV システムを「ワークショップ」の場としてデザインする理由とその効用～機能するシステム構築のために～』（2010 年、「大学の「学習成果」を軸とした教育・評価・エビデンスの発信を可能とする体制についての研究」報告書、(独) 大学評価・学位授与機構）
- ・三田地真実著『特別支援教育「連携づくり」ファシリテーション』（2007 年、金子書房）
- ・三田地真実他監訳『問題行動解決支援ハンドブック』（2003 年、学苑）
- ・三田地真実共著『子育てに生かす ABA（応用行動分析学）ハンドブック』（2009 年、日本文化科学社）

## フィールド調査論

## 黒田 暁

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この授業では、社会調査（フィールドワーク）に関する基本的な知識や技術、方法論を学ぶ。社会科学的な「問い」を持ち、それを鍛え、調査を通じてかたちにしていく過程を身に付けることを到達目標とする。また、そのために必要なメディアリテラシーの基礎習得を目指す。

## 【授業の到達目標】

【】

## 【授業の概要と方法】

授業は、社会調査（フィールドワーク）を実践するための方法論についてレクチャーをおこなう。履修者には、その内容を受け調査設計者となり、作業を個別にあるいはグループで取り組んでもらう。最終課題は、自らの研究のりサーチ・デザインを設計することとする。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業がどのように構成されるか、見取り図を示す
第 2 回	社会調査とは何か (1)	社会調査とは、誰が、何のために、何をすることなのかについて考えていく
第 3 回	社会調査とは何か (2)	社会調査において「問い」を持ち、深めることの意味と意義を知る
第 4 回	社会調査のための情報・資料収集法について	社会調査を計画実行する際に必要不可欠な資料収集のあり方についてレクチャーを行う
第 5 回	社会科学の基礎的な方法論とは	「仮説」や「因果関係」、「説明」や「記述」といった社会科学的概念や発想を読み解いていく
第 6 回	社会調査を実践すること	量的調査と質的調査、それぞれの方法論を紹介し、どんな実践のかたちがあり得るか、認識する
第 7 回	量的調査基礎・設計 (1)	量的調査において「仮説を構築する」とはどういうことで、どんな意味があるのか実際に試してみる
第 8 回	量的調査基礎・設計 (2)	実際に調査票を作成するプロセスを体感してみる
第 9 回	量的調査基礎・設計 (3)	統計的手法がどのような考え方で、何を検証するのかについて知る
第 10 回	質的調査基礎・設計 (1)	質的調査、「フィールドワーク」とは何をすることなのか、実例から学ぶ
第 11 回	質的調査基礎・設計 (2)	フィールドワークにさまざまなかたちがあることを、具体的な方法論や事例から理解し、共有する
第 12 回	質的調査基礎・設計 (3)	フィールドワークのもっとも基礎的な「聞き取り調査」の持つ意味と意義を掘り下げる
第 13 回	社会調査とメディアリテラシー	社会調査をする側、その結果を受け止める側双方に求められるリテラシーとは何かについて探求する
第 14 回	リサーチ・デザインの試み	これまで学んできた社会調査の方法論から、総合的なりサーチ・デザインの全体像を提示する
第 15 回	まとめ	授業のまとめを行う

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

本講義は、授業内で「社会調査」を実施するものではないが、これから構想計画する具体的な予定がある者、近い将来に実行する意思がある者は、その構想をかたちにしてできるよう、授業と同時進行で積極的に取り組んでほしい。

## 【テキスト】

宮内泰介,2004,『自分で調べる技術 市民のための調査入門』岩波アクティブ新書

## 【参考書】

- 佐藤郁哉,2002,『フィールドワークの技法』新曜社
- 佐久間充,1984,『ああダンブ街道』岩波新書
- 大谷信介ら編,2003,『社会調査へのアプローチ——論理と方法【第二版】』ミネルヴァ書房

## 【成績評価基準】

授業への出席状況 (20 %)、授業中に出される課題への取り組み (30 %)、中間レポート・最終レポート (50 %)



【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【その他】

実際に社会調査（フィールドワーク）をおこなう予定のある者は勿論、ある「問い」を持って社会の具体的な現象を解き明かそうとする営みに関心のある学生に受講してほしい。

本講義は、授業の性質上、履修者数は30人を上限とする。受講希望者が多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行うので、受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。

## フィールド調査論

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

テーマ：「社会調査の方法を学ぶ」。この講義の目標は、①「社会調査」の考え方、調査計画、調査法、報告作成法など、調査に必要とされる知識・技法を身につける、②調査結果の見方、調査の限界と問題点、調査における倫理などを学ぶ、である。

【授業の到達目標】

【】

【授業の概要と方法】

社会調査の考え方、調査で何が分かり何が分からないかなど「調査」することの意味や限界について論じ、社会調査の基礎的理解をはかる。調査法のいくつを取り上げ、各方法が持つ利点と欠点を検討する。調査計画の建て方の解説を行った後、①面接調査法、②調査票調査法について調査事例を紹介しながら、各調査法のプロセスを検討する。特に②については実際に「調査票」の作成を少人数グループで行う。また、調査には必ず「対象者」がおり、その協力なくしては実施が不可能であることに触れ、調査と調査者の倫理に関して講義する。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス	講義ガイダンス。「社会調査」とは何か、調査における妥当性と信頼性について。
第2回	社会調査の目的と意義－調査で何がわかるか	社会調査の定義と調査の前提。調査するとわかるのか、調査の限界。
第3回	調査の方法	課題を提示、調べ方のグループ討議（GW 1）を行う。
第4回	調査を計画する	社会調査のプロセス。調査デザイン、実査、分析、報告。（GW 2）
第5回	調査法の類型	参与観察法・面接調査法・質問紙調査法の解説。
第6回	参与観察法	参与観察による調査の事例、実施可能性、対象者（集団）の選定と技法。
第7回	面接調査法①	指示的面接法と非指示的面接法、調査事例に見る調査プロセスの実際。（GW 3）
第8回	面接調査法②	面接調査における留意点、メリットとデメリット。
第9回	質問紙調査法①	悉皆調査と標本抽出調査、サンプルサイズと抽出法。
第10回	質問紙調査法②	調査票の配布と回収方法の類型。各方法のメリットとデメリット。
第11回	質問紙調査法③	調査票の構成、フェイスシート、回答選択肢の作成法。
第12回	質問紙調査法④	質問文作成法、ワーディングの留意点。（GW 4）
第13回	質問紙調査法⑤	調査票作成実習。（GW 5）
第14回	質問紙調査法⑥	調査票作成実習。（GW 6）
第15回	よりよい調査を目指して－調査者の倫理－	GW 発表。集計法など残された課題。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義中にグループワークを行います。課題を分担して授業前に準備してくることを求めます。

【テキスト】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

宮内泰介,2004,「自分で調べる技術」岩波書店  
 新ほか編,2008,「社会調査ゼミナール」有斐閣、  
 玉野和志,2008,「実践社会調査入門」世界思想社  
 佐藤郁哉,2006,「フィールドワーク」新曜社  
 このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価基準】

①定期試験、②レポート（調査票の作成）、③講義時に行うグループ作業（GW）への参加度と作業成果物も評価の対象とする。出席も重視します。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

受講者制限（30名まで）をします。受講希望者多数の場合は選抜を行う。グループ作業を行います、グループメンバーに迷惑をかけることになるので欠席しないことが受講条件です。

## 基礎演習

永野 秀雄

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

## 【授業の到達目標】

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

## 【授業計画】

## 後期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

## 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

## 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

**基礎演習****國則 守生**

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

**【授業計画】****後期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

**【テキスト】**

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価基準】**

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

**基礎演習****安藤 俊次**

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

**【授業計画】****後期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

**【テキスト】**

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価基準】**

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

**基礎演習****武貞 稔彦**

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

**【授業計画】****後期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

**【テキスト】**

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価基準】**

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

**基礎演習****宮川 路子**

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

**【授業計画】****後期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

**【テキスト】**

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価基準】**

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

**基礎演習****石神 隆**

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

**【授業計画】****後期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

**【テキスト】**

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価基準】**

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

**基礎演習****辻 英史**

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

**【授業の到達目標】**

[]

**【授業の概要と方法】**

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

**【授業計画】****後期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

**【テキスト】**

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価基準】**

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】****【その他】**

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 基礎演習

### 渡邊 誠

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に合うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

#### 【授業計画】

##### 後期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

#### 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

#### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

#### 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

#### 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## フィールド調査論

### 西城戸 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

この講義は、社会調査を行うための基本的な知識、技術を修得することが目的である。社会科学の基本的な考え方を学び、社会調査の一連の流れと、社会調査の課題、調査倫理について修得する。また、同時にメディアリテラシーの基礎を学ぶことを目的としている。

#### 【授業の到達目標】

[]

#### 【授業の概要と方法】

社会調査に関する基本的な知識、技術についての講義が中心であるが、内容に応じて、受講者個人の作業、グループにおける作業も同時に実施する。最終的に、方法論の観点から実証研究を評価し、さらにリサーチデザインの設計を試みる。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（受講者の選抜等も含む）	本講義の内容についてのガイダンスと、受講者の選抜等を実施する。
第2回	社会調査とは何か（1）社会調査の概要	なぜ、社会調査が必要なのか、社会調査とは何か、その概要を講義する。
第3回	社会調査とは何か（1）問題関心と「問い」	社会調査前に考える、問題関心や「問い」の考え方を講義する。
第4回	社会調査とは何か（3）社会調査のための情報収集	先行研究や既存データのレビューを行うための情報収集の実習を行う。
第5回	社会科学の方法の基礎（1）-「説明」「記述」	「説明」「記述」という社会調査によって得られる知見について講義する。
第6回	社会科学の方法の基礎（2）-「因果関係」「仮説」	「因果関係」とは何か、仮説とは何か、について講義する。
第7回	量的調査入門（1）	サンプリング調査の原理について講義する。
第8回	量的調査入門（2）	調査票調査の一連の作業内容について講義する。
第9回	量的調査入門（3）	ワーディングの演習を実施し、仮説から調査票を作る作業を行う。
第10回	量的調査入門（4）	仮説と調査票の作成する作業を行う。
第11回	フィールドワーク入門（1）	フィールドワーク（質的調査）の概要を講義する。
第12回	フィールドワーク入門（2）	インタビューのさまざまな技法について講義する。
第13回	フィールドワーク入門（3）	聞き取りデータから論文を作成するまでの手法（KJ法による論文の構想）について講義する。
第14回	映像教材から方法論を学ぶ	映像教材から調査手法の実際について学ぶ。
第15回	2つの方法論の整理	量的、質的調査の方法論の整理し、社会調査の方法論のまとめを行う。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。また、課題に対して個人的な作業を求める。

#### 【テキスト】

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術 市民のための調査入門』岩波アクティブ新書。

高根正昭, 1979, 『創造の方法学』講談社現代新書。

佐久間充, 1984, 『ああダンプ街道』岩波新書。

#### 【参考書】

山中速人編, 2002, 『マルチメディアでフィールドワーク』有斐閣

森岡清志編, 2007, 『ガイドブック社会調査第2版』日本評論社。

佐藤郁哉, 2006, 『フィールドワーク 増訂版』新曜社。

大谷信介ほか, 2005, 『社会調査へのアプローチ 第2版』ミネルヴァ書房。

盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣。

玉野和志, 2008, 『実践社会調査入門——今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社

#### 【成績評価基準】

出席（20%）、講義中の課題提出（30%）、最終レポートの提出（50%）

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【学生が準備すべき機器他】

場合によっては PC を用いることがある。その際には事前に貸し出しをしておくか、自前で準備しておくこと。

【その他】

本講義の定員は 30 名である。受講希望者は第 1 回目の講義で決定する。在学中に社会調査の実践を行う予定がある者を優先する。

## 途上国経済論Ⅱ

藤井 洋次

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土・2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

世界経済の成長軸は日米欧からアジアを中心とする新興国に大きくシフトしつつある。日本の上場企業が海外事業から得る利益は、多くの企業で、すでにアジアが欧米を上回っている。そこで、アジアを中心とする途上国の経済・社会に関する理解向上を目的とする。

【授業の到達目標】

[]

【授業の概要と方法】

発展途上国が進める開発政策の制約条件や経済発展によって直面する諸問題を、具体的な事例を交えて考える。

[]

[]

【授業計画】

後期Ⅱ

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	途上国理解の必要性と面白さについて
第 2 回	途上国の貧困と生活水準	経済的水準と貧困の考え方について
第 3 回	途上国の発展と人口動態	経済活動を考える上で基礎的知識である、人口水準と人口動態について
第 4 回	途上国の食糧生産と農業	途上国が工業化を進める前提条件について
第 5 回	途上国の工業化	工業化の方法にはどのような選択肢があるか
第 6 回	途上国の開発と教育、人材育成	工業化を担う人材育成について
第 7 回	途上国の開発と環境	経済的貧困が引き起こす環境問題と地球環境問題が途上国にもたらす影響について
第 8 回	途上国の開発と環境	途上国の自立循環型社会への取り組みについて
第 9 回	途上国の開発と環境	途上国を巻き込んだ国際的リサイクル貿易について
第 10 回	途上国の開発と直接投資	国際分業の広がりや途上国の工業化について
第 11 回	途上国の開発と国際資金移動	国際的資金移動の拡大と途上国への影響について
第 12 回	途上国の開発と国際経済秩序	世界経済の変動と途上国の開発
第 13 回	途上国の貧困削減と社会的企業	グラミン銀行と途上国へのダイレクト・ファイナンス
第 14 回	途上国の貧困削減と私たち	自分たちが取り組むことのできる途上国支援について
第 15 回	まとめ	まとめ

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞や TV ニュースなどから提供される、途上国や国際社会の問題について関心を持って授業に臨んでほしい。

【テキスト】

教科書は使用せず、毎回講義レジュメを配布する。

【参考書】

渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本 第 3 版』（東洋経済新報社）。世界銀行『世界開発報告（各年版）』（一灯舎）。その他、授業の中で紹介する。

【成績評価基準】

レポートと期末試験による。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD を利用。

【その他】

アジア諸国を主な題材として平易な説明を心がけるので、途上国やアジア諸国に関心のある学生に受講してほしい。

## フィールド調査論

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金・3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

テーマ：「社会調査の方法を学ぶ」。この講義の目標は、①「社会調査」の考え方、調査計画、調査法、報告作成法など、調査に必要とされる知識・技法を身につける、②調査結果の見方、調査の限界と問題点、調査における倫理などを学ぶ、である。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

社会調査の考え方、調査で何が分かり何が分からないかなど「調査」することの意味や限界について論じ、社会調査の基礎的理解をはかる。調査法のいくつかを取り上げ、各方法が持つ利点と欠点を検討する。調査計画の建て方の解説を行った後、①面接調査法、②調査票調査法について調査事例を紹介しながら、各調査法のプロセスを検討する。特に②については実際に「調査票」の作成を少人数グループで行う。また、調査には必ず「対象者」があり、その協力なくしては実施が不可能であることに触れ、調査と調査者の倫理に関して講義する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス	講義ガイダンス。「社会調査」とは何か、調査における妥当性と信頼性について。
第2回	社会調査の目的と意義－調査で何がわかるか	社会調査の定義と調査の前提。調査するとわかるのか、調査の限界。
第3回	調査の方法	課題を提示、調べ方のグループ討議（GW 1）を行う。
第4回	調査を計画する	社会調査のプロセス。調査デザイン、実査、分析、報告。（GW 2）
第5回	調査法の類型	参与観察法・面接調査法・質問紙調査法の解説。
第6回	参与観察法	参与観察による調査の事例、実施可能性、対象者（集団）の選定と技法。
第7回	面接調査法①	指示的面接法と非指示的面接法、調査事例に見る調査プロセスの実際。（GW 3）
第8回	面接調査法②	面接調査における留意点、メリットとデメリット。
第9回	質問紙調査法①	悉皆調査と標本抽出調査、サンプルサイズと抽出法。
第10回	質問紙調査法②	調査票の配布と回収方法の類型。各方法のメリットとデメリット。
第11回	質問紙調査法③	調査票の構成、フェイスシート、回答選択肢の作成法。
第12回	質問紙調査法④	質問文作成法、ワーディングの注意点。（GW 4）
第13回	質問紙調査法⑤	調査票作成実習。（GW 5）
第14回	質問紙調査法⑥	調査票作成実習。（GW 6）
第15回	よりよい調査を目指して－調査者の倫理－	GW 発表。集計法など残された課題。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義中にグループワークを行います。課題を分担して授業前に準備してくることを求めます。

### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

### 【参考書】

宮内泰介,2004,「自分で調べる技術」岩波書店  
 新ほか編,2008,「社会調査ゼミナール」有斐閣、  
 玉野和志,2008,「実践社会調査入門」世界思想社  
 佐藤郁哉,2006,「フィールドワーク」新曜社  
 このほか開講時に文献リストを配布する

### 【成績評価基準】

①定期試験、②レポート（調査票の作成）、③講義時に行うグループ作業（GW）への参加度と作業成果物も評価の対象とする。出席も重視します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

受講者制限（30名まで）をします。受講希望者多数の場合は選抜を行う。グループ作業を行います、グループメンバーに迷惑をかけることになるので欠席しないことが受講条件です。



## 基礎演習

平野井 ちえ子

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火・4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

前期の「人間環境学入門」「環境科学入門」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを、練習を通じて身に付ける。文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等である。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

### 【授業の到達目標】

[]

### 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

### 【授業計画】

#### 後期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（パラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

### 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

### 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。